

福島大学附属図書館自己評価報告書

附属図書館の現状分析と評価 -

2004年1月

福島大学附属図書館

はじめに

本学附属図書館は、福島大学の金谷川地区総合移転計画にともない、昭和 56 年 2 月、地下 1 階地上 2 階建の本体が竣工、その後、平成 6 年夏の一部増築を経て、総面積 7,218 m²の威容と、約 76 万冊の図書・資料を所蔵する、福島大学の知の宝庫として今日に至っている。その間、図書館が学生・院生の学習支援、教官の教育支援、ならびに研究支援組織として、大学の発展とともに着実な歩みを進めてきたことは多言を要しないであろう。

この度、附属図書館においては、国立大学法人への移行にともない、図書館の「中期目標・中期計画」の策定に資するべく学生・院生・教官・職員に対する「利用者アンケート」を実施し、「附属図書館自己評価実施要領」に基づく自己評価を行う方針であった。

一方、大学にあっては本年度の「学内テーマ別自己評価」にかかる「学内テーマ」の設定にあたり、法人化への対応、ならびに本学の全学再編の課題への対応に多忙な学内事情を踏まえ、「附属図書館の現状分析と評価」と題する図書館の自己評価活動を、評議会が全学自己評価委員会に提起する「学内テーマ」に位置づけることが決定された。

その決定に従い、全学自己評価委員会のもとに、附属図書館自己評価チーム、および附属図書館自己評価専門委員会が編成され、四ヶ月にわたる資料の収集・分析、ならびに厳正な自己評価が実施された。評議会・教授会の審議を経て、自己評価作業は滞りなくその任務を終了した。本報告書は、上記の趣旨と手続きに基づく全学の評価活動の成果として位置づけられる。

本評価活動は、次の諸点において大学の教育・研究の推進に多大の意義を有するものであると考えられる。

- ・大学の教育・研究活動に必要な不可欠な附属施設である附属図書館の組織、活動の内容、ならびにその現状と課題を、学内構成員のすべてが理解し、課題を共有すること。
- ・法人化および理工系の学域を加えた新たな大学像の構築と運営にあたり、附属図書館の果たすべき役割と将来像を明示するものであること。
- ・そのことは、とりもなおさず、学生の学習環境の整備と改善、教官各位の教育への支援、ならびに研究支援態勢の強化とその質的向上に資するものであること。

本報告書が、本学の全学再編、ならびに法人化への対応において、附属図書館が備えるべき知的情報基盤として、さらなる機能の向上に寄与することを願ってやまない。

おわりに、多忙な日常業務の間に評価活動ならびに本報告書の作成に尽力された自己評価委員各位、それを支えて精力的な働きをされた図書館職員諸氏に深甚の謝意を表する。

平成 16 年 1 月

福島大学附属図書館長

勝倉 壽一

目 次

はじめに

1．利用者サービスの状況に関する事	1
2．資料収集、管理状況に関する事	1 2
3．施設・設備の整備状況に関する事	3 0
4．図書館システムの整備拡充に関する事	3 3
5．相互協力活動と大学図書館の公開に関する事	4 0
6．管理・運営の状況に関する事	4 3

< 資料編 >

附属図書館施設改善計画（案）	4 7
福島大学附属図書館主要統計	5 3
学外者利用申請件数（居住地別）	5 5
学外者利用申請件数（職業別）	5 6
福島大学附属図書館整備・充実の歩み	5 8
自己評価委員会名簿	6 5

< 附属資料 >

利用者アンケート集計結果報告

1、利用者サービスの状況に関すること

(1) 閲覧サービス

[現状]

1) 開館日

年間開館日数は平成 10 年度 288 日、平成 11 年度 281 日、平成 12 年度 285 日、平成 13 年度 285 日、平成 14 年度 286 日である。平成 14 年度の文部科学省の「大学図書館実態調査」によれば、全国国立大学の平均開館日数は 269 日であり、クラス別(2～4 学部)の C クラスの平均は 277 日で、本学はいずれも平均を上回っている。以下は最近の開館状況等の推移である。

(単位:日)

年 度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
開 館 日 数	288	281	285	285	286
(内 土 曜 日)	47	48	46	45	45
時 間 外 開 館 日 数	206	198	203	203	209
時 間 外 開 館 時 間 数	824	792	812	812	836

附属図書館の休館日は、日曜日、国民の祝休日、年末年始(12月26日～1月6日)、その他、館長が管理運営上休館を必要と認めた日、開学記念日(5月31日)となっている。

開館日に関するアンケート調査では、学生の 65%が現状でよいと答えているが、30%を超える学生から開館日を増やして欲しいとの意見があった。増やしてほしいという意見では、日曜開館の希望が特に多く、ついで日曜・祝日を含んだ休日開館となっている。大学院生は約 6 割が現状でよいとしているが、4 割を超す院生が開館日増を希望し、日曜開館の希望が多い。教官は現状でよいとの回答が 74%を占めた。

2) 開館時間

開館時間は、以下のとおりである。

授業期間中	月曜～土曜日	9:00～21:00
休業期間中	月曜～土曜日	9:00～17:00

平成 14 年度の「大学図書館実態調査」では、国立大学の時間外平均開館時間数は、a) 3 時間未満 3.0%、b) 3 時間以上 4 時間未満 37.4%、c) 4 時間以上 59.6%である。本学は、c) に含まれ国立大学の中では、標準以上である。

開館時間に関するアンケート調査では、7 割を超える学生が現状で良いとの回答であるが、延長を希望する学生も約 2 割となっている。開館時間延長の希望は 22 時までが大半を占めた。特に、夜間主学生からの希望が多い。また、朝の開館をできるだけ早くという意見も目立った。現在、8 時 40 分には正面玄関をオープンし、窓口業務は 9 時からとして入館させている。その間職員は、9 時まで開館準備として清掃、点検作業などを行っている。

3) 時間外開館

本学は、昭和 55 年 3 月に廃止になった経済短期大学部や夜間に主に授業を行う夜間主コース(経済学部夜間主コース〔昭和 53.4 改組〕、行政社会学部夜間主コース〔昭和 62.10 設置〕)があり、現在の中央図書館方式(昭和 56 年度)になる以前から夜間・

土曜開館を行ってきた経緯がある。平成6年度には、開館時間を20時から21時に延長した。

4) カウンター業務

カウンターは、a)貸出・返却カウンター(情報サービス係担当)とb)レファレンスカウンター(学術情報係担当)に分け、業務を行っている。a)では、資料の貸出・返却のほか共同学習室、視聴覚室などの施設利用業務と情報検索性パソコンやビデオ・CD等の設備利用業務などを行っている。b)では、文献複写や相互貸借の相互利用を含めたレファレンス業務を行っている。

月曜から金曜の時間外におけるカウンター業務は貸出・返却カウンターに集中され、時間外担当の本学院生2名と管理職を除く図書館職員1名の交代による体制となっている。土曜日については、院生3名と職員2名の交代勤務で、常時2名以上の体制をとっている。時間外カウンター業務においては、図書館職員1名がかならず担当になる体制をこれまで取ってきた。

「職員の対応」について利用者アンケートでは、全体の89.2%の利用者が「よい」あるいは「ふつう」と回答している。教官は好意的であったが、学部学生の7.5%、大学院生の11.1%から窓口対応に関する意見があった。そのため、窓口対応についてアンケートから出された意見をふまえての改善を図った。比較的多かった「カウンターに誰もいないことがある」との意見には、書庫出納時のサポートや混雑期・混雑時の複数配置の体制を整えた。自動貸出・返却装置(ABC装置)の増設を希望する意見には、利用者サービス向上の観点とカウンター混雑緩和を図るために増設要求を行っている。

5) 利用者登録

学生については、平成元年度より入学時のデータを入力し、全員一括登録している。利便性の追求から平成11年11月より図書館利用証と学生証・職員証の統一化が図られ、学生証等を図書館利用証として利用することが可能となった。

一般市民の登録は、図書館のカウンターで随時受付を行っている。

6) 図書館利用の現状

最近5年間の図書館入館者数は、以下のとおり推移している。

(単位:人)

年 度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
入 館 者 数	272,926	261,102	241,505	242,076	251,826
1日当 入館者数	948	929	847	949	881

最近3年間の図書館利用対象者数は、以下のとおり推移している。

(5月1日現在、単位:人)

年 度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
学 部 学 生	4,389	4,355	4,299
大 学 院 学 生	221	244	249
教 員	478	494	467
職 員	176	177	175
小 計	5,264	5,270	5,190
そ の 他	393	349	

附属図書館の利用目的についての利用者アンケート集計結果では、学部学生の利用目的で一番多かったのは専門図書の利用で、次いで一般教養図書の利用、インターネットでの情報検索と続いている。これ以外の項目でも多岐にわたって利用されている現状がうかがえる。教官は専門図書の利用、雑誌のバックナンバー利用、文献複写（資料のコピー）と続いている。大学院生は専門図書の利用の次に文献複写（資料のコピー）、雑誌のバックナンバー利用と続いており、学部学生とは違う傾向を示し、教官の利用目的に近い実態である。

[評価]

開館日、開館時間共に概ね良好であるが、日曜・休日開館及び開館時間の延長を検討する必要がある。カウンター業務は概ね良好、図書館利用の現状も良好である。

[課題と対策]

- 1) 開館日については、日曜開館の希望が多かったことから日曜開館を検討することが必要である。利用者アンケートにみられたように、試験期間前の日曜日と試験期間内日曜日の休日開館を検討する必要がある。
- 2) 開館時間延長については、利用者アンケートで希望の多かった 22 時までを検討する必要がある。開館時間を延長した場合には、光熱水料と人件費を合わせて年間の経費が大幅に増加することとなるため、延長を行う期間を限定することも考えられるが、「混乱をさける点」と「夜間生の学生から希望が多かった点」を考慮すると、通年で実施できるよう具体化する必要がある。
- 3) 窓口対応では、「利用者の要求」に応えていくために、さらに図書館職員としての資質向上、時間外開館における担当者教育を図ることが必要である。カウンター付近の環境や設備の配置等も含めた検討が必要である。
- 4) カウンター担当者については、9 時～17 時までの勤務時間内については、情報サービス係と学術情報係が担当し、時間外においては、職員、アルバイトの割振りによって行っている。常に利用者に十分なサービスを提供する観点からは、時間外と時間内で提供するサービスにちがいがあってはならないが、職員の負担と経費の増加を抑える点から常に経験者を配置するのも難しい。開館時間の延長や休日開館を行うにあたって、経費の問題と職員の負担、そして提供するサービスのあり方、利用者数の予測などについて検討が必要である。その上で、職員のローテーション方式などの検討もされるべきである。
- 5) 利用者アンケートの「話し声・雑音」については全体の 8 割を越す利用者が「満足」あるいは「ふつう」と回答しているが、「満足」と答えた利用者が 17.6%とかなり低かった。「不満」は 16.7%であった。利用者の「声」からもマナー問題を指摘する意見もあり、利用者指導を含めた対策が必要である。

(2) 貸出サービス

[現状]

1) 貸出条件

本館の貸出条件は、下表のとおりである。

(単位:冊)

区 分	貸出種別	貸出冊数	貸出期間
学 部 学 生	一般貸出	5	2 週間
卒論対象学部学生	一般貸出	10	3 週間
大 学 院 学 生	短期貸出	20	1 ヶ月
	長期貸出	40	3 ヶ月
教 員	短期貸出	20	1 ヶ月
	研究室貸出	200	1 ヶ年
職 員	短期貸出	20	1 ヶ月
名 誉 教 授	短期貸出	20	1 ヶ月

2) 貸出状況

館外貸出統計は、下表のとおりである。

館外貸出人数

(単位:人)

年 度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
学 部 学 生	22,667	23,009	22,630	20,547	17,606
大 学 院 学 生	1,882	2,315	2,373	1,938	1,574
教 職 員	1,018	1,681	2,663	2,464	1,827
学 外 者	415	420	576	604	632
計	25,982	27,425	28,242	25,553	21,639

館外貸出冊数

(単位:冊)

年 度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
学 部 学 生	47,280	45,839	40,976	38,403	37,351
大 学 院 学 生	5,424	6,166	6,670	5,501	5,724
研究室貸出 (教職員)	51,884	56,444	50,889	46,135	37,869
学 外 者	1,260	1,219	1,539	1,670	1,647
計	105,848	109,668	100,074	91,709	82,591

注) 教職員貸出分には研究室貸出(継続貸出分)を含む。

平成 14 年度の文部科学省の「大学図書館実態調査」によれば、国立大学 1 館当りの合計平均貸出冊数は、24,340 冊であり、本館では、クラス別で 1 番多い B クラス(5 学部～7 学部)の 36,171 冊をも大きく上回っている。平成 14 年度の利用者区分別平均比較でも、学生(20,256 冊、大学院生を含む)、教職員(3,591 冊)、学外者(493 冊)のすべてにおいて、全国平均を大きく上回っている。学部学生の貸出冊数は、平成 10 年度以降減少傾向にあり、学生数減少の影響とインターネットの普及による図書利用の機会が減ったのが原因ではないかと思われる。

貸出・返却は、図書館利用証(学生証等)と資料に貼付した資料 ID をバーコード、または OCR 文字により読取って処理している。利用者はカウンター処理のほか、カウンター付近に設置した自動貸出・返却装置によって、自分で処理を行うことができる。

自動貸出・返却装置は平成 11 年 3 月に設置し、開架図書の電算入力データと対応しており、無断持出し防止装置（ブックレティクションシステム）とも対応したものである。利用者アンケートでは、「1 台では足りない、閲覧室 2 階にもほしい」という声もあり、増設要求をしている。なお、この装置はバーコード対応であり、一部の開架図書（この装置導入後一度も貸出されない資料）には、バーコード ID が未装備のものもある。貸出中の資料に対する予約は、カウンターで受け付けているほか、平成 15 年 4 月からは所蔵検索画面で予約できるようになった。

本学の研究用図書についても学生用図書同様に購入後、データ登録と図書装備が終了次第貸出処理を行っている。本館では遡及入力終了しているため、研究室貸出状況の把握が機械的に容易であり、所蔵状況・貸出状況が検索で知ることができるため、研究室貸出資料の予約も受け付けている。研究室貸出資料は、貸出期間が 1 年となっており、更新も可能となっている。平成 14 年度の統計からは、実際に貸出処理が行われた数（6,381 冊）と更新分の数（31,488 冊）を分けて算出できるようになった。平成 14 年度は合計が 37,869 冊となり、研究室貸出も減少傾向にある。

[評価]

図書の貸出状況は概ね良好である。

[課題と対策]

予約は、インターネットからもできるようになったが、誤操作によるエラーも発生しているため、利用者に正しい操作を周知する必要がある。

(3) 広報活動

[現状]

- 1) 附属図書館の広報誌としては、図書館報『書燈』がある。『書燈』は 4 月と 10 月の年 2 回発行している。各学部の図書委員会から 1 名と本館各係から 1 名の職員で編集委員会を組織し、掲載内容を検討して発行している。『書燈』は学内で配布する他、全国の大学図書館等にも送付する。利用者アンケート集計結果から『書燈』については、全体の 33.5% が「欠かさず読んでいる」あるいは「時々読んでいる」との回答があった。一方、「読んだことがない」「知らない」との回答は 60.3% あり、『書燈』の認知度はかなり低い。身分毎で見ると、学部学生では「読んでいる」と答えたのは 21.7% ともっとも低く、特に学部学生への認知度が低い。大学院生では 63%、教官では 90.4% が「読んでいる」と答えていることから、学部学生も関心を持つ内容の工夫が必要である。
- 2) 附属図書館の概要を紹介するものとして、『福島大学附属図書館概要』がある。年 1 回発行で、内容は図書館の沿革、組織及び職員数、施設、代表的な資料紹介、開館時間、利用条件、統計、その他となっている。統計は貸出状況など最近 5 年間の数値が掲載され、年次比較も可能となっている。
- 3) 新しい利用者の図書館利用案内として『図書館を利用するために』を年 1 回発行している。この冊子は、新入生ガイダンスや大学院生ガイダンスなどに利用するとともに、新任の教職員にも配布している。内容は、本館利用案内のほか、本館所蔵検索用端末（OPAC）の利用説明も載っている。なお、この冊子の附属資料として、1 年間の

休館日、開館時間が分かる「図書館カレンダー」を発行している。大きさは免許証サイズで、学生証と一緒に持ち運ぶことができ、利用者には好評である。

- 4) 本学の電子掲示板が平成 15 年度から運用を開始した。これまで館内掲示等で知らせていた情報を学内に発信できるようになった。今後、「周知情報」、「緊急情報」など附属図書館からの学生向け広報として活用が期待される。
- 5) 利用者アンケート集計結果から附属図書館ホームページ上の広報誌等については、全体の 22.1%の利用者から「利用した」と回答があった。学部学生で「利用した」のは 14.4%しかなく、「知らなかった」と答えたのは 26.4%であり、利用の度合いはかなり低い。一方、大学院生の 48.1%、教官の 57.7%が「利用した」と回答しており、「知らなかった」は大学院生 7.4%、教官 1.9%であった。また、「利用した」と答えた利用者の 99.4%から「満足」あるいは「ふつう」と回答があり、「不満」は 0.6%であった。

[評価]

広報活動は図書館報『書燈』、図書館案内『図書館を利用するために』、「図書館カレンダー」等を発行し、努力がなされ概ね良好である。

[課題と対策]

それぞれの広報誌としての役割を見据え、利用者の声を反映した、読まれる誌面づくりを目指すとともに広報誌のPRにも努めていく必要がある。

(4) 利用者支援

[現状]

- 1) 附属図書館は昭和 56 年度に金谷川キャンパスに移転し、平成 6 年度に一部増築を行った。この間、各種案内版の設置や館内案内図の作成、書庫案内図の表示などを行ってきた。増築や書庫の狭隘化により移動した図書も多く、所在表示の変更はその都度行った。利用者アンケートでは、「書庫内の表示をわかりやすく」、「部屋の配置図もう少し多くほしい」、「書籍がどこにあるかわかりにくい」などの意見が寄せられている。
- 2) 附属図書館の蔵書検索は遡及入力によって、一部の資料を除き、ほとんどの蔵書がデータベース化され機械検索可能となった。本館蔵書データベースは附属図書館ホームページ上でも蔵書検索 (OPAC) が可能となっている。

利用者アンケート集計結果では、インターネットからの蔵書検索利用については、全体の 39.6%の利用者が「利用した」と回答している。学部学生では「利用した」ことがあるのは 31.2%しかなく、「知らなかった」と答えたものも 26.8%もあった。一方、大学院生の 81.5%、教官の 73.1%が「利用した」と回答しており、よく利用されている状況がうかがえる。

- 3) 附属図書館ガイダンス

新入生図書館ガイダンスは、教養演習のクラスを単位として 5 月~7 月にかけて新入生全員を対象に、利用方法・マナーなど図書館を利用する上での基本的事項の説明、蔵書検索方法の指導、館内案内を行っている。

利用者アンケートでは「1度に説明されてもわからない」、「聞こえない」等の意見があったことから、要望を取り入れた改善を図った。新入生図書館ガイダンスは全部終了

するためには2ヶ月近くかかっており、最後のほうのクラスからはもっと早く開いてほしいとの意見が出ている。

大学院生ガイダンスは、研究科単位で実施している。院生の利用条件等の基本的事項、書庫利用、複写機利用、諸室の利用についての説明を行っている。近年、著作権の問題が注視されているところであり、院生には特にコピーの際の著作権問題と書庫を利用する際の注意点を含めているが、研究者としての立場での図書館利用上のマナーを理解してもらっている。

新任教官説明会では、新任教官全員を対象に図書館の機構、予算的事項、発注方法、相互利用を含むレファレンス、ネットワークを利用した図書館サービス、図書館の利用方法、蔵書検索方法、施設利用など総合的なガイダンスとして実施している。

4) 情報検索講習会(「情報探索基礎講座」)

附属図書館では情報リテラシー教育として、昭和58年度から4年生を対象に卒論オリエンテーションを開催してきた。平成6年度から「卒業論文作成のためのガイダンス」となり、平成10年度からは「文献調査法入門講座」と改め、ビデオによる文献調査の概略説明およびCD-ROM実習を行った。さらに平成14年度より全学年を対象として、データベースの多様化への対応及びより利用者にわかりやすい講座を目指して「情報探索基礎講座」と改めた。この講座では前期と後期の年2回シリーズ開催し、図書や雑誌論文など資料別の内容で複数回の開催と曜日や時間帯も様々に設定するなどの改善を行った。

現在の講座の内容は、平成14年度前期のみ、「インターネット情報の探し方」を盛り込んだが、平成14年度後期からは「図書情報の探し方」「雑誌情報の探し方」「新聞情報の探し方」「電子ジャーナルの使い方」の4種類で開催している。平成15年度より通常の「情報探索基礎講座」とは別に、教官の要望に応じて、ゼミ単位で講座を行う「オーダーメイド」開催を開始した。利用者自身が日時や内容を選ぶことができるため、夜間生の学生や教官からは好評を得ている。これらの取り組みによって、平成14年度の「情報探索基礎講座」からは回数、参加人数ともに大幅に増加している。

実施名称	平成11年度		平成12年度		平成13年度		平成14年度		平成15年度 (7月末まで)	
	回数	参加人数	回数	参加人数	回数	参加人数	回数	参加人数	回数	参加人数
通常	2	37	6	33	2	16	20	124	8	31
オーダー メイド									3	38
計	2	37	6	33	2	16	20	124	11	69

回数および人数とも のべ数

アンケート調査結果を見ると、「参加した」は全体の25%で参加者の割合は低く、32.2%が「知らなかった」、特に学部学生の36.4%が「知らなかった」と認知度がかなり低い。さらに参加した結果を見ると、92.7%が「現状でよい」との評価を得ている。また講座終了後のアンケートからは、ほぼ100%から満足しているとの回答があり、なかには「レポート作成に絶対必要」「もっと多くの学生に講座に参加してもら

いたい」という声も出されている。

5) 情報探索ガイド、「使い方」シリーズ等ガイドブックの充実

附属図書館で独自に作成した検索ガイドとしては昭和 62 年度に編集・発行した『卒業論文作成のために - 文献の検索・収集・整理 - 』がある。主に卒論作成者に配布した。

二次資料が冊子体からオンラインや CD-ROM などのデータベースに移行するにつれ、新しいガイドブックが必要となり、平成 14 年 5 月に一目で文献情報の探し方が分かる「情報探索ガイド」を作成した。このガイドでは、図書、雑誌、雑誌論文、新聞、事項といった附属図書館における情報探索の手段を網羅的かつわかりやすく整理し、相互利用制度の紹介など文献を入手するための方法を説明した。あわせて図書館ホームページの利用方法も紹介した。

平成 15 年 1 月から各データベースの利用マニュアルとして「使い方」シリーズを発行し、平成 15 年 7 月末で 15 種類となっている。機能紹介、接続、検索方法、閲覧方法、便利な機能、文献の入手方法などが画像とあわせて記載されており、コンパクトながらも一通りの利用の仕方がわかり、好評を得ている。

OPAC	雑誌記事索引 CD-ROM	雑誌記事索引 NDL-OPAC
Webcat Plus	NACSIS Webcat	電子ジャーナル
CD-HIASK	日本経済新聞	Ingenta
国会図書館蔵書検索	大宅壮一文庫 CD-ROM	Virtual CD
NDL-OPAC		
法律判例文献情報	福島民報	朝日新聞 DNA

6) レファレンス・サービス・ニュース

平成 7 年 4 月からレファレンス・サービスの内容を広め、利用者の学習・研究が進展することを目的として、『レファレンス・サービス・ニュース』の発行を開始した。当初は文献検索ガイド的な内容が多かったが、その後、新しいサービスやデータベース、附属図書館ホームページなどの紹介、「情報探索基礎講座」の案内など速報性の高い内容が増え、その点では図書館報『書燈』の時間的間隙を補うものとなっている。

『レファレンス・サービス・ニュース』は、教官及び学生を対象として配布するとともに図書館ホームページ上でも PDF 版で公開しているが、利用者アンケートでは、「読んだことがない」26.3%「知らない」50.8%と回答していることを見ると、認知度はかなり低い。

7) 平成 13 年度には、ビデオテープの内容をサーバに蓄積しリクエストに応じてネットワーク配信するビデオ・オン・デマンドシステム (VOD) を導入した。視聴にはパソコンを使用し、ブラウザ側に再生用プラグインソフト「Real Player」が必要である。現在セットしてあるビデオは文献検索等の図書館活用を案内する下記 7 種である。

利用状況は、ゼミ単位で視聴するなど徐々に活用が広がっている

新図書館の達人(1)
 - 情報基地への招待 - (約 26 分)
 新図書館の達人(2)
 - 文献検索法の基礎 - (約 24 分)
 新図書館の達人(3)
 - 情報検索入門 - (約 31 分)
 図書館の達人 Part (6)
 - レポート・論文のまとめ方 - (約 28 分)
 経済文献の達人(2)
 - 産業・企業情報を集める - (約 23 分)
 経済文献の達人(3)
 - 統計情報はやわかり - (約 21 分)
 司書教諭の役割 (約 28 分)

[評価]

館内案内の努力、図書館ガイダンス、情報検索講習会などを行い、情報検索ガイド及び「使い方」シリーズなどのガイドブックの充実も図っていて、利用者支援は良好である。館内案内の工夫は望まれる。

[課題と対策]

- 1) 案内表示については、利用者アンケートに出された意見をもとに館内案内等の見直しを行い、年次計画を立てて改善を図る必要がある。
- 2) 蔵書検索は、利用者の使いやすさを追求する。インターネットによる蔵書検索は、来館しなくても使える図書館サービス機能であり、活用の拡大を目指したPRを行う必要がある。また利用者アンケートの「つながらない、つながりにくい」「文字化けする」等の意見には、使用しているパソコン自体の設定による問題もあるようなので、今後は、学生に対するPRや利用説明を充実させる。
- 3) 新入生ガイダンス、大学院生ガイダンス、新任教官説明会については、引続き今後も各層の意見を取り入れ、改善を図りながら行っていく。著作権についてはすべての利用者に周知を図る。

4) 情報探索基礎講座

講座の通常開催の時期としては、学生が落ち着いて勉強できる5月～6月、10月～11月が適当であるが、5月～6月は新入生ガイダンスと重なり、通常業務とガイダンスを行った上で、さらに講座を開催することはスタッフにとって相当の負担である。また、講座の目的は実際に利用者が自分でデータベースを使って文献情報を得るノウハウを習得させることにあり、現状では1回の講座で対処できる人数は7～8名が限度である。より多くの参加者を募り、効果的な受講環境を整えるためには館内のサポートが必要であり、そのため、ガイダンスや講座に向けた開催時期の検討やスタッフ体制を充実させる必要がある。

平成15年度から通常開催に新たに加えたゼミ単位での「オーダーメイド開催」により参加者数は増加しているが、まだまだ参加者数が少ない。今後も様々な宣伝を試み、教官への呼びかけを通して参加者を増やしていく必要がある。また、希望者のみに対

象としていては限界もあるので、正式に授業の一コマとして講座を開催することを検討する必要がある。

卒業論文作成者や大学院生に対しては、専門分野などに特化した上級編としての開催も必要である。

- 5) 次々と新しいデータベースや電子媒体による一次資料が流通する現在では、日本国内の検索ツールのみならず、海外データベース等も多数利用できるようになった。利用者自身がツールを使いこなすためには、利用者にとって分かりやすく使いやすいマニュアルなどのガイドブックを整備する必要がある。附属図書館としても、「情報探索ガイド」、「使い方」シリーズをさらに充実させていく必要がある。また、各国からの留学生のためにも、各国語のガイドブックを作成することも検討する必要がある。冊子体から電子媒体への移行やユーザー・インターフェースの変更など、電子媒体では改変の頻度が著しい。そのため、マニュアルは常に使いやすさと最新性を保つよう留意していかなければならない。
- 6) 電子図書館をはじめ現在の図書館サービスは様々に進歩・発展している。附属図書館でも続々と新サービスを開始しており、『レファレンス・サービス・ニュース』は有効な広報手段と位置づけられる。また、学内の「お知らせ配信システム」に掲示することも有効であり、附属図書館における図書館サービス機能を利用者に知ってもらう努力が必要である。
- 7) VOD によるビデオ再生は、標準画像サイズが小さく、通常のビデオ再生装置による画像に比べ品質が劣っている。今後のさらなる活用を図るためには、高画質のサーバ装置の導入を検討する必要がある。
また、VOD によるネットワーク配信を行うには、購入ビデオの場合ネットワーク契約が必要であり、単体使用に比べ 1.5 倍 (3 年間の使用契約) の経費がかかるうえ、期間更新による後年度負担も考慮する必要がある。今後は新入生や学外者向けの図書館案内ビデオを自前で作成することも検討が必要である。

(5) 参考業務

[現状]

1) 参考業務の現状

レファレンス (参考調査) 件数

(単位:件)

年 度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
依 頼	88	103	82	124	142
受 付	280	146	105	79	67

レファレンス件数の変遷は、上記のとおりであるが、年度によりばらつきがありはっきりした傾向は見えない。受付件数では減少の傾向が見られるが、これは参考調査の中でも最も多い所蔵調査 (図書館で所蔵しているかどうかの照会) が、所蔵データの整備とインターネットによる OPAC の普及により、自分で検索できる環境が整ったことによるものと思われる。

アンケート調査では、全体の約 25% しか利用経験がなく、特に学生の約 25% が「知

らなかった」と回答しており、活発な利用とはいえない。上記件数は、「レファレンス申込書」や他大学から FAX での申込書によるものだけであり、口頭あるいは電話による照会については含まれていない。

- 2) 平成 15 年度からは、ホームページ上に、学内利用者を対象にレファレンス申込の入力フォームを設置し、オンラインでも申込ができるようにした。また、電子メールアドレスをホームページに公開していることから直接メールにより担当係にレファレンスを申し込んでくる利用者もある。担当係では、どちらの方法でも受け付けている。

[評価]

レファレンスサービスの存在を知らない利用者も多いと思われるので、広報が必要と思われる。

[課題と対策]

電子メールを含めたオンラインによるレファレンスの利用数にはまだ目立った増加は見られないが、レファレンスサービスは現代図書館のパーソナルサービスの原点ともいえる機能であり、図書館における「レファレンス」機能について電子掲示板等を利用して P R にさらに取り組む必要がある。

(6) 国際化への対応

[現状]

- 1) 本学には平成 15 年 5 月現在、125 人の留学生が在籍している。
- 2) 附属図書館の外国人留学生への支援としては、留学生資料コーナーが設置されており、留学生向けの図書・雑誌・新聞が配置されている。
- 3) 予算的には、留学生資料購入費が配分されており、関係資料の購入に充てられている。また、学生用図書購入費の本省配分額 5% の枠内で留学生資料を購入することも認められている。
- 4) 平成 14 年度には大学間交流協定コーナーを設置した。コーナーでは、世界地図で協定校の所在地を示し、大学間交流協定校(現在 9 校) を紹介した資料を展示しており、本学国際交流の紹介にもなっている。

[評価]

留学生向けの努力がなされているが、さらなる工夫が必要である。

[課題と対策]

- 1) 留学生への情報提供環境の改善のひとつとして、海外衛星放送の充実が挙げられる。英語はもちろん中国語や韓国語など多様な母語によるニュースが視聴できるテレビの設置が望まれる。受信のための設備、受信契約の費用等課題もあるが、実現に向けて検討する必要がある。
- 2) 留学生に対する対応としては、利用者としての学習環境を整えることであると考えられる。留学生は、基本的に日本語を理解できなければ学習できない環境におかれている。しかし、日本語の理解が十分でない留学生も少なくない。また、母語に対応する図書館の案内も不十分であるため、次の改善策を図る予定である。a) 利用案内における

外国語併記、b) 分類表の英語表記、c) 外国語による各種案内表記。まずは、英語による表記を優先したいと考えているが、本学における留学生の状況から中国語、韓国語の表記も必要である。

2、資料収集、管理状況に関すること

(1) 図書館資料の収集及び整備状況

[現状]

1) 学生用図書の収集方針と選書体制

学生のための学習用図書、教養図書、参考図書及び雑誌等を収集するため、教員に対しては出版情報誌（全教員を対象に希望図書へのチェックを求めため「ウイークリー出版情報」を各学部教官控室に配付し回収）、ネットワーク利用の購入依頼及び注文書を定期的に集約し、また、学生に対しては備付希望図書申込書による購入希望の受け付けをカウンターで行っている。これらの購入希望について、図書選定委員会及び図書館専門員が選定基準（本学の授業科目に関連した図書や大学図書館にふさわしい内容の図書を選定し、内容的に古いもの、個人の趣向性が強いもの、政治・宗教等の宣伝を目的としたもの、高額なもの、極度に専門性が高いもの及び漫画など学生用以外と判断されるものは除外する）に従って選定を行っている。しかし、部門による選書の偏りや選書者数の少なさ、理工学類の設置が予定されているなか自然系の選書数が少ないこと、利用者アンケートにおける新刊図書の不足、特色ある蔵書構成の必要性等の指摘があり、まず図書館として限られた予算のなか効率的で目的性をもった選書体制の構築を図るため、平成 15 年度から一定の予算枠分を図書選定委員のうち各学部 1 名の選書担当委員により選書する体制を新たに加えることとした。

2) 本館参考図書の収集方針と選書体制

全学共同利用の図書類・調査研究用参照図書である本館参考図書は、昭和 56 年度の図書館協議会及び平成 8 年度の図書選定委員会において収集方針が定められた。その収集方針は、a) 継続及び新規図書（主題別年鑑、書誌・目録、名簿などの継続的なもの、各種辞(事)典等の単発もの。継続図書は、継続的に購入しなければ内容的に欠落が生じるものを A グループ、そうでないものを B グループとし、B グループを 3 年に 1 度の購入に振り分ける）b) 基本参考図書（百科事典、蔵書目録など 1 件当たりが 100 万円以下のまとまった参考図書）c) 大型基本参考図書（1 件当たりが 100 万円以上の高額な参考図書類で年次計画により収集するもの）に区分され、この方針に従って図書選定委員会により具体的な収集が行われている。

3) 研究用図書の整備状況

教官の研究及び教育活動のために購入する研究用図書は、各学部等の教官研究費のなかから研究用図書購入費として図書館に振替えを受けて、収集・整備が進められている。

4) 視聴覚資料の整備状況

視聴覚資料は教育研究上必要なものを教官の選定により収集している。平成 9 年度以降、図書館で所蔵してきた視聴覚資料の推移は、以下の表のとおりであるが、この 6 年間で増加した 642 タイトルのうち 8 割以上がビデオテープ、CD・LD・DVD 及び CD-ROM である。この他にレコード、映画フィルム、スライドも所蔵している。

視聴覚資料所蔵数

(単位:タイトル)

区 分	マイクロ フィルム	マイクロ フィッシュ	カセット テープ	ビデオ テープ	CD・LD・ DVD	CD - ROM	VD	FD	合計
平成 9年度	242	297	299	320	30	104	3	16	1,311
平成10年度	244	300	309	395	40	114	3	20	1,425
平成11年度	255	303	322	479	46	162	3	20	1,590
平成12年度	254	305	327	509	52	196	3	20	1,666
平成13年度	260	307	350	546	74	232	3	21	1,793
平成14年度	260	308	350	664	96	251	3	21	1,953

5) 電子出版物の整備状況

冊子体の印刷物であった学術雑誌の内容を電子データとしてインターネットを通して手元のコンピュータで閲覧・印刷することができる電子ジャーナル(無料)の導入が、平成 12 年度にはじめて行われた。平成 14 年度からは有料契約も開始され、利用できる電子ジャーナルのタイトル数の増加が図られている。また、平成 12 年度には CD-ROM サーバの導入が行われ、ネットワークを經由して CD-ROM のデータを利用できるようになった。

6) 学術雑誌の収集と整備状況

現在の学術雑誌の所蔵数は、約 10,500 タイトルとなっている。平成 14 年度には、年間約 4,000 タイトルを受け入れているが、外国雑誌の価格上昇と予算削減のため、平成 14 年度は 69 タイトル、平成 15 年度には 95 タイトルが購入中止となっている。

外国雑誌について未着等により欠号が生じた場合には、代理店へクレーム処理を行い速やかに納入するよう手続きを行っている。また、紀要等の交換雑誌については、製本の際に他大学等へ送付の依頼を行っている。現在、図書の納入業者(書店)が、週に 1・2 度しか図書館にこないため、雑誌については発行されても 1~2 週間程度配架までに時間がかかるケースが生じている。

購入雑誌種類数

(単位:タイトル)

年 度	平成 9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
購入雑誌種類数	1,630	1,690	1,660	1,503	1,453	1,276

[評価]

これまでの蓄積により充実してきているが、望ましい教育研究水準の維持のためには、予算的裏付けが必要である。

[課題と対策]

1) 学生用図書の選書体制としては、利用者である学生の声をいかに取り込んでいくかが課題として考えられ、学生に対する図書購入制度の理解を促すため、電子掲示板等での周知を行うなどの改善を図る必要がある。また、理工学類設置への対応として自然系図書の充実を図るためには、当面安定的な予算措置が必要となる。

- 2) 理工学類の設置及びインターネットの普及に伴い、収集図書構成の見直しとともに参考図書の冊子体から電子媒体へのシフト換えについても検討をしなければならない。
- 3) 教官が所属する研究分野の図書は、同規模国立大学の中でも蔵書数が多く充実しているが、研究者がいない分野や学際的分野は古い図書が多く、全体的には充実しているとはいえない状況である。各学部からの研究用図書費の振替額が減少するなか、大学として一貫した対応が必要となっている。
- 4) CD-ROM や DVD についても耐用年数が限られており、管理方法について検討が必要となっている。また、新たな視聴覚媒体への対応等についても考慮していかなければならない。
- 5) 学術雑誌等の電子ジャーナル化は、国内外及び分野を問わず増加することが予想され、本学における教育や研究のため電子ジャーナルの一層の整備を進めなければならない。また、CD-ROM に比べデータ収録容量が大きいDVD 資料の増加への対応として、DVD サーバの導入についても検討する必要がある。

(2) 図書館資料費の状況

[現状]

1) 学生用図書購入費

学生用図書購入費は、部門費、一般・共通費、参考図書費、雑誌費、追録費、新聞費、製本費、教育実習生図書費の8つに科目区分されてきたが、一般・共通費のうちネット契約料については年額が固定されていることから、平成15年度の図書館協議会で新たにネットワーク経費として科目区分が設けられた。また、平成3年度から続いていた部門費についても見直しを行い、人文系に含まれていた情報系を分離し新設(300千円)することにより、これまでの部門費の系配分比率(人文系(35%)、社会系(35%)、自然系(20%)、外語系(5%)、保体系(5%))の見直しを行った。

学生用図書購入費の総額は、本省配分額と学内措置額とを併せたものである。学内措置額については、平成13年度にそれまでの学部に配分された後に所要額について学部に合意をを求める方式から、学内予算配分時に当初一括配分する方法に変更され、15,000千円の配分を受けている。本省配分額については、減額傾向ではあったが平成13年度までは約5,000千円の配分があった。しかし、平成14年度に大幅な減額の措置が行われ約3,000千円となっている。

学生用図書購入費予算額の推移

(単位:千円)

年 度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
本省当初配分額	5,359	4,673	4,442	4,452	4,517	2,543	2,995
本省追加配分額	482	553	505	567	567	461	0
学 部 負 担 額	14,964	15,279	15,166	15,033	15,000	15,000	15,000
合 計	20,805	20,505	20,113	20,052	20,084	18,004	17,995

学部負担額は、平成13年度から配分方法の変更により当初一括配分となった。

2) 本館参考図書購入費

本館参考図書購入費の総額は、本省配分額と学内措置額とを併せたものである。学内

措置額については、学生用図書購入費とともに平成 13 年度にそれまでの学部配分された後に所要額について学部合意を定める方式から、学内予算配分時に当初一括配分する方法に変更され、3,000 千円の配分を受けている。本省配分額は、ここ数年 160 千円前後で大きな変動はない。

参考図書購入費予算額の推移

(単位:千円)

年 度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
本省当初配分額	171	171	154	154	154	165	165
学部負担額	2,890	2,901	2,907	2,878	3,000	3,000	3,000
合 計	3,061	3,072	3,061	3,032	3,154	3,165	3,165

学部負担額は、平成 13 年度から配分方法の変更により当初一括配分となった。

3) 研究用図書購入費

研究・教育活動のため購入される研究用図書の購入経費は、各学部予算からそれぞれの学部の予算配分方式に従い、図書館へ振替が行われている。

教育学部は、24 講座費配分(人数×単価、平成 15 年度は 113 人×20 千円、不足額が生じた場合には追加振替)、4 部門費配分(1 部門×単価、平成 15 年度は 4 部門×400 千円)、選定図書費(平成 15 年度は 4,500 千円)、学部雑誌費(平成 15 年度は 242 千円)、新任教官図書充実費(平成 15 年度は 100 千円×1 人)、参考図書費(平成 15 年度は 1,000 千円)、製本費(平成 15 年度は 1,322 千円)となっている。

行政社会学部は、5 グループ費(50 千円/人+教員各自の年間所要額を 7 月、11 月に各グループに集約して振替、不足額が生じた場合には追加振替)、製本費(平成 15 年度は 400 千円)、院生用文献複写費(平成 15 年度は 200 千円)となっている。

経済学部は、部門費(～部門)(人数×単価+定額、平成 15 年度は 71 人×200 千円+400 千円×7 部門)、共通経費(部門)(平成 15 年度は 1,850 千円)、新任教官費(平成 15 年度は 150 千円)、共同購入経費(参考図書費、資料費、雑誌費、追録費、製本費として平成 15 年度は 6,000 千円)となっている。

保健管理センター及び生涯学習教育研究センターについては、図書購入額をそのまま振替えている。

平成 14 年度の研究用図書購入費の総額を平成 9 年度と比べてみると、約 38,559 千円、率として約 40%の減少となっている。新刊図書、継続図書が予算減少の中で打ち切れ、資料的価値の低下を招いており、本学の教育研究に大きな影響を及ぼしつつある。

4) 特別図書購入費

大学院生の研究用図書を購入するために本省から配分されている特別図書購入費は、3 研究科に均等に配分した額(平成 15 年度は 370 千円×3 研究科)の購入希望について、各研究科代表の院生を通じて提出してもらい、提出された希望図書の優先順位に従って購入を行っている。また、学生用図書購入と同様に院生からも備付希望図書申込書による購入希望をカウンターで受付けている。

特別図書購入費の推移

(単位:千円)

年 度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度
特別図書購入費	1,265	1,139	1,139	1,137	1,188	1,110

5) 留学生用資料費

留学生のための新聞や雑誌等を購入するため、当該年度の留学生の在籍数に基づき本

省から配分される留学生経費（外国人留学生教育経費）の一部を図書館に振替えたものである。海外の新聞などは航空便によって送付されることから、国内のそれに比べかなり高額な負担となっており、平成 12 年度までは配分される留学生経費では不足が生じ、学生用図書購入費からも負担していた。この他、行政社会学部留学生経費として、別途予算振替があり、図書購入希望が併せて出されている。また、学生用図書購入と同様に留学生についても備付希望図書申込書による購入希望をカウンターで受付けている。

6) 電子ジャーナル導入経費

電子ジャーナルの有料契約については、平成 13 年度の図書館協議会において検討が行われ、平成 14 年度にブラックウエル社（594 タイトル）シュプリング社（396 タイトル）ワイリー社（346 タイトル）の合計 1,336 タイトルを、新たに本省から配分される「電子ジャーナル導入経費」と、不足する場合にはそれまで配分されてきた「電子的情報資料購入経費」等の経費をもって導入することが決定された。平成 14 年度の図書館協議会では、電子ジャーナルの充実・拡大を求める声に応えて、平成 15 年度にエルゼビア・サイエンス社（1,000 タイトル）の新規導入が、経過措置として各学部から一定額（300 千円）拠出することが了承されたことにより決定された。また、同時に電子ジャーナルの安定的なアクセスを確保し、更なる充実を図るため全学による共通経費化の要求を全学予算委員会に行った。その結果、平成 15 年度において電子ジャーナル導入経費の共通経費化が行われ、2,500 千円の配分のもと、約 2,500 タイトルの導入となっている。

平成 16 年度の電子ジャーナル契約を検討するなかで、教官研究費の減少や購読料の値上げなどの理由により、教官研究費による負担の難しさから購読を中止するケースが多くなり、電子ジャーナル契約の前提となる雑誌購読の維持が困難になる事態が生じた。このことを受けて、図書館協議会として契約の維持を図るための検討を行い、平成 16 年度においては、平成 15 年度電子ジャーナル契約における雑誌契約実績に基づく部局別の負担割合により、契約を維持するための不足額を補填することとした。

電子ジャーナル契約タイトル数

(単位:タイトル)

年 度	平成 12 年度	平成 13 年度	平成 14 年度	平成 15 年度 (予定)
総タイトル数	147	129	1,336	2,482
料金別	無 料	147	346	1,396
	有 料	0	0	1,086

7) 電子的情報資料購入費

平成 4 年度から新規に本省より配分されたもので、それまで本館参考図書購入費で購入されていた CD-ROM 等の基本参考図書を購入するための経費としたものである。平成 13 年度までは追加配分予算であったため、購入図書資料については当初本館参考図書購入費のなかに位置付け、配分額が確定した段階で本館参考図書費から位置付けの変更をしてきた。初めて当初予算として配分された平成 14 年度は、電子ジャーナル導入経費の不足分に配分額すべてが充てられた。なお、平成 15 年度の本省配分額は、390 千円となり前年度に比べ半減した。

8) 紀要等製本費

図書館として寄贈・交換受入をしている紀要、雑誌及び新聞を製本するために、図書館運営費から振替をしている経費である。ここ数年、紀要・寄贈雑誌約 700 冊、新聞 2 冊の製本を行っており、約 1,200 千円となっている。なお、製本にあたっては、研究用図書及び学生用図書として購入している雑誌等の製本とあわせて依頼している。

9) 学長裁量経費（図書購入経費）

平成 10 年度まで一般設備費として本省に要求していた図書の購入経費が、平成 11 年度から教育改善推進費（学長裁量経費）として学内要求する制度に変更された。このことを受け、平成 12 年度の図書館協議会で平成 13 年度以降の学長裁量経費の要求に関する申し合わせが了承され、教育学部、行政社会学部、経済学部、図書館の順に 4 部局ロケーションで 100 万以上 500 万以内の図書購入の要求をすることとなった。

[評価]

教育研究水準の低下を防ぐためには、大学として予算措置を検討する必要がある。

[課題と対策]

- 1) 学生用図書の充実は、大学教育の基幹にかかわる重要な課題である。しかし、本省配分額の減少に伴う予算の減額により、学生用図書の収集が計画的に行えなくなるなどの影響が生じている。今後理工学類の設置に伴い、関連する学生用図書の充実も図っていかねばならず、学内措置としてのさらなる学生用図書購入費の確保を検討する必要がある。
- 2) 本館参考図書の収集にあたっては、限られた予算を有効に使用するため、冊子体から電子媒体へのシフト換えの検討のなかで、無料サイトの利用等についてもさらに検討を行わなければならない。
- 3) 図書館としての収集体制の維持・発展のため、研究用図書購入費の確保は重要な課題となっている。法人化や全学再編が進められるなか、総額の維持を図るとともに学術雑誌・電子ジャーナル等の基礎的資料の安定的供給も重要な課題である。これらを維持していくためにもこれまでのような教官研究費からの振替ではなく、学生用図書購入費や参考図書購入費と同様に当初配分予算のなかで共通経費化し、一括して予算措置することが必要と思われる。
- 4) 留学生用資料費は、留学生数の実績に基づき追加配分される留学生経費からの配分であることから、当初の購入計画は見込額で立てなければならず、特に不足額が生じた場合には、他の経費へ影響を与えることになってしまう。安定的な予算確保の方策を検討しなければならない。
- 5) 理工学類の設置に伴い、これまで以上に電子ジャーナルの需要が増すことは確実にあり、また、自然系及び工学系の電子ジャーナルの充実・拡大も図っていかねばならない。そのためには、これまで以上に電子ジャーナルの継続及び充実・拡大のため安定的な予算措置の検討が必要である。電子ジャーナルは継続購入している冊子体の外国雑誌との関わりが大きいため、理工学類の設置を踏まえて、冊子体をも含めた電子ジャーナルへの対応を検討する WG を早急に立ち上げる必要がある。

また、紀要等製本費についても理工学類の設置に伴い、寄贈・交換受入をする紀要の増加が予想されることから予算の確保について検討しなければならない。

6) 学長裁量経費（図書購入経費）については、図書館協議会申し合わせのなかで、要求額が500万円に満たない場合、複数件要求することが考慮されている。しかし、学長裁量経費の制度では、金額にかかわらず1件のみ要求することになっており、人文・社会科学系の図書購入費として500万円近くの要求が難しい状況を考慮し、総額まで複数要求を認めるなど制度の柔軟な運用が望まれる。

(3) シラバス掲載参考図書収集経費要求

[現状]

学生の授業選択と単位履修のための資料としてシラバスが作成されている。そのなかには、各教官の授業の中で使用するテキストや授業のための参考図書等が掲載され、学生の自主的学習に役立てられている。しかし、教官の授業計画の立案と図書館の収集体制が連動していないため、シラバスに掲載された参考図書が図書館に未所蔵であったり、購入途中であったりして授業が開始されても参考図書の利用が出来ない状況が生じている。このような状況を改善するため、シラバスに掲載されている参考図書が授業開始直後からいつでも利用できるように、図書館として「シラバス掲載参考図書収集経費」の要求を行っている。

また、このことは本学が新制度設計で目指している教育重視の大学への対応の1つでもあることから、シラバス掲載参考図書収集のための取り組みについては、全学教育主管及び教育関係委員会とともに各学部教授会へ理解と協力を得るためアナウンスを行った。

[評価]

学生の学習環境整備のためには、一定の予算措置が必要である。

[課題と対策]

予算措置の要求とともに、シラバス参考図書の収集と閲覧体制の確立のため、a) 授業計画立案段階で教員から図書館へ参考図書を連絡し、授業開始に間に合うよう発注する体制づくり、b) 教官毎に参考図書がまとまって閲覧できるシラバス参考図書コーナーの設置とともにすでに所蔵されている参考図書のシラバス参考図書コーナーへの配架体制づくり、c) 電子化されたシラバスの情報と連携した参考図書の検索システムの検討、d) 制度全体への教官の協力体制、e) 制度を運営していくための経常的な予算措置、が必要となる。

(4) ネットワークによる図書購入依頼の導入と現状

[現状]

平成13年6月からネットワークを利用した図書購入依頼のシステムが開始され、教官からの研究用図書及び学生用図書の購入については、図書館のホームページ上の研究ポータルステーションを通して購入依頼ができるようになった。このことによって発注内容等のデータ取り込みが行えることとなり、事務処理の簡素化と業務の迅速化が一定図られることになった。

〔評価〕

概ね良好と思われるが、さらなる周知を図ること。

〔課題と対策〕

ネットワークを利用した図書購入制度を利用している教官が、まだ全体の 2~3 割にとどまっており、さらなる事務処理の簡素化と業務の迅速化を図るためには利用者の拡大が必要である。

(5) コレクションの整備

〔現状〕

1) 大塚久雄文庫

平成 9 年 4 月、図書、雑誌、抜刷、個人資料など 8,479 点に及ぶ故大塚久雄旧蔵書を受贈した。大塚氏は 1907 年生れ、マルクスとウェーバーの研究から数多くの著作・論文を発表、「大塚史学」と呼ばれる方法論を確立し、わが国の社会科学研究の流れに大きな影響を与えた経済学者である。受贈以降、大塚久雄文庫開設協力委員会を設置、受入・整理・保存・利用に関して検討を行い、遺族からの奨学寄付金を受けて整理作業に着手した。5 年の歳月をかけて整理作業を行い、『大塚久雄文庫目録』の作成により終了した。

平成 14 年 1 月、「大塚久雄文庫」を開設するとともに書誌・所蔵データを公開し、平成 15 年 5 月、『大塚久雄文庫目録索引篇』の作成をもって全ての作業が完了した。

2) 今野源八郎旧蔵書

平成 9 年 5 月、図書・雑誌・資料など約 2 万点に及ぶ故今野源八郎旧蔵書を受贈した。今野氏は 1906 年、福島県相馬市に生れ、生涯「鉄道・海運から道路・航空主体へ」と交通形態の変革を主張し、実践しつつけた交通経済学者である。このコレクションにはニュー・ディール政策下のアメリカ経済資料、ナチスドイツ関係出版物、運輸・交通・道路関係の審議会・委員会で配布された報告書（いわゆる当局資料）を含んでいる。特に報告書関係は 1 万 4 千点にも及び、戦後日本の運輸・交通・道路政策形成過程の分析に役立つ一級資料である。報告書関係の整理には旧建設省及び高速道路調査会の協力をいただき、データベース化を行い、平成 14 年 4 月、「今野源八郎蔵書目録」としてデータベースを公開した。

平成 15 年 3 月より未整理となっている図書（4,500 冊）について整理を開始した。

3) 大型コレクション

大型コレクションとは、文部省（現文部科学省）から特に予算措置を受け、各国立大学が全国共同利用を目的として収集する高額で入手困難な、主として人文・社会科学系の図書資料及び自然科学系の叢書、全書、データ集等の図書資料である。平成 14 年度をもって本省の予算措置がなくなった。

附属図書館所蔵のコレクションとしては、人文・社会科学系の図書資料として、『19-20 世紀ロシア・ソビエト研究稀観資料集』（昭和 53 年度購入）、『ロシア帝国・ソビエト連邦法令集』（昭和 61 年度購入）、『帝政ロシア・現代ソビエト社会・経済研究』（平成 2 年度購入）、『体育教育の歴史』（平成 14 年度購入）があり、自然科学系の図書資料として、『北大西洋条約機構科学事務局最新研究機構シリーズ F；コンピュータとシステム科学に関する研究双書』（平成 7 年度購入）がある。

[評価]

大塚久雄文庫の現状は、概ね良好であると思われる。

今野源八郎旧蔵書の整理のためには、予算措置の検討が必要である。

大型コレクションは、将来的には収集計画の検討が必要である。

[課題と対策]

1) 大塚文庫は附属図書館の目玉となるコレクションである。全ての資料が専用の資料室に保管されており、保存上の問題はないが、文庫室が隔離された位置にあるため、一般利用者へ自由に公開できないので、将来の施設計画の中で改善を図る必要がある。

また、利用面では遠距離から来館する研究者が予想され、研究室貸出などにより閲覧できないといった状況を無くすためには、利用上の制限などを含めた利用方法の検討が必要である。

今後は単に文庫の保存に留まらず大塚久雄氏に係わる研究成果の収集を行い、収蔵内容を充実させることが大塚文庫の「成長」を目指すこととなり、その体制を確立する必要があると思われる。

2) 今野源八郎旧蔵書のうち報告書関係についてはデータベース化が完了し公開しているが、コレクションとしての扱いとなっているため、OPAC 検索との関連性がない。一般的に報告書関係はなかなか入手しにくい資料であり、本学関係者のみならず広範な研究者が利用できる環境を整えるため、OPAC との横断検索を可能とする対応が必要である。

また、未整理となっている図書は整理のための人件費が措置され、平成 15 年度中には終了する予定であり、雑誌については平成 16 年度に人件費の措置をお願いし、整理する計画である。

3) 本省の予算見直しによる予算措置の廃止に伴い、本学として教育研究上必要となる大型のコレクションを今後どのように整備していくか、予算措置を含めた収集計画のあり方を検討する必要がある。

(6) 図書予算の推移と今後の改善方策について

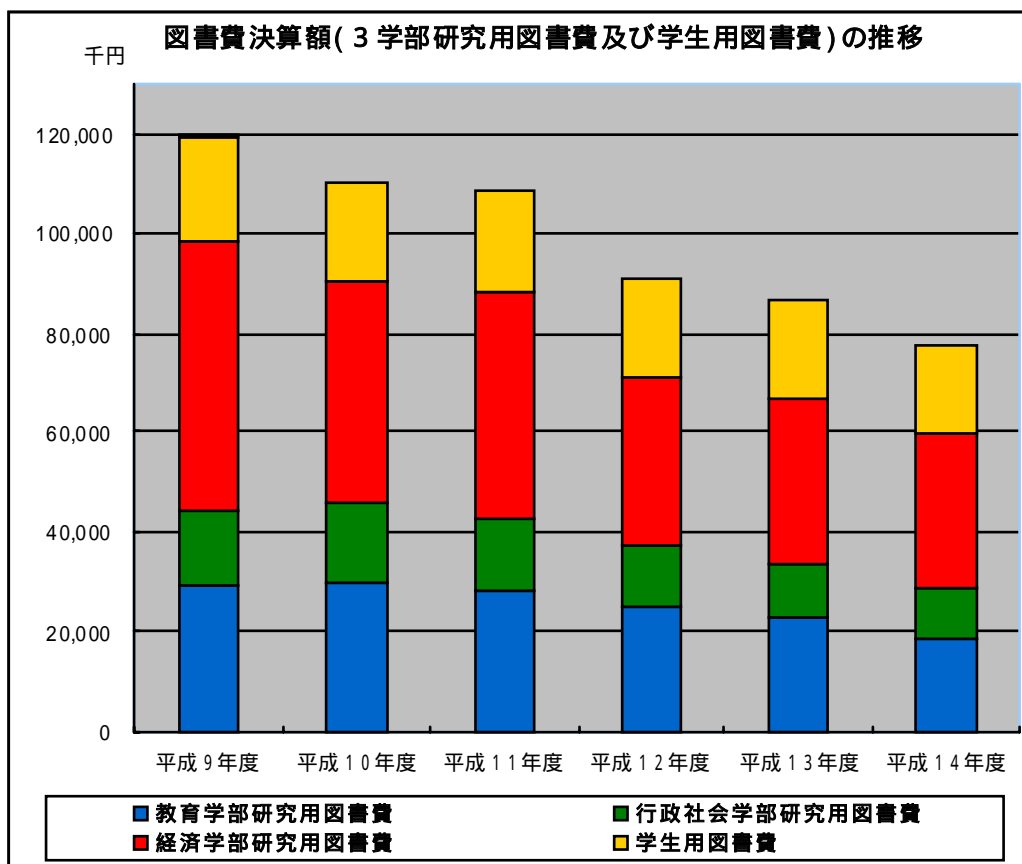
[現状]

平成 9 年度から平成 14 年度までの 6 年間の図書費決算額の推移は、以下の表のとおりである。図書費決算額の総額は、漸次減少傾向にあり、平成 9 年度に比べ平成 14 年度は、約 35,000 千円の減（率として平成 9 年度の 73%）となっている。これを学長裁量経費及びその他を除いた経常経費部分で見ると、約 40,530 千円の減（率として 68%）となっている。大きな要因としては研究用図書購入費の項目でも述べたように、教官研究費の厳しい予算状況から研究用図書費が、平成 9 年度に比べ約 38,559 千円減少しており、また、本省配分額についても、平成 14 年度新たに電子ジャーナル導入経費 600 千円の配分が行われたが、学生用図書費については前年度に比べ、2,000 千円以上の減額配分になっている。

図書費決算額の推移

(単位:千円)

年 度	平成 9 年度	平成 10 年度	平成 11 年度	平成 12 年度	平成 13 年度	平成 14 年度
教育学部研究用図書費	29,221	29,788	28,419	24,727	22,927	18,890
行政社会学部研究用図書費	15,503	15,915	14,193	12,592	10,760	10,074
経済学部研究用図書費	53,759	44,386	45,781	33,820	32,891	30,801
保健センター研究用図書費	315	692	665	384	237	436
生涯センター研究用図書費	415	680	456	450	345	453
学生用図書費	20,881	19,948	20,000	19,887	19,921	17,839
留学生用資料費	338	332	514	344	769	1,078
本館参考図書購入費	3,314	3,027	3,061	3,032	3,154	3,165
特別図書購入費	1,170	1,170	1,139	1,139	1,137	1,188
紀要等製本費	1,374	1,200	1,197	1,198	1,198	1,197
学長裁量経費			5,000	5,000	2,900	1,200
電子的情報資料購入費	570	433	464	308	384	608
電子ジャーナル導入経費						600
その他(大型コレクション等)	2,335	379	336	1,341	878	6,895
合 計	129,195	117,950	121,225	104,222	97,501	94,424



〔評価〕

図書予算の減少により継続図書等の収集を中止せざるを得ないなど、図書館としてあるべき収集体制への影響が懸念されており、大学として図書予算確保のための基本方針を検討する必要がある。

(7) 資料の整理と管理の現状

〔現状〕

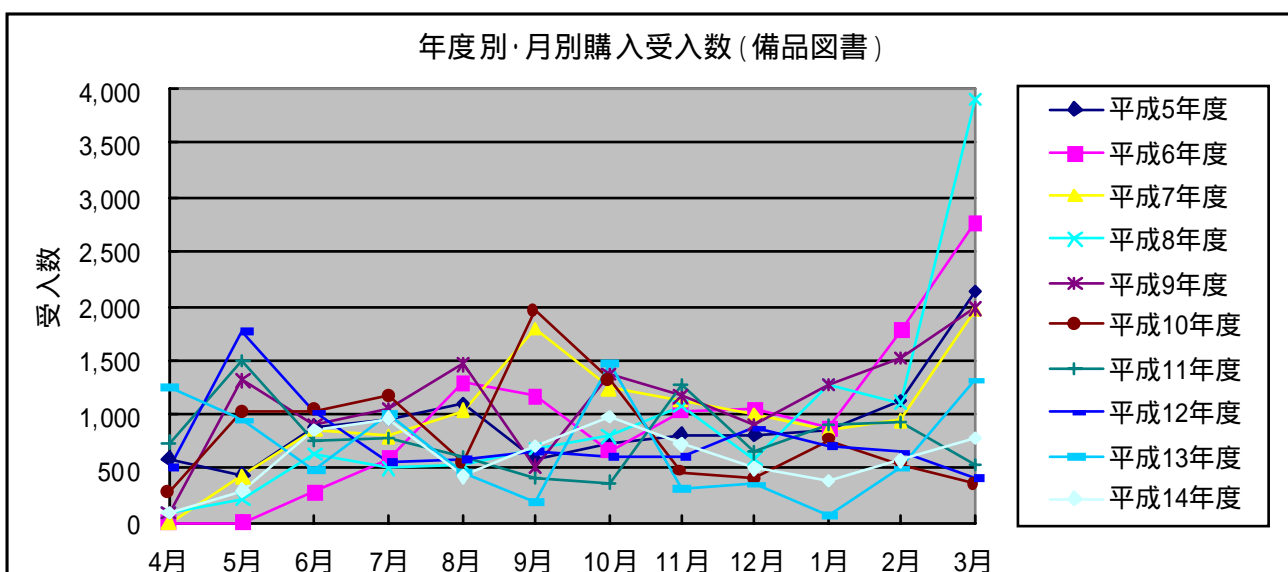
1) 整理業務の迅速化への取り組み

附属図書館の過去10年間の図書(備品)の受入状況は次のとおりである。

(年度別・月別購入受入数(備品図書))

(単位:冊)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
平成5年度	597	445	888	950	1,090	591	713	820	820	845	1,133	2,145	11,037
平成6年度	7	2	280	599	1,282	1,154	656	1,038	1,055	871	1,769	2,769	11,482
平成7年度	0	423	844	793	1,035	1,780	1,237	1,119	997	856	938	1,959	11,981
平成8年度	95	230	632	492	537	673	788	1,077	582	1,273	1,110	3,915	11,404
平成9年度	85	1,300	901	1,044	1,450	516	1,357	1,159	904	1,278	1,513	1,964	13,471
平成10年度	276	1,013	1,041	1,159	554	1,961	1,308	467	412	756	535	345	9,827
平成11年度	732	1,500	760	774	613	407	375	1,276	654	895	925	531	9,442
平成12年度	516	1,761	1,011	558	586	664	606	600	858	698	646	402	8,906
平成13年度	1,250	947	474	996	461	186	1,469	309	355	76	492	1,304	8,319
平成14年度	87	294	852	961	426	705	986	719	502	396	566	772	7,266



平成元年2月より目録業務を電算化したことにより、業務の手法は従来の手作業によるカード式目録の作成から、学術情報センター(現:国立情報学研究所)の総合目録データベースに接続し、データを利用及び作成する作業へと転換した。このことにより整理作業は迅速化され、整理冊数は電算化以前の1ヶ月平均1,000冊から1,200冊へと伸びた。ただし、この時点では検索語は自動作成されなかったため手入力で作成せざるを得ず、図書ラベルについても従前同様電動タイプライターで作成する必要があり、部分的に非効率な作業が残っていた(図書ラベルについては現在も同様の作業を行っている)。また、で見られるとおり予算管理の関係上教官の注文が年度末2

～ 3 月頃に集中する傾向があったため、その時期には多くの未整理図書を抱えることとなり、教官が必要とする期間に図書を提供するのが困難な状況となっていた。こうした状況を少しでも改善するため、教官から至急の要望があった図書については特に優先して整理していたが、明確なルールとはなっていなかった。

平成 9 年 7 月より、教官への配慮として、教官が研究上至急必要とする図書については、優先して整理する「特急便」として扱うことを制度化した。これは注文の段階で「特急便」の要望があれば通常の図書より優先して整理する制度で、納品から整理までの期間を短縮することとなった。なお、教官へ「特急便」の制度を周知する際に、注文を年度末に集中させずできるだけ毎月コンスタントに行うよう依頼した。

平成 10 年 1 月より検索語作成が自動化されたことにより作業効率があがり、1ヶ月の整理冊数が 1,400 冊とさらに伸びた。

平成 10 年度以降は、で見られるとおり受入冊数が減少し、1ヶ月あたりの整理冊数限界を超えるような注文は稀なケースとなった。これは予算減少と関係していると思われる。

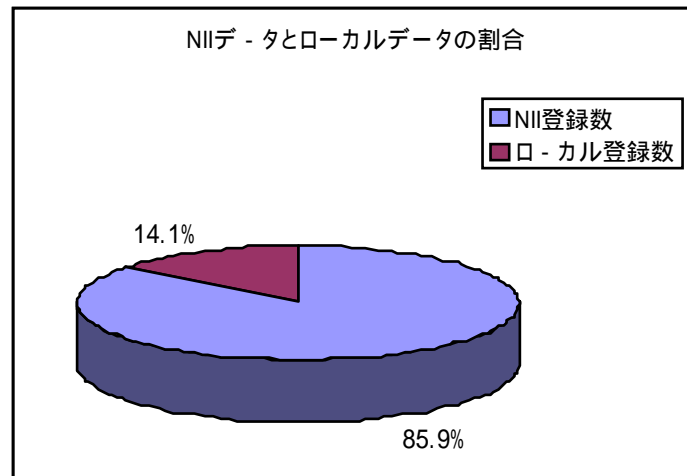
平成 13 年度より整理人員が 4 名から 3 名へと削減されたが、前述のとおり作業効率が向上したこと、受入冊数が減少してきたことから整理業務も順調に進み、「特急便」制度も定着し順調に機能している。

2) 目録情報の整備

附属図書館の所蔵目録は、昭和 63 年度以降受け入れた図書については、業務電算化（平成元年 2 月から開始）に伴いデータベース化されている。また、昭和 51 年度から昭和 62 年度までに受け入れた図書は、遡及入力事業（第 1 次計画）により、さらに、昭和 50 年度以前に受け入れた図書は、遡及入力事業（第 2 次計画）によりデータベース化されている。（遡及入力事業の詳細は、次項の遡及入力を参照）図書データベースの現状は次のとおりで、製本雑誌を除いた全蔵書の約 99.3%が機械可読目録（OPAC）で検索できる。なお製本雑誌については、全点雑誌として検索可能であり、所蔵内容（所蔵の範囲）が既に OPAC に反映している。

(単位:冊)

区 分	蔵書数	機械入力数			入力率(%)
		NIJ登録数	口 - カル登録数	合計	
旧分館蔵書(6版) (昭和50年度以前)	244,330	205,861	35,615	241,476	98.8
統一図書館～電算化前(7版) (昭和51～62年度)	175,570	145,600	28,929	174,529	99.4
電算化以降(8版) (昭和63年度以降)	188,663	167,659	20,997	188,656	99.9
合 計	608,563	519,120	85,541	604,661	99.3



遡及入力事業は、全学の理解と協力の下に、平成 4 年 1 月から実施され平成 14 年 12 月に終了した。この事業によって国立情報学研究所の総合目録データベースにおける新規書誌作成及び所蔵登録件数に大きく貢献し、学内はもとより国内外の研究者などの書誌・所蔵調査に役立っている。さらに、総合目録データベースに新規書誌作成をすることにより、他大学が目録作成時に本館が作成した書誌を利用して、目録作成が効率的に行なわれている。

遡及入力はまだ完全ではなく、昭和 50 年度以前に受け入れた図書のうち貴重図書(全部)と和古書(一部)が未入力である。これらの未入力分について平成 15 年度から通常業務と並行して遡及入力している。

[評価]

整理業務の迅速化の現状は良好と思われる。

目録情報の整備には、順調な整備を可能とする措置が必要である。

[課題と対策]

- 1) 前述のとおり作業効率の向上と「特急便」の実施により整理作業は迅速化されてきているが、作業を見直すことにより今後さらに整理作業の迅速化を進めたい。具体的な改善策として考えられるのは、作業のより一層の合理化と発注から整理までの期間の短縮である。作業の合理化としてあげられるのは、現在手作業として残っている図書ラベル作成を電算化することである。図書ラベル作成の電算化を平成 15 年度中に検討し、平成 16 年度には実施し、さらに作業期間を短縮する予定である。
- 2) 発注から整理までの期間の短縮については、情報管理係単独の課題ではなく、受入業務を担当する総務係とも関連する課題である。平成 16 年度からの法人化に伴い、総務係の受入業務の内容が変更される事態が予想されるが、2 係間で作業の合理化を検討し、発注から整理までの期間の短縮を図る必要がある。
- 3) 図書に関してはほぼ全点遡及入力したが、昭和 62 年度以前(6・7 版)の製本雑誌の所蔵(約 10 万冊分)については遡及入力されなかった。しかし、附属図書館所蔵雑誌検索の利便性を図るとともに所蔵データ管理のため、平成 17 年度からこの製本雑誌所蔵データの遡及入力に着手する。

- 4) 全蔵書（製本雑誌を除く）の約 99.3%がデータベース化され検索可能となったが、うち 85,541 冊（14.1%）をローカルデータ（本学作成で、国立情報学研究所の総合目録データベースに登録していないデータ）が占める。このローカルデータを国立情報学研究所の総合目録データベースに登録することで、さらにデータベースの品質を向上させ得る。 の製本雑誌遡及入力が、終了次第、通常業務と並行して、ローカルデータの見直しを行ない、登録可能な図書を登録する。

遡及入力（完了までの経緯の報告）

遡及入力を開始しようとした理由

附属図書館は、平成元年2月から目録業務の電算処理を開始し、新着図書の日録カード作成をやめ機械による検索の機械可読目録（OPAC）に移行した。移行に伴い利用者は、従来の目録カードとOPACの併用検索が必要となっていた。カード目録は、受け入れられた時代によって分けられ、さらに、和洋別の区別があり、それぞれ、分類、書名、著者名に分かれていたため、検索上の不便さが問題となっていた。その検索上の不便を解消し、カード目録に代わる検索を可能とするために、電算機への遡及入力が必要となった。

遡及計画(案) [第1次計画]

平成3年6月、当時の整理係より遡及入力計画（案）が出された。この計画では昭和51年度から昭和62年度までの受入分（日本十進分類法7版適用資料175,570冊分、製本雑誌は除く）が遡及対象とされ、平成10年7月までかかる予定であった。[昭和50年度以前の旧分館時代受入分（日本十進分類法6版適用資料）の入力計画は含まれず。]

遡及入力 [第1次計画] 開始

平成3年度の図書館協議会での決定、各学部教授会、評議会の了承を得て、学内経費（図書データ遡及入力経費）が認められた。平成4年1月、作業要員4名（6時間パート）を雇用し、遡及入力作業を開始した。

遡及入力のための準備作業

a) 要員の研修

この作業が端末操作に加えて、国立情報学研究所の日録システムを利用し、同時に総合目録に登録するものであり、端末の操作法と目録システムの理解を重点的に置き、2週間の養成・研修を行なった。

b) 作業用データシート

作業を進めるにあたって、入力資料の確認と処理段階のチェックのためにカード目録をコピーした作業用データシートを作成した。

c) ID添付作業

遡及入力作業を進めるにあたって、前処理ともいうべき作業として、IDを添付する作業があった。これは、対象資料に機械認識するための番号（ID）を貼る作業で、平成5年9月より図書館職員全員が協力体制のもと、週2回のペースで延べ73回行ない、82千件の貼付を行なった。この作業は、入力担当の要員には機械入力作業に専従してもらい、計画より早く入力完成を図ったものである。

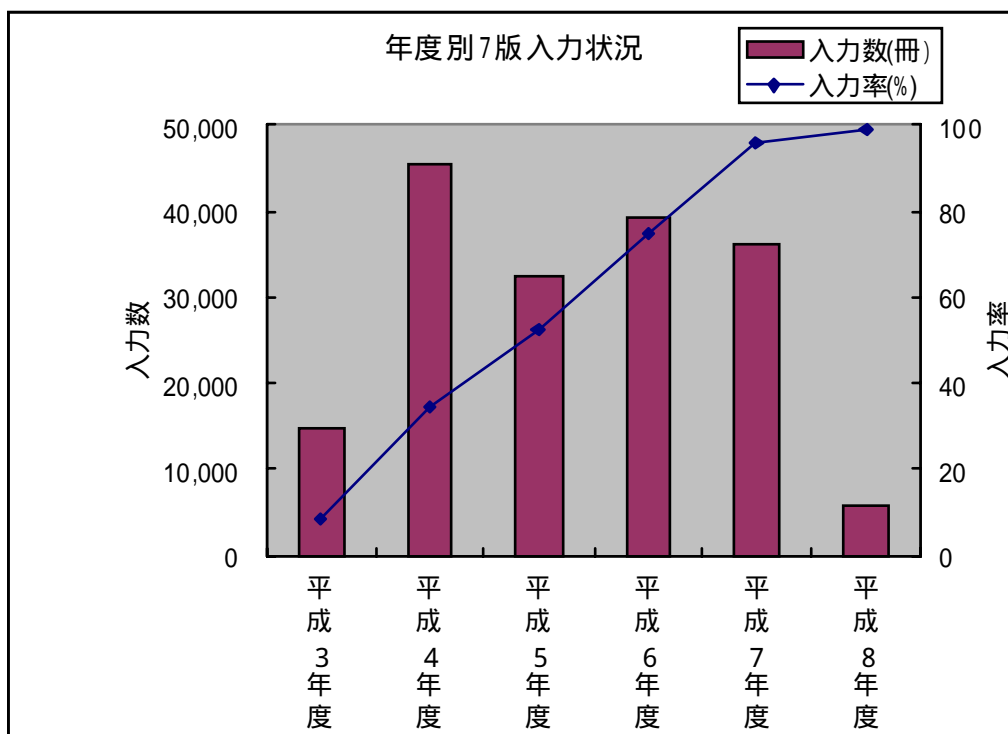
遡及入力順序と入力状況

7版資料は、開架図書から研究室貸出分、次に閉架図書和書、閉架図書洋書である。7版開架図書は平成4年12月に終了した。7版研究室貸出分は平成5年11月に終了し、7版閉架図書和書の入力を開始した。その後、洋書にと進めた。遡及 [第1次計画] は平成8年5月に完了した。

年度別7版入力状況(総数 175,570 冊)

平成8年5月末現在

区 分	入力数(冊)	入力累計(冊)	入力率(%)
平成3年度	14,703	14,703	8.3
平成4年度	45,365	60,068	34.2
平成5年度	32,385	92,453	52.6
平成6年度	39,361	131,814	75.0
平成7年度	36,365	168,179	95.7
平成8年度	5,702	173,881	99.0



遡及計画 [第1次計画] の修正

作業要員の努力と、作業要員に附属図書館の元職員 1 名が加わったこと、さらに図書館職員全員の協力で、当初の計画を越える入力率で、計画よりも約 2 年早く終了した。

6 版資料の遡及入力 [第2次計画]

平成 7 年度に科学研究費補助金「研究成果公開促進費」の申請を行い、平成 8 年度から平成 11 年度まで認められた。また、平成 12 年度から平成 14 年度までは学内経費（図書データ遡及入力経費）が認められ、これにより遡及入力計画は、6 版資料（244, 330 冊分）（製本雑誌は除く）を遡及することになった。

6 版資料遡及入力順序と入力状況

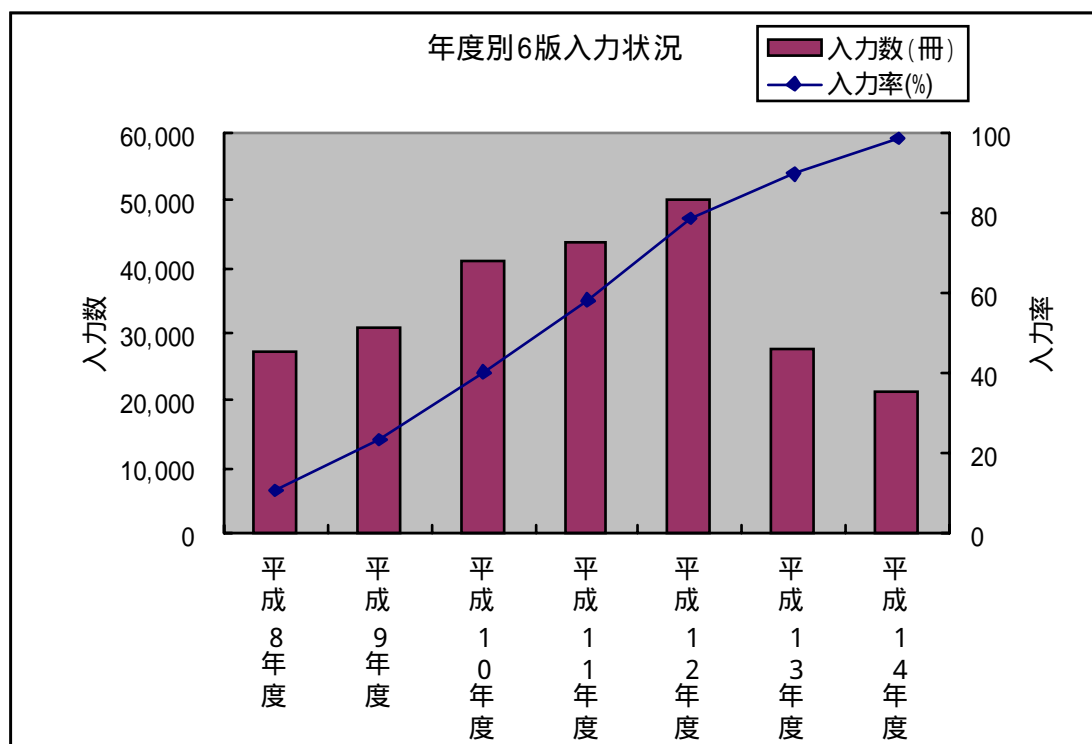
6 版資料遡及入力は、平成 8 年 6 月から開始し、旧経済和書から旧教育和書、続いて洋書に移り、旧経済洋書、旧教育洋書、ロシア語の順で入力して行くことが図書館協議会で了承された。旧経済和書を始める前に 6 版研究室貸出分を行なうことになり、この作業は、平成 9 年 7 月に終了した。それから旧経済和書を行い、これは平成 10 年 3 月に終了した。旧教育和書は平成 12 年 7 月に終了、同時に旧経済洋書

に移った。旧経済洋書（ロシア語を除く）を平成 13 年 1 月に終了、旧教育洋書を平成 13 年 9 月に終了した。大型本、ロシア語を平成 14 年 4 月に終了。研究室貸出のため未処理となっていた分を含め、和古書、複本別置分を平成 14 年 12 月まで作業し、6 版資料の遡及入力〔第 2 次計画〕作業は終了した。

年度別 6 版入力状況(総数 244,330 冊)

区 分	入力数(冊)	入力累計(冊)	入力率(%)
平成 8 年度	27,228	27,228	11.1
平成 9 年度	30,790	58,018	23.7
平成 10 年度	40,885	98,903	40.4
平成 11 年度	43,652	142,555	58.3
平成 12 年度	50,024	192,579	78.8
平成 13 年度	27,591	220,170	90.1
平成 14 年度	21,262	241,432	98.8

平成14年12月末現在



(8) 図書館資料の管理状況

[現状]

- 1) 開架図書は、昭和 56 年移転直後約 6 万 5 千冊程度であったが年々増加し現在は約 10 万冊となっている。その間、スチール書架の増設、木製書棚の設置、開架図書の見

直しなどの対応を図ってきた。書架の増設は、スペース的に限界に達している。開架図書は、定期的に配列点検等を行っている。平成 14 年度には、開架図書返却台としてブックトラック（6 台）を購入し、閲覧室で利用した開架図書を職員が配架することにより、配架の乱れ防止を図っている。

- 2) 閉架図書は現在約 66 万冊に達している。平成 6 年度の増築で約 85 万 5 千冊の収納が可能となっている。蔵書数は現在約 76 万冊である。しかし、新着図書を収納する個所や製本資料の個所に部分的に狭隘個所が生じている。
- 3) 本館の視聴覚資料には、マイクロ資料、ビデオ資料、録音資料、などがある。電子的資料には、CD、CD-ROM、DVD などがある。所蔵数は次のとおりである。

(単位:タイトル)

マイクロフィルム	260	CD・LD・DVD	96
マイクロフィッシュ	308	CD-ROM	251
カセットテープ	350	VD	3
ビデオテープ	664	FD	21

この他に、レコード、映画フィルム、スライドも所蔵している。

電子的資料には視聴覚資料に含まれる資料もある。新しい資料形態の出現とともに、利用するための機器の購入、設置、管理、保管などの問題が発生している。高価な CD-ROM もあれば、附属資料的な CD-ROM もあるため、資料の形態によって所在を分けて管理している。

- 4) 貴重図書については、現在、貴重図書室があり、約 1,600 冊の資料が保管されている。本学の稀覯書を紹介した「福島大学 50 周年記念福島大学附属図書館所蔵稀覯書展」を平成 11 年度に開催した。同時にこれをまとめた冊子として、『福島大学 50 周年記念福島大学附属図書館所蔵稀覯書展展示目録』、『福島大学 50 周年記念福島大学附属図書館所蔵稀覯書展展示資料解説書』を平成 11 年 10 月に発行している。貴重図書であるかの判断は、国立情報学研究所の書誌登録の基準でも明らかではない。その意味で各図書館によってその範囲と取扱いはまちまちである。

[評価]

改善の努力を行っているが、さらなる対応が必要である。

[課題と対策]

- 1) 開架図書は、現在、シラバス対応図書配置計画や自然系の開架図書の増加に備え、教員の協力を得て、おおがかりな「開架図書の見直し」を行っている。閉架図書は現在、洋製本資料の大移動を行っている。和製本についても移動が必要となっている。また、開架見直し、退官教員の返却本によって狭隘個所が予想されるところも多い。現在、4 層と 2 層集密書架に空きスペースがあるがいずれもカウンターからは遠い場所である。当面の対策としては、叢書類、セット物の別置対策を検討している。
- 2) 視聴覚資料は、資料の増加とともに「利用と保管の方法」について検討が必要となっている。
- 3) 貴重図書については、本館としても一定の指定基準の整備が必要である。

3、施設・設備の整備状況に関すること

(1) 施設等の整備

[現状]

- 1) 昭和 56 年 2 月に福島大学の金谷川キャンパスへの移転統合に伴い、総面積 5,495 m² 地下 1 階・地上 2 階建の中央図書館として建設された。昭和 60 年 3 月には書庫 4 層の増設が行われた。その後、行政社会学部の創設や蔵書数の増加による書庫の狭隘化、教員や大学院生等の研究者に対する研究機能の拡充に対応するため、平成 6 年 8 月に書庫及び研究者用閲覧スペースの増築により、総面積 7,218 m²となった。
- 2) 昭和 60 年度にブックディテクションシステムを導入した。平成 5 年度には電動集密書架の設置と入退館管理システムの導入が行われ、平成 10 年度には図書自動貸出返却装置の設置、平成 11 年度には CD-ROM サーバシステムの導入、平成 14 年度には大学基準協会から指摘のあった閲覧席数の増加が行われた。なお、ブックディテクションシステムは導入後 18 年が経過し、誤作動等が頻繁に発生するため、機器の更新を平成 15 年度に実施した。また、入退館管理システムについては故障が頻発していることからシステムの更新を要求している。
- 3) 平成 6 年度の書庫増築によって、85 万 5 千冊の蔵書が収蔵できるようになった。現在は、増築後 9 年を経過し、75 万 8 千冊（平成 14 年度末）に達している。書庫の狭隘化を検討するときには考慮すべき点として、図書館資料には、雑誌やビデオなどの視聴覚資料もあり、その分の使用冊数（3 万 4 千冊分の相当のスペースを占有）を加えることが必要である。この結果、約 79 万 2 千冊分の書庫スペースが使用済ということになる。年間受入数の減少傾向を考慮して、仮に平均年間増加数を平成 14 年度実績から約 1 万 1 千冊とした場合では、あと 6 年後に書庫の空きスペースはなくなる計算になる。年間受入冊数の増減によって限界に達する時期は多少変動するが、現段階予想では、平成 21 年度中には書庫は限界に達すると想定される。
- 4) 最近実施した営繕工事等は、平成 10 年度「2 階開架閲覧室雨漏れ補修及び天井張替工事」、平成 14 年度は女子学生の要望を取り入れ、「1 階女子トイレ他改修」として女子トイレの前にパウダールームを設置し、また省エネ対策のための「書庫内照明用センサー取設」、平成 15 年度には「図書館正面玄関天井照明改修」を行った。
- 5) 「身体障害者にやさしい図書館」を目指すことが求められている時代である。本学では、視覚障害者、聴覚障害者、車椅子利用者が学んでいる。さらに、一般市民の利用登録も増えていることからバリアフリーの考え方を取り入れた施設・設備の改善を図ることが必要となっている。平成 13 年度には、学生ボランティアにより視覚障害者のための「点字シール」を館内各所に貼付した。また、利用者アンケートには、障害者のための「エレベータ設置」の声があった。
- 6) 利用者アンケート集計結果から見られる館内施設の利用状況としては、学部学生では、圧倒的に開架閲覧室の利用が多く、次に利用されているのが共同学習室である。大学院生では、回答者全員が研究用閲覧室の利用をあげており、学部学生とは違う利用形態が浮かびあがった。

[評価]

施設等の整備については、大幅な改善・充実が必要である。

[課題と対策]

- 1) 書庫の狭隘化はすでに始まっている。新着資料を配置するための狭隘化対策は今後の課題である。狭隘化対策として資料の別置や書庫移動による対応もあるが、膨大な業務量となる上に、資料所在の複雑化を招くため資料探索の見地から利用者にとっては非常に不便となる。これらの抜本的解決には、書庫増築が必要である。平成 13 年度において、附属図書館では、施設課の求めに応じ、「附属図書館施設改善計画(案)」を策定し、新しい図書館像を描いた。その中では、開架スペースと書庫の増築が検討されている。理工学類の設置により附属図書館は中央図書館としてその果たす役割がさらに増すことになる。増築の予算化は、現在の国の状況からもとて厳しいと判断される。新しいアイデアを加えた新たな要求として、早めの対応が求められる。将来を見通した施設・設備の整備が必要である。
- 2) 学習・教育支援のためには日常的な施設整備の見直しが必要であり、利用者にとって利用しやすい環境を整えていく必要がある。利用者アンケートでは、閲覧室・席の照明が暗い、屋根のある廊下をM棟から設置してほしい、トイレを増やしてほしい等の要望も出されており、可能なものを見極めながら実現に向けた検討が必要である。
- 3) 入退館管理システムは、平成 5 年度に導入し、利用者の入退館の管理を行うと同時に図書館内施設の諸室管理のみならず就職相談室や総合情報処理センターの入室等管理まで行っている。しかし、老朽化によると思われる故障が頻繁に発生しており、安全管理上、早急の更新が必要である。

(2) 学習環境

[現状]

- 1) 閲覧席数の推移は次のとおりである。

(単位:席)

年 度	昭和 56 年度	平成 6 年度	平成 13 年度	平成 14 年度
閲覧席数	368	394	400	410

大学基準協会から「学生定員当りの閲覧座席数が基準に達していない」との指摘を受け、不足している座席数増を図った。研究用は 40 席、書庫にはキャレルデスク 7 台が備え付けられている。

- 2) 本館設置の利用者用パソコンは、利用目的によって、蔵書検索性、学習用、情報検索性に分けられている。パソコンの設置場所と台数は次のとおりである。

(単位:台)

区 分	蔵書検索性	学習用	情報検索性
目録コーナー	5		
閲覧室	2	4	6
書 庫	2		
研究用雑誌室		1	
研究用閲覧室		2	
マルチメディア室		31	

いずれのパソコンもインターネットに接続可能となっている。蔵書検索性パソコン

は使用目的を蔵書検索と限定する設定がされている。情報検索用パソコンは、DVD 資料やネットワーク接続のデータベースである CD-ROM 等を検索することを目的としたものである。なお、学習用パソコン、情報検索用パソコンでも蔵書検索は可能である。

3) 視聴覚機器の設置場所と台数は次のとおりである。

(単位:台)

区 分	テレビ	ビデオ	DVD	衛星放送	CD	カセット	LL装置	マイクロリター・プリンター
視 聴 覚 室	1	3	1	1	1	2	4	
A V コ ー ナ ー		3			2	2		
マイクロリター室								1

このほかに講習会用に使用するプロジェクターやスクリーンもある。所蔵資料には、レコードもあるが現状では再生装置が配置されていない。

- 4) 利用者アンケート集計結果から照明については、8割を越す利用者が「満足」あるいは「ふつう」と回答しているが 15.3%が「不満」であった。「暗い」という意見と閲覧席に照明器具設置を望む意見が目立った。
- 5) 空調・冷房については、8割を越す利用者が「満足」あるいは「ふつう」と回答しているが 15.6%が「不満」であった。「暑すぎる」「寒すぎる」「適温にする、気温に応じた冷暖房を」の声が多かった。

空調・冷房については、室温管理を徹底することが必要だが、個人差もあることから、2階のみ冷房中にするなどの対策で利用者に「場所の選択」を任せるなどの対策を行っている。

[評価]

学習環境については、改善が望ましい。

[課題と対策]

- 1) 照明については、今後、全体の照明度を上げる方法を検討することが必要である。また、部分的解決として個別席蛍光灯設置の検討も必要である。
- 2) 「附属図書館施設改善計画(案)」では、「利用者用エレベータ」の設置計画を出しているが実現には至っていない。また、「障害者に役立つ図書館利用案内(案内表示を含む)」や障害者自身の意見が反映する方策も必要である。
- 3) 視聴覚資料は媒体がアナログからデジタル化へと変化している。レコードはCDが主流となり、ビデオはDVDなどに代わりつつある。新しい媒体への対応は必要であるが、これまで収集してきた視聴覚媒体も利用できる環境を整えておく必要がある。
- 4) 閲覧席数については、最低限の基準を満たしたが、本学の学生数からするとなお一層席数を増やすための努力が必要である。

(3) 施設・設備の問題点と将来計画(「附属図書館施設改善計画(案)」など)

平成 13 年度に環境施設整備委員会から現有施設の見直しを行い図書館の長期的施設利用計画案を策定するよう要請があり、図書館協議会として「附属図書館施設改善計画(案)」の作成が行われた。

この「施設改善計画(案)」では、現有施設の課題として、a)学習図書館機能(学生が

休憩・談話できる場所がない。講習会・研修会等多人数で利用する場所がない。2階南側閲覧室と共同学習室の動線が図書の管理上分断されている。学生用雑誌室が狭い。LL・AVの個人ブースが同じ1階AVコーナーにあり利用しにくい。b)電子図書館的機能(情報検索用パソコン及び場所の不足。学習用パソコンの不足) c)研究図書館機能(教員用閲覧席の不足。研究用雑誌室が2階の奥にあり利用しにくい。また、製本された研究用雑誌が地下に分かれて配置されており利用に不便) d)生涯学習支援機能(初めて来館した一般市民は入館ゲートで遮られ、カウンターと離れているため連絡がとり難い) e)身体障害者・高齢者対応(施設・設備が不十分)の5点を指摘している。また、これらの課題を改善するため現有建物の西側に増築を行うことにより、閲覧座席数を増加(400席から484席)開架閲覧室書架の増設(積層2階、配架図書数約10万冊から約13万冊)閉架書庫の増設(収納可能数を5.4万冊増)地下に研究用雑誌室を2階から移設し、福島大学資料室と新聞用集密書架を設置、1階では、入退館ゲートとカウンターを近づける(北側と南側を機能的に結びつける)エレベータと対面朗読室を設置(身障者及び高齢者への対応)学生用雑誌室及び情報検索コーナーを設置、閉架書庫を2層増設、2階では、研修室の設置(研修会やガイダンス等多目的に利用)談話室の設置(軽飲食や携帯電話の使用を可能とした学生の憩いの場)AV室、LLブースの設置(個人学習のための個人ブースを設ける)教官閲覧室の設置、学習用パソコンの増設(4台から20台)等の整備をすることとしている。以上が「附属図書館施設改善計画(案)」であり、近い将来での実現が望まれる。

4、図書館システムの整備拡充に関すること

(1) 図書館システム

[現状]

- 1) 附属図書館では、平成元年2月に最初の図書館システムを導入し、その後更新を重ね、平成14年1月に図書館システム「NeoCILIUS」を導入した。このシステムは、国立情報学研究所の全国図書館システムであるNACSIS-CAT/ILLとの接続を新CATプロトコルで行ない、日本語、欧米諸語の他、ハングル文字、中国簡体字、アラビア文字等世界の諸言語の処理が可能な多言語対応システムとなっている。
- 2) このシステムで行っている業務・サービスは、資料の選定・受入・目録データベース作成・貸出等閲覧業務・ILL(相互貸借)業務・OPAC(蔵書検索サービス)等従来の図書館業務全般と目録情報の検索サービスである。
- 3) OPACは図書館システムにおいて重要なサービスの一つである。本館では平成10年1月からインターネット版を公開し、学外からも自由にアクセスできる環境にある。アンケート調査によるOPAC利用についての満足度は、90%以上の利用者が「満足」または「ふつう」と回答しており、OPACの機能は一定の水準にあると考えられる。しかし、「検索の仕方がわかりにくい」という意見もあり、ホームページにおいては「検索の使い方」オンラインマニュアルの掲載、端末側には「使い方パンフレット」を常備することとした。また、「配架場所の表示がわかりにくい」という意見には、検索結果から「配架場所」を示す配架図が表示されるように整備し改善を図った。また、平成15年度から、貸出資料についての予約がオンラインにより利用者が直接行えるようになった。

[評価]

附属図書館の図書館システムは、概ね良好な状況にあると判断できる。

[課題と対策]

- 1) OPAC で表示できる情報は、図書の書誌事項と請求番号等の所蔵情報のみであり、アンケートにおける「本の目次や内容も知りたい」という要望への対応については、今後の課題である。内容情報を持つサイトへのリンクなどが考えられるが、種類が膨大であるため実現はかなり困難と思われる。国立情報学研究所の検索サービス「Webcat Plus」においては一部目次等の情報へのリンクを実現しており、同様の方式が可能かどうか経費も含め調査する必要がある。雑誌については、外部の電子ジャーナルとのリンクや本学紀要の電子化などにより、書誌情報から内容情報へのリンクが実現できる可能性がある。
- 2) また、「ヒットしない」「キーワードを充実させてほしい」等の要望がでているが、メーカーへ検索ソフトの改善要求を出すなどして、いっそうの機能強化を実現することが必要である。

(2) 図書館ホームページポータル機能の充実

[現状]

- 1) 附属図書館のホームページは、平成 9 年 7 月に開設し、掲載内容は「お知らせ」「利用案内」「図書館報『書燈』」等の広報が中心であった。以降「OPAC」「コレクション案内」「本学関係雑誌目次データベース」など所蔵資料の検索、案内の充実を図ってきた。アンケート調査では、ホームページ全体の利用についての設問がなかったため、個々のページの利用状況から推測すると、全体的なホームページの利用は約 25%にとどまり、ホームページの存在について知らない利用者が 20%程度存在していると思われる。まだまだ利用率は低いと考えられるが、利用した結果の満足度は、殆どのページで 90%を超えている。
- 2) 今日のホームページは、単なる外部への広報機能や目録情報のみでなく、利用者への積極的な情報ナビゲータ機能を持つ必要がある。特に図書館ホームページにおいては、冊子体の図書資料だけではなく、電子化された様々なデータベースを活用するための入口としての機能が望まれる。そこでは、オンラインによるさまざまな利用申込・問合せ機能の充実も必要となる。
- 3) 上記の今日的状況により平成 15 年度からは、情報ナビゲータとしての「情報探索ポータル」、オンラインによる利用申込・問合せ機能を持つ総合案内所として「学生ポータルステーション」「研究ポータルステーション」をホームページ上に開設した。
- 4) 「情報探索ポータル」は、様々な学術情報を調べるためのサイト及びデータベースへの入口を図書・雑誌・新聞別に体系化し、それぞれにリンクを張ったもので、情報探索の入口として活用されている。このポータルは、一般的なサイトリンク集とは違い、学内限定のデータベース、ネットワーク対応 CD-ROM の検索プログラムの起動、スタンドアロン CD-ROM の紹介なども掲載している。

(情報探索ポータル)

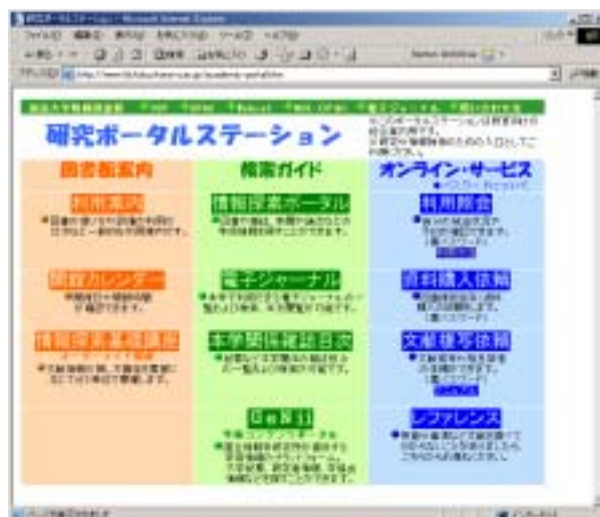


- 5) 「学生ポータルステーション」は、利用者個人々人へのパーソナルサービスに重点を置いたページとなっている。情報探索のための「情報探索ポータル」や各種講習会への案内のほか、利用照会（自分の借りている本のタイトルや返却期限日の問合せ）やレファレンス依頼が可能となっている。
- 6) 「研究ポータルステーション」は上記と同様パーソナルサービス中心の教官向けページである。学生と同様のメニューの他、「電子ジャーナル」利用のためのページ、図書館総務係への「資料購入依頼」、学術情報係への「文献複写依頼」が行えるページなど総合的なサービスステーションとなっている。

(学生ポータルステーション)



(研究ポータルステーション)



- 7) パーソナルサービスにおいては、個人情報サービスであるため、個人々のパスワード設定が必須となる。平成 15 年度より、学生へのパスワード発行を開始したが、新入生については、新入生ガイダンス時に全員を対象に行ない、ほぼ発行を終えた。しかし、2 年生以上の在学生については希望者のみへの発行となっており、いまだパーセ

ンテージは低い。

[評価]

附属図書館のホームページポータル機能は、極めて良好な水準にあると評価できる。

[課題と対策]

- 1) 在学生へのパスワード発行についての案内は掲示板や『レファレンス・サービス・ニュース』等により行っているが、図書の貸出時などにおいてもカウンターで個別に案内するなど、さらなるPRの必要がある。
- 2) また、パスワードは、学内の他の機関でも発行しており（総合情報処理センター、教務課でも発行。一個人につき3種類のパスワードが存在している。）、今後サービスの増加・多様化が予測されることから、パスワードの発行体制、管理システムの一元化についての検討が必要と思われる。
- 3) 学生を対象としたオンラインサービスの充実を図るため、「文献複写依頼」「図書購入希望依頼」について実施に向けての検討が必要である。

(3) データベースの導入

[現状]

- 1) 本館では、電子情報の進展にともなって、様々なデータベースを導入している。これまでの設置状況を見ると、下記のとおりである。

平成元年度	NACSIS-IR サービス開始
平成2年度	スタンドアロン型CD-ROM 検索サービス開始 CD-HIASK、CD-ASAX、日経新聞DB、大宅壮一文庫雑誌記事索引等
平成11年度	ネットワーク対応のCD-ROMサーバの設置 雑誌記事索引、法律判例文献情報、日経財務、Sports Discus、福島民報等8種類
平成13年度	DVD-ROM購入 判例タイムズ、ジュリスト、金融法務事情
平成14年度	電子ジャーナル(コンソーシアム契約) 導入 Science Direct, Blackwell Synergy, Springer LINK, Wiley InterScience
平成15年度	朝日新聞記事データベース(DNA) 導入
"	スタンドアロン型CD-ROMサーバ運用開始

- 2) CD-ROM は、現在 250 タイトルを超える所蔵があるが、この他に雑誌等の付録のCD-ROM もかなりの数がある。ネットワーク契約をしている（ネットワーク使用が認められている）CD-ROM は、現在8種類で、それらはCD-ROM サーバに設置されており、学内の端末から利用が可能である。サーバは、28枚のCD-ROM を搭載することが可能であるが、「福島民報」は、毎月1枚増えるため、ドライブ数に余裕がなくなっている。

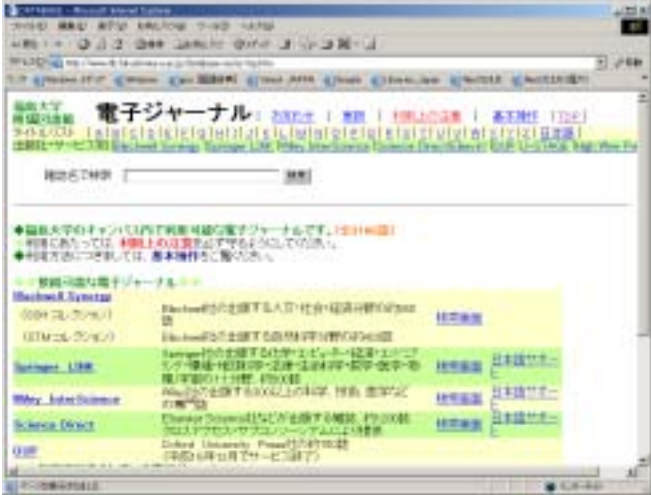
<p>CD-ROM サーバ搭載 CD-ROM</p> <ul style="list-style-type: none"> ・雑誌記事索引 ・法律判例文献情報 ・日経財務(単独・連結) ・Sports Discus ・CD-学会年報・研究報告論文総覧 ・CD-論文集内容細目総覧 ・CD-キーワードで引く参考図書2.4万冊 ・福島民報縮刷版
--

サーバ搭載の CD-ROM の利用状況は、アンケート調査によると、全体では 26.4% の利用となっているが、大学院学生では 48.1%、教官では 37.5% が利用している。サーバ搭載 CD-ROM の全体の利用回数は以下である。

《CD-ROM サーバ利用回数》

年 度	平成 12 年度	平成 13 年度	平成 14 年度
利用回数	5,946 回	5,140 回	6,464 回

- 3) DVD-ROM は、平成 13 年度に初めて法律雑誌 3 誌を購入した。そのための外付け DVD ドライブ 2 台を購入し、情報検索コーナーパソコンに接続し利用している。
- 4) 電子ジャーナルは、平成 14 年度に初めて有料コレクションの導入を図った。約 120 万円の契約金額のうち、本省から 60 万円の措置を受け、不足分は図書館経費から賄った。平成 15 年度には、1 コレクションを追加し、契約総額も約 250 万円と増加している（平成 15 年度の本省配分額 100 万円、不足 150 万円は学内措置された。）。現在 3 千誌を超える電子ジャーナルの利用が可能となっている。附属図書館ホームページには電子ジャーナルへの接続ページがあり、利用可能なジャーナルの一覧表示の他、タイトル検索機能も備えており利便性を考慮したものとなっている



- 平成 15 年度契約電子ジャーナル
- 1 . Elsevier Science Direct
 - 2 . Blackwell Synergy
 - 3 . Springer LINK
 - 4 . Wiley InterScience

- 5) 新聞記事データベースとしては、朝日新聞、日経新聞の CD-ROM 版の利用が中心だったが、平成 15 年度には、インターネット経由で利用できる「朝日新聞記事データベース (DNA)」の契約をした。朝日新聞の CD-ROM である CD-HIASK は 1 年分の記事が 1 枚になっており、発行は前年分の収録が翌年 3 月頃になり当該年の記事検索は不可能であった。今回導入したデータベースは、インターネット版で、当日の朝刊までも検

索できるため非常に便利になった（アンケート調査には、「最新の記事が検索できない」という不満があった。）統計採取の機能がないため利用回数の把握ができない状況であるが、今年度中には統計機能が追加される予定である。

[評価]

附属図書館のデータベース整備は着実に進んできているが、予算の制約などの面から課題も多い。今後のより一層の充実が望まれる。

[課題と対策]

- 1) 論文索引や電子ジャーナル等の各種データベースは、今後ますます増加すると予測されるが、特に平成 16 年度中開設予定の理工学類に対応するため、自然科学系データベース導入に関する調査検討が必要である。たとえば、論文の引用関係が調べられるデータベース（SCI）や論文索引データベース（INSPEC など）など。いずれも大変高価なため予算措置が重要な問題となり、整備促進のための学内合意が必要である。
- 2) 電子ジャーナル利用については、アンケート調査によると、教官の約 40%、大学院学生の約 20%にとどまっている（学部学生については、契約電子ジャーナルが外国語文献のため利用率は 9.1%と低い）。現時点では、冊子体雑誌利用の割合が高く（全体で 50%近い）、必要性が高いが、速報性、検索機能等を考えれば、電子ジャーナルへのシフトが加速すると予測される。今後は、理工学類の設置に伴う自然科学系分野の充実が必要である。
- 3) また、現在契約している電子ジャーナル 4 種は、いずれも出版社単位のコレクションであるため、さまざまな出版社のものを一度に利用するには不便であるとの声も聞こえる。アグリゲーター（出版取次店）系電子ジャーナルの導入の検討も必要である。
- 4) 電子ジャーナルは、冊子体雑誌の購読とは違いコレクション単位の契約であるため共用性が高く、個々の研究講座費等による負担は望ましくない。平成 15 年度は本省配分予算で不足する部分を学内共通経費で措置されたが、今後もさらなる充実が望まれる。

(4) 情報発信機能

[現状]

- 1) 近年、大学の機能として社会へ積極的に情報を発信することが求められている。図書館においても学術情報の発信基地として大きな役割を担うことが期待されている。本館では、全学共同利用機関である総合情報処理センターの拡充の中で、積極的に電子図書館化を推進することを計画しているが、新事業にかかわる予算措置が厳しい現状ではなかなか進まない状況である。その計画とは、a) 図書館所蔵資料（貴重書）の画像データベース化、b) 本学研究成果である、研究紀要の全文データベース化・科研費報告書の全文データベース化・学位論文抄録データベースの構築、c) 教育情報である、シラバス掲載参考図書や教材のデータベース化、研究者情報の構築、などがあげられる。
- 2) インターネット上のさまざまな情報から、有益な学術情報を選別しその目録情報を構築する「メタデータ構築」は、平成 14 年度から国立情報学研究所におけるメタデータ DB 構築事業に参加しそこにデータを報告することにより開始したが、報告データ

は図書館ホームページ上のデータに限られており、学内の研究室等作成のデータまでは及んでいない。現在学内データの存在について調査を行なっている段階である。

[評価]

附属図書館の情報発信機能は着実に充実してきている。ただし、予算面の制約などから課題も多く、今後のより一層の充実が期待される。

[課題と対策]

- 1) 上述したように、主に財政的問題から本学にかかわる学術情報発信のためのデータベース構築は、なかなか進展が難しい状況である。しかし、今日の状況を考えれば、事業開始が遅れば遅れるほど課題を先送りすることにしかならず、できるところからわずかながらも取り掛かる必要がある。現在持つサーバ等の資源を有効活用するような方法も考えながら具体的対応を検討する必要がある。
- 2) また、さまざまなデータベースの構築と同時に、それらを一度に検索できる統合検索サーバの構築も必要である。メタデータ記述文法である Dublin Core 採用によるローカルメタデータサーバ構築、文献検索システムの標準規格である Z39.50 サーバ導入なども検討の視野にいれる必要がある。

(5) 情報リテラシー環境の整備

[現状]

- 1) 現代の情報化時代において、学生の情報活用能力の向上は大学教育における重要なテーマの一つである。学術情報の提供機関である図書館においても、さまざまな情報を得るための環境整備が必要である。平成 6 年度の図書館棟増築においてはパソコン等の情報機器を整備・提供する部屋としてマルチメディア室を設置した。平成 13 年度には、教育用端末の整備にかかわり同室内に 31 台のパソコンが設置され授業時間以外は自由に学生が利用できる環境にある。設置してあるパソコンは平成 14 年度にセンターシステムの更新により新しくなった。平成 15 年度は、この部屋での授業日程は組まれておらず、開館時間中は自由に利用できる。開館直後から利用する学生も多数おり、常に満席に近い状態で時間帯によっては順番待ちの学生も多く見受けられる。
- 2) 自習用とは別にインターネットや CD-ROM 検索性として、情報検索コーナーに 6 台のパソコンが設置してある。1 回当りの使用時間を 1 時間に制限し、多くの学生が利用できる環境を整えた。
- 3) 平成 14 年度には、図書館内に無線 LAN の中継機が設置され、学生は自分のパソコンを持ってくれば自由にインターネットに接続することができるようになった。まだそれほど目立った利用は見受けられないが、今後利用の増大が見込まれる。

[評価]

附属図書館の情報リテラシー環境は、概ね良好であると判断できる。今後も機器の充実などに努め、より一層の整備を進めていくことが期待される。

[課題と対策]

- 1) マルチメディア室に設置してあるパソコンの台数は、本学の学生数 4 千人超を考えれ

ば、さらなる増設が望まれる。学内の総合情報処理センター等関連施設とも連携しながら学生が利用しやすい環境を整えることが必要である。

- 2) また、自習用とは別に情報検索用に設定されたパソコンの整備も必要である。現在は、情報検索コーナーに6台設置してあるが十分な台数とはいえない。アンケート調査では情報検索用パソコンの増設を望む声が多く、さらなる充実が必要である。

5、相互協力活動と大学図書館の公開に関すること

(1) 相互協力活動

[現状]

- 1) 本館では、平成5年1月に学術情報センター（現：国立情報学研究所）の相互貸借システム（NACSIS-ILLシステム）に参加し、オンラインによる文献複写依頼等の業務を行なっている。このシステムへの参加により利用件数が飛躍的に増大した。

(文献複写・相互貸借の件数)

(単位：件)

年 度	平成4年度	平成8年度	平成12年度	平成14年度
文献複写依頼	742	1,639	2,541	2,040
文献複写受付	372	2,550	3,475	3,698
相互貸借依頼	148	532	649	539
相互貸借受付	50	812	692	447

- 2) アンケート調査では、「文献複写」の場合、教官の74%、大学院生40.7%、学生7.9%の利用となっており、研究の度合いが高まるにつれて高くなっている。「相互貸借」についても同様の傾向が見られる。満足度は、いずれも90%を越える利用者が、「満足」または「ふつう」と答えている。
- 3) 他大学図書館への直接訪問利用については、平成12年6月の国立大学図書館協議会第47回総会において従来から発行してきた「国立大学図書館間共通閲覧証」の廃止が決定され、教官・大学院学生は職員証・学生証の提示で利用可能となった。東北地区では平成12年12月から一般学生も含め学生証等を提示すれば利用が可能となるなど、手続きの簡素化の動きが広がっている。しかし一方では、私立大学を中心にいまだ図書館長名での紹介状持参を必要要件としている図書館も多数ある。
- 4) 研究者の文献要求は日本国内の資料だけではなく、海外の図書館でしか所蔵していない資料まで広がっている。本館では、従来からも海外からの文献取寄せを行ってきたが（英国 British Library、中国国家図書館、フランス国立図書館、ドイツ国立図書館など）、料金支払（海外送金）に関する事務手続きがかなり煩雑である（British LibraryはNACSIS-ILL申込み、国内代理店経由の支払いが可能）。平成14年度には、国立情報学研究所による、米国OCLC参加館（平成15年度米国参加は31館）との国際ILLシステムが稼動し、本館も参画した。このシステムはNACSIS-ILLシステムと同様の方法でオンラインによる依頼が可能となり、また料金支払も国内代理店経由で行うなど、手続きの簡便化と入手時間の短縮を実現するものである。また、このシステムでは海外からの依頼について料金徴収が可能であり、今後の国際ILLの発展が期待できる。
- 5) 国立大学図書館協議会において導入が決定された「文献画像伝送システム」は、本

館においても平成 13 年度に導入した。雑誌論文等の文献を従来の複写機によるものではなく、スキャナにより読み取り、画像データとして蓄積したものを、インターネットを介し依頼館に送信するシステムである。画像の送受信には、お互いの館が同様のシステムを設置していることが必要であるため、まだそれほど活発な利用はされていない。しかし、国際 ILL による海外図書館との文献送付については、画像による送信が標準となっており、今後海外図書館との ILL 件数の増加とともに、必須のシステムとなるはずである。

[評価]

現状は概ね良好である。

[課題と対策]

- 1) 「文献複写」等の申し込みについては、ホームページにおけるパーソナル・サービスの充実の中で、学生対象にオンライン申し込みを開始する予定である。「文献複写」サービスそのものの存在を知らない学生も多数おり（学生の 20% が「知らなかった」と回答。）PR を強化し、利用促進を図る必要がある。
- 2) 国際 ILL システムは NACSIS-ILL の ISO プロトコル版を使用しているが、加盟館の所蔵情報と連動していないために、手順が煩雑である。国内 ILL システムと同様、各館所蔵情報の確認後続けて依頼へと進めることができるようシステムの改善が望まれる。
また、料金決済方法も平成 16 年度の法人化移行にともない、処理の簡便化が期待できる。
- 3) 文献画像伝送システムのメリットは、インターネットを利用するため送料が無料であること、入手時間が速いことがあげられるが、画像を電子的に蓄積し送信することについては著作権法上の問題が存在する。これについては、現在関係機関において審議中であるが、図書館としては送信を可能とするような解決が望まれる。
また、画像の送受信は FTP あるいはメール添付で行っているが、ネットワークセキュリティの問題から FTP による受信が許可されない大学もあり、システム活用の障害となっている。またメール添付方式のみの運用をしている館も多いが、サーバへの負担を考えれば FTP 方式が望ましく、セキュリティ問題のクリアは重要な課題である。
本システムの利用率についてはいまだ低いレベルにあり、上記課題の解決も含め、速やかに改善する必要がある。

(2) 福島県内大学図書館連絡協議会

[現状]

連絡協議会は、福島大学附属図書館が中心となって福島県内にある国公立大学、短期大学、県立図書館とともに、昭和 60 年 2 月、「加盟館相互の緊密な連携と協力により、図書館の施設、管理、運営などについての進歩、改善を図ることによって、地域社会の進展に寄与すること」を目的として発足した。発足当初は、10 館であったが、その後 3 館増加して現在は国公立大学 9 館、短期大学 2 館、福島高専、県立図書館の 13 館が加盟している。この中で本学図書館は協議会における事務局館としての役割を担っている。

平成元年 10 月、連絡協議会が母体となり、福島県内大学図書館間相互利用制度が発足した。加盟各館に所属する研究者の研究・教育活動に資するために各館の相互協力を一層充実させることを目的に作られたもので、共通利用証を持参する研究者を対象として各館所蔵の図書・資料の閲覧、現物貸借、文献複写、参考業務を行うものである。平成 4 年、本制度に県内公立図書館 10 館が参加したことにより、館種のちがいを超えてほぼ県内全域の図書館が相互協力する体制が整った。現在は公立図書館の参加が増え、19 館となっている。この制度により、特に在野の研究者の大学図書館利用を可能とするとともに一般市民の利用を促す結果をもたらした。最近 5 年間の利用実態を見ると県内 57 市町村からのべ 1,588 名が利用しており、職業別では大学関係 506 名、教員を含む公務員 465 名、一般市民 617 名となっている。平成 14 年度の利用者 349 名のうち本学卒業生 150 名、共通利用証持参者 20 名を含んでいる。

また、連絡協議会主催の実務者研修会は平成 6 年度から開催され、今年度で 10 回目を数えることとなった。日常的に関心のあるテーマを設定することにより、各館の実情を共通理解とするとともに実務者レベルの交流が行われている。

平成 9 年 7 月連絡協議会のホームページを開設し、相互利用制度に参加する図書館の利用案内、蔵書検索を可能とした。

平成 11 年度より会誌『福島県内大学図書館協議会誌』を発行しており、協議会の取り組みを報告するとともに加盟館への広報を図っている。

[評価]

現状は概ね良好である。

[課題と対策]

福島県内大学図書館連絡協議会の相互利用制度が発足した当初は、共通利用証を持参して本学図書館に来館する利用者に対して、利用規程の中で研究者として扱ってきた。しかし、多くの公立図書館が参加してくる過程で、公立図書館からの紹介状としての性格に変化してきており、共通利用証の取り扱い上で矛盾が生じてきている。確かに一般市民にとっては、大学図書館は敷居が高いとの感じがするのは止むを得ないと思われるが、本学図書館の利用規程上の研究者と一般市民の利用に区別がつけられなくなった点においては何らかの対策が必要である。

(3) 一般市民への生涯学習支援と広報活動

[現状]

1) 学外者・一般市民の利用状況は次のとおりである。

(単位:人)

年 度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
学外者・一般市民	181	269	381	393	349

2) 一般市民の大学図書館利用が増加する中で、利用についての条件整備が必要となったため、生涯学習を支援する目的から利用サービス等の内容を明確にした「一般市民利用内規」を平成 12 年度に制定し、利用環境の整備を整えた。

- 3) 一般市民向け広報活動として、『一般市民のための利用案内』を県内公共図書館及び各自治体公民館へ配布し、大学図書館利用のための PR を行った。また、見学者向けには『附属図書館リーフレット』、利用を目的として来館する一般市民向けとしては『はじめての方へ 利用案内』を配布している。さらに、図書館ホームページ上でも「一般市民のための利用案内」を掲載し、大学図書館利用の促進を図っている。
- 4) オープンキャンパスでは図書館への見学者が多数あり、写真スライドによる館内案内は大変好評であった。また、地域連携推進室と入試課を通じた図書館見学も増加しており、県内外の中・高校生や PTA 役員等が数多く訪れている。

[評価]

現状は概ね良好である。

[課題と対策]

- 1) 一般市民の生涯学習の広がりの中で、大学図書館として利用環境を整えたが、まだ一般的には知られていないと思われるため、広報誌やホームページを活用して大学図書館の利用案内などの PR を行い、利用促進を図る必要がある。
- 2) 学内にある各センターで所蔵する特有の資料を活用し、一般市民への生涯学習支援を協力して行えるよう連携のあり方を検討する必要がある。

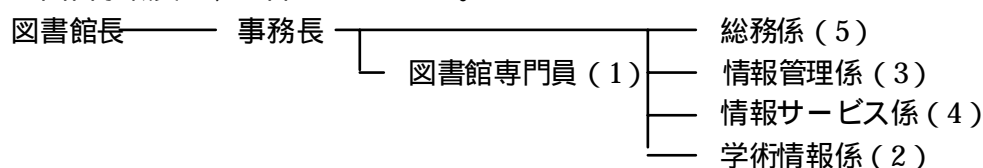
6、管理・運営の状況に関すること

(1) 管理運営組織 (委員会等)

[現状]

図書館に関する全学委員会としては、図書館に係る規則等の制定及び改廃、予算、その他運営に関する重要な事項を審議するために、福島大学附属図書館協議会が設置されている。また、学生用図書・参考図書及び基本資料の選定に関する事項を審議するために、福島大学図書選定委員会が設置されている。なお、図書館協議会と図書選定委員会の審議事項には一定の区分があるが、予算と関連する事項が多いことから重複することがある。また、委員についても学部の図書関係委員より選出されることから重複がみられる。このほか図書資料及び施設・設備の利用について、利用者の便を更に向上するための具体的事項を協議するために、福島大学附属図書館利用者協議会が設置されている。また、図書館が所蔵する貴重図書の指定及び利用に関する事項を審議するために、館長の諮問機関として貴重図書委員会が設置されている。さらに福島大学自己評価実施要綱に基づき、図書館における自己点検評価を行うために、福島大学附属図書館自己評価委員会が設置されている。

図書館の事務組織は、平成 2 年度に図書館専門員が配置され、また、平成 12 年度の事務機構改編を受けて以下の現行体制となった。なお、事務長以下 16 名の事務職員のうち図書系職員は、6 名となっている。



[評価]

管理運営組織（委員会）については、見直しが必要である。

[課題と対策]

平成 16 年度からの法人化及び平成 17 年度の大学再編を控え、全学として委員会のあり方及び新たな事務機構について検討が始められている。図書館についても今後の図書館のあり方を見据えた検討が必要となる。

委員会のスリム化を図り効率的な運営をすべく、図書選定委員会を廃止し、「図書館運営委員会」（仮称）のもとにその機能を集約し、かつ専門的な事項に関して調査・検討を行う専門委員会を設けることとする。

事務組織体制については、学術情報発信の拠点としての図書館の位置付けや役割、さらに図書館の電子化が重要視されているなか、これまで以上に総合情報処理センターからの支援と連携・協力が必要となっている。今後、総合情報処理センターとの協議を深めていく必要がある。

(2) 職員の研修・養成・資質の向上

[現状]

附属図書館では図書館職員の養成・資質向上を図るため、毎年各種研修会等にできる限りの派遣を行ってきた。これまでに図書館職員が必要としていた知識や技術は、図書館の電算化、インターネットの普及、電子図書館機能の高度化に伴って大きく変化してきた。そのため図書館職員には電子情報の収集、整理、保存、利用者教育、そして情報発信とマルチメディアに対応した高度な知識や技術が求められるようになっている。

平成 14 年度においては図書館職員が希望する研修・講習会にほぼ 100%の割合で派遣できた。以下はこれまで参加してきた主な研修・講習会である。

図書館職員長期研修、大学図書館職員講習会、図書館等職員著作権実務者講習会、北海道・東北地区著作権セミナー、東北地区大学図書館協議会合同研修会、西洋社会科学古典資料講習会、福島県内大学図書館協議会実務者研修会、電子ジャーナル・ユーザー教育担当者研修、NACSIS - IR 利用説明会、ILL システム講習会、目録システム講習会、総合目録データベース実務研修、メタデータ・データベース入力システム講習会。

[評価]

職員の研修・養成・資質の向上については、さらなる充実が必要である。

[課題と対策]

電子図書館機能の高度化に伴う重要な課題は、利用者への情報リテラシー教育と情報発信機能である。これらの課題を充実させることを目指し、知識と技術の習得、資質の向上を図るため、研修を通じた図書館職員の養成・資質の向上を今後も継続して図っていく必要がある。

(3) 運営費の現状

[現状]

図書館運営費には大きく分けて通常経費と特別経費がある。通常経費は、さらに維持費と運営費に分かれ、平成9年度の全学予算委員会による共通管理経費等の見直しを受けて、平成10年度以降は、維持費8,715千円、運営費11,193千円の計19,908千円となっており、この予算に入退館システム維持費を加えた額が当初予算となっている。特別経費は、経常業務以外の事業を行うため配分されるもので、遡及入力のための実施経費や大塚文庫の整理要員等の経費として執行を行っている。

本運営費が唯一の図書館運営のための財源(いわゆる生活費)であり、精選のうえ効率的に運営しているところである。しかし、緊急的な機器の修理及び更新が必要な場合には他の事項を削って充当している状況である。また、必要な備品は少なくとも当初予算では措置できず、執行状況を見据えてから可能なときに手当てしている状況である。

なお、図書館運営費については、学生用図書等予算と同様に図書館協議会での審議・了承のもとに執行が行われている。

図書館運営費決算額

(単位:千円)

年 度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
通常経費	25,186	31,224	27,390	23,172	22,467	29,266
特別経費	2,999	3,794	4,348	5,355	8,798	5,701
合 計	28,185	35,018	31,738	28,527	31,265	34,967

[評価]

運営費の現状については、概ね良好である。

[課題と対策]

現状の運営費の予算額では運営に若干支障が生じており、更なる全学予算からの上積み等の要請も考えられるが、全学的に厳しい財政状況を考えれば、図書館においても厳しく精査しながら効率的な運営をしていかなければならないと考える。

(4) 危機管理、災害時の対応

[現状]

大学全体として災害時の教職員緊急連絡網、消防署・警察署への連絡体制が整備され、図書館もその1部局として位置付けられている。火災に対しては、福島大学防火管理規程に基づき附属図書館防火対策委員会細則が定められ、防火管理に関する事項について審議を行っているが、地震に対しての対応策はまだ整備されていない。また、平成11年度の東北地区大学図書館協議会において大学図書館防災連絡網の整備が行われた。

[評価]

危機管理、災害時の対応については、大幅な改善が必要である。

[課題と対策]

地震の際の利用者誘導マニュアルがまだ整備されておらず、隣接県で地震が頻発するなか早急の整備が必要とされる。また、開館時間及び期間の延長の検討にあたっては、図書館職員不在時の危機管理・対応についても検討が必要となる。

(5) 利用者アンケート

- 1) 平成 14 年度に附属図書館の初めての試みとして本格的な利用者アンケートを実施した。教官対象として 9 月 2 日～24 日まで、学生対象として 10 月 1 日～21 日まで各々 3 週間の期間で実施したものである。回収率は学部学生 (4,366 名中) 13.1%、大学院学生 (243 名中) 11.1%、教官 (261 名中) 39.8% で、図書館利用者全体 (4,870 名) では 712 名の回収で 14.4% となった。回収率は少なかったが、図書館をよく利用している学生からの回答であり、多種多様な意見が出されていた。

(単位: 人)

区 分	教育学部	行政社会学部	経済学部	その他	合 計
学部学生	161	196	214		571
大学院生	14	6	7		27
教 官	53	23	26	2	104
そ の 他				10	10
合 計	228	225	247	12	712

- 2) アンケートは利用に関する自己点検・評価を行うため、その基礎資料となるデータを得ることが目的であったが、利用者が図書館について日ごろから感じていることや利用の実態が明らかになった。アンケートの結果は『利用者アンケート集計結果』としてロビーに備え付けるとともに、図書館報『書燈』に集計結果のダイジェスト版を掲載した。
- 3) アンケートに出された意見には、回答できるものは附属図書館から何らかの形で知らせる工夫を行う予定である。また、すでに実施されているものもあり、学生が制度上の利用条件を知らない場合が多いと思われる点多々見られることから、PR の充実を図る必要がある。
- 4) 制度的に改善可能な事項は今後の図書館運営の中に生かす方向で検討し、実現を図ることを目指すとともに、一定期間後に再びアンケートを実施して、この期間で取り組んだ改善点を改めて利用者に確認してもらう必要がある。

(6) 法人化への取り組み

- 1) 法人化への対応を検討する 4 つの専門部会のうち財務会計制度部会と目標評価部会へ図書館からオブザーバー参加し、また、平成 15 年度からは組織運営部会に事務長が部会メンバーとして参加することにより、全学の動きに合わせた図書館の取り組みを行っている。中期目標・中期計画の策定にあたっては、平成 14 年度に検討WGを立ち上げ原案を作成し、図書館協議会での検討を経て、図書館における中期目標・中期計画の策定を行った。
- 2) 法人化に向けた資産確定のために研究室貸出図書の現物調査及び開架図書の蔵書点検を徹底的に実施した。現物調査及び蔵書点検により確定した結果の取り扱いについては、関係部局との協議が必要となる。また、それを受けて承継資産額の確定及び資産台帳の作成が必要である。
- 3) 現在関連作業を進めている会計処理についても「国立大学法人会計基準」及び「国立大学法人会計基準注解」に関する実務指針等に沿って行っていくことから、遺漏のないよう事前の周知・確認が必要となる。

附属図書館施設改善計画(案)

1. 現有施設の課題

(1) 学習図書館機能

学生が休憩・談話できる場所がない

閲覧席数が大学設置の際の新基準を満たしていない

(大学基準協会から閲覧座席数の増加を図るよう勧告あり)

講習会・研修会等多人数で利用する場所がない

2 F 南側閲覧室と共同学習室の動線が図書の管理上分断されている

学生用雑誌室が狭い

LL, AV の個人ブースが同じ 1 F AV コーナーにあり利用しにくい

(2) 電子図書館的機能

情報検索用パソコン及び場所の不足

学習用パソコンの不足

(3) 研究図書館機能

教官用閲覧席の不足

研究用雑誌室が 2 F の奥にあり利用しにくい。また、製本された研究用雑誌が B F に分かれて配置されており利用に不便

(4) 生涯学習支援機能

初めて来館した一般市民(利用カード未発行)は入館ゲートで遮られ、カウンターが離れているため連絡がとりにくい

(5) 身体障害者・高齢者対応

施設・設備が不十分

2. 計画にあたって配慮を必要とする主な点

(1) 学習図書館機能の充実

・大学審議会答申等で指摘されているように、学生が主体的に学習に取り組むことができるような学習環境に整備することが必要

ア. 閲覧座席数 イ. 開架図書冊数 ウ. 学生が集う場

エ. 情報リテラシー教育 オ. 情報と語学学習 カ. 身障者対応 等

(2) 電子図書館的機能の充実

・OPAC、インターネット、CD-ROM、VOD、電子ジャーナル等を利用できる環境の整備

ア. パソコンの設置

(3) 生涯学習支援

・身障者、高齢者等に配慮した施設、設備の整備

ア. エレベータの設置 イ. 閲覧座席数 ウ. 対面朗読室 等

(4) 大学再編対応

- ・全学再編（仮称理工学類）に対応した図書・資料の充実

ア．書架

3．改善計画

(1) 現有建物の西側を増築

増築面積 $10.8\text{m} \times 55.86\text{m} \times 3\text{階} = 1,809.8\text{m}^2$

(2) 閲覧座席数の増

400席 484席

(3) 開架閲覧室書架の増設（積層 2階）

配架図書数 約10万冊 約13万冊

(4) 閉架書庫の増設

収納可能数の増 5.4万冊

(5) B F

研究用雑誌室（現在2Fに設置）の設置

- ・新着と製本雑誌を隣接する場所に設けることにより、新着と製本が近くに配置され、各年代の利用が容易になる
- ・情報検索用パソコン設置（3台）
- ・将来の無人開館にも対応
- ・保存書庫と連絡することにより、保存書庫の通気が良くなり、湿度およびカビ対策となる

福島大学資料室の設置

- ・本学に関する資料を全学的に収集、保存・整理し全学的な利用に供する

新聞用集密書架の設置

- ・新聞を配架している書架を集密書架に変更する

(6) 1 F

入退館ゲートとカウンターを近づけることにより、現在遮断されている北側と南側を機能的に結びつける。

エレベータの設置

- ・身障者、高齢者（一般市民）対応

対面朗読室の設置（防音設備）

- ・利用していない場合は共同学習室として利用する

学生用雑誌室の設置

- ・現在開架閲覧室にある学生用雑誌を配架し、利用の便を図る

閉架書庫の増（2層分）

- ・今後の図書資料の増に対応

情報検索コーナーの設置

- ・自主学習のため各種情を検索するためのパソコンを5台から20台に増設する

トイレ改修（正面玄関脇）

(7) 2 F

研修室の設置

- ・大型スクリーン（プロジェクタ）を備え、研修会、学生ガイダンス等多目的に利用可能な部屋として設置
- ・視聴覚室としても活用

談話室の設置

- ・長時間滞留者のリフレッシュの場、学生の憩いの場とし、軽飲食可、携帯電話可、喫煙可とする

文庫室の設置

- ・現有大塚文庫、今野源八郎蔵書等を収蔵し、学内外の研究者の利便を図る

AV室、LLブースの設置

- ・個人学習のため個人ブースとして設置
- ・LLブースは防音対策のため個室とする

教官閲覧室の設置

- ・本学教官はもとより、名誉教授又は他大学の研究者等の利用に供する学習用パソコンの増設（4台を20台とする）

トイレ入り口の付け替え

- ・入り口を階段側に変更し、現在の入り口前に閲覧席を増設

昇降機の設置

- ・車椅子による北側と南側との移動を可能にするため2F東側に設置（段差解消）

(8) その他

書庫内等の電灯スイッチの集中管理、自動点灯装置の設置

玄関の照明を交換が容易にできるようにする

集中暖房から個別暖房に（将来の日曜開館のため）

利用者スペースの照明の照度アップ

共同学習室等各室の鉄扉を外から見えるように改修

西側玄関を自動ドアとする

（西側からの強風対策及び物品搬入を容易にするため）

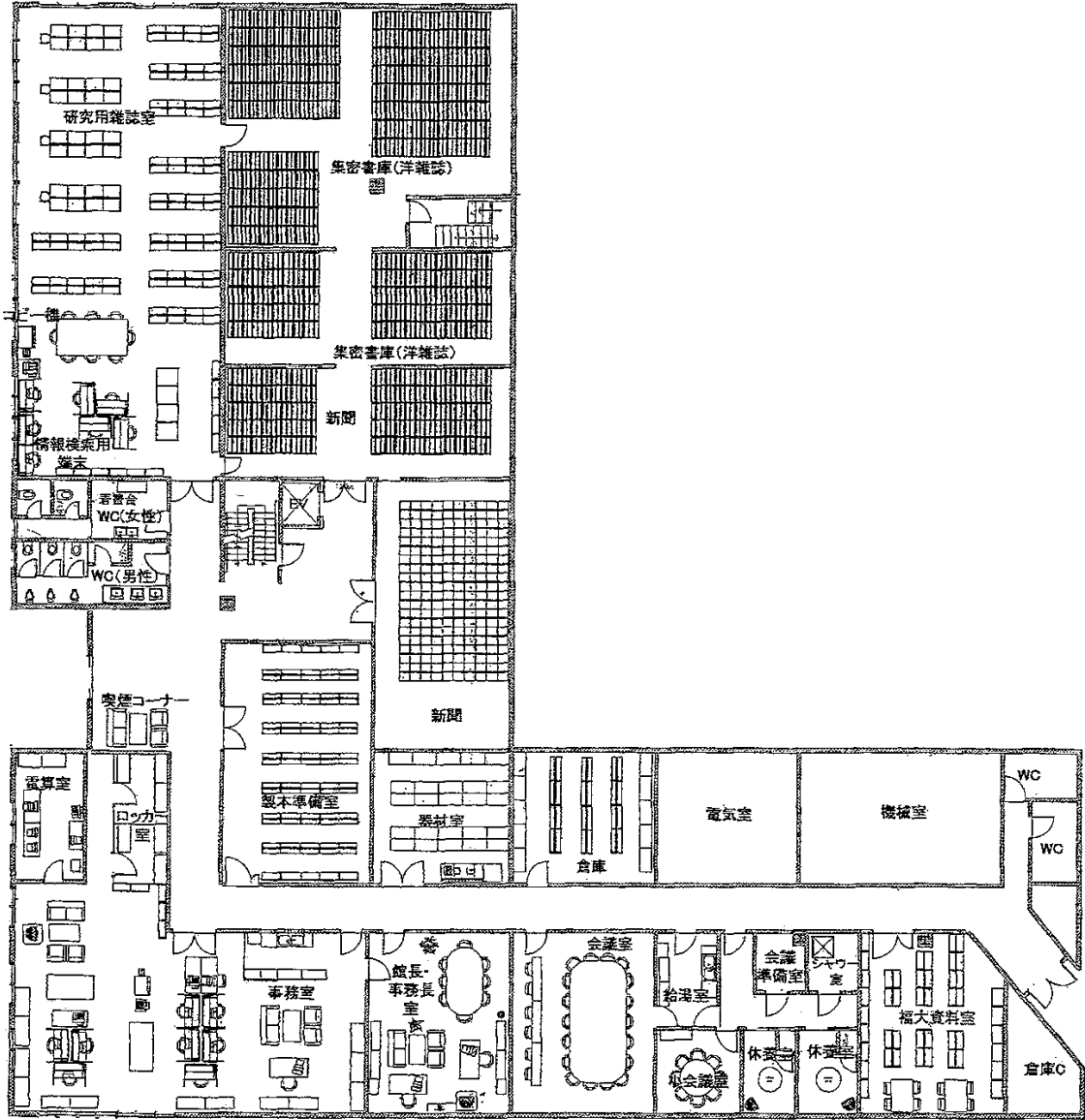
エントランスロビーをカーペット敷きとする。

閲覧室のカーペット張替え

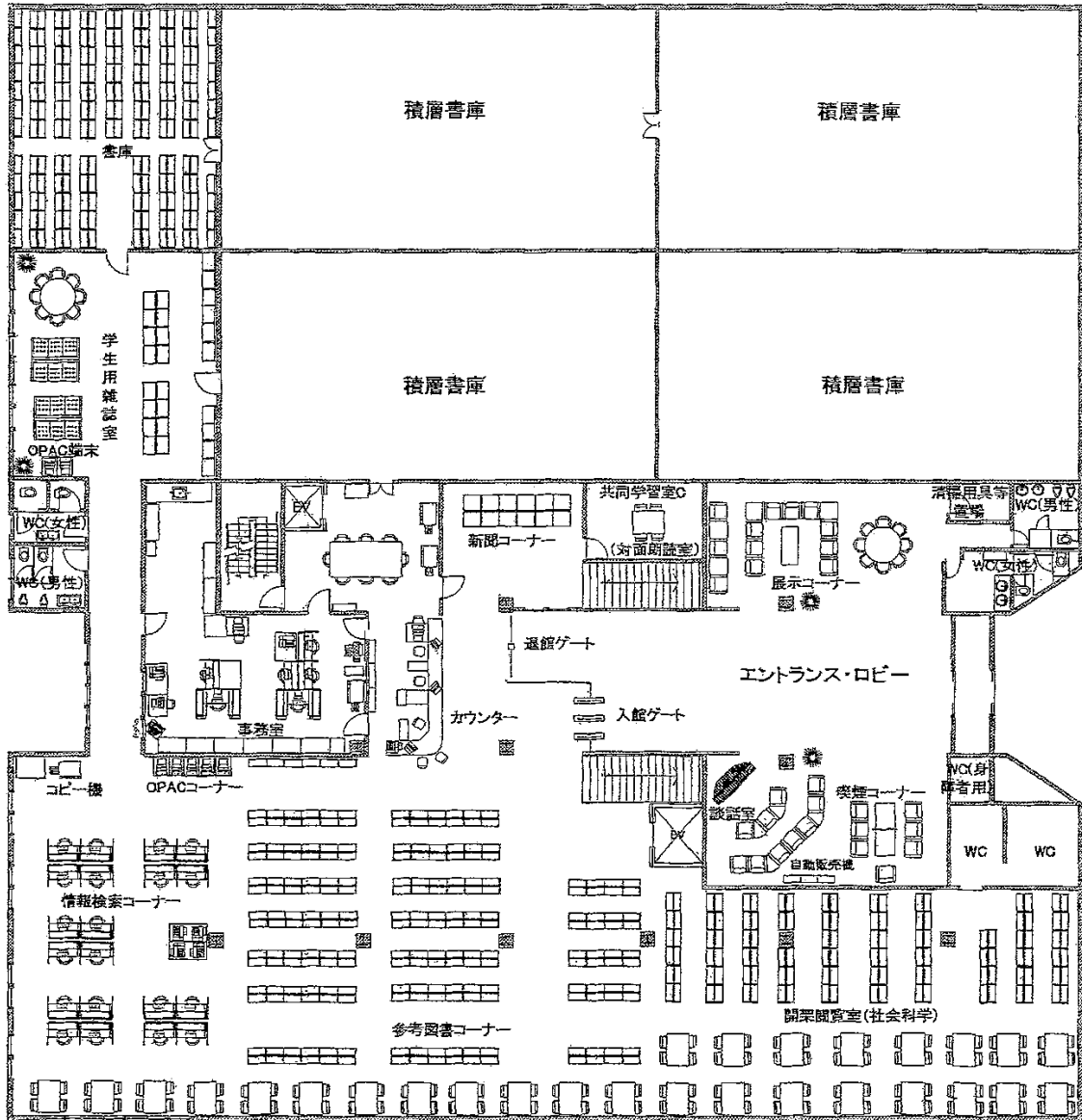
正面玄関前の広場の整備

- ・車いす用のスロープの設置
- ・キャンパス全体の環境整備の中で、図書館前広場の整備

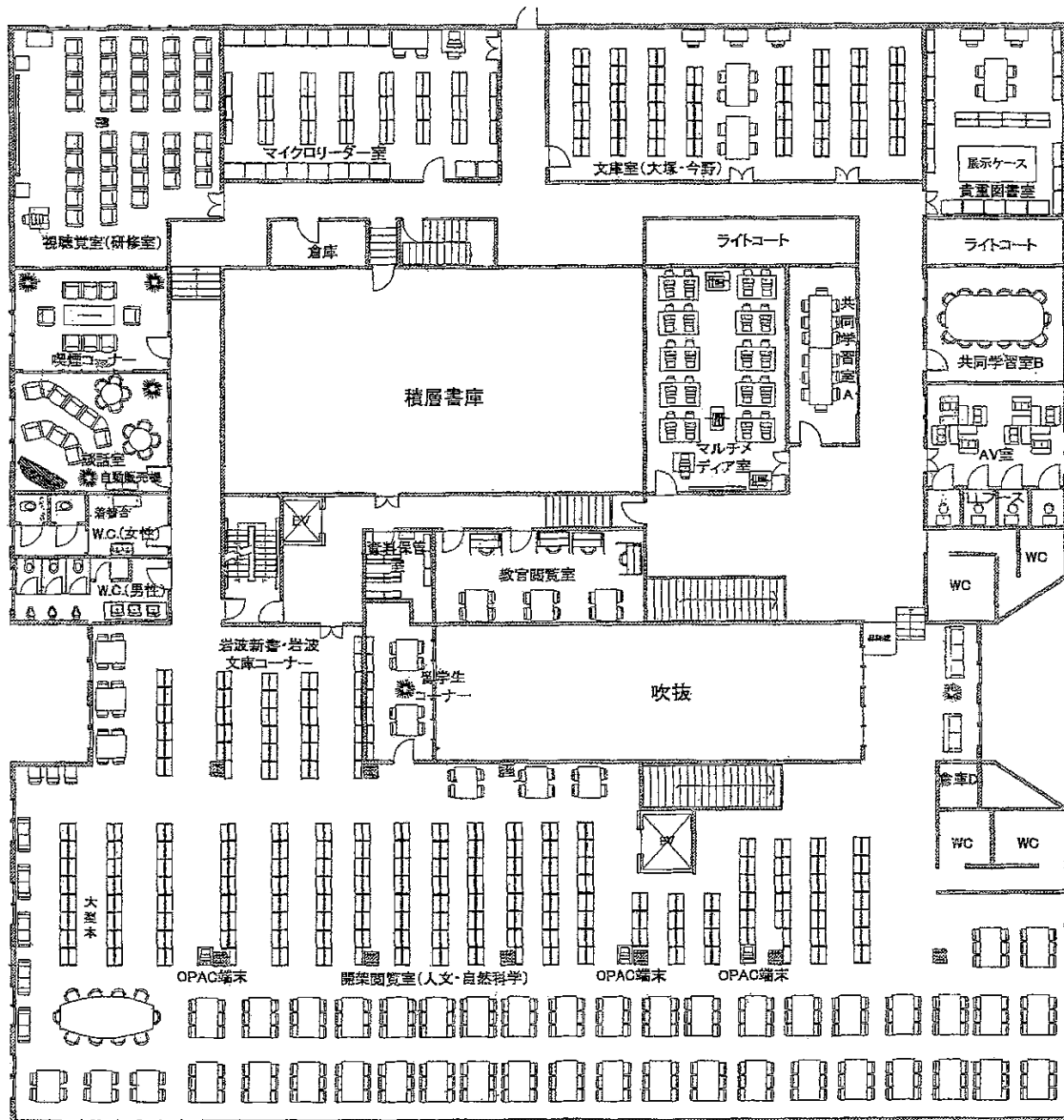
附属図書館、情報処理センター、共通講義棟周辺エリアを教育支援ゾーンとし、各棟を連絡し、学生が授業以外の時間に自由に利用できる施設を建設



B F



1 F



2 F

福島大学附属図書館主要統計

(1) 利用統計

(利用対象者数)

2003.5.1現在

区 分	学部学生	大学院学生	教 員	職 員	合 計
利用対象者数	4,299	249	467	175	5,190

(開館状況等)

年 度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
開 館 日 数	288	281	285	285	286
(内土曜日)	(47)	(48)	(46)	(45)	(45)
時間外開館日数	206	198	203	203	209
時間外開館時間数	824	792	812	812	836

入 館 者 数	272,926	261,102	241,505	242,076	251,826
1日当入館者数	948	929	847	849	881

(館外貸出人数)

(単位:人)

年 度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
学 部 学 生	22,667	23,009	22,630	20,547	17,606
大 学 院 学 生	1,882	2,315	2,373	1,938	1,574
教 職 員	1,018	1,681	2,663	2,464	1,827
学 外 者	415	420	576	604	632
合 計	25,982	27,425	28,242	25,553	21,639

(館外貸出冊数)

(単位:冊)

年 度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
学 部 学 生	47,280	45,839	40,976	38,403	37,351
大 学 院 学 生	5,424	6,166	6,670	5,501	5,724
教 職 員	51,884	56,444	50,889	46,135	6,381
研 究 室 貸 出					31,488
学 外 者	1,260	1,219	1,539	1,670	1,647
合 計	105,848	109,668	100,074	91,709	82,591

(文献複写)

(単位:件)

年 度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
国 内 受 付	2,884	3,344	3,475	3,316	3,697
国 内 依 頼	2,004	2,027	2,520	1,903	1,989
海 外 依 頼	21	37	21	29	51

(現物貸借)

(単位:冊)

年 度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
国 内 貸 出	914	812	692	487	447
国 内 借 受	611	629	645	399	520
海 外 借 受	21	18	4	16	19

(レファレンス)

(単位:件)

年 度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
受 付	280	146	105	79	67
依 頼	88	103	82	124	142

(2) 資料統計

(蔵書冊数)

2003.3.31現在

区 分	和 書	構 成 比	洋 書	構 成 比	合 計	構 成 比
総 記	108,657	19.8%	49,098	23.2%	157,755	20.8%
哲 学	26,987	4.9%	9,827	4.6%	36,814	4.9%
歴 史	47,039	8.6%	9,921	4.7%	56,960	7.5%
社 会 科 学	179,678	32.8%	80,542	38.1%	260,220	34.3%
自 然 科 学	38,224	7.0%	16,679	7.9%	54,903	7.2%
工 学	22,307	4.1%	7,061	3.3%	29,368	3.9%
産 業	30,259	5.5%	6,262	3.0%	36,521	4.8%
芸 術	24,296	4.4%	4,809	2.3%	29,105	3.8%
語 学	16,098	3.0%	7,935	3.8%	24,033	3.1%
文 学	54,018	9.9%	19,234	9.1%	73,252	9.7%
合 計	547,563	100.0%	211,368	100.0%	758,931	100.0%

(所蔵雑誌数)

(単位:種)

和 雑 誌	9,808
洋 雑 誌	2,643

(所蔵新聞数)

(単位:タイトル)

和 新 聞	199
洋 新 聞	37

(所蔵視聴覚資料数)

(単位:タイトル)

マイクロフィルム	260	ビデオテープ	664	CD-ROM	251
マイクロフィッシュ	308	レコード	48	VD	3
CD・LD・DVD	96	映画フィルム	1	FD	21
カセットテープ	350	スライド	5		

(年間図書受入冊数)

(単位:冊)

年 度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	
総 受 入 冊 数	15,882	20,183	13,977	12,200	10,742	
和 洋 別	和 書	12,271	15,455	10,761	9,189	8,251
	洋 書	3,611	4,728	3,216	3,011	2,491
受入事由	購 入	10,987	9,193	8,601	7,847	7,061
	寄 贈	1,757	8,032	1,940	1,485	960
	そ の 他	3,138	2,958	3,436	2,868	2,721

(年間雑誌受入種類数)

(単位:種)

年 度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	
総 受 入 種 類 数	5,894	6,028	5,969	5,811	4,044	
和 洋 別	和 雑 誌	4,788	4,932	5,036	5,014	3,242
	洋 雑 誌	1,106	1,096	933	797	802
受入事由	購 入	1,690	1,660	1,503	1,453	1,276
	寄 贈	4,194	4,358	4,456	4,348	2,766
	そ の 他	10	10	10	10	2

(年間資料費)

(単位:千円)

年 度	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度
資 料 費 総 額	117,950	121,225	104,220	97,499	94,424
(内訳)					
図 書 購 入 費 (和)	39,872	33,350	33,517	28,112	24,974
図 書 購 入 費 (洋)	27,857	21,022	16,437	14,297	20,436
雑 誌 購 入 費 (和)	9,283	11,141	11,171	10,181	10,434
雑 誌 購 入 費 (洋)	30,980	37,523	27,483	25,304	24,724
そ の 他 の 資 料 費	4,925	13,226	10,595	14,846	8,991
製 本 費	5,033	4,963	5,017	4,759	4,865

学外者利用申請件数(居住地別)

	H9年度	H10年度	H11年度	H12年度	H13年度	H14年度	計
福島市	92	97	145	192	200	170	896
会津若松市	2	2	7	4	10	5	30
郡山市	11	18	21	31	34	26	141
いわき市	3	2	2	10	5	8	30
白河市			3	1	2	2	8
白原町	2		1	2	2	4	11
須賀川市	1	3	5	5	10	8	32
喜多方市				2	3	3	8
相馬市			1	5	3	1	10
二本松市	8	5	6	8	19	12	58
桑折町	2	2	3	3	3	2	15
伊達町	2			1	3	1	7
国見町		1	2	2	3	1	9
梁川町	1	1		1	3	1	7
保原町	1	1	2	6	6	3	19
霊山町		1	1				2
月館町		1					1
川俣町	3	1	3	7	3	5	22
飯野町		1	1	1	4	2	9
安達町	3	2	6	7	7	6	31
大玉村	1		2	3	2	2	10
本宮町	1	3	3	6	4	1	18
白沢村				1		4	5
岩代町		1		3		1	5
東和町					3	2	5
長沼町			1				1
鏡石町	1		1		1		3
岩瀬村				1			1
天栄村				1			1
田島町		1					1
只見町					1		1
磐梯町		1	2	1		1	5
猪苗代町	2			3			5
会津坂下町		1	2	2	1	1	7
柳津町			1				1
河津町					1		1
会津高田町			1	1	3		5
昭和村		1		1			2
泉崎村		1					1
矢吹町				1	2	1	4
柵倉町	2					4	6
塙町						1	1
石川町	1				2	2	5
玉川村		1	1			1	3
平田村						1	1
三春町	1	2	1	2	2	1	9
小野町						1	1
大越町					1		1
都路村		1	1				2
船引町	1	1	2	3	1	2	10
富岡町			1			1	2
川内村						1	1
浪江町				2			2
新地町					2		2
鹿島町						2	2
小高町					2	1	3
飯館村		1	2				3
県外計	24	29	41	66	53	58	271
合計	165	182	271	385	401	349	1,753

学外者利用申請件数(職業別)

	H9年度	H10年度	H11年度	H12年度	H13年度	H14年度	計
国立大学教職員	2	4	3	5	13	5	32
国立大学大学院生	8	8	10	16	15	15	72
国立大学学生	8	3	6	11	4	9	41
高専教職員				1			1
公立大学教職員	7	6	11	11	8	9	52
公立大学大学院生			1	2	1	5	9
公立大学学生	8	11	9	12	17	5	62
私立大学教職員	10	6	14	18	13	7	68
私立大学大学院生	3	2	2	3	11	6	27
私立大学学生	13	23	13	24	35	23	131
専門学校講師	2	1	2	4	4	4	17
専門学校学生	6		6	7	10	3	32
放送大学学生	3	3	2	3	4		15
盲学校教諭				1		1	2
養護学校教諭	2	3	3	3	9	4	24
幼稚園教諭	1			2		3	6
小学校教諭	6	13	19	38	27	31	134
中学校教諭	3	2	6	16	18	13	58
高等学校教諭	7	9	23	9	18	15	81
県職員	5	7	20	23	18	23	96
市職員	6	2	10	17	8	11	54
町職員	3		6	7	3	2	21
村職員						1	1
国家公務員	2		8	7	3	3	23
会社員	11	13	23	24	37	37	145
団体職員	5	8	9	26	26	22	96
一般市民	43	55	60	91	95	85	429
外国大学	1	3	3	4	4	3	18
その他			2			4	6
合計	165	182	271	385	401	349	1,753

学外者貸出人数	367	415	420	576	604	632	3,014
学外者貸出冊数	1,487	1,260	1,219	1,539	1,670	1,647	8,822

相互利用制度の状況

共通利用証発行数	18	13	4	8	9	5	57
----------	----	----	---	---	---	---	----

ILL依頼(福島大学から県内他館に依頼)

	H9年度	H10年度	H11年度	H12年度	H13年度	H14年度	計
大学図書館複写	0	0	0	0	0	2	2
公共図書館複写	0	0	0	0	1	0	1
大学図書館貸借	0	0	0	0	0	4	4
公共図書館貸借	9	1	0	0	1	1	12

ILL受付(県内他館から福島大学に依頼)

大学図書館複写	18	12	59	42	89	90	310
公共図書館複写	16	24	13	5	4	5	67
大学図書館貸借	44	27	17	17	10	12	127
公共図書館貸借	20	25	25	34	19	17	140

卒業生の利用

教育学部						63	
教育学研究科						11	
行政社会学部						35	
地域政策科学研究科						7	
経済学部						24	
経済学研究科						10	
合計						150	

共通利用証持参人						20	
----------	--	--	--	--	--	----	--

福島大学附属図書館整備・充実の歩み

区 分	実 施 経 過	
	昭和24年度～平成15年度	
組織・機構	昭24. 5	国立学校設置法の公布による福島大学設置に伴い、学芸学部図書館、経済学部図書館をもって発足。図書係を置く
	昭26.12	附属図書館発足、本館は経済学部、学芸学部分館及び経済学部分館を設置。庶務係、司書係を置く
	昭41. 4	学芸学部分館から教育学部分館に名称変更
	昭51. 4	分館制度を廃止、事務組織として5係(総務・受入・目録・閲覧・調査)を置く、教育学部に教育分室を設置
	昭51. 4	教育学部に教育分室を置く
	昭56. 4	業務見直しにより係名称(総務・受入・整理・参考閲覧・雑誌資料)を変更する
	昭56. 4	学生用図書選書委員会設置
	昭57.12	学術情報体制検討委員会発足(～63.11)
	昭58. 4	図書選定委員会設置(学生用図書選書委員会廃止)
	昭58.12	図書館利用者協議会準備会発足
	昭62.10	業務見直しにより係名称(総務・受入・整理・参考閲覧・学術情報)を変更する
	昭63. 4	図書館利用者協議会発足
	昭63. 7	貴重図書委員会設置
	平元. 5	附属図書館の将来構想を語る会発足
	平 2. 4	図書館専門員を設置
	平 5. 3	附属図書館自己評価委員会設置(自己評価実施)
	平 5.10	図書館業務改善検討委員会設置(附属図書館の将来構想を語る会解消)
	平 6. 4	業務見直しにより係名称(総務・資料受入・情報管理・情報サービス・学術情報)を変更する。
	平 6. 7	「書燈」編集委員会設置
	平 9. 5	大塚文庫創設協力委員会設置
平12. 4	全学の事務機構改編に伴い、5係を4係(総務・情報管理・情報サービス・学術情報)に変更する	
平15. 7	附属図書館自己評価委員会設置(テーマ別自己評価実施)	
図 書 館 機 能	昭51. 4	図書分類整理にNDC7版を採用
	昭57. 1	共通閲覧証による国立大学間相互利用制度発足
	昭57年度	地域住民へのサービス開始
	昭58. 6	「学術情報の検討のために」(学術情報体制検討委員会第1次答申)
	昭60年度	「郷土資料目録」作成
	昭62. 3	「所蔵雑誌目録」作成
	昭63. 7	本館所蔵貴重図書の指定、利用の検討開始
	平元. 2	図書分類整理にNDC8版を採用
	平元. 6	留学生との懇談会
	平元.10	複写料金徴収猶予制度開始
	平 2. 1	CD-ROMによる情報検索サービス開始
	平 2. 3	英文「図書館利用案内」刊行
	平 4. 5	週休2日制に伴う時間外開館の見直し(土曜開館時間延長17時)
	平 4. 1	「継続受入雑誌目録」作成
	平 6. 4	事務機構の見直しによるサービス業務の強化を図る
	平 6. 4	夜間開館時間の延長(20時を21時に)
	平 6. 4	夜間開館日の期間拡大
	平 6. 4	レファレンスサービスの本格実施(専用窓口の設置)
	平 6. 7	図書館報編集体制の改善
	平 9. 7	附属図書館ホームページ開設
平10. 7	文献検索法検索講座開始	
平11. 3	「所蔵新聞目録」作成	
平11.11	図書館利用証と学生証・職員証を一体化(磁気カード化)	
平12. 5	共通閲覧証による国立大学図書館間相互利用制度廃止	
平12. 5	国立大学図書館相互利用における身分証明書への切り替え	
平12.12	学部学生の学生証による東北地区国立大学間相互利用開始	
平15. 6	「利用者アンケート集計結果報告」作成	
平15. 7	オーダーメイド「情報探索基礎講座」開始	

区 分	実 施 経 過	
	昭和24年度～平成15年度	
図 書 館 機 能	学習	昭43.6 開架図書制度開始(教育学部分館) 昭44.5 開架図書制度開始(経済学部分館) 昭50.9 指定図書制度実施(教育・経済学部分館) 昭52.4 学生貸出方式の変更(個人帯出券からブラウン方式)(経済分館) 昭53.9 学生貸出方式の変更(個人帯出券からブラウン方式)(教育分館) 昭56.4 利用案内「図書館を利用するために」を発行 昭56.5 学生用図書選書体制12部門に編成 昭57.5 「学生用図書選定のための情報提供」開始 昭58年度 学生用基本図書収集計画開始(～60年度) 昭63.4 教養演習単位での新入生図書館ガイダンス開始 平元年度 留学生用資料整備費の配分と留学生用資料の購入 平2.3 視聴覚室プロジェクト更新 平2.4 国際交流コーナー設置 平2.4 AVコーナー(個人用ビデオブース)設置 平2.4 エントランスロビーに展示コーナー設置 平2.4 学内刊行物コーナー設置 平2.5 英文利用案内「LIBRARY HANDBOOK」刊行 平2年度 貴重図書目録作成開始 平3.6 学生用図書購入部門の編成換 平6.11 留学生資料コーナー設置(国際交流コーナー廃止) 平6.5 セルフ式複写機設置(学生向け) 平6年度 学生用希望図書申込み制度開始 平9.3 音楽用CDブース2台設置 平9.4 音楽用CDブース設置 平10年度 文献検索法講座開始 平11.3 軽読書コーナーにテレビ設置 平11.11 自動図書貸出返却装置本格稼働開始 平12.3 学習用パソコン(4台)設置 平12.4 CD-ROM用パソコン(5台)の設置(開架閲覧室内) 平12.10 セルフ式複写機(学生向け)の更新 平14.1 ネットワークによるVODサービス開始 平14.3 視聴覚室へDVDプレーヤー設置 平14.3 院生向け情報検索用パソコン(3台)設置(研究用閲覧室・雑誌室) 平14.3 視覚障害者用「デージーシステム」を設置 平13年度 雑誌記事索引DVD購入開始 平14.5 「情報探索ガイド」作成 平15.2 拡大読書機を設置 平14年度 「情報検索等使い方シリーズ」作成 平15.7 学生用図書選書体制の見直し実施
	研究	昭53年度 大型コレクション「19-20世紀ロシア・ソビエト研究稀覯資料集」を購入 昭57.4 「新着図書速報」発行(12号で終刊) 昭61年度 大型コレクション「ロシア帝国・ソビエト連邦法令集」を購入 平元年度 ファクシミリによる文献複写サービス開始 平2年度 遠藤安一郎奨学寄附金受納(経済洋書購入) 平2年度 大型コレクション「帝政ロシア及び現代ソビエト社会・経済研究」を購入 平6年度 海外所在文献の取り寄せ開始 平7年度 自然科学系図書「北大西洋条約機構科学事務局最新研究機関シリーズFシリーズ」；「コンピュータとシステム科学に関する研究叢書」を購入 平9年度 大塚文庫基金として奨学寄附金受納(～12年度) 平11.4 ネットワークを利用した文献複写申し込み開始 平13.6 ネットワークを利用した図書資料購入申し込み開始 平14年度 大型コレクション「体育教育の歴史」を購入

区 分	実 施 経 過	
	昭和24年度～平成15年度	
保 存	昭63.7	本館所蔵貴重図書指定、利用の検討開始
	平2.3	複製本和雑誌管理変(上越教育大、鳴門教育大)
	平3.8	本館所蔵貴重図書目録刊行
	平7.2	書庫増築に伴う書庫移動開始(終了3月)
	平15.2	開架図書蔵書点検開始
	平15.3	「今野源八郎旧蔵書」整理作業開始
図 書 館 機 能 電子化	平元.2	図書館システム(NEC S3100/50、LICSU ver.3)を導入
	平元.2	NTT第1種バケット交換(DDX)により学術情報センターと接続
	平元.2	目録業務電算処理開始
	平元.4	閲覧業務電算処理開始
	平元.4	OPACによる所蔵検索サービス提供開始
	平元.4	NACSIS-IRサービス開始
	平元.8	LICSU(ver.4)バージョンアップ
	平元.10	文献複写用ファックス設置
	平元.10	スタンドアロン型「CD-ROM情報検索サービス」開始
	平2.2	図書受入業務電算処理開始
	平元年度	ファクシミリによる文献複写サービス開始
	平2.4	雑誌受入業務電算処理開始
	平3.3	図書館内に学内LAN敷設
	平3.5	学内LANによる所蔵検索サービス開始(TELNET型)
	平4.1	所蔵データ(7版図書・簡略データ)遡及入力開始
	平4.7	学術情報ネットワークへ接続(DDX廃止)
	平5.1	NACSIS-ILLシステムに参加
	平6.1	図書館システム(NEC S7100/70、LICSU ver.5)を更新
	平6.1	利用者用端末機増設(計3台)
	平6.1	学内LANによるOPACサービス2回線増設(計5回線)
	平6.4	図書館利用証を磁気カード化
	平7.4	学術雑誌目次速報データベースに参加
	平8.5	所蔵データ(7版図書・簡略データ)遡及入力完了
	平8.6	所蔵データ(6版図書)遡及入力開始(15.7目標)
	平8.7	科研費によるデータベース作成(遡及)開始(~11年度)
	平9.7	附属図書館ホームページ開設
	平10.1	図書館システム(NEC Express 5800/160Pro、LICSU/21 ver.1)を更新
	平10.1	WWW版 OPACサービス開始
	平11.4	ネットワークを利用した「文献複写申込み」開始
	平11.10	単行書誌キーワード再切出し作業(漢字検索が可能となる)
	平13.4	福島県内大学図書館連絡協議会ホームページ開設
	平13.5	文献画像伝送システム(EPICWIN 3000)を設置
	平13.6	ネットワークを利用した「資料購入依頼」開始
	平13.7	電子ジャーナル(無料)の導入
平14.1	図書館システム(NeoCLIU S 伊藤忠テクノサイエンス)の更新	
平14.7	電子ジャーナル有料契約開始(1,500誌)	
平14.12	NIIメタデータ・データベース事業に参加	
平14.12	所蔵データの遡及入力完了	
平14年度	書庫内へOPAC用パソコン(2台)設置	
平14年度	閲覧室内へOPAC用パソコン(2台)設置	
平15.4	電子ジャーナル導入拡大(エルゼビア社)により3,065誌へ	
平15.4	ネットワークを利用した「利用照会」、「予約」開始	
平15.7	朝日新聞データベース(DNA)利用契約開始	

区 分	実 施 経 過		
	昭和24年度～平成15年度		
事 業 等	昭28.11	第8回東北地区大学図書館協議会開催	
	昭38.6	第18回東北地区大学図書館協議会開催	
	昭50.4	第6回国立大学図書館東北地区協議会開催	
	昭53.10	第33回東北地区大学図書館協議会開催	
	昭57.4	第13回国立大学図書館東北地区協議会開催	
	昭57年度	地域住民へのサービス開始	
	昭59.3	「素足の修道女」(太田良平作、木彫)エントランスロビーに展示	
	昭60.2	福島県内大学図書館連絡協議会設立	
	昭63.6	第5回福島県内大学図書館連絡協議会総会(福大当番)	
	平元.3	図書館主催講演会「貴重書・古版本の世界」開催	
	平元.4	第20回国立大学図書館東北地区協議会総会開催	
	平元.10	福島県内大学図書館間相互利用制度発足	
	平2.3	図書館主催講演会「イギリスの大学図書館について」開催	
	平4.7	県内大学図書館間相互利用制度に県内主要10市町村立図書館参加	
	平4.10	平成4年度東北地区大学図書館協議会国立部会実務者研修会開催	
	平6.8	平成6年度NACSIC-IR地域講習会開催	
	平6.12	福島県内大学図書館連絡協議会実務者研修会開始	
	平8.4	第27回国立大学図書館東北地区協議会総会開催	
	平8.8	「幕末・明治期古写真等資料展」市内で開催	
	平9.5	図書館小講座「大塚久雄先生の学問と蔵書」開催	
	平11.10	50周年記念事業「福島大学附属図書館所蔵稀覯書展」市内で開催	
	平12.4	「西洋書誌学講座」開催(～13.3まで)	
	平12.7	SCSによる大学図書館職員長期研修参加	
	平12.12	文部省ヒアリング及び国立大学図書館東北地区協議会事務連絡会開催	
	平13.7	平成12年度東北地区大学図書館協議会合同研修会開催	
	平14.1	「大塚久雄文庫」開設記念講演会開催	
	平14.4	閲覧室内に美術科学生による作品を展示	
	平15.3	アートキャンパスの一環として閲覧室内に美術作品を展示開始	
	平15.4	第34回国立大学東北地区協議会総会開催(福大当番)	
	平15.5	「九月の笛」(白沢菊夫作、銅像)エントランスロビーに展示	
	平15.7	第20回福島県内大学図書館連絡協議会総会開催(福大当番)	
	平15.7	オーガーマイド「情報探索基礎講座」開始	
	平15.7	海外研修報告会開催	
	資 料	昭30.2	藤田文庫受贈
		昭45.5	栗原文庫受贈
昭52.2		藤本文庫受贈	
昭58.12		大森文庫受贈	
昭63.11		三宅教授旧蔵書受贈	
平2.3		重複製本和雑誌管理換(上越教育、鳴門教育)	
平3.1		松井(秀)教授旧蔵書受贈	
平3.2		珠玖教授旧蔵書受贈	
平3.3		佐藤(恒)教授旧蔵書受贈	
平4.8		川村(重)教授旧蔵書受贈	
平5.5		岡本教授旧蔵書受贈	
平9.4		大塚久雄蔵書受贈、文庫として整理	
平9.5		今野源八郎蔵書受贈	
平14.1		「大塚久雄文庫」開設	
平14.4	今野源八郎蔵書目録検索(和資料)公開		

区 分	実 施 経 過	
	昭和24年度～平成15年度	
施設・設備	昭26.12	学芸学部分館書庫(鉄筋コンクリート3階建、延219㎡)新営工事竣工
	昭27.11	経済学部分館書庫(一部平屋建を鉄骨モルタル2階建、92㎡)増築竣工
	昭38.12	学芸学部分館書庫(鉄筋コンクリート3階建、延162㎡)増築竣工
	昭43.10	経済学部分館閲覧室(鉄骨モルタル、104㎡)、書庫(鉄筋ブロック2階建、延145㎡)増築竣工
	昭48.3	教育学部分館目録室を学生閲覧室(132㎡)に増改築、事務室を書庫(積層式書架)に模様替竣
	昭50.8	教育学部分館閲覧出納室一部模様替
	昭51.3	教育学部分館開架書庫を積層式書架に模様替
	昭55.3	福島大学統合移転に伴う附属図書館棟の新営工事に着工
	昭56.2	附属図書館棟(鉄筋コンクリート建、地下1階地上2階5,221㎡)が竣工
	昭56.4	金谷川キャンパスに移転、業務開始
	昭60.3	書庫4層(274㎡)書架増設
	昭60.4	ブックデテクションシステムを導入
	昭62年度	マイクロリーダープリンター更新
	平2.1	自由閲覧室を教官用雑誌室に用途変更
	平2.8	開架閲覧室に冷房設備設置
	平3.3	名誉教授閲覧室をマイクロリーダー室に転用
	平6.3	電動式集密書架設置
	平6.3	入退館管理システム設置
	平6.8	書庫、マイクロリーダー室等増築竣工、全館冷房設備設置
	平7.3	貴重図書室整備開始(～12年度)
	平8.3	複写機(ブックコピー)更新
	平8.3	マイクロ撮影機を設置
	平8.3	マイクロリーダープリンタを更新
	平10.3	雑誌室複写機更新
	平11.3	視聴覚室プロジェクター更新
	平11.3	軽読書コーナーに利用者用テレビ設置
	平11.3	自動図書貸出返却装置設置
	平12.3	CD-ROMサーバ設置
	平12.3	研究用複写機(2台)更新
	平13.3	情報処理センター教育用パソコン31台設置(マルチメディア室内)
	平13.3	カラープリンタ設置
	平13.3	冷水機を更新
	平13.3	喫煙コーナー設置、分煙システムを設置
	平13.11	無線LAN設置
	平13.11	VODシステムを情報処理センターに設置
	平15.1	カラー複写機設置
	平15.3	全学お知らせ配信システム整備の一環として電子掲示板を設置
	平15.3	書庫内照明スイッチに「人体感知センサー」設置
	平15.3	パウダールーム設置
	平15.3	閲覧机(1人用)・椅子10組購入(学生定員10%確保)
平15.3	マルチメディア室授業用パソコン更新(情報処理センター)	

区 分	実 施 経 過
	昭和24年度～平成15年度
目 録	<p>昭26年度 「Catalogue of the Fukushima University library : part 1」(経済分館)刊行</p> <p>昭36年度 「支那関係資料目録」(学芸学部分館)刊行</p> <p>昭50.9 「指定図書目録」を刊行</p> <p>昭50.12 「福島大学附属図書館経済学部分館蔵書目録 和漢書編(2)」(経済分館)刊行</p> <p>昭50.12 「福島大学附属図書館経済学部分館蔵書目録 洋書編(2)」(経済分館)刊行</p> <p>昭50.12 「福島大学附属図書館経済学部分館所蔵雑誌目録」(経済分館)刊行</p> <p>昭52.3 「福島大学附属図書館継続受入雑誌目録」刊行</p> <p>昭52.3 「福島大学附属図書館教育分室所蔵参考図書目録:和漢書編」(教育分室)刊行</p> <p>昭54年度 「福島大学附属図書館所蔵雑誌目録:欧文編」を刊行</p> <p>昭56年度 「福島大学附属図書館所蔵雑誌目録稿:和文編」刊行</p> <p>昭60年度 「福島県師範学校郷土資料室所蔵郷土資料目録」刊行</p> <p>昭62.3 「福島大学附属図書館所蔵雑誌目録:和文編」を刊行</p> <p>平元年度 「所蔵視聴覚資料目録」刊行</p> <p>平3.8 「A list of old foreign books : old books in the holdings of Fukushima university, 貴重書目録」を刊行</p> <p>平5年度 「福島大学附属図書館所蔵新聞目録」刊行</p> <p>平9年度 「遊佐昭雄氏寄贈ビデオリスト」刊行</p> <p>平11.3 「福島大学附属図書館所蔵新聞目録」刊行</p> <p>平11.10 「福島大学50周年記念福島大学附属図書館所蔵稀観書展展示目録」刊行</p> <p>平11.10 「福島大学創立50周年記念福島大学附属図書館所蔵稀観書展展示資料解説書」刊行</p> <p>平11年度 「福島大学附属図書館所蔵新聞目録」刊行</p> <p>平13.10 「日本の判例集・法律文献略語一覧」作成</p> <p>平14.1 「大塚久雄文庫目録」刊行</p> <p>平15.3 「大塚久雄の人と学問」(大塚久雄文庫開設記念講演集)作成</p> <p>平15.5 「大塚久雄文庫目録」索引篇刊行</p>
規 程 等	<p>昭26.11 「附属図書館長及び図書館分館長選考基準」制定(昭51.4廃止)</p> <p>昭44.7 「附属図書館文献複写規程」制定</p> <p>昭45.4 「オフセット印刷機等使用内規」制定(昭58.3廃止)</p> <p>昭49.3 「附属図書館協議会規程」(昭58.3廃止)</p> <p>昭51.4 「附属図書館長選考規程」制定</p> <p>昭51.5 「附属図書館規程」制定(58.3廃止)</p> <p>昭57.12 「附属図書館防火対策委員会細則」制定</p> <p>昭58.3 「附属図書館規程」制定</p> <p>昭58.3 「附属図書館協議会規程」制定</p> <p>昭58.3 「附属図書選定委員会規程」制定</p> <p>昭58.3 「附属図書館利用規程」制定</p> <p>昭58.3 「図書選定委員会規程」制定</p> <p>昭60.2 「福島県内大学図書館連絡協議会会則」制定</p> <p>昭62.10 「附属図書館事務部事務分掌規程」制定(平6.3全面改正)</p> <p>昭63.3 「図書館利用者協議会規程」制定</p> <p>昭63.7 「貴重図書委員会要項」制定</p> <p>平元.7 「学術情報センター情報検索サービスのうち二次情報データベース利用取扱要領」制定</p> <p>平元.9 「附属図書館利用細則」制定</p> <p>平元.10 「附属図書館文献複写料金徴収猶予実施細則」制定</p> <p>平2.10 「附属図書館自己評価実施要項」制定</p> <p>平2.10 「附属図書館資料の不用の決定について」(図協申し合わせ)</p> <p>平2.12 「附属図書館資料の不用決定基準」制定</p> <p>平5.3 「附属図書館自己評価実施要項」制定</p> <p>平5.8 「学術情報センター情報検索サービスガイドライン」制定</p> <p>平6.3 「附属図書館事務部事務分掌規程」制定</p> <p>平9.1 「附属図書館ネットワーク管理委員会要項」制定</p> <p>平13.2 「附属図書館一般市民利用内規」制定</p> <p>平13.2 「附属図書館一般市民利用内規の運用方針について」(図協了承)</p>

区 分	実 施 経 過	
	昭和24年度～平成15年度	
広 報	昭42年度	'福島大学附属図書館要覧'(昭和42年度)を作成(5号で終刊)
	昭56.6	'図書館だより'創刊、2号から'図書館ニュース'に改称(4号で終刊)
	昭59年度	'福島大学附属図書館概要'(昭和59年度)を作成
	昭59.12	図書館報'書燈'創刊
	昭63.2	'学術情報ニュース'創刊、2号から'図書館学術情報ニュース'に改称(10号で終刊)
	平4.2	'福島大学附属図書館概要'(H3年度)を作成
	平5.11	図書館報'書燈'年2回発行開始
	平7.3	'福島大学図書館百科'刊行
	平7.4	'レファレンス・サービス・ニュース'創刊
	平12.3	附属図書館カレンダーを作成
	平13.11	'一般市民のための利用案内'作成、公民館等に配布
	平14.10	'福島大学附属図書館概要'リーフレット版作成
	平15.3	図書館報'書燈'2色刷り印刷開始(編集内容の改善)
そ の 他	昭59.3	'裸足の修道女'(太田良平作,木彫)エントランスロビーに展示
	平4.3	学生用図書購入費総額問題決着
	平4.5	学生用図書購入費負担率問題決着
	平5.10	図書館自己評価実施報告書作成
	平5.12	'金谷川風景'(吉井忠作,油絵)エントランスロビーに掲額
	平9.4	大塚文庫創設委員の委嘱
	平9年度	大塚文庫基金として奨学寄付金受納(~12年度)
	平11.10	金谷川団地サイン計画でエントランスロビー正面壁面に'文字なき生は死なり'の表示
	平12.4	大学基準協会加盟に係る自己点検・評価実施
	平13年度	点字による図書館内利用各室名称を整備
	平14.7	研究室貸出図書現物調査実施
	平14.8	資産(承継財産)額仮確定
	平14.9	利用者アンケートを実施
	平15.3	承継財産リスト用原簿データ作成(外注)
	平15.3	図書館業務全般の'業務マニュアル'を作成
	平14年度	中期目標中期計画策定
学 内	昭24.5	新制大学として福島大学設置(学芸学部、経済学部)
	昭27.4	経済短期大学部併設
	昭39.5	一般会計から国立学校特別会計に所属替
	昭41.4	学芸学部から教育学部に名称変更
	昭41.4	教育学部附属幼稚園設置
	昭51.4	大学院経済学研究科修士課程設置
	昭52.4	教育学部附属養護学校設置
	昭53.4	経済学部の拡充・改組により、昼間主コース、夜間主コース設置
	昭55.3	経済短期大学部廃止
	昭56.4	保健管理センター設置
	昭56.4	教育学部附属教育実践研究指導センター設置
	昭60.4	大学院教育学研究科修士課程設置
	昭62.10	行政社会学部設置
	平5.4	大学院地域政策科学研究科修士課程設置
	平7.4	生涯学習教育研究センター設置
	平8.5	教育学部附属教育実践研究指導センターを教育学部附属教育実践総合センターに拡充改組
	平13.4	地域創造支援センター設置
	平15.4	総合情報処理センター設置

福島大学自己評価委員会名簿

委員 長	中 川 弘	副学長
委員	渡 邊 明	評議員
〃	千 葉 悦 子	評議員
〃	柴 原 哲 太 郎	評議員

福島大学自己評価チーム名簿

主 査	勝 倉 壽 一	附属図書館自己評価委員長
	松 井 明 徳	附属図書館自己評価委員
	初 澤 敏 生	附属図書館自己評価委員
	九 頭 見 和 夫	附属図書館自己評価委員
	中 山 庸 子	附属図書館自己評価委員
	畑 宏 樹	附属図書館自己評価委員
	佐々木 康 文	附属図書館自己評価委員
	菊 池 壮 蔵	附属図書館自己評価委員
	熊 澤 透	附属図書館自己評価委員
	角ヶ谷 典 幸	附属図書館自己評価委員
	芳 賀 盛 行	附属図書館自己評価委員

福島大学附属図書館自己評価専門委員会名簿

委員 長	芳 賀 盛 行	附属図書館事務長
委員	小 椋 正 行	附属図書館専門員
〃	三 本 木 勝 則	附属図書館総務係長
〃	安 斎 善 明	附属図書館情報管理係長
〃	河 野 忠 市	附属図書館情報サービス係長
〃	南 俊 二	附属図書館学術情報係長

利用者アンケート集計結果報告

(平成 14 年 9 月 ~ 10 月実施)

目 次

はじめに	1
福島大学附属図書館利用者アンケート	2
(1) 回答者の所属と身分	7
(2) 開館時間・開館日について	8
開館時間	8
開館日	9
(3) 利用頻度について	10
(4) 利用目的について	11
(5) 図書館資料利用について	15
開架図書	15
参考図書	17
新聞	19
電子資料	21
学位論文	23
書庫内図書	16
雑誌	18
視聴覚資料	20
貴重図書	22
図書館資料利用についての意見	23
(6) 図書館資料の充実について	24
(7) 授業関連図書の利用について	26
(8) 学生用図書の購入希望について	27
(9) 図書館資料の検索について	28
(10) 図書館サービスについて	30
レファレンスサービス	30
他大学図書館所蔵の現物貸借	34
他大学図書館サービスへの意見	37
他大学図書館資料の文献複写	32
他大学図書館訪問利用	36
(11) 貸出冊数について	38
(12) 貸出期間について	39
(13) 図書館利用のための諸手続きについて	40
(14) 図書館職員の対応について	41
(15) 図書館の環境について	42
建物	42
空調・冷暖房	44
図書の配置・配列	46
部屋の配置	48
照明	43
話し声・雑音	45
閲覧席	47
案内板等	49
施設・設備についての希望・要望	50
(16) 情報機器・視聴覚機器について	51
蔵書検索用パソコン	51
学習用パソコン	53
情報検索用パソコン	52
視聴覚機器類	54
(17) 図書館利用ガイダンスについて	55
新入生図書館ガイダンス	55
情報探索基礎講座	57

(1 8)	図書館報「書燈」について	59
(1 9)	レファレンス・サービス・ニュースについて	60
(2 0)	ホームページで提供しているサービスについて	61
	利用案内.....61	O P A C.....63
	N A C S I S - W E B C A T...65	C D - R O M.....67
	電子ジャーナル...69	資料購入・文献複写依頼...71
	レファレンス.....72	本学関係雑誌目次D B...74
	リンク集.....76	広報誌等.....78
	図書館ホームページへの希望・要望...80	
(2 1)	雑誌の利用(電子ジャーナル・冊子体)について	81
(2 2)	図書館への希望・要望について	82
	利用者アンケートに出された「声」	84

福島大学附属図書館利用者アンケート集計結果報告

はじめに

利用者アンケートは、今後の図書館の管理運営と利用者サービスの改善に向け、自己点検・評価を行うことを目的に、教官を対象として平成14年9月2日～24日、学生を対象として平成14年10月1日～21日の期間で実施した。

アンケートの回収は全体で712名(学生571名、大学院生27名、教官104名、職員1名、学外者9名)であった。2002年5月現在の学生・大学院生・教官の合計は4,870名であるので、回収率は14.4%である。アンケートは図書館内において実施したため、回答者は主に図書館を利用している利用者が中心であったと考えられる。

集計作業にはアンケート分析ソフトを使用した。これは今後利用者へのサービス改善を図るために利用者の身分毎の要望が多様な角度からの分析に対応できるようにするためである。そのため、回収した1人ひとりのアンケートについて設問ごとの回答を1件1件入力したが、利用者アンケート結果報告をまとめるのに時間がかかることとなった。

この報告では回答者数を単純にまとめた全体集計と身分毎集計の組み合わせで作成した。また、全体の集計結果には職員と学外者を「その他」として取り扱うこととしたが、身分別集計では学生・大学院生・教官による意見を中心として作成した。

意見・要望は数多く出されたが、同じ内容の意見・要望が多かったので、まとめて集計した。意見等の後についているカッコは人数である。また、集計の過程で意見として出された中から、主なものを抜き出し「生の声」としてまとめて最後に掲載した。

福島大学附属図書館 利用者アンケート

福島大学附属図書館

この調査は、本学附属図書館の利用に関する自己点検・評価を行うため、その基礎資料を得ることを目的として行うものです。ご多忙のところ恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださるようお願いいたします。

回答は、設問毎に該当する選択肢の 〇 にしを記入し、図書館ロビーに設置してある回収ボックスに投函してください。 アンケートの実施期間は 平成14年10月1日(火)～10月21日(月)とします。

なお、この調査に関するお問い合わせは、附属図書館情報サービス係へお願いします。

1. 所属等について

(1) あなたの所属についてお尋ねします。

- | | | | | |
|--------|-----------|--------|-------|---|
| 1) 部局名 | 教育学部 | 行政社会学部 | 経済学部 |) |
| | その他() | | | |
| 2) 身分 | 学部学生(昼間主 | 夜間主) | 大学院学生 |) |
| | 教官 | 職員 | その他(|) |

2. 本学附属図書館等の利用について

【利用時間】

(2) あなたは、図書館の開館時間・開館日についてどう思いますか。

- | | | | |
|---------|-------------|-----------------|---|
| 1) 開館時間 | 現状でよい | 延長してほしい(時まで) |) |
| | その他(具体的に:) | | |
| 2) 開館日 | 現状でよい | 増やしてほしい(具体的に:) |) |
| | その他(具体的に:) | | |

【利用頻度】

(3) あなたは、図書館をどの程度利用していますか。

- | | | | | |
|-------------|-----------|-----------|-----------|---|
| 毎日 | 1週間に2回以上 | 1週間に1回ぐらい | 2週間に1回ぐらい |) |
| 月に1回ぐらい | ほとんど利用しない | | | |
| その他(具体的に:) | | | | |

【利用目的】

(4) あなたが図書館を利用する目的は何ですか。頻度の高いものを記入してください。(複数回答可)

- | | | |
|---------------------------|---------------|-----------------|
| 一般教養図書の利用 | 専門図書の利用 | 参考図書(辞典・年鑑等)の利用 |
| 新着雑誌の利用 | 雑誌バックナンバーの利用 | 新聞の利用 |
| 文献複写(資料のコピー) | 電子ジャーナル | |
| 情報検索(CD-ROM, DVD等のデータベース) | 情報検索(インターネット) | |
| 学習用パソコン(レポート作成, メール等) | | |
| 閲覧席等の利用(開架閲覧席 | 共同学習室 | 視聴覚室 |
| 研究用閲覧席) | | |
| 休憩 | その他(具体的に:) | |

【図書館資料利用】

(5) あなたは、図書館のどの資料を利用したことがありますか。その資料を使って満足できましたか。

- 1) 開架図書 満足 ふつう 不満(理由:)
- 2) 書庫内図書 満足 ふつう 不満(理由:)
- 3) 参考図書(辞典・年鑑等) 満足 ふつう 不満(理由:)
- 4) 雑誌 満足 ふつう 不満(理由:)
- 5) 新聞 満足 ふつう 不満(理由:)
- 6) 視聴覚資料 満足 ふつう 不満(理由:)
- 7) 電子資料(CD-ROM等) 満足 ふつう 不満(理由:)
- 8) 貴重図書 満足 ふつう 不満(理由:)
- 9) 学位論文 満足 ふつう 不満(理由:)
- 10) その他(具体的に:)

(6) あなたは、図書館資料のうち、次のどれを充実すべきだと思いますか。(複数回答可)

- 専門教育関連図書 教養教育関連図書 参考図書(辞典・年鑑等) 雑誌
- 新聞 視聴覚資料 CD-ROM オンラインデータベース 電子ジャーナル
- その他(具体的に:)
- 特に充実してほしい分野(具体的に:)

次の設問(7)(8)は学部学生の方のみお答えください。

(7) あなたは、授業に関連した図書(教官に紹介された図書、指定文献等)をどの程度利用していますか。

- よく利用している 時々利用している 利用していない
- 利用したいができない(具体的に:)

(8) あなたは、今までに学生用図書の購入希望(推薦)を申し込んだことがありますか。

- ある(回) 申込制度は知っているが申し込んだことはない
- 申込制度を知らない その他(具体的に:)

【図書館資料検索】

(9) あなたは、利用したい資料をどのようにして検索しますか。(複数回答可)

- 図書館のパソコンで検索する 図書館の職員に調べてもらう
- 研究室等からパソコンで検索する 直接書架を見て探す
- カード目録で検索する その他(具体的に:)

【情報サービス】

(10) あなたは、次の図書館サービスについて利用したことがありますか。

- 1) レファレンスサービス(資料の所在, 事項調査等)
 - 利用した 満足 ふつう 不満(具体的に:)
 - 利用したことがない 知らなかった
- 2) 他大学所蔵資料の文献複写
 - 利用した 満足 ふつう 不満(具体的に:)
 - 利用したことがない 知らなかった
- 3) 他大学図書館資料の現物貸借
 - 利用した 満足 ふつう 不満(具体的に:)
 - 利用したことがない 知らなかった

- 4) 他大学図書館訪問利用(紹介状)
 利用した 満足 ふつう 不満(具体的に:)
 利用したことがない 知らなかった)
 5) その他(具体的に:)

(11) あなたは、図書館の貸出冊数についてどう思いますか。
 現状でよい 増やしてほしい(冊に) 減らしてほしい(冊に)
 借りたことがない その他(具体的に:)

(12) あなたは、図書館の貸出期間についてどう思いますか。
 現状でよい 延長してほしい(日間に) 短縮してほしい(日間に)
 借りたことがない その他(具体的に:)

(13) あなたは、図書館利用のための諸手続き(貸出,複写申込,視聴覚室等使用申込,紹介状)についてどう思いますか。
 現状でよい 改善した方がよい(具体的に:)
 利用したことがない その他(具体的に:)

(14) あなたは、図書館の職員の対応についてどう思いますか。
 よい ふつう 悪い(具体的に:)

【施設・設備】

- (15) あなたは、図書館の環境(建物・照明等)についてどう思いますか。
- 1) 建物 満足 ふつう 不満(何をどのようにしてほしいですか)
 (具体的に:)
- 2) 照明 満足 ふつう 不満(何をどのようにしてほしいですか)
 (具体的に:)
- 3) 空調・冷暖房 満足 ふつう 不満(何をどのようにしてほしいですか)
 (具体的に:)
- 4) 話し声・雑音 満足 ふつう 不満(何をどのようにしてほしいですか)
 (具体的に:)
- 5) 図書の配置・配列 満足 ふつう 不満(何をどのようにしてほしいですか)
 (具体的に:)
- 6) 閲覧席 満足 ふつう 不満(何をどのようにしてほしいですか)
 (具体的に:)
- 7) 部屋の配置 満足 ふつう 不満(何をどのようにしてほしいですか)
 (具体的に:)
- 8) 案内板等 満足 ふつう 不満(何をどのようにしてほしいですか)
 (具体的に:)
- 9) 施設・設備についてどのような希望,要望をお持ちですか。

[]

(16) あなたは、図書館の情報機器・視聴覚機器についてどう思いますか。

1) 蔵書検索(OPAC)用パソコン

満足 ふう 不満(何をどのようにしてほしいですか)

(具体的に:)

2) 情報検索(CD-ROM, インターネット)用パソコン

満足 ふう 不満(何をどのようにしてほしいですか)

(具体的に:)

3) 学習(レポート作成等)用パソコン

満足 ふう 不満(何をどのようにしてほしいですか)

(具体的に:)

4) 視聴覚機器類(ビデオデッキ, DVDプレーヤー, CDプレーヤー)

満足 ふう 不満(何をどのようにしてほしいですか)

(具体的に:)

【情報リテラシー等】

(17) あなたは、図書館利用ガイダンスについてどう思いますか。

1) 新入生図書館ガイダンス

参加した 現状でよい 改善した方がよい(具体的に:)

知っていたが参加しなかった 知らなかった

2) 情報探索基礎講座

参加した 現状でよい 改善した方がよい(具体的に:)

知っているが参加したことがない 知らなかった

【広報】

(18) あなたは、図書館報「書燈」を知っていますか。

欠かさず読んでいる 時々読んでいる 読んだことがない 知らない

(要望等:)

(19) あなたは、「レファレンス・サービス・ニュース」を知っていますか。

欠かさず読んでいる 時々読んでいる 読んだことがない 知らない

(要望等:)

3. ネットワーク等を利用した図書館利用について

(20) あなたは、図書館がホームページで提供している以下のサービスを利用したことがありますか。

1) 利用案内

利用した 満足 ふう 不満(理由:)

利用したことがない 知らなかった

2) OPAC(オンライン蔵書目録)

利用した 満足 ふう 不満(理由:)

利用したことがない 知らなかった

3) NACSIS-WEBCAT

利用した 満足 ふう 不満(理由:)

利用したことがない 知らなかった

- 4) CD-ROM
 利用した 満足 ふつう 不満(理由:)
 利用したことがない 知らなかった
- 5) 電子ジャーナル
 利用した 満足 ふつう 不満(理由:)
 利用したことがない 知らなかった
- 6) 資料購入・文献複写依頼
 利用した 満足 ふつう 不満(理由:)
 利用したことがない 知らなかった
- 7) レファレンス
 利用した 満足 ふつう 不満(理由:)
 利用したことがない 知らなかった
- 8) 本学関係雑誌目次DB
 利用した 満足 ふつう 不満(理由:)
 利用したことがない 知らなかった
- 9) リンク集(新聞/報道, 図書館関係, 機関/団体等)
 利用した 満足 ふつう 不満(理由:)
 利用したことがない 知らなかった
- 10) 広報誌等(書燈, レファレンス・サービス・ニュース)
 利用した 満足 ふつう 不満(理由:)
 利用したことがない 知らなかった
- 11) あなたは, 図書館のホームページについてどのような希望・要望をお持ちですか。

()

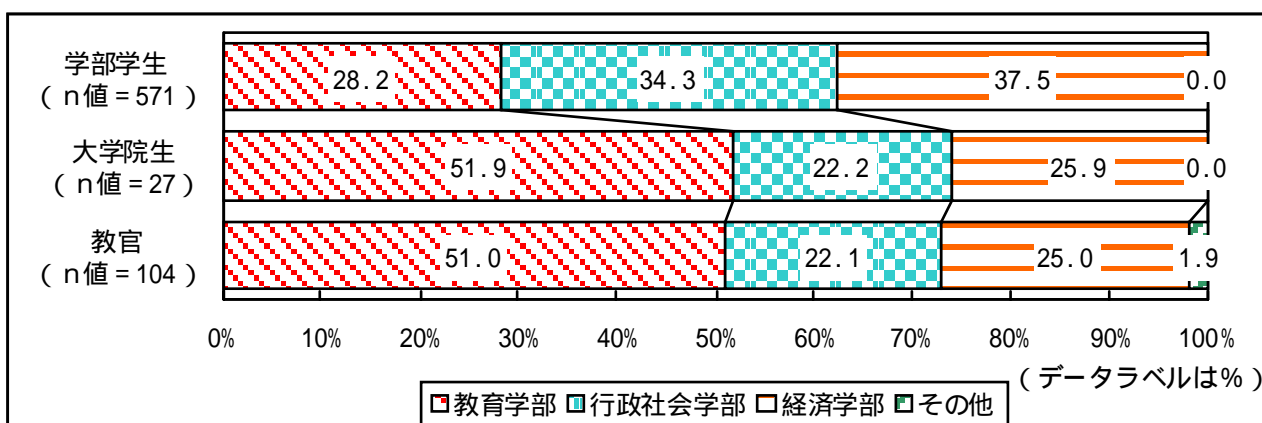
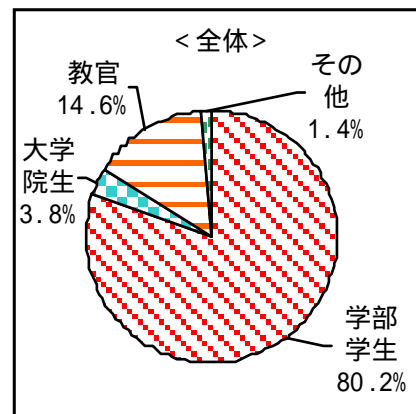
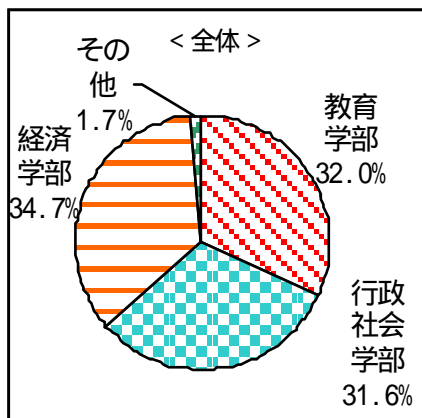
- (21) 雑誌の利用に関して, あなたは電子ジャーナルと冊子体のどちらを利用していますか。
 電子ジャーナル 冊子体 どちらも使う
 その他(具体的に:)

- (22) あなたは, 図書館に対してどのような希望・要望をお持ちですか。

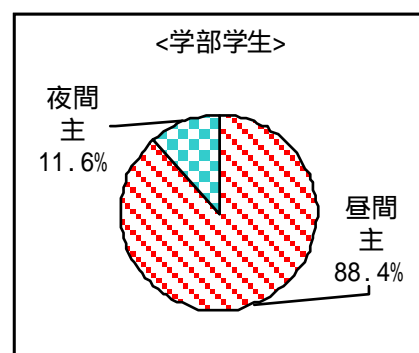
ご協力ありがとうございました。

(1) 回答者の所属と身分

	合計	教育学部	行政社会学部	経済学部	その他
合計	712	228	225	247	12
学部学生	571	161	196	214	
大学院生	27	14	6	7	
教官	104	53	23	26	2
その他	10				10



	合計	昼間主	夜間主
学部学生	571	505	66



学生からの回収率は全学生 4,366 名の 13.1%であった。回答した学生 571 名の内訳を学部毎で見ると教育学部生 28.2%、行政社会学部生 34.3%、経済学部生 37.5%で3学部とも平均した回収結果となったが、このことから学部毎の図書館の利用には大きな差は見られないと考えられる。また、夜間主生からも 66 名の回答があった。

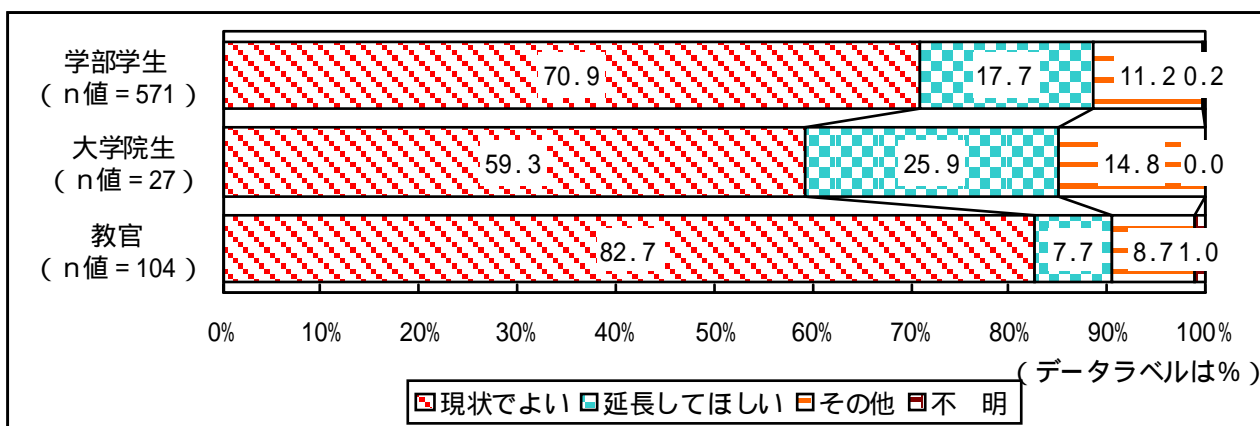
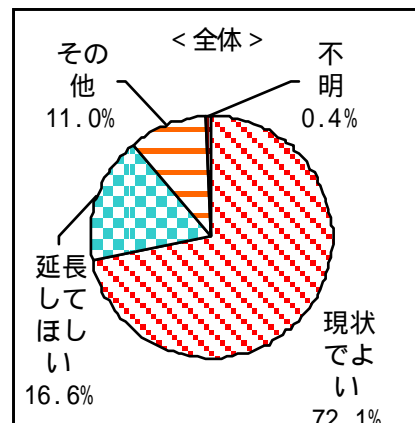
大学院生からの回収率は全院生 243 名の 11.1%で、回収数が少ないのが気になるところである。

教官からの回収率は全教官 261 名の 39.8%となり、回答した 104 名の内訳は教育学部 51.0%、行政社会学部 22.1%、経済学部 25.0%であった。

(2) あなたは、図書館の開館時間・開館日についてどう思いますか。

(2-1) 開館時間

	合計	現状でよい	延長してほしい	その他	不明
合計	712	513	118	78	3
学部学生	571	405	101	64	1
大学院生	27	16	7	4	
教官	104	86	8	9	1
その他	10	6	2	1	1



開館時間については、7割を超える学生が現状で良いとの回答であるが、延長を希望する学生は自由記述での意見を含め約2割となっている。特に、夜間主生からの希望が多い。開館時間延長の希望は22時までが大半を占めた。さらに、自由記述意見からは長期休業期間中の開館時間の延長が多くあり、また、朝の開館をできるだけ早くという意見も目立った。大学院生は現状でよいが約6割となっているが、約4割が何らかの形での延長を希望している。教官は大半が現状でよいとの意見となっている。

《延長してほしい時間》

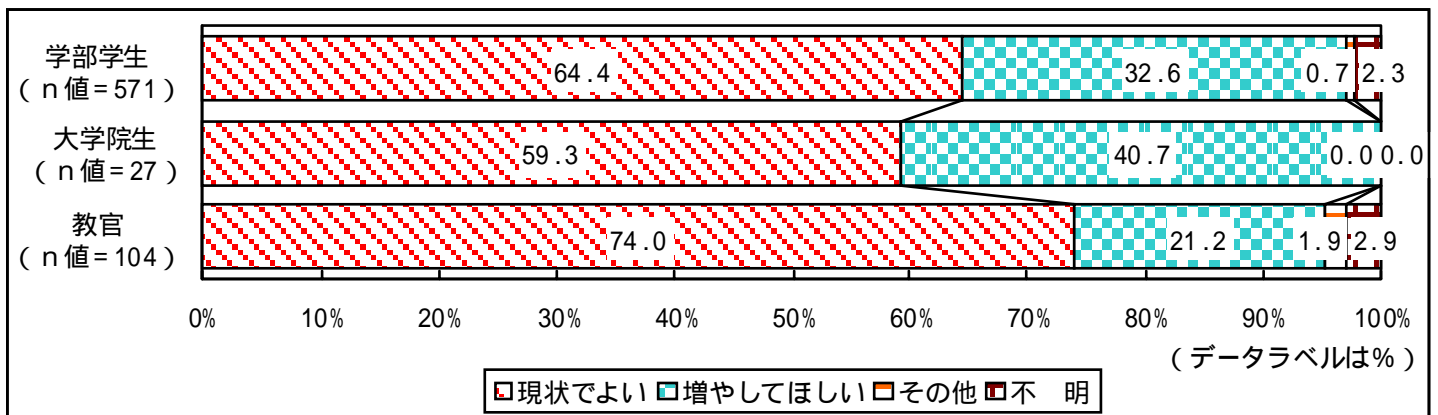
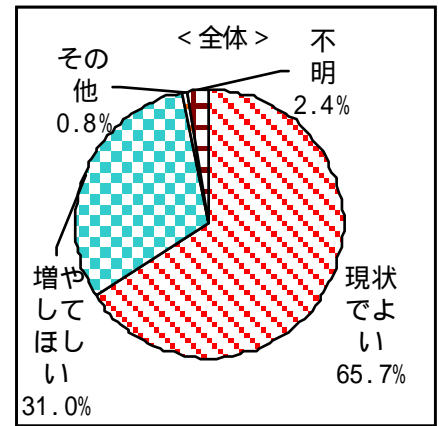
- ・22時まで (63)
- ・23時まで (20)
- ・24時まで (15)
- ・21時30分まで (4)

《その他の意見》

- ・長休期間も21時まで (15)
- ・長休期間開館時間延長 (11)
- ・長休期間も19時まで (3)
- ・8時30分開館 (16)
- ・8時40分開館 (8)
- ・8時開館 (7)
- ・開館時間を早く (3)

(2-2) 開館日

	合計	現状でよい	増やしてほしい	その他	不明
合計	712	468	221	6	17
学部学生	571	368	186	4	13
大学院生	27	16	11		
教官	104	77	22	2	3
その他	10	7	2		1



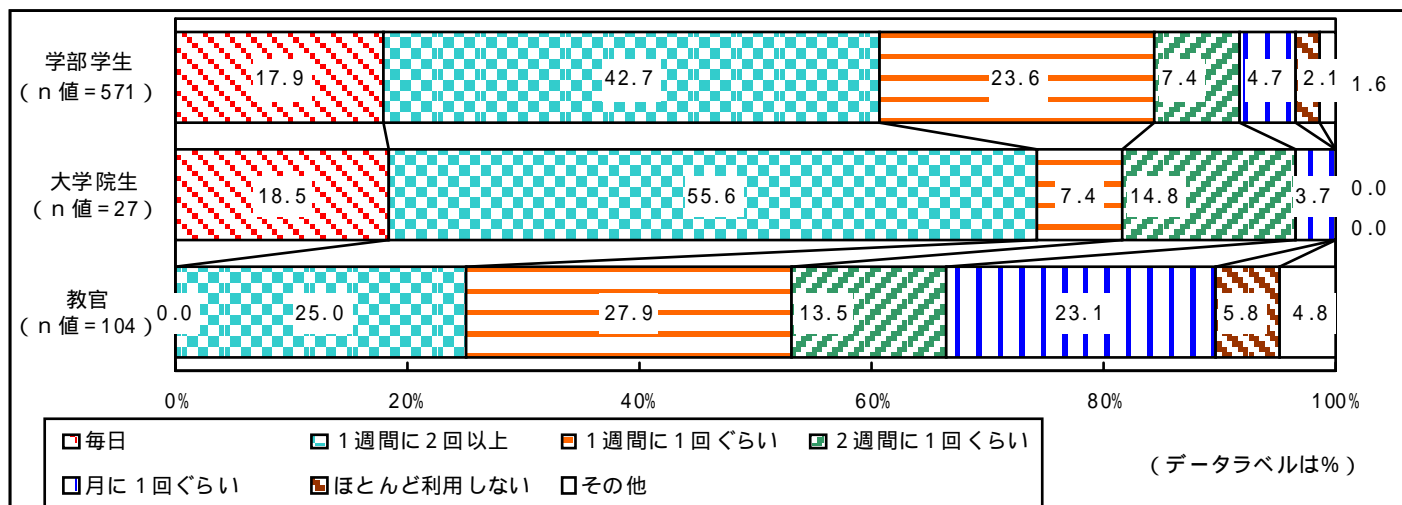
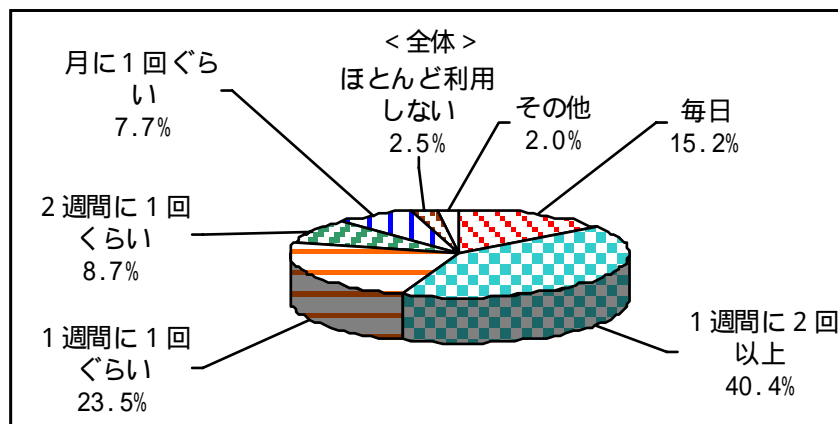
開館日については学生の65%が現状でよいと答えているが、30%を超える学生が増やして欲しいとの意見であり、日曜開館の希望が特に多く、ついで日曜・祝日を含んだ休日開館となっている。大学院生は約6割が現状でよいとしているが、4割を越す院生が開館日の増加を希望し、日曜開館が多い。教官は現状でよいとの回答が74%を占めた。

《開館日増への意見》

- ・日曜日 (115)
- ・休日開館 (51)
- ・日曜各週 (11)
- ・毎日 (9)
- ・試験期の休日 (7)

(3) あなたは、図書館をどの程度利用していますか。

	合計	毎日	1週間に2回以上	1週間に1回ぐらい	2週間に1回ぐらい	月に1回ぐらい	ほとんど利用しない	その他
合計	712	108	288	167	62	55	18	14
学部学生	571	102	244	135	42	27	12	9
大学院生	27	5	15	2	4	1		
教官	104		26	29	14	24	6	5
その他	10	1	3	1	2	3		



図書館の利用頻度については、学生と大学院生は毎日利用するものを含め、1週間に1回以上と答えたものが8割を超えており、図書館を頻繁に利用している実態がうかがえる。教官は1週間に1回以上利用する割合は5割を超えたところにとどまっており、必要な時あるいは研究室からの利用などの意見もあった。

《その他の意見》

- ・必要な時(6)
- ・テスト前、レポート作成(4)
- ・数ヶ月に1回(2)

(4) あなたが図書館を利用する目的は何ですか。

学生の利用目的で一番多かったのは専門図書の利用で、次いで一般教養図書の利用、インターネットでの情報検索と続いている。これ以外の項目でも多岐にわたって利用されている現状がうかがえる。

教官は専門図書の利用、雑誌のバックナンバー利用、文献複写(資料のコピー)と続いている。

大学院生は専門図書の利用の次に文献複写(資料のコピー)、雑誌のバックナンバー利用と続いており、学生とは違う傾向を示し、教官の利用目的に近い実態である。

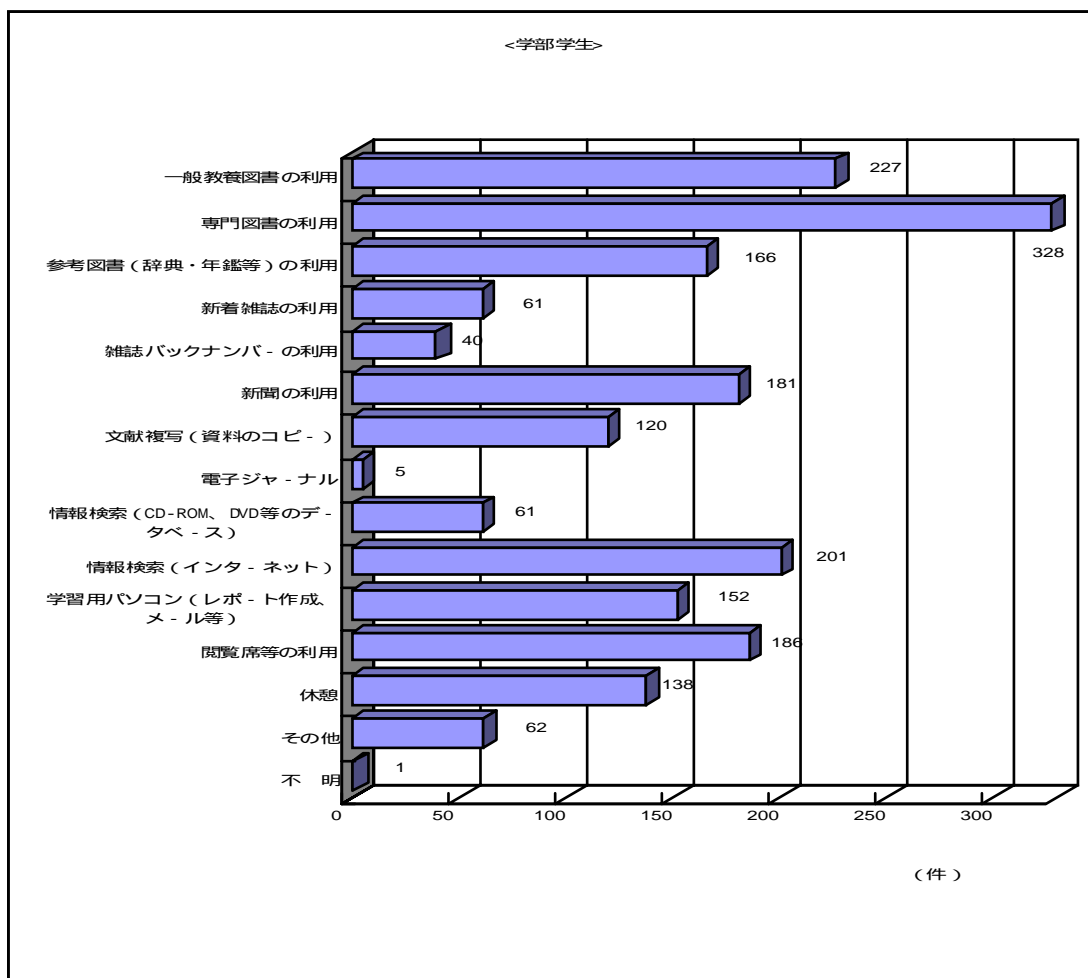
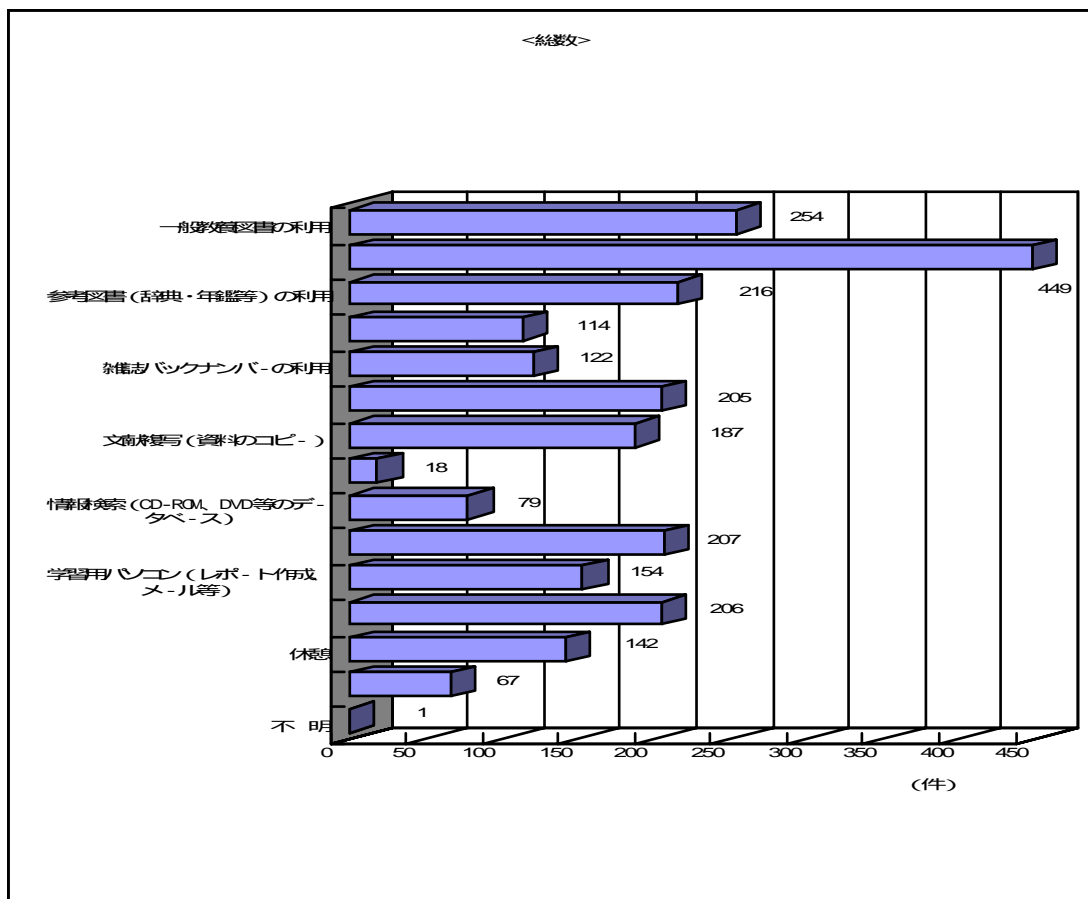
《その他の利用目的》

- ・ 学習のため (44)
- ・ 受験勉強 (3)
- ・ 文献複写依頼 (3)
- ・ 展示鑑賞 (2)

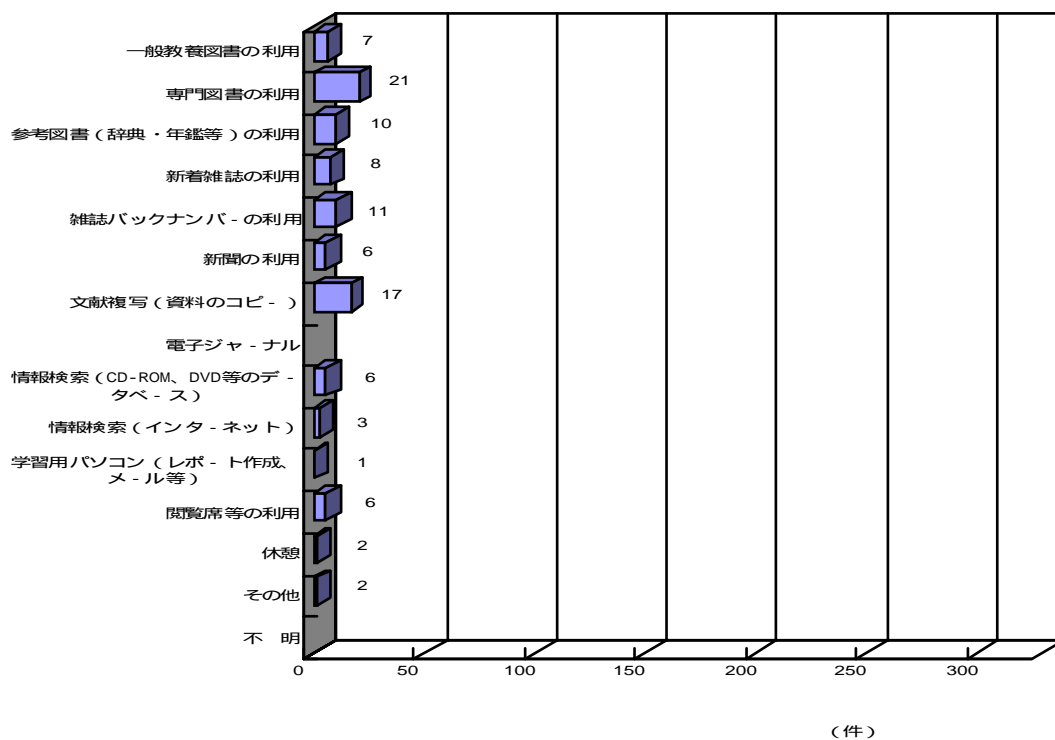
	合計	一般教養図書の利用	専門図書の利用	参考図書(辞典・年鑑等)の利用	新着雑誌の利用	雑誌バックナンバーの利用	新聞の利用
合計	712	254	449	216	114	122	205
学部学生	571	227	328	166	61	40	181
大学院生	27	7	21	10	8	11	6
教官	104	16	94	37	43	68	18
その他	10	4	6	3	1	3	

	合計	文献複写(資料のコピー)	電子ジャーナル	情報検索(CD-ROM、DVD等のデータベース)	情報検索(インターネット)	学習用パソコン(レポート作成、メール等)	閲覧席等の利用
合計	712	187	18	79	207	154	206
学部学生	571	120	5	61	201	152	186
大学院生	27	17		6	3	1	6
教官	104	49	13	12	3	1	8
その他	10	1					6

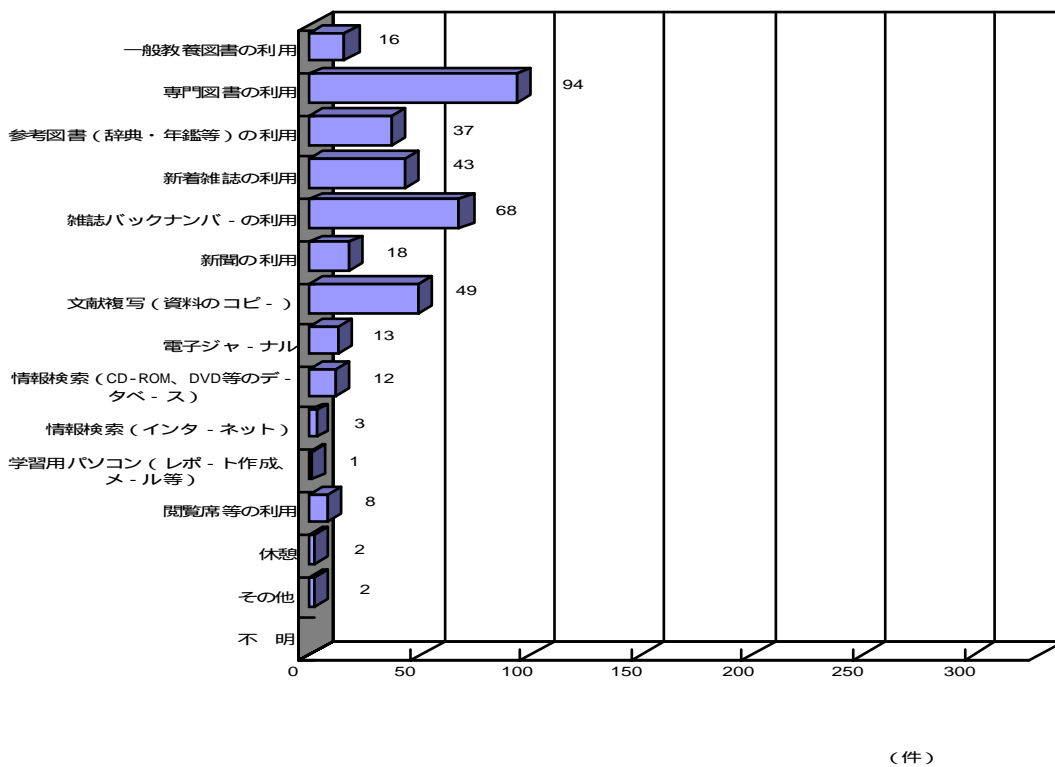
	合計	休憩	その他	不明
合計	712	142	67	1
学部学生	571	138	62	1
大学院生	27	2	2	
教官	104	2	2	
その他	10		1	



<大学院生>

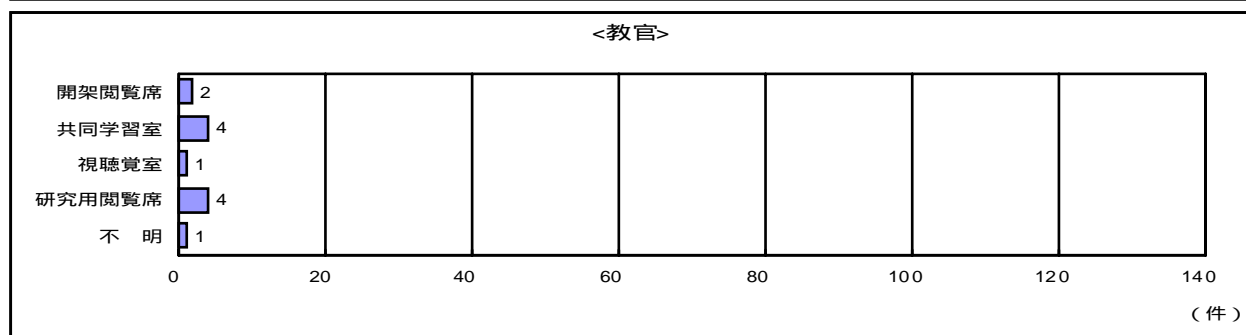
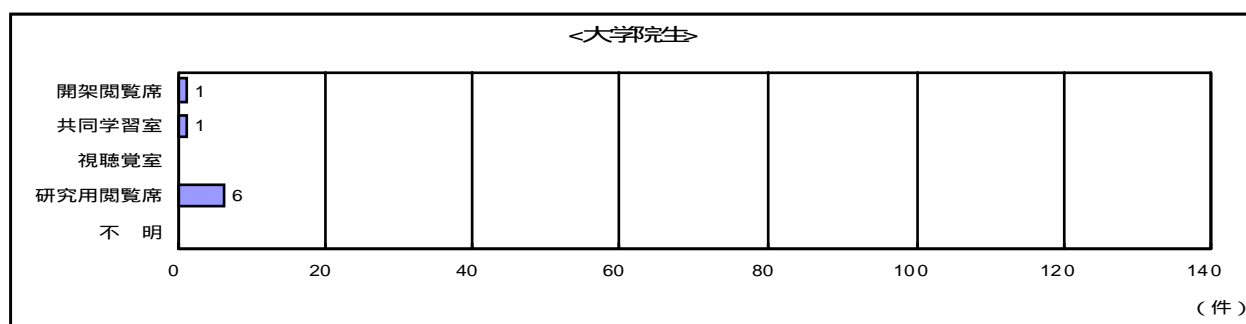
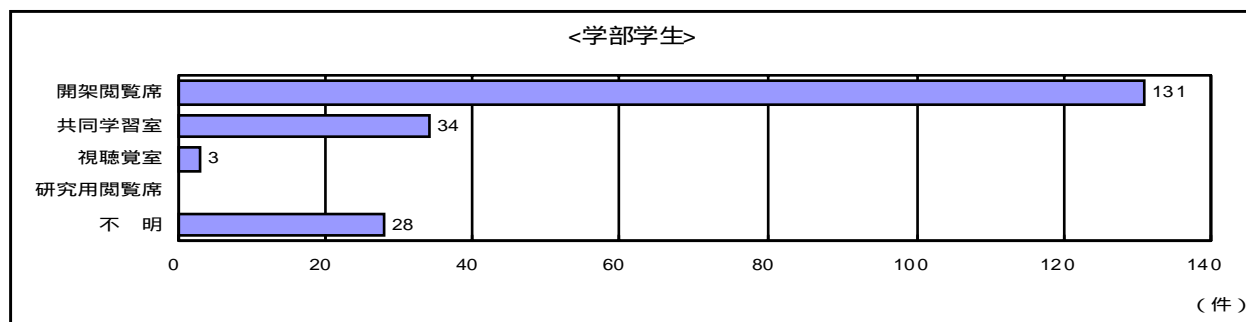
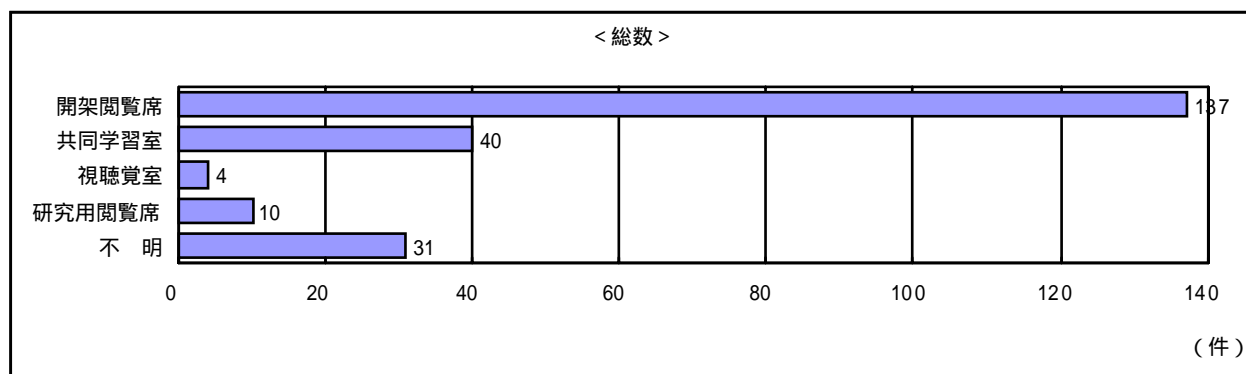


<教員>



閲覧席等の利用では学生は圧倒的に開架閲覧席と答えている中で、共同学習室の利用も多いのは、グループでの学習活動が活発なあらわれと見ることができる。大学院生と教官は研究用閲覧室の利用が多い。

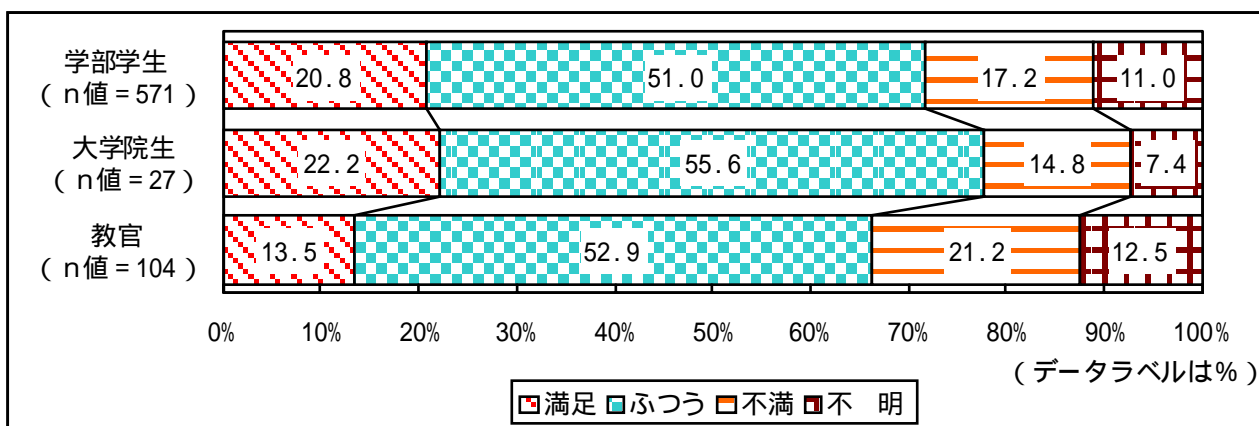
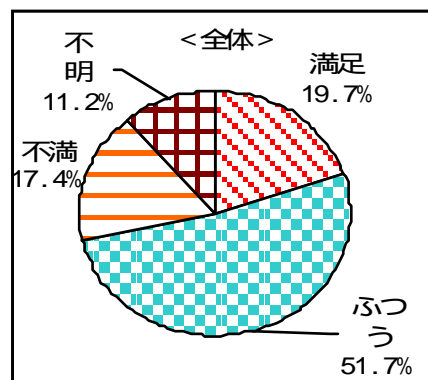
	合計	開架閲覧席	共同学習室	視聴覚室	研究用閲覧席	不明
合計	206	137	40	4	10	31
学部学生	186	131	34	3		28
大学院生	6	1	1		6	
教官	8	2	4	1	4	1
その他	6	3	1			2



(5) あなたは、図書館のどの資料を利用したことがありますか。その資料を使って満足できましたか。

(5-1) 開架図書

	合計	満足	ふつう	不満	不明
合計	712	140	368	124	80
学部学生	571	119	291	98	63
大学院生	27	6	15	4	2
教官	104	14	55	22	13
その他	10	1	7		2



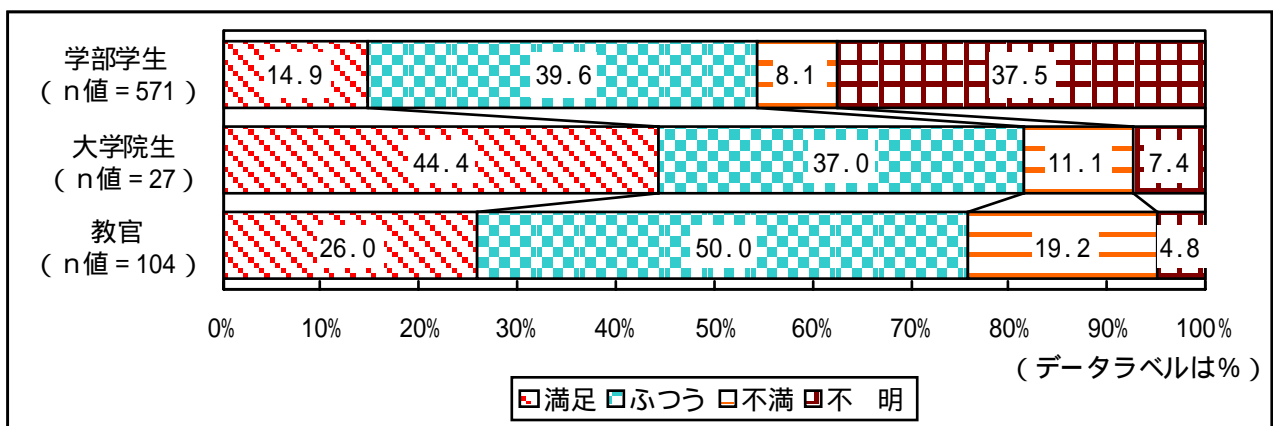
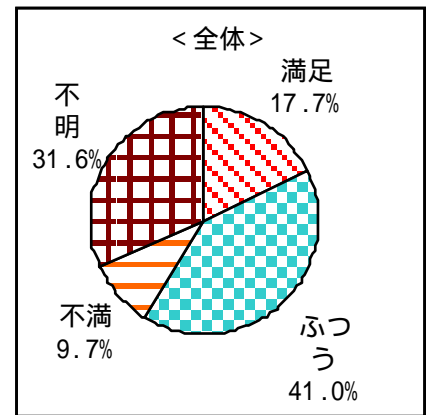
開架図書の利用については、全体の71.4%の利用者が「満足」あるいは「ふつう」と回答している。「不満」は17.4%であった。「不満」を身分毎で見ると学部学生17.2%、大学院生14.8%、教官においては「満足」より多い21.2%が「不満」と答えている。学生と大学院生は新しい本がない、本が少ないということが多く、教官は本が少ないこと、探しにくいことが不満と答えている。

《不満の主な意見》

- ・古い本が多すぎる、新しい本がない(42)
- ・本が少ない(41)
- ・わかりにくい、探しにくい(17)
- ・ほしい本がない(12)

(5-2) 書庫内図書

	合計	満足	ふつう	不満	不明
合計	712	126	292	69	225
学部学生	571	85	226	46	214
大学院生	27	12	10	3	2
教官	104	27	52	20	5
その他	10	2	4		4



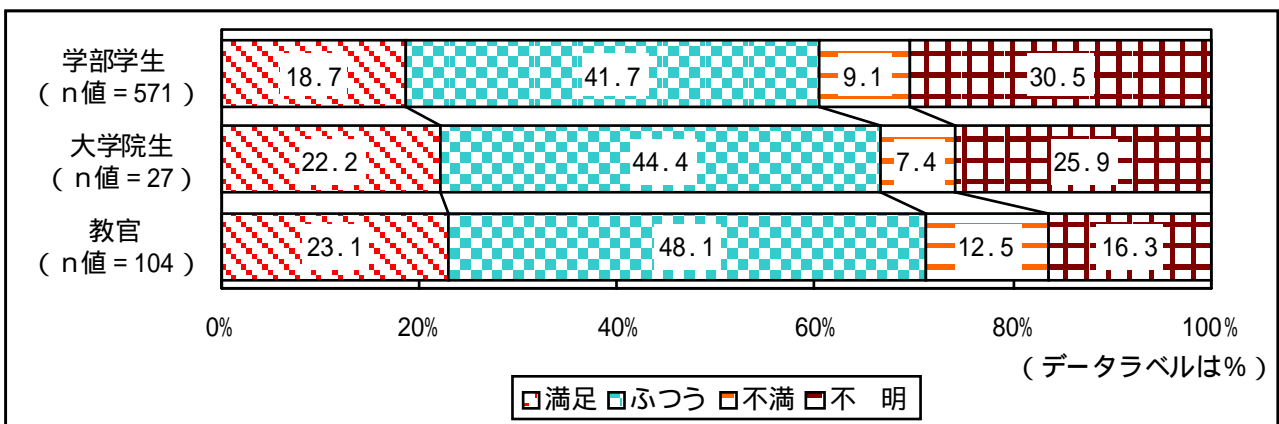
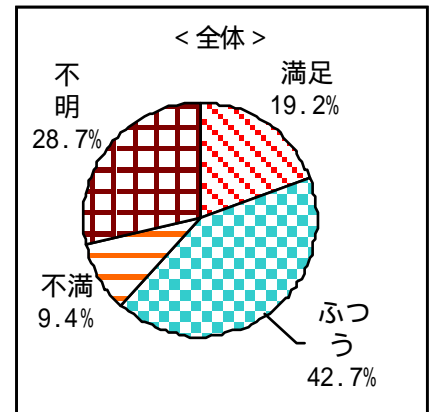
書庫内図書の利用については、全体の 58.7%の利用者が「満足」あるいは「ふつう」と回答している。「不満」は 9.7%であった。「不満」を身分毎で見ると学部学生は 8.1%で主に開架図書を利用するため、書庫内図書に対する不満度は低く、不明の割合が高い。大学院生は比較的満足度が高く、教官は本が探しにくいことが「不満」と答えている。

《不満の主な意見》

- ・欲しい本がない(21)
- ・手続きが面倒、借りにくい(10)
- ・古い、新しい本がない(9)
- ・探しにくい、見つけづらい(7)
- ・学部生にも使えるようにしてほしい、自分で探したい(2)
- ・ずっと貸出中(1)
- ・開架にしてほしい(1)

(5-3) 参考図書(辞典・年鑑等)

	合計	満足	ふつう	不満	不明
合計	712	137	304	67	204
学部学生	571	107	238	52	174
大学院生	27	6	12	2	7
教官	104	24	50	13	17
その他	10		4		6



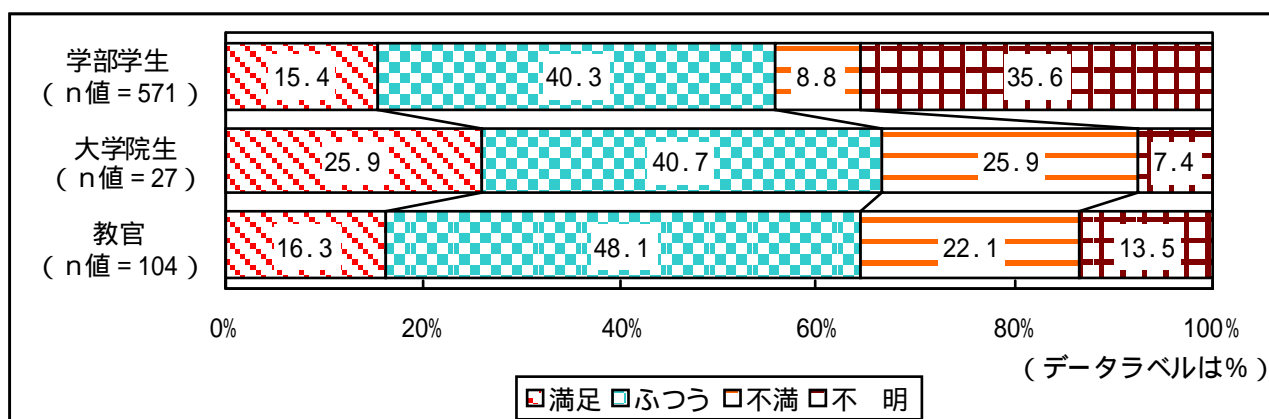
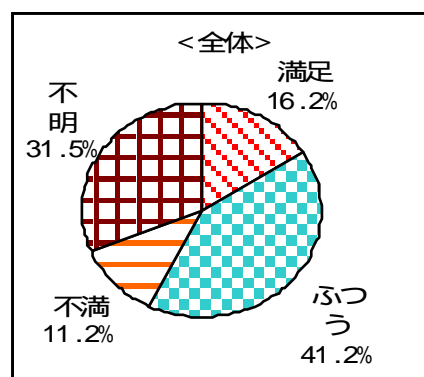
参考図書については、全体の61.9%の利用者が「満足」あるいは「ふつう」と回答している。「不満」は9.4%であった。「不満」を身分毎で見ると、学生・大学院生・教官ともに辞典が古い、辞典が少ないとの意見が多かった。

《不満の主な意見》

- ・辞典がふるい、新しいものがない(27)
- ・辞典が少ない(19)
- ・探しにくい(3)
- ・破れている、汚れている(3)
- ・統計類、年鑑類の欠号(2)
- ・統計書が充実していない(1)
- ・知りたい情報が載っていない(1)

(5-4) 雑 誌

	合計	満足	ふつう	不満	不 明
合計	712	115	293	80	224
学部学生	571	88	230	50	203
大学院生	27	7	11	7	2
教官	104	17	50	23	14
その他	10	3	2		5



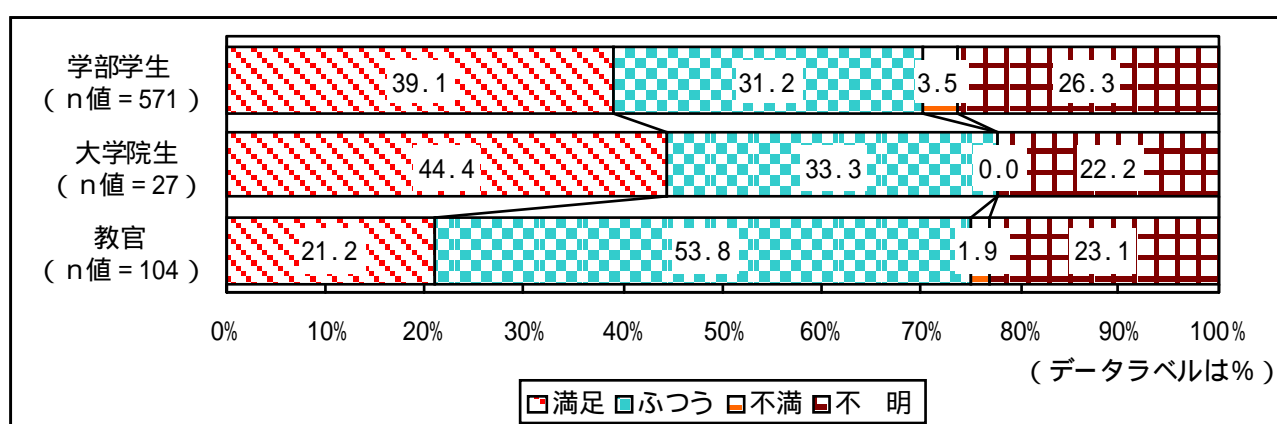
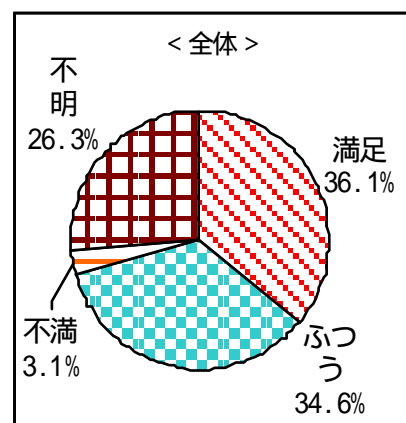
雑誌については、全体の57.4%の利用者が「満足」あるいは「ふつう」と回答している。「不満」は11.2%であった。「不満」を身分毎で見ると、学生8.8%より、大学院生25.9%、教官22.1%と比率が高かった。

《不満の主な意見》

- ・種類数が少ない(35)
- ・分野が偏っている(3)
- ・科学誌、自然系専門誌が少ない(2)
- ・研究室へ貸出中(1)
- ・ファッション誌がほしい(4)
- ・製本日程を明示してほしい(3)
- ・所在が分散している(2)
- ・身近な雑誌をおいてほしい(1)
- ・入荷が遅い(4)
- ・欠号がある(2)

(5-5)新聞

	合計	満足	ふつう	不満	不明
合計	712	257	246	22	187
学部学生	571	223	178	20	150
大学院生	27	12	9		6
教官	104	22	56	2	24
その他	10		3		7



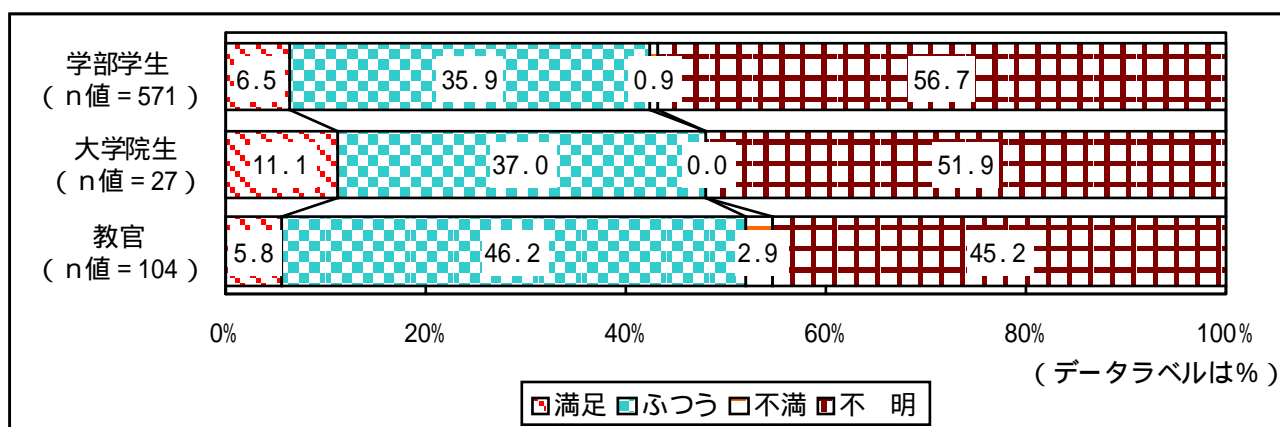
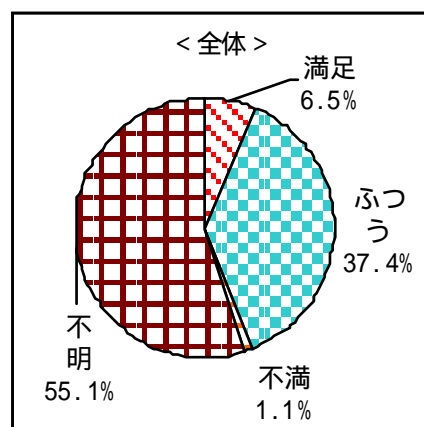
新聞については、全体の70.7%の利用者が「満足」あるいは「ふつう」と回答している。「不満」は3.1%であった。「不満」の割合は低いですが、身分毎で見ると学生の比率が若干高かった。

《不満の主な意見》

- ・スポーツ新聞を増やしてほしい(9)
- ・広告も見たい(2)
- ・座って見たい(2)
- ・種類を多く(2)

(5-6) 視聴覚資料

	合計	満足	ふつう	不満	不明
合計	712	46	266	8	392
学部学生	571	37	205	5	324
大学院生	27	3	10		14
教官	104	6	48	3	47
その他	10		3		7



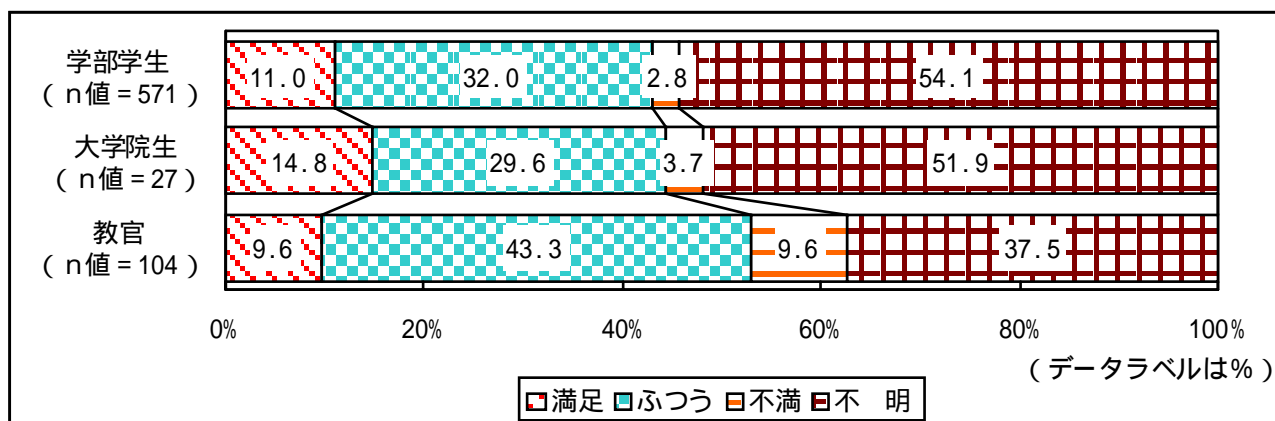
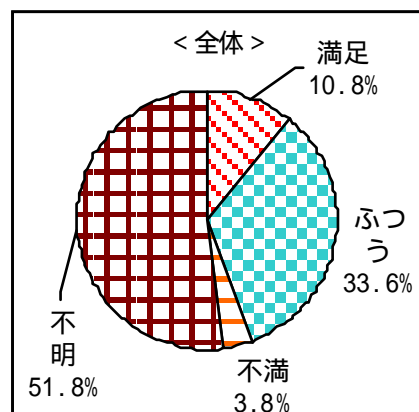
視聴覚資料については、全体の43.9%の利用者が「満足」あるいは「ふつう」と回答している。「不満」は1.1%と低かったが、「不明」55.1%とかなり高かったのは、どのようなものを所蔵しているかわからないためと思われる。

《不満の主な意見》

- ・種類数を増やしてほしい(4)
- ・利用の仕方がわからない(2)
- ・机が小さい(1)

(5-7) 電子資料

	合計	満足	ふつう	不満	不明
合計	712	77	239	27	369
学部学生	571	63	183	16	309
大学院生	27	4	8	1	14
教官	104	10	45	10	39
その他	10		3		7



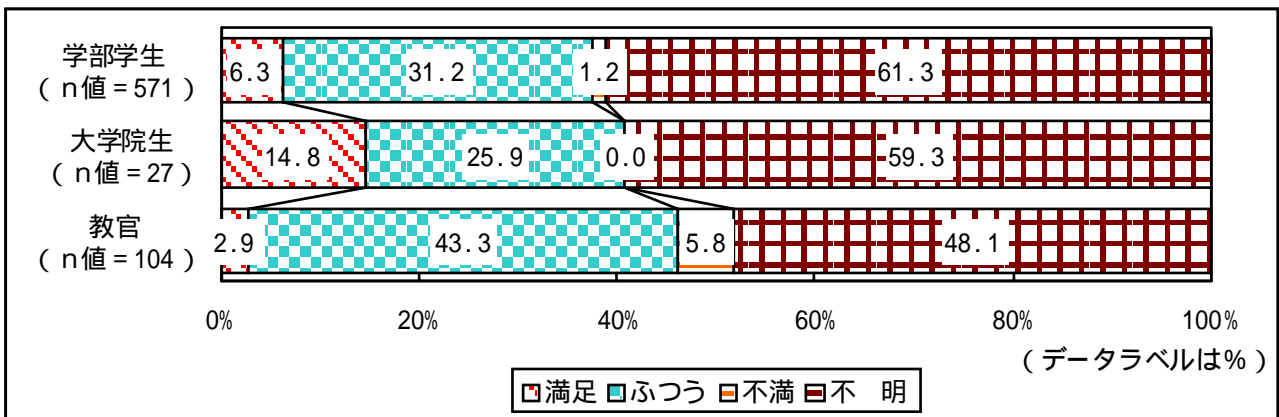
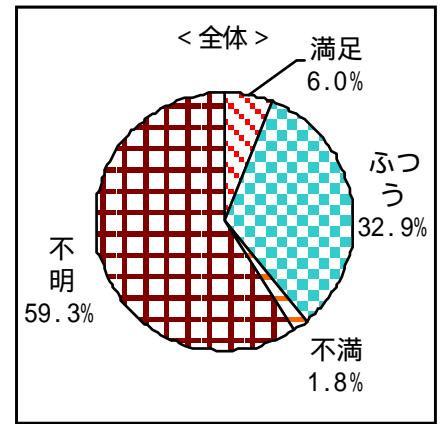
電子資料については、全体の44.4%の利用者が「満足」あるいは「ふつう」と回答している。「不満」は3.8%と低かったが、「不明」51.8%とかなり高かったのは、どのようなものを所蔵しているかわからないためと思われる。

《不満の主な意見》

- ・種類数が少ない、ふやしてほしい(12) ・よくわからない、使い方を知らない(5)
- ・内容的に役に立たない(2) ・パソコンが遅い(1) ・使いづらい(1)
- ・小部屋にしてほしい(1)

(5-8) 貴重図書

	合計	満足	ふつう	不満	不明
合計	712	43	234	13	422
学部学生	571	36	178	7	350
大学院生	27	4	7		16
教官	104	3	45	6	50
その他	10		4		6



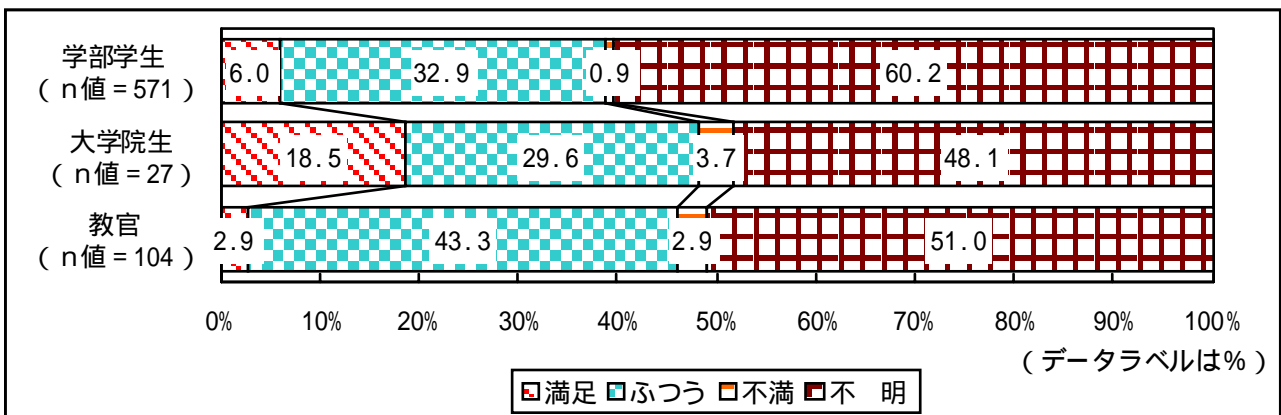
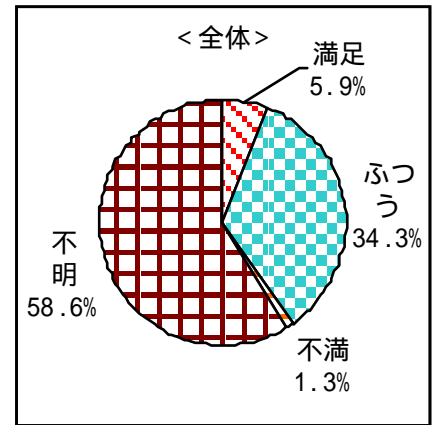
貴重図書については、全体の38.9%の利用者が「満足」あるいは「ふつう」と回答している。「不満」は1.8%と低かったが、「不明」59.3%とかなり高かったのは普段貴重図書と接する機会が少ないためと思われる。

《不満の主な意見》

- ・種類数が少ない(4)
- ・不要、何が貴重なのか(2)
- ・どうやって利用するのか(1)
- ・管理上に問題あり(1)

(5 - 9) 学位論文

	合計	満足	ふつう	不満	不明
合計	712	42	244	9	417
学部学生	571	34	188	5	344
大学院生	27	5	8	1	13
教官	104	3	45	3	53
その他	10		3		7



学位論文については、全体の40.2%の利用者が「満足」あるいは「ふつう」と回答している。「不満」は1.3%と低かった。「不明」は58.6%とかなり高い。これは学位論文を利用する層が大学院生や卒論生などに偏っているためと思われる。

《不満の主な意見》

- ・ どこにあるか見つけられない (4)
- ・ 借りられず、家でじっくり読めない (1)

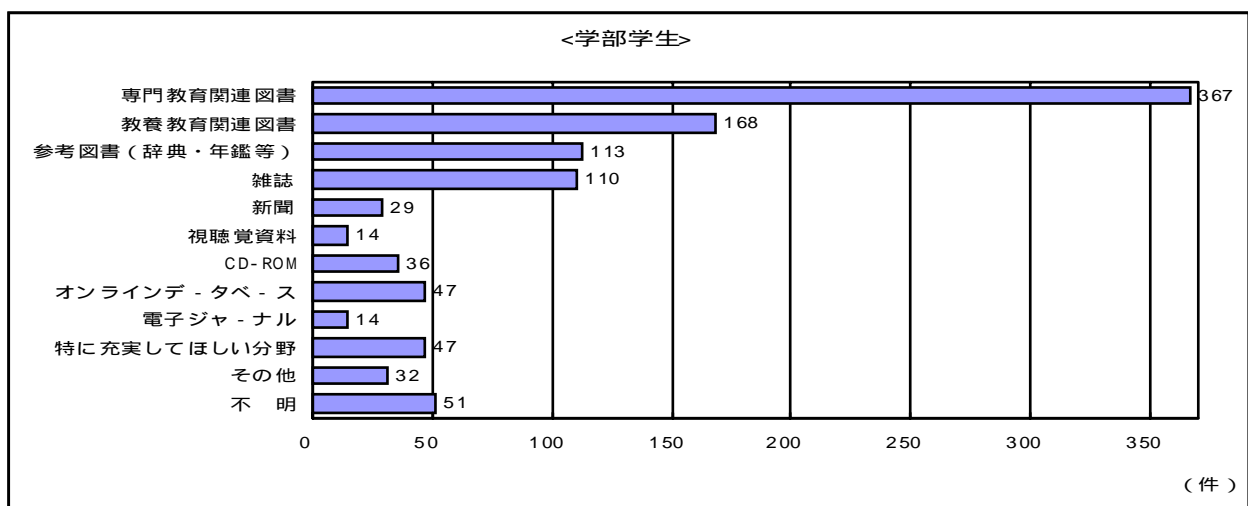
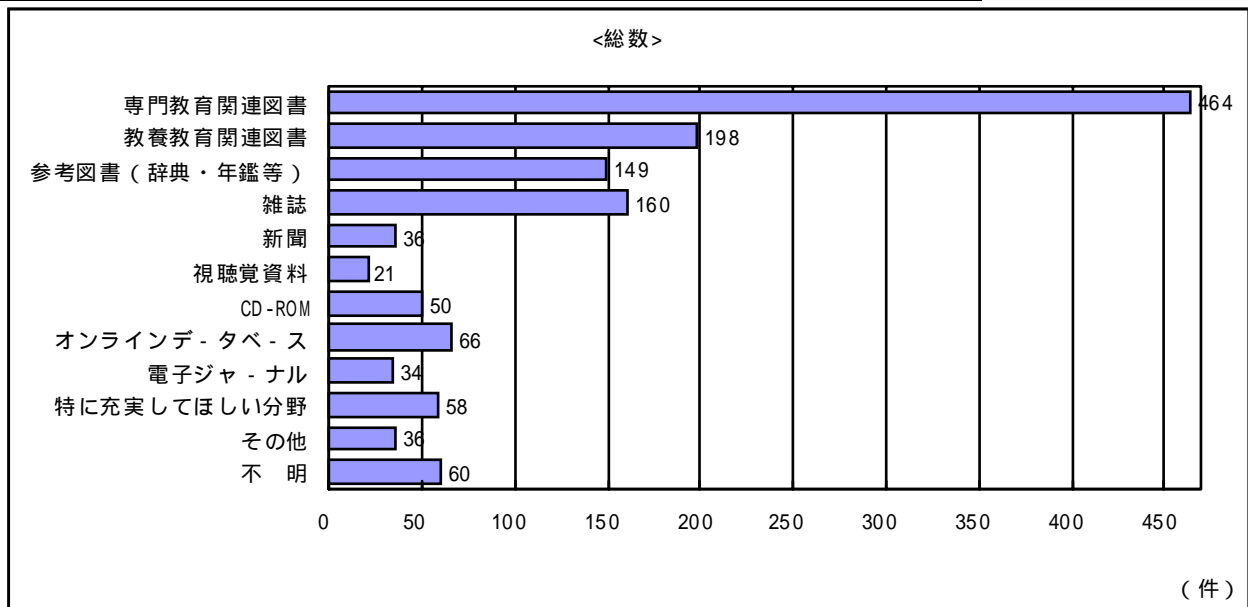
(5 - 10) 図書館資料利用について、その他の意見

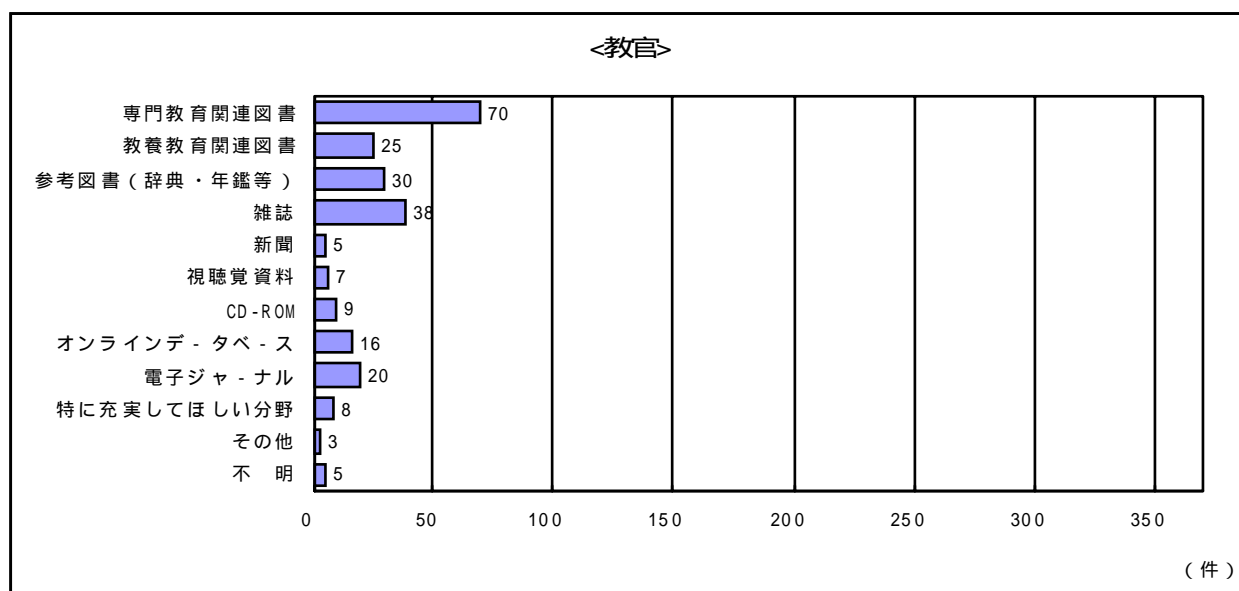
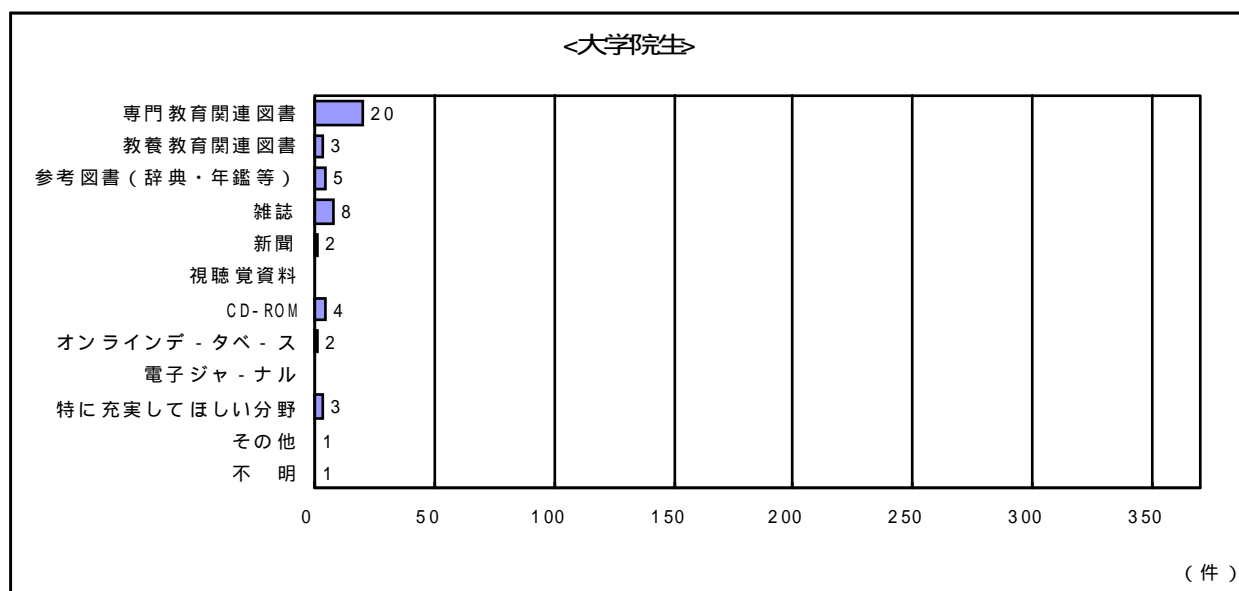
- ・ 閉架図書に利用制限があるのが良くない (1)
- ・ 読みたい本が大抵書庫にあって不満 (1)
- ・ コピー機を2階にほしい (1)
- ・ 文献資料の分類を著者毎に整理する工夫が必要 (1)
- ・ 電子ジャーナルの内容はもっと吟味すべき、今のレベルはかえって無駄 (1)

(6) あなたは、図書館資料のうち、次のどれを充実すべきだと思いますか。

	合計	専門教育関連図書	教養教育関連図書	参考図書(辞典・年鑑等)	雑誌	新聞	視聴覚資料	CD-ROM
合計	712	464	198	149	160	36	21	50
学部学生	571	367	168	113	110	29	14	36
大学院生	27	20	3	5	8	2		4
教官	104	70	25	30	38	5	7	9
その他	10	7	2	1	4			1

	合計	オンラインデータベース	電子ジャーナル	その他	特に充実してほしい分野	不明
合計	712	66	34	36	58	60
学部学生	571	47	14	32	47	51
大学院生	27	2		1	3	1
教官	104	16	20	3	8	5
その他	10	1				3





図書館資料の充実については、学生・大学院生・教官ともに専門教育関連図書がもっとも多かった。次いで教養教育関連図書、雑誌、参考図書の順となっている。

電子的資料ではオンラインデータベースが多く、教官は電子ジャーナルの充実との回答であった。

《その他の意見》

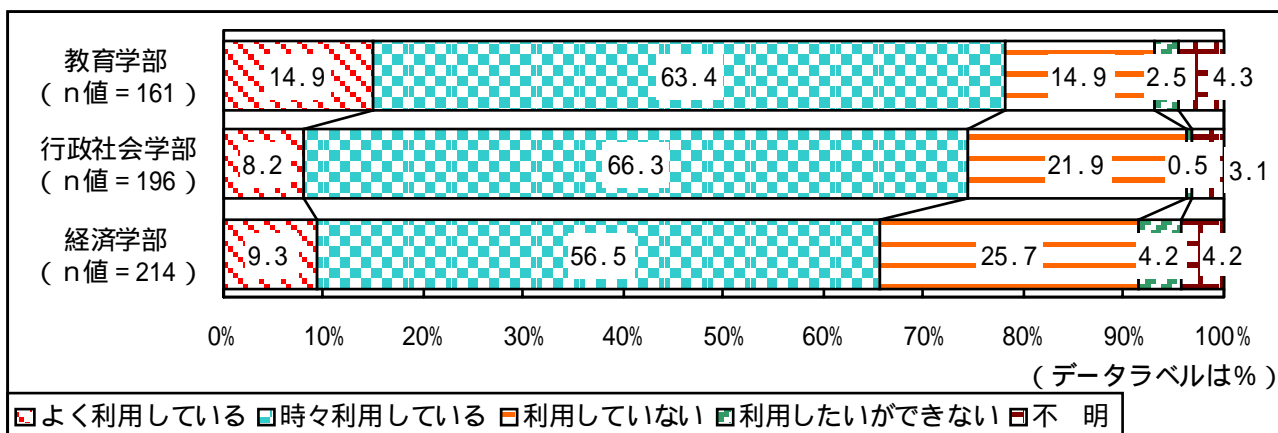
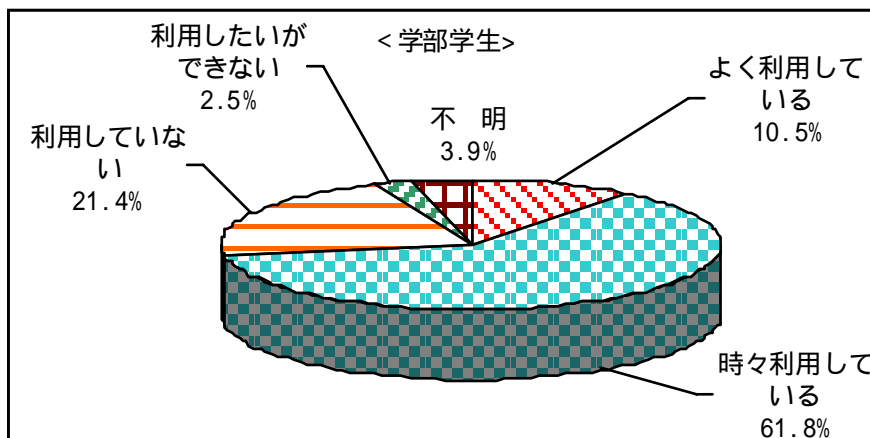
- ・小説など文芸作品の充実（6）

《特に充実して欲しい分野の要望》

- ・学生は教育学、法律学、経済・経営が主であったが、それ以外にはジェンダー、地域行政資料、統計、都市計画など社会科学を中心として環境問題など自然科学関係、文芸作品、雑誌の順となっている。
- ・大学院生では教育学関係、雑誌の要望があった。
- ・教官は自然科学関係、語学関係、雑誌の要望であった。

(7) あなたは、授業に関連した図書(教官に紹介された図書, 指定文献等)をどの程度利用していますか。(対象は学部学生)

	合計	よく利用している	時々利用している	利用していない	利用したいができない	不明
合計	571	60	353	122	14	22
教育学部	161	24	102	24	4	7
行政社会学部	196	16	130	43	1	6
経済学部	214	20	121	55	9	9



授業関連図書については、学生の72.3%が「よく利用している」あるいは「時々利用している」と回答しているため、よく利用されていると評価できる。しかし、「利用していない」と答えた学生が21.4%もいた。

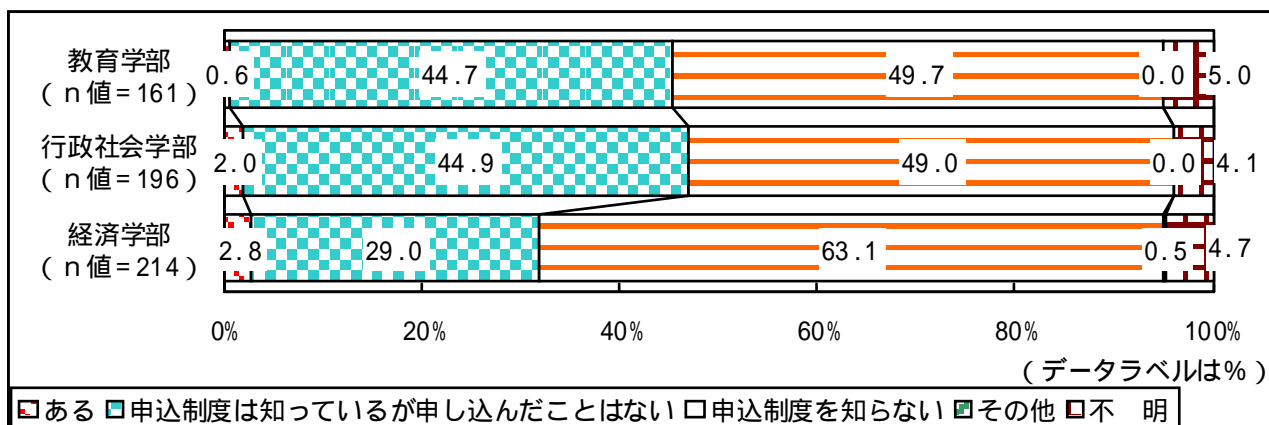
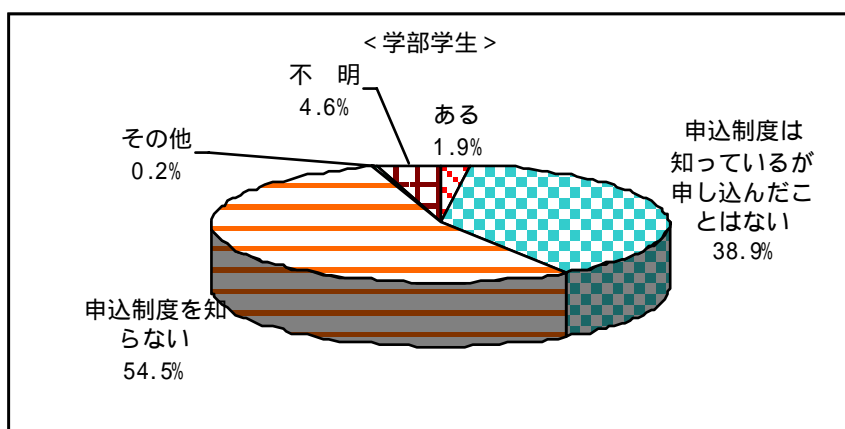
「利用したいができない」と答えた中で、図書館に置いていないとの意見があるが、これは授業内容と図書館の収書との連携がとれていないためと思われる。

《利用したいができない主な意見》

- ・ 図書館に置いていない(7)
- ・ 本が見つけれない(2)
- ・ 新しいトピックに対応した本がない(1)
- ・ 読む暇がない(1)

(8) あなたは、今までに学生用図書購入希望(推薦)を申し込んだことがありますか。
(対象学部学生)

	合計	ある	申込制度は知っているが申し込んだことはない	申込制度を知らない	その他	不明
合計	571	11	222	311	1	26
教育学部	161	1	72	80		8
行政社会学部	196	4	88	96		8
経済学部	214	6	62	135	1	10



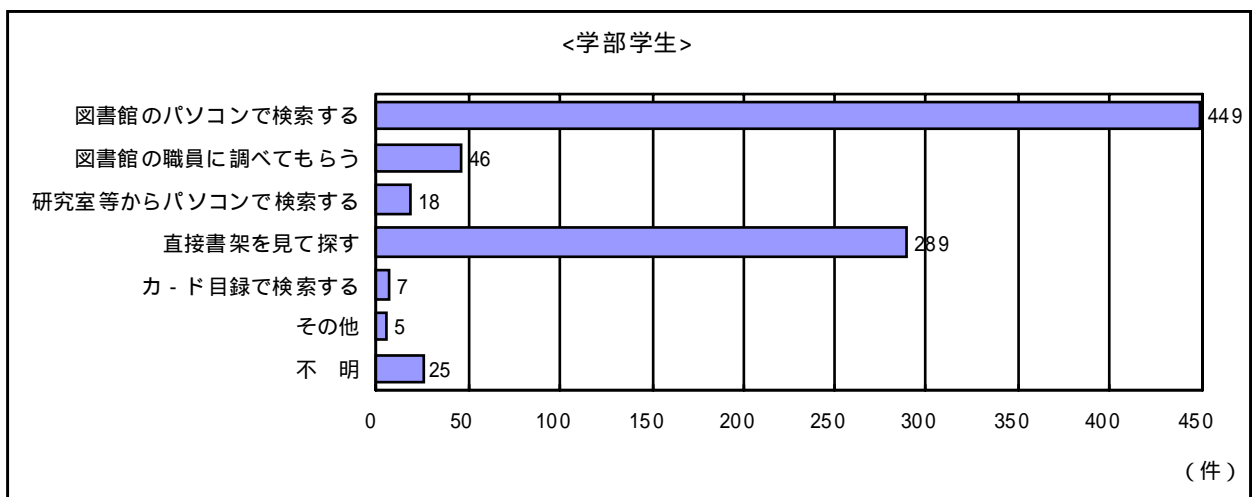
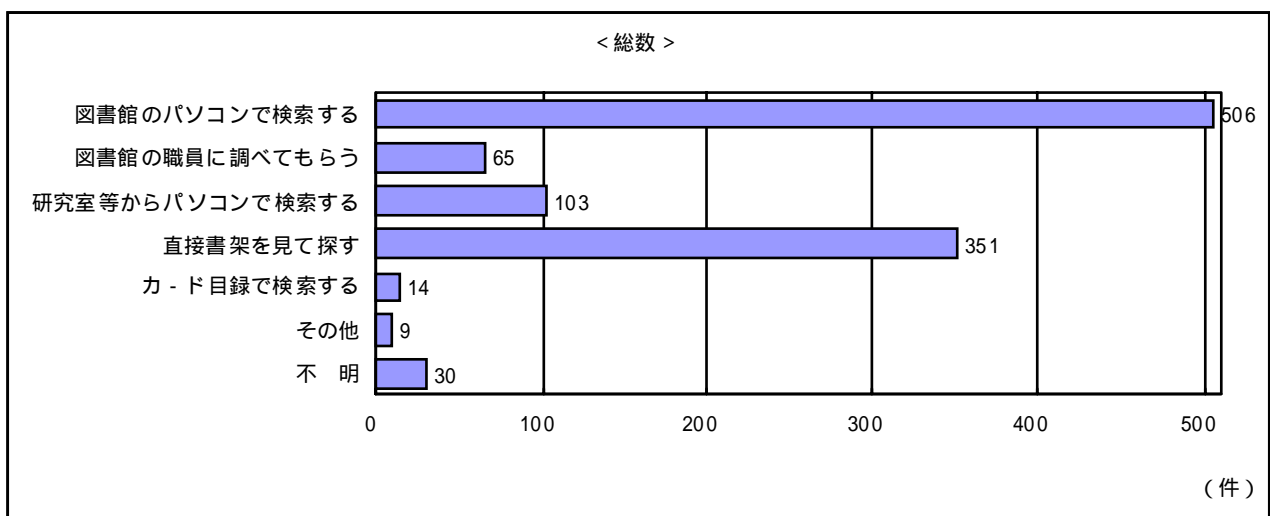
学生用図書購入希望申込み制度については、学生の40.9%が購入希望申込み制度を知っていると回答しているが、実際に申し込んだ学生は2%程度となっており、回数も1回が多く、最高でも3回であったことから制度の利用は極めて低調である。一方、54.5%が「申込制度を知らない」と答えていることから、学生へ向けたPRの強化が必要である。

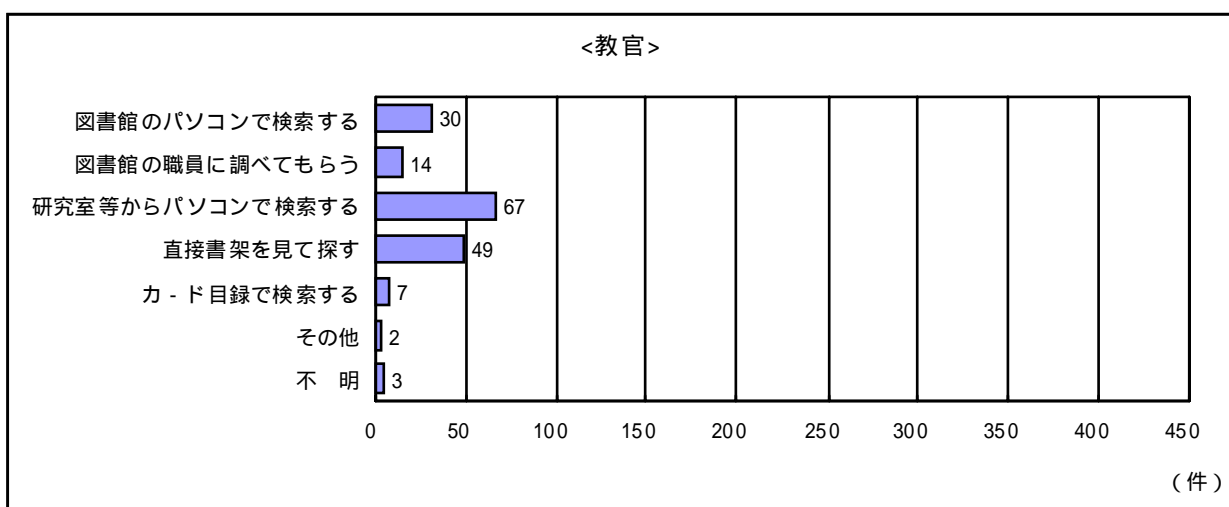
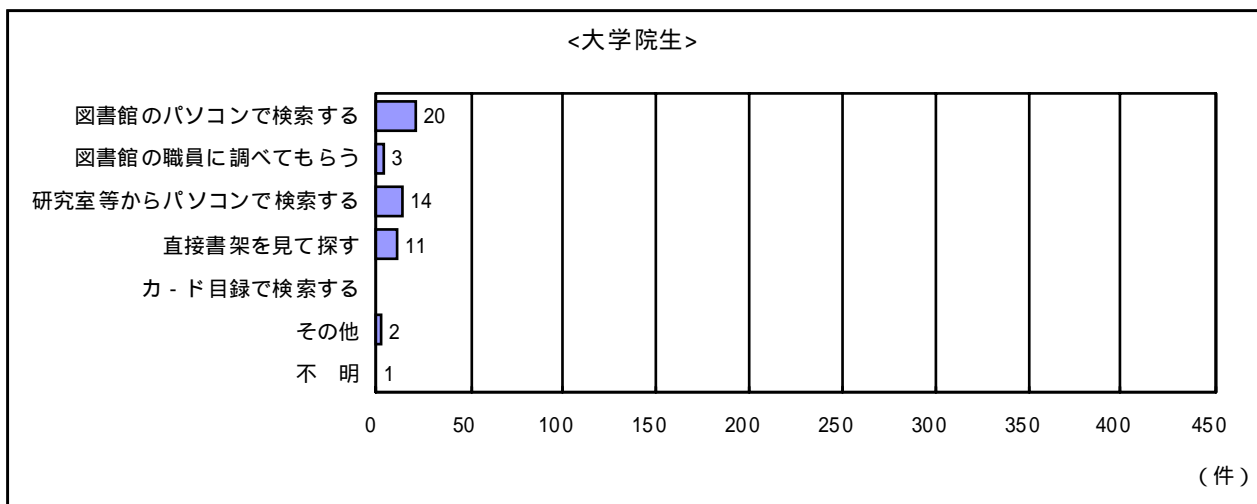
《申込み回数》

- ・1回(8)
- ・3回(2)
- ・2回(1)

(9) あなたは、利用したい資料をどのようにして検索しますか。

	合計	図書館のパソコンで検索する	図書館の職員に調べてもらう	研究室等からパソコンで検索する	直接書架を見て探す	カード目録で検索する	その他	不明
合計	712	506	65	103	351	14	9	30
学部学生	571	449	46	18	289	7	5	25
大学院生	27	20	3	14	11		2	1
教官	104	30	14	67	49	7	2	3
その他	10	7	2	4	2			1





学生は図書館のOPACでの検索が多いが、直接書架を見て探す場合も多い。大学院生はOPACでの検索のほか研究室から検索する比率が高くなっている。教官は研究室からの検索が多くなっており、次いで書架を見て探すが続いている。若干ではあるがカード目録で探す人もおり、まだカード目録の廃棄はできないと思われる。

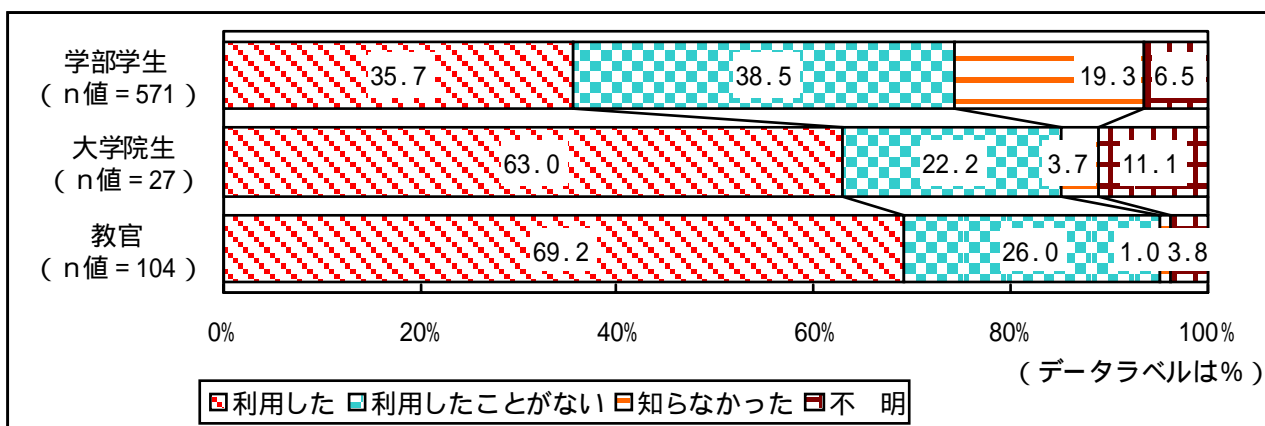
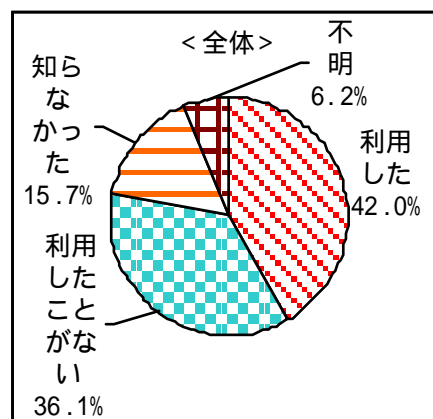
《検索について、その他の意見》

- ・自分のパソコンで検索する (2)
- ・データベースにアクセス (2)
- ・友達に聞く (1)

(10) あなたは、次の図書館サービスについて利用したことがありますか。

(10-1-1) レファレンスサービス(資料の所在, 事項調査等)

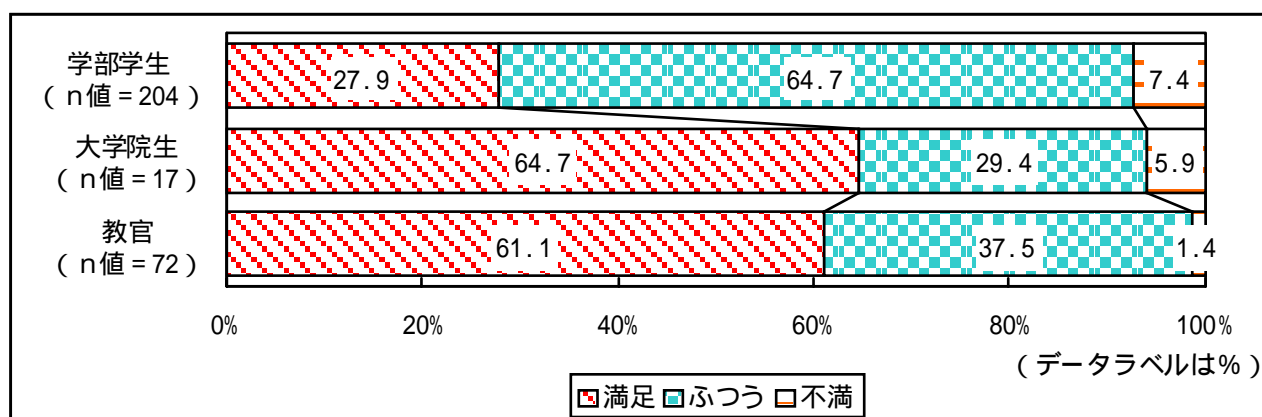
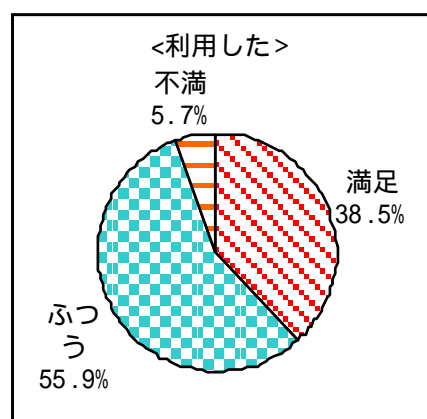
	合計	利用した	利用したことがない	知らなかった	不明
合計	712	299	257	112	44
学部学生	571	204	220	110	37
大学院生	27	17	6	1	3
教官	104	72	27	1	4
その他	10	6	4		



レファレンスサービスについては、全体の42.0%の利用者が「利用した」と回答しており、「利用したことがない」と答えたものも36.1%あった。身分毎で見ると、学生は半々であるが、大学院生と教官は6割以上が利用しており、積極的に利用されている現状がうかがえる。

(10-1-2) レファレンスサービスを利用した結果

	合計	満足	ふつう	不満
合計	299	115	167	17
学部学生	204	57	132	15
大学院生	17	11	5	1
教官	72	44	27	1
その他	6	3	3	



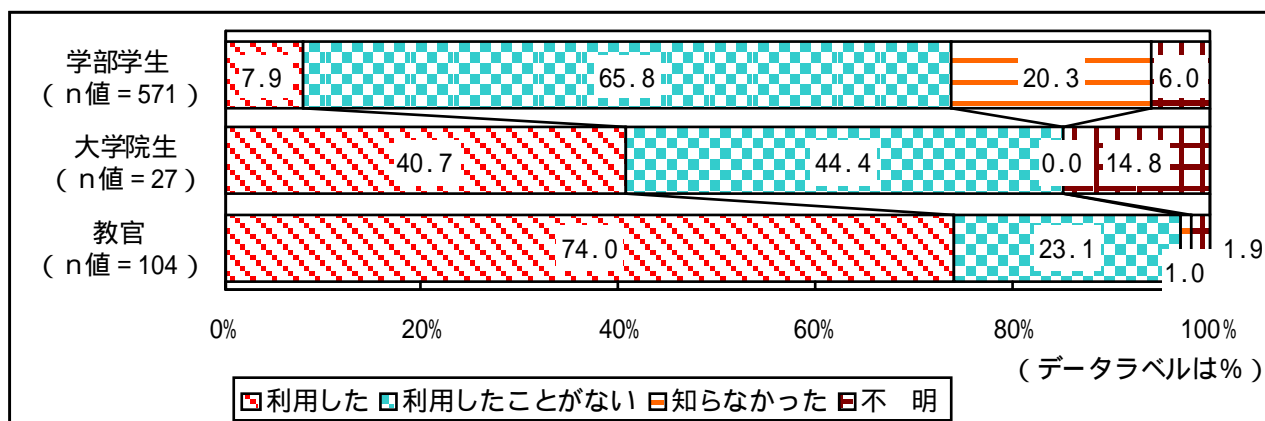
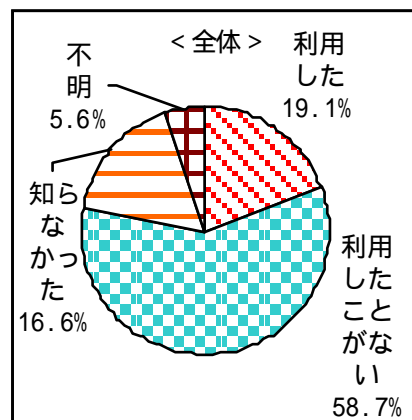
「利用した」と答えた利用者の99.4%が「満足」あるいは「ふつう」と回答している。「不満」は5.7%であった。「不満」を身分毎で見ると、学部学生の比率がやや高いが、これは資料を見つけられないことへの不満と思われる。

《不満の主な意見》

- ・場所がわからない(7)
- ・所在の表示がわかりにくい(3)
- ・説明不足、不親切な対応(3)
- ・指定の場所がない(2)

(10-2-1) 他大学所蔵資料の文献複写

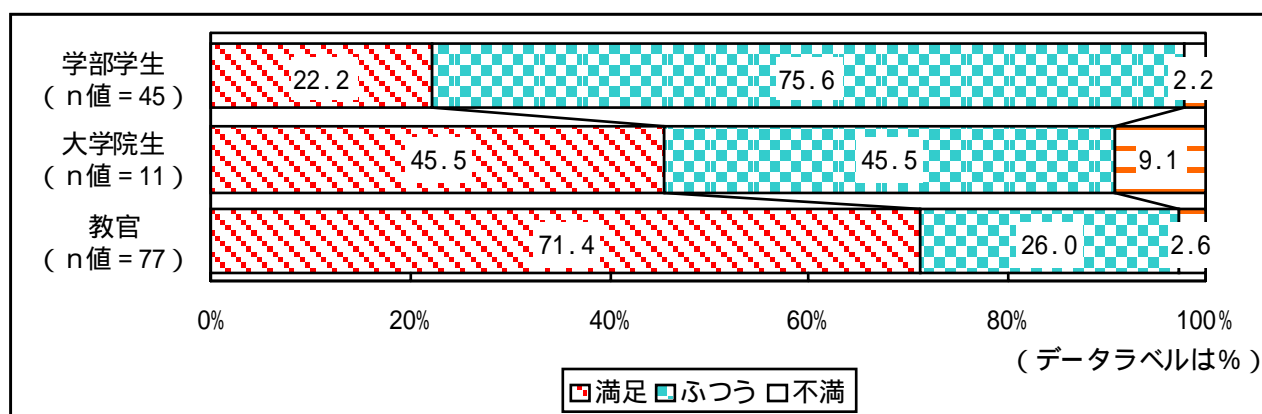
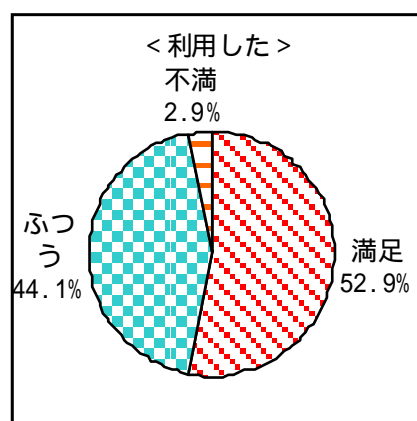
	合計	利用した	利用したことがない	知らなかった	不明
合計	712	136	418	118	40
学部学生	571	45	376	116	34
大学院生	27	11	12		4
教官	104	77	24	1	2
その他	10	3	6	1	



文献複写については、全体の 19.1%の利用者が「利用した」と回答しているが、58.7%が「利用したことがない」と答えている。身分別でみると学生の利用が 7.9%と極端に低いが、大学院生 40.7%、教官 74.0%と研究の度合いが高まるにつれ、本館で未所蔵の資料を他図書館から入手している実態がうかがえる。

(10-2-2) 他大学所蔵資料の文献複写を利用した結果

	合計	満足	ふつう	不満
合計	136	72	60	4
学部学生	45	10	34	1
大学院生	11	5	5	1
教官	77	55	20	2
その他	3	2	1	



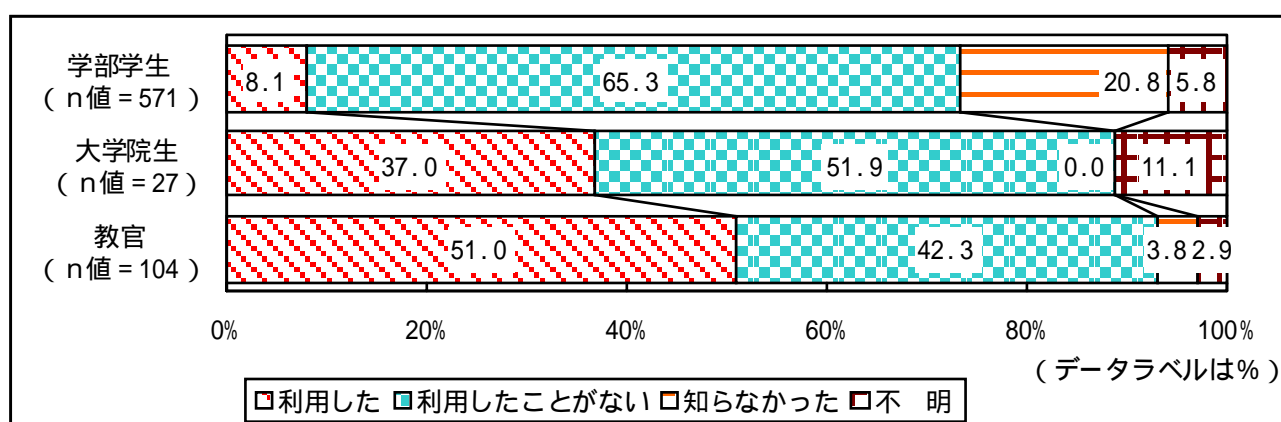
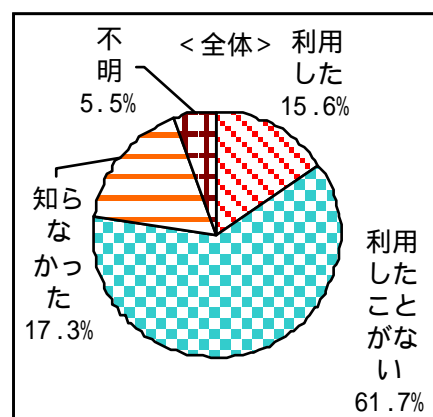
「利用した」と答えた利用者の97.0%が「満足」あるいは「ふつう」と回答している。「不満」は2.9%であった。「不満」を身分毎で見ると、大学院生の比率がやや高い。

《不満の主な意見》

- ・ 料金が高い (1)
- ・ 入手するまでが遅かった (1)

(10-3-1) 他大学図書館資料の現物貸借

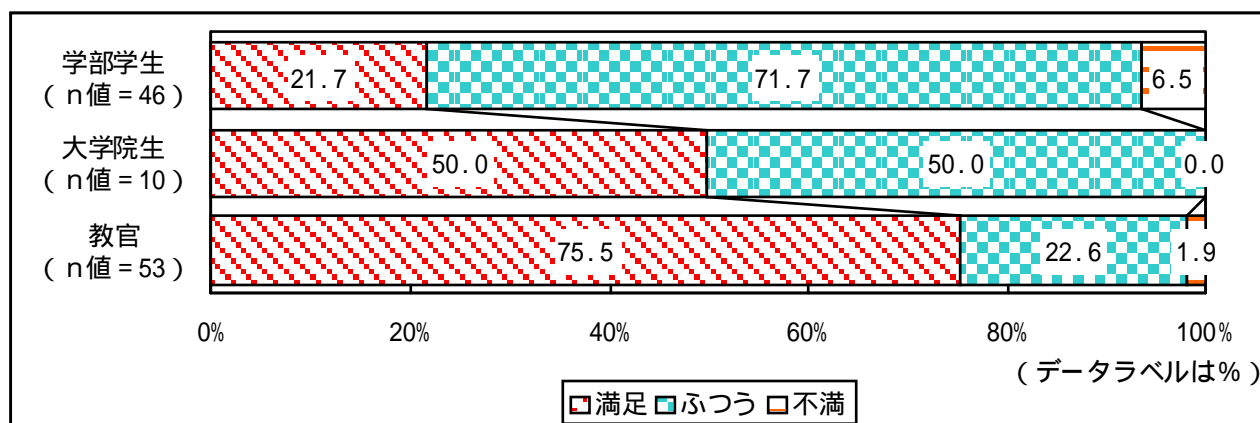
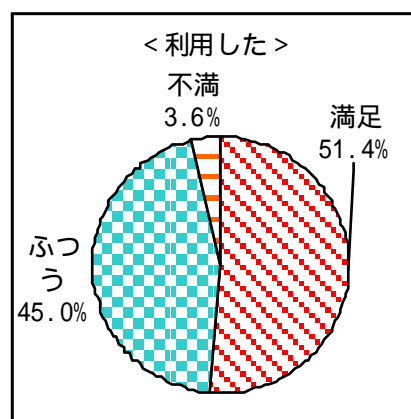
	合計	利用した	利用したことがない	知らなかった	不明
合計	712	111	439	123	39
学部学生	571	46	373	119	33
大学院生	27	10	14		3
教官	104	53	44	4	3
その他	10	2	8		



現物貸借については、全体の15.6%の利用者が「利用した」と回答しているが、61.7%が「利用したことがない」と答えている。身分毎で見ると利用した学生は8.1%と極端に低いですが、大学院生37.0%、教官51.0%と研究の度合いが高まるにつれ、本館で未所蔵の資料を他図書館から入手している実態がうかがえる。

(10-3-2) 他大学図書館資料の現物貸借を利用した結果

	合計	満足	ふつう	不満
合計	111	57	50	4
学部学生	46	10	33	3
大学院生	10	5	5	
教官	53	40	12	1
その他	2	2		



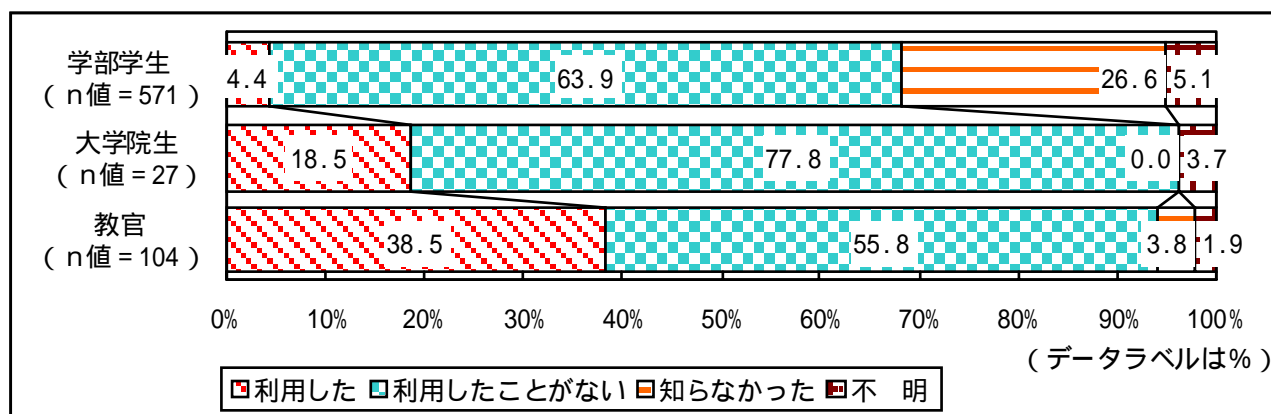
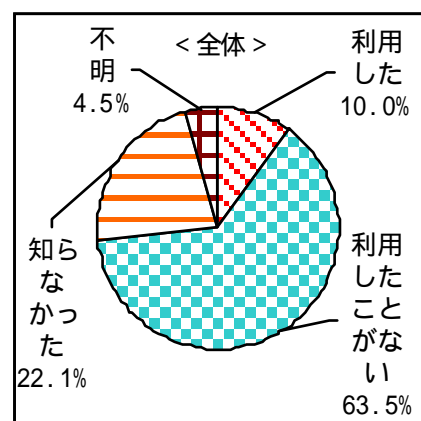
「利用した」と答えた利用者の 96.4%が「満足」あるいは「ふつう」と回答している。「不満」は 3.6%であった。「不満」を身分毎で見ると、学生の比率がやや高い。

《不満の主な意見》

- ・ 料金が低い (1)

(10-4-1) 他大学図書館訪問利用(紹介状)

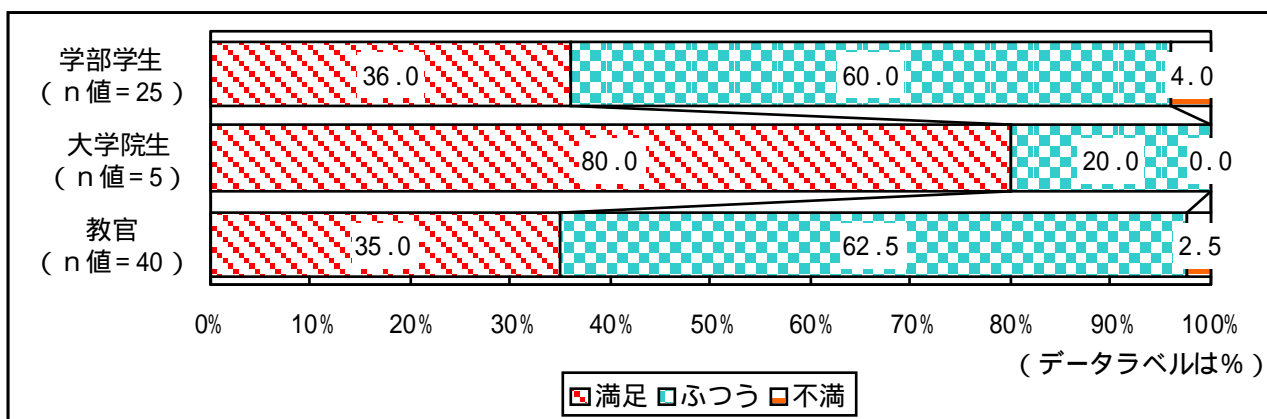
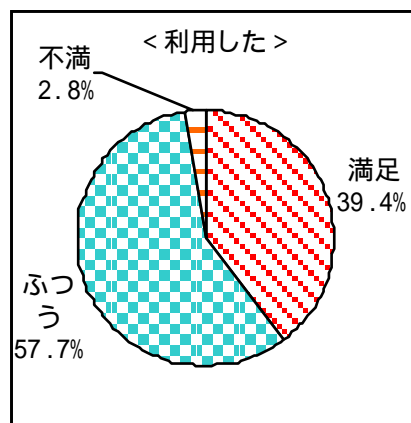
	合計	利用した	利用したことがない	知らなかった	不明
合計	712	71	452	157	32
学部学生	571	25	365	152	29
大学院生	27	5	21		1
教官	104	40	58	4	2
その他	10	1	8	1	



紹介状については、全体の10.0%の利用者が「利用した」と回答しているが、63.5%が「利用したことがない」と答えている。身分毎で見ると利用した学生は4.4%と極端に低く、大学院生も18.5%にとどまっているが、38.5%の教官は利用していると答えている。

(10-4-2) 他大学図書館訪問利用の結果

	合計	満足	ふつう	不満
合計	71	28	41	2
学部学生	25	9	15	1
大学院生	5	4	1	
教官	40	14	25	1
その他	1	1		



「利用した」と答えた利用者の97.1%が「満足」あるいは「ふつう」と回答している。「不満」は2.8%であった。「不満」を身分毎で見ると、学生の比率がやや高い。

《不満の主な意見》

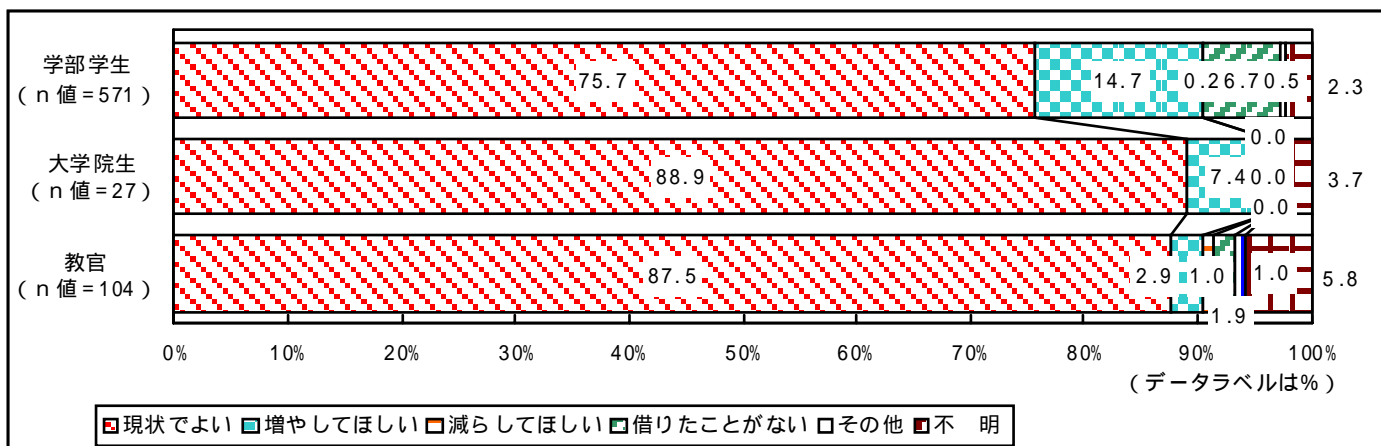
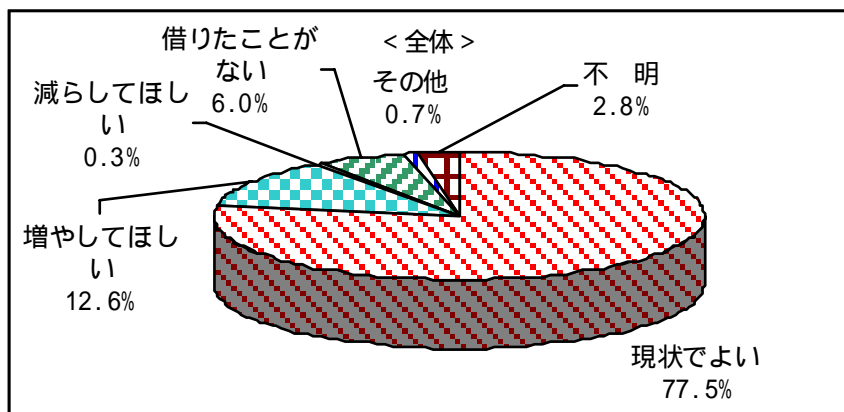
- ・ 受入館の運用上の違いで困ったことがある(1)

(10-5) 図書館サービスについて、その他の意見

特になし

(11) あなたは、図書館の貸出冊数についてどう思いますか。

	合計	現状でよい	増やしてほしい	減らしてほしい	借りたことがない	その他	不明
合計	712	552	90	2	43	5	20
学部学生	571	432	84	1	38	3	13
大学院生	27	24	2				1
教官	104	91	3	1	2	1	6
その他	10	5	1		3	1	



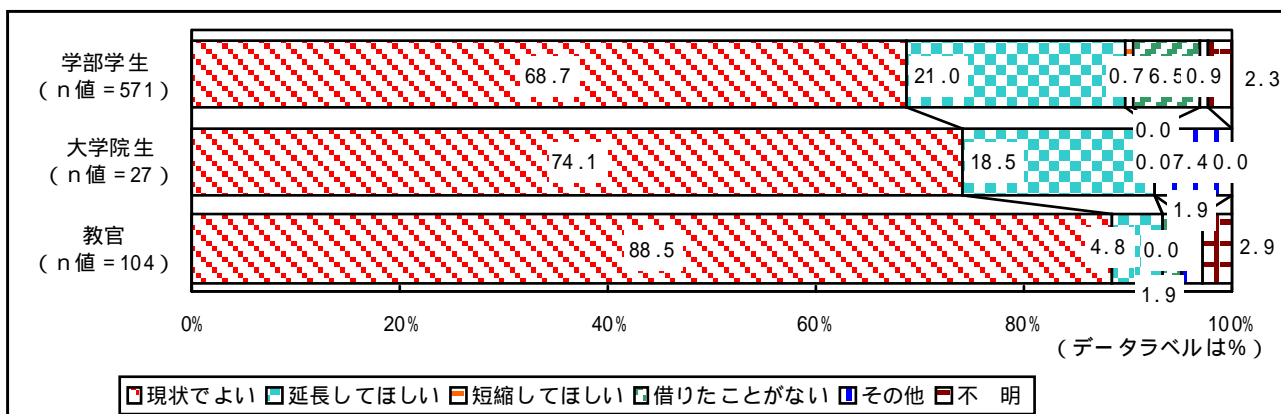
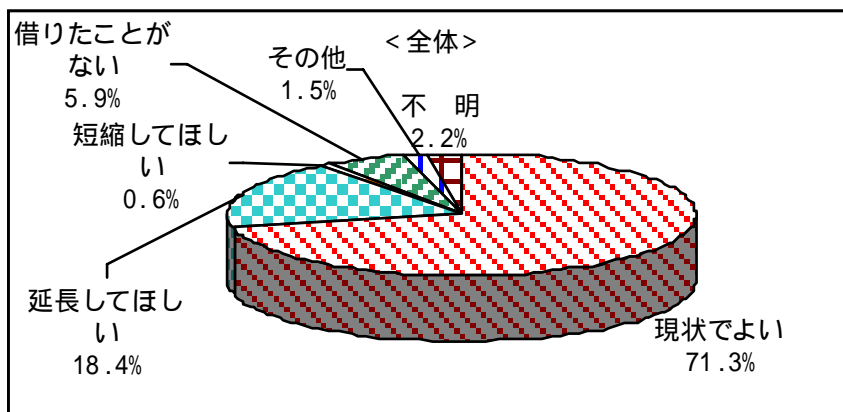
貸出冊数については、全体の77.5%の利用者が「現状でよい」と回答し、「増やして欲しい」12.6%、「減らしてほしい」0.3%を大きく上回っている。身分毎で見ると、大学院生と教官は9割近くが「現状でよい」としているが、一方学生は14.7%が「増やして欲しい」と答えている。

《増やして欲しい冊数》

- ・10冊(32)
- ・7冊(5)
- ・15冊(5)
- ・20冊(2)
- ・25冊(2)

(12) あなたは、図書館の貸出期間についてどう思いますか。

	合計	現状でよい	延長してほしい	短縮してほしい	借りたことがない	その他	不明
合計	712	508	131	4	42	11	16
学部学生	571	392	120	4	37	5	13
大学院生	27	20	5			2	
教官	104	92	5		2	2	3
その他	10	4	1		3	2	



貸出期間については、全体の71.3%の利用者が「現状でよい」と回答し、「延長して欲しい」18.4%、「短縮してほしい」0.6%を大きく上回っている。身分毎で見ると、教官は88.5%が「現状でよい」としているが、学生21.0%、大学院生18.5%からは「延長して欲しい」と答えている。

《延長してほしい期間》

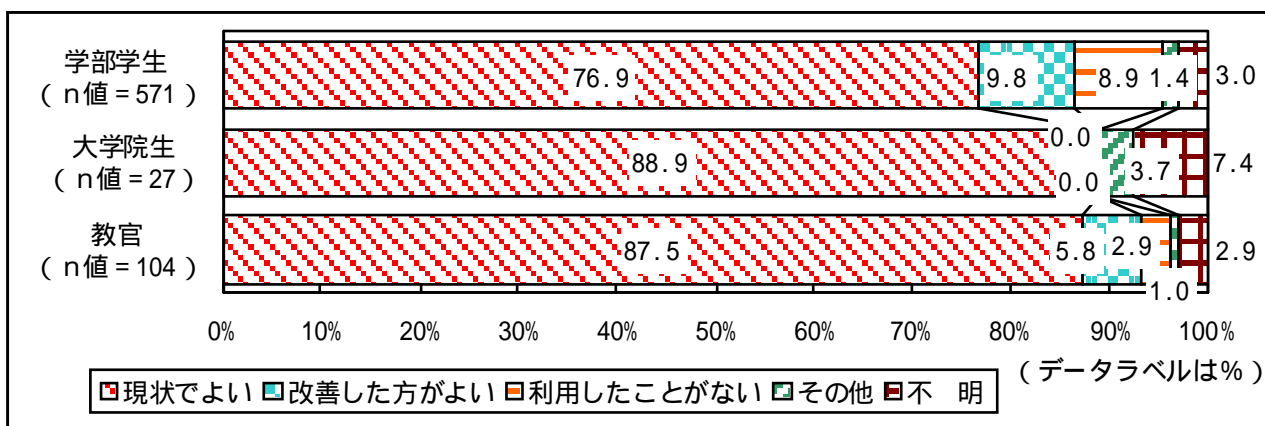
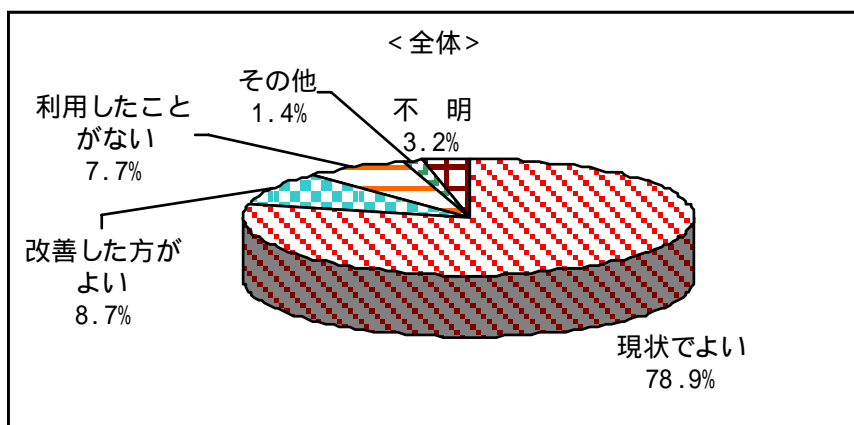
- ・3週間 (36)
- ・30日 (45)
- ・60日 (2)
- ・90日 (2)

《貸出期間について、その他の意見》

- ・開架図書の貸出期間を2ヶ月程度にしてほしい(2)
- ・貸出の延滞をもう少し厳しくしてほしい、欲しい時に手に入らない(1)
- ・卒論用の文献は長期貸出してほしい(1) ・罰則で借りられなくなるのがつらい(1)
- ・教官貸出の期間を制限してはどうか(1)

(13) あなたは、図書館利用のための諸手続き（貸出，複写申込，視聴覚室等使用申込，紹介状）についてどう思いますか。

	合計	現状でよい	改善した方がよい	利用したことがない	その他	不明
合計	712	562	62	55	10	23
学部学生	571	439	56	51	8	17
大学院生	27	24			1	2
教官	104	91	6	3	1	3
その他	10	8		1		1



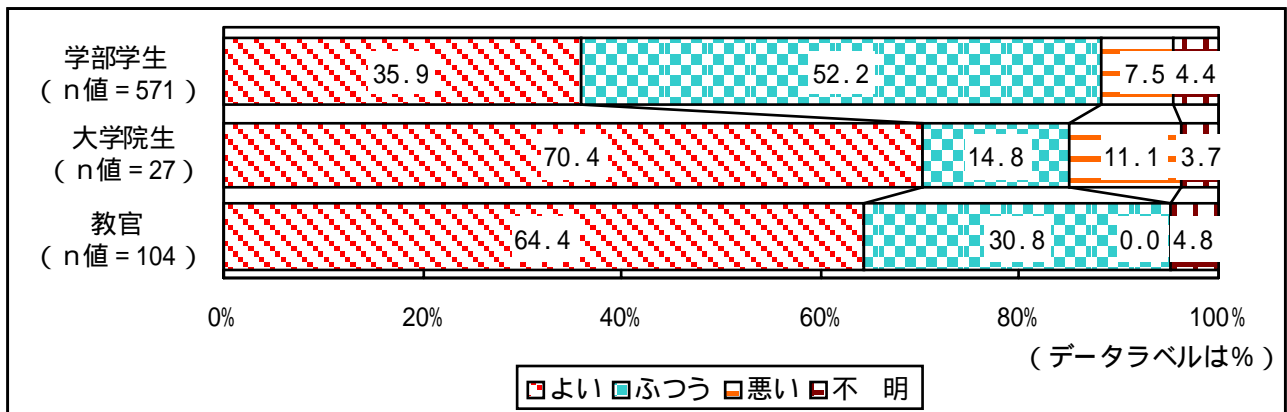
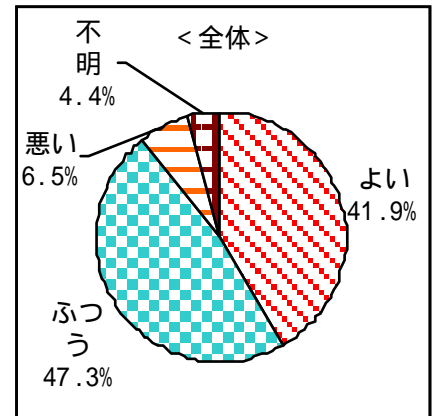
諸手続きについては、全体の78.9%の利用者が「現状でよい」と回答し、「改善した方がよい」8.7%を大きく上回った。「改善した方がよい」を身分毎で見ると、教官5.8%、大学院生0%に対し、学生の9.8%から改善を望む回答があった。

《改善についての意見》

- ・ 申込み手続きを簡略化してほしい(16)
- ・ 貸出手続きを簡略化してほしい(10)
- ・ コピー手続きを簡略化してほしい(3)
- ・ パソコン利用の申込みの簡略化(3)
- ・ 手続きがわかりにくい(3)
- ・ 丁寧な対応をしてほしい(2)
- ・ 閉架に入りやすく(1)
- ・ 窓口人がいない時がある(1)

(14) あなたは、図書館の職員の対応についてどう思いますか。

	合計	よい	ふつう	悪い	不明
合計	712	298	337	46	31
学部学生	571	205	298	43	25
大学院生	27	19	4	3	1
教官	104	67	32		5
その他	10	7	3		



職員の対応については、全体の89.2%の利用者が「よい」あるいは「ふつう」と回答している。「悪い」は6.5%であった。「悪い」を身分毎で見ると、教官は概ね好意的であったが、学部学生7.5%、大学院生11.1%から話声がうるさい、愛想がないという意見があった。

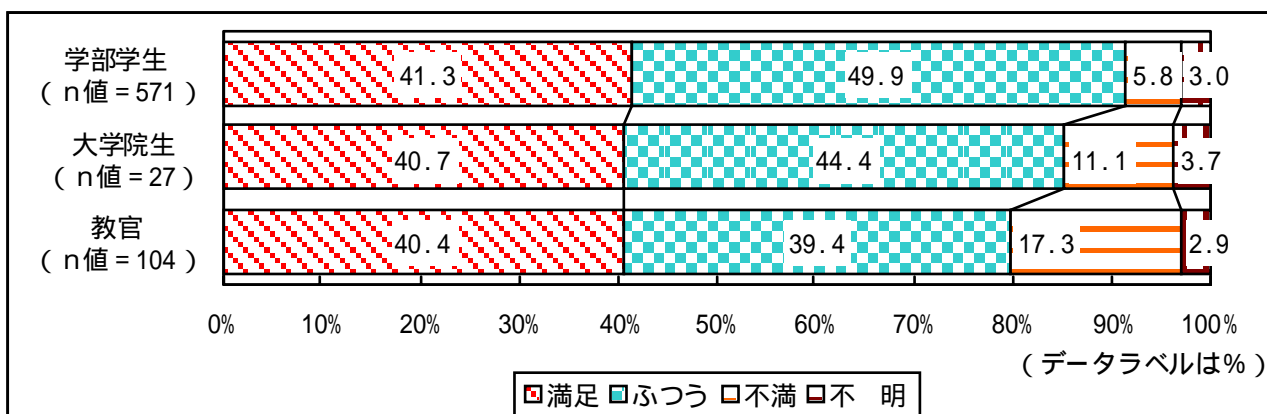
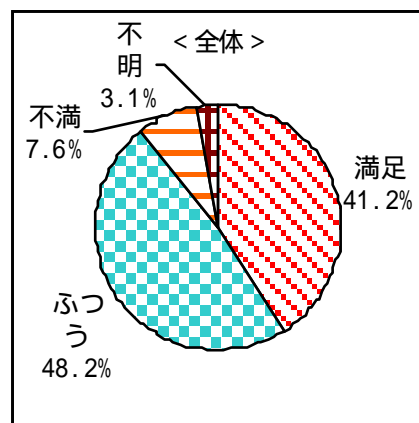
《対応についての主な意見》

- ・話し声大きい(13)
- ・愛想がない(10)
- ・怖い人がいる(6)
- ・態度が悪い(5)
- ・声をかけにくい(3)
- ・もっと丁寧に(2)

(15) あなたは、図書館の環境（建物・照明等）についてどう思いますか。

(15-1) 建 物

	合計	満足	ふつう	不満	不 明
合計	712	293	343	54	22
学部学生	571	236	285	33	17
大学院生	27	11	12	3	1
教官	104	42	41	18	3
その他	10	4	5		1



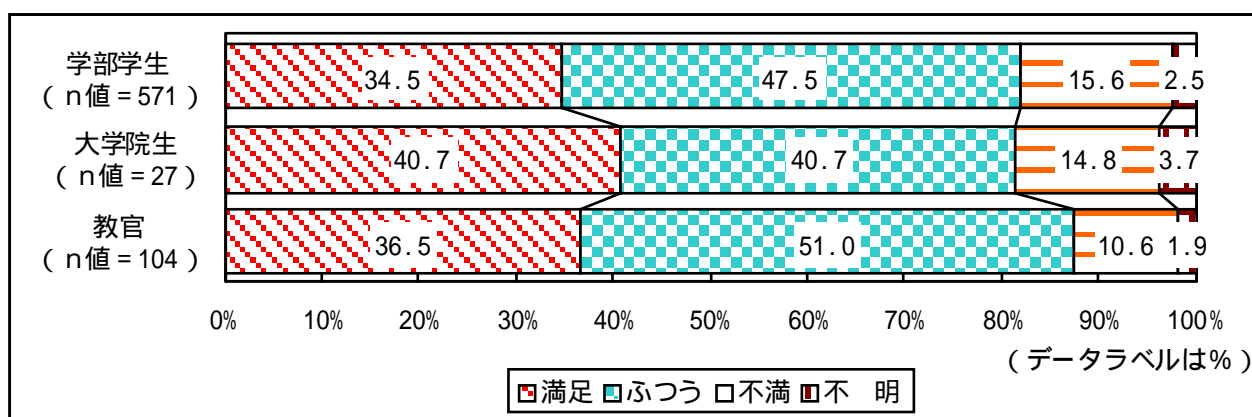
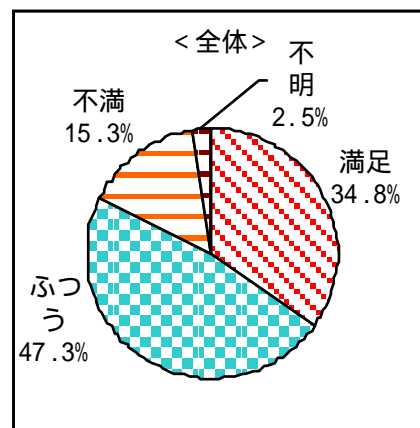
建物については全体の約9割が「満足」あるいは「ふつう」と回答している。「不満」は7.6%であった。しかし、「不満」を身分毎で見ると、学生5.8%、大学院生11.1%、教官17.3%となっており、教官の不満がかなり高くなっている。

《不満の主な意見》

- ・建物 狭い、規模を大きく、スペースの取り方に工夫を、開架を広く、おもくるしい、階段が急で危険、車椅子・身障者のためのエレベータの設置など(17)
- ・書庫 狭い、書庫内をわかりやすく、書庫が倉庫のようだ、湿気対策など(7)
- ・トイレ 増やしてほしい、防音対策、狭い、汚い時があるなど(5)
- ・建物が切り離されていて雨の日の利用が不便、屋根のある廊下を設置してほしい(M棟とつなく)(1)
- ・カーペットを張替えて明るく(1)

(15-2) 照 明

	合計	満足	ふつう	不満	不明
合計	712	248	337	109	18
学部学生	571	197	271	89	14
大学院生	27	11	11	4	1
教官	104	38	53	11	2
その他	10	2	2	5	1



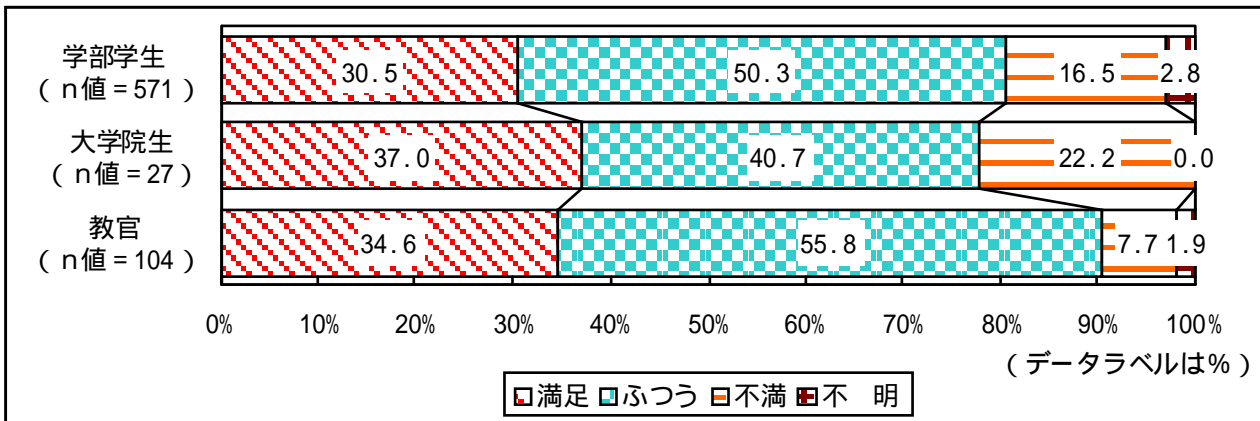
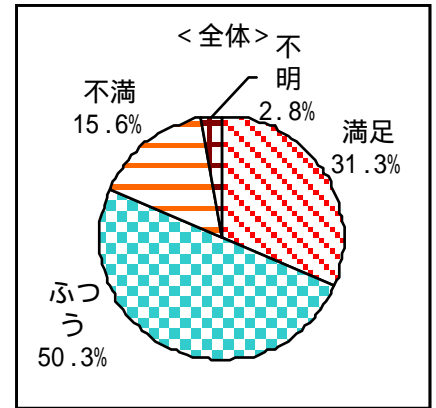
照明については全体の8割を越す利用者が「満足」あるいは「ふつう」と回答している。「不満」は15.3%であった。「不満」を身分毎でみると教官よりも、学部学生や大学院生からの不満が多い。特に夜間主生からの「暗い」という意見が目立った。

《不満の主な意見》

- ・ 閲覧室が暗い、明るくしてほしい (79)
- ・ 閲覧席に照明器具がほしい (19)
- ・ 書庫内の照明スイッチ増、場所の明示 (9)
- ・ ロビー、新聞コーナーを明るくしてほしい (1)
- ・ 陽が入りやすく、本が読みづらい (1)

(15 - 3) 空調・冷暖房

	合計	満足	ふつう	不満	不明
合計	712	223	358	111	20
学部学生	571	174	287	94	16
大学院生	27	10	11	6	
教官	104	36	58	8	2
その他	10	3	2	3	2



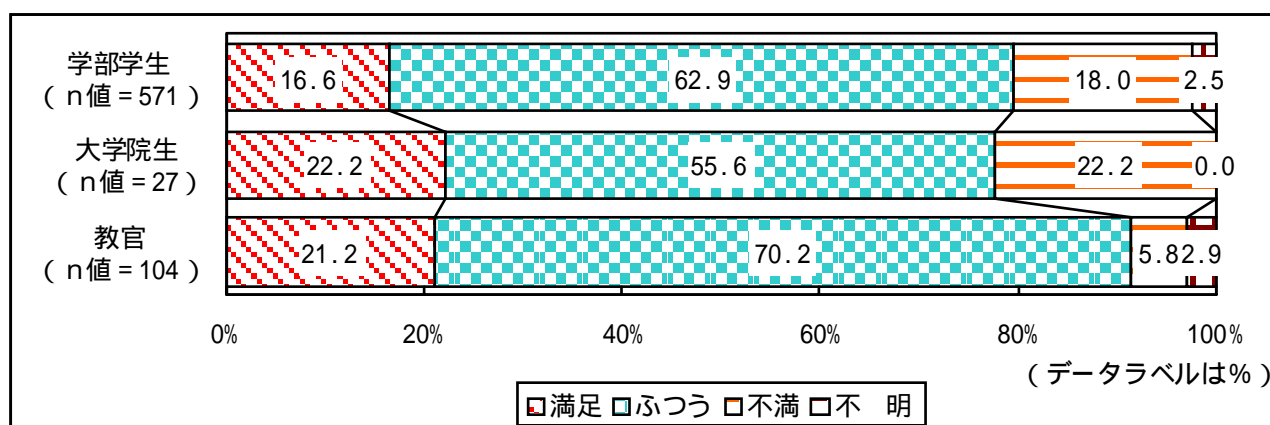
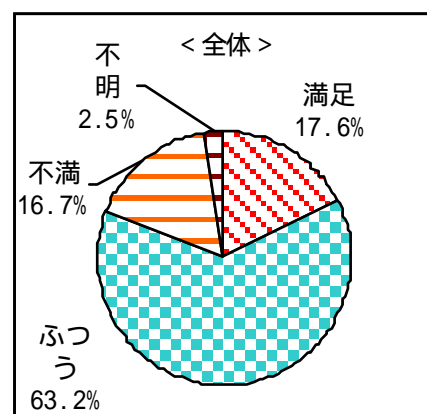
空調・冷房については全体の8割を越す利用者が「満足」あるいは「ふつう」と回答している。「不満」は15.6%であった。「不満」を身分毎で見ると教官よりも学部学生と大学院生の不満が多く、特に夜間主生の意見が多かった。

《不満の主な意見》

- ・適温にする、気温に応じた冷暖房を (36) ・夏あつい (31) ・冬さむい (9)
- ・暖房が効きすぎる (9) ・冷房が効きすぎる (8) ・空気がこもる、換気をしてほしい (5)
- ・冷暖房、空調の設置 (全館、ロビー、書庫) (4)

(15-4) 話し声・雑音

	合計	満足	ふつう	不満	不明
合計	712	125	450	119	18
学部学生	571	95	359	103	14
大学院生	27	6	15	6	
教官	104	22	73	6	3
その他	10	2	3	4	1



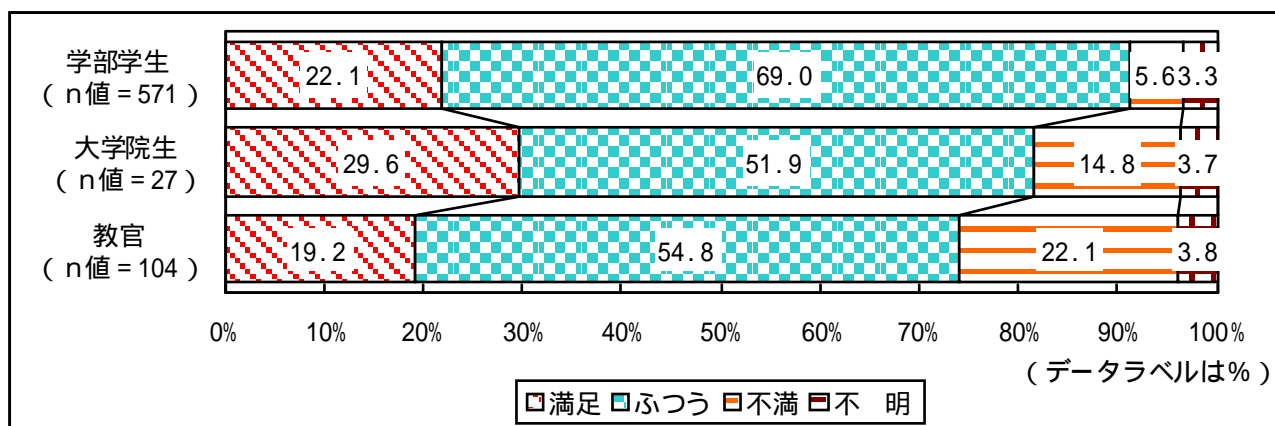
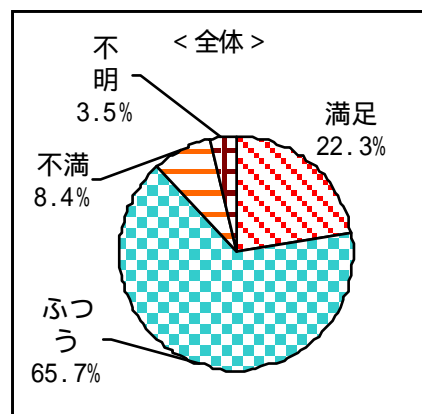
話し声・雑音については全体の8割を越す利用者が「満足」あるいは「ふつう」と回答しているが、「満足」と答えた利用者が17.6%とかなり低い。「不満」は16.7%であった。「不満」を身分毎で見ると教官よりも学部学生と大学院生の不満が多い。

《不満の主な意見》

- ・話し声が気になる (54) ・携帯電話、携帯メール、業務電話が気になる (24)
- ・騒がしい、うるさい、静かにしてほしい (24) ・マナーが悪い (7)
- ・パソコンを使う声、話し声 (3) ・掃除の音がうるさい (3)
- ・ウォークマンの音楽が気になる (1) ・飲食している人がいる (1)
- ・厳しく対応 (注意) して欲しい (1)

(15 - 5) 図書の配置・配列

	合計	満足	ふつう	不満	不明
合計	712	159	468	60	25
学部学生	571	126	394	32	19
大学院生	27	8	14	4	1
教官	104	20	57	23	4
その他	10	5	3	1	1



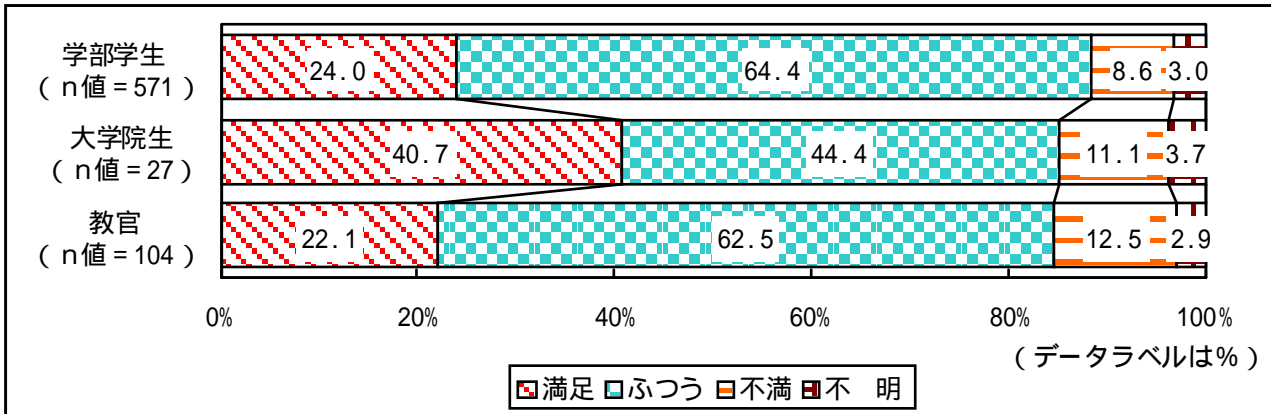
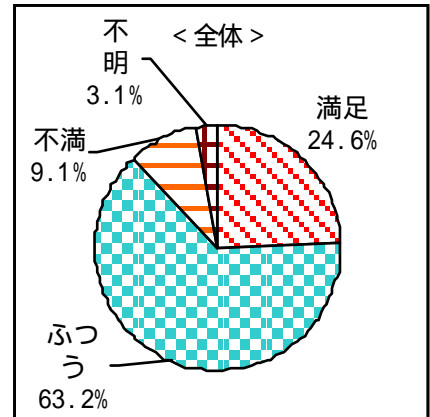
図書の配置・配列については全体の88%が「満足」あるいは「ふつう」と回答している。「不満」は8.4%であった。「不満」を身分毎で見ると、教官の不満が22.1%とかなり高かった。

《不満の主な理由》

- ・分かりづらい、探しにくい(18)
- ・開架が乱れている、あるべき本が見つけれない(14)
- ・分類の改善(5)
- ・複数の基準が混在して不便、6・7・8版図書を一緒にしてほしい(5)
- ・区切りや見出しをつけてほしい(1)

(15-6) 閲覧席

	合計	満足	ふつう	不満	不明
合計	712	175	450	65	22
学部学生	571	137	368	49	17
大学院生	27	11	12	3	1
教官	104	23	65	13	3
その他	10	4	5		1



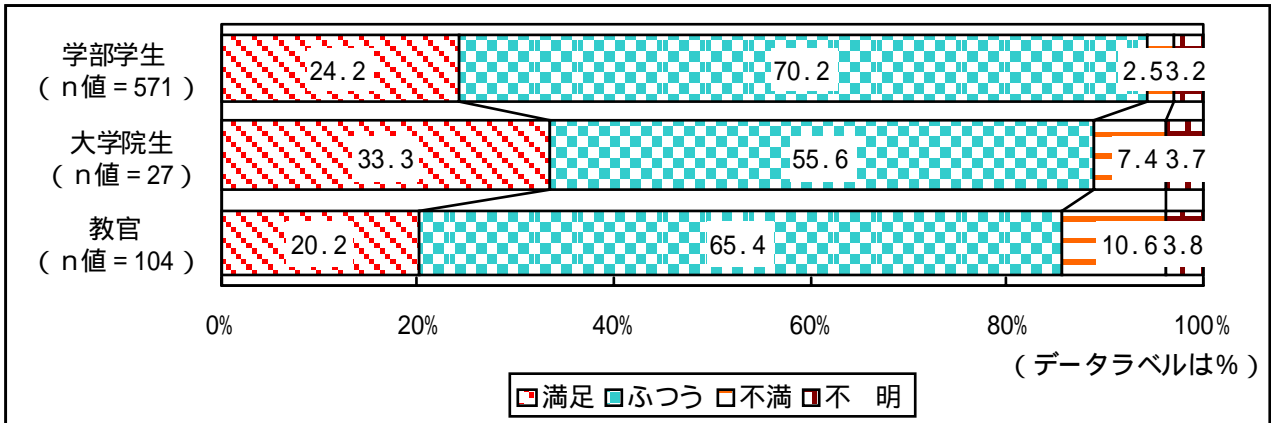
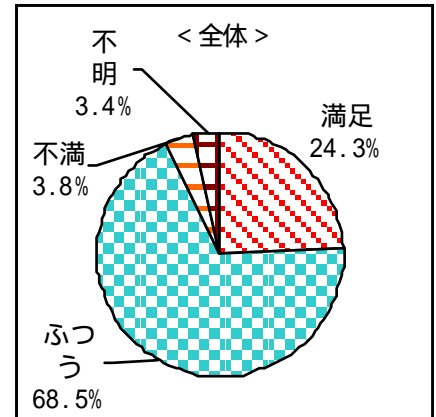
閲覧席については全体の約9割の利用者が「満足」あるいは「ふつう」と回答している。「不満」は9.1%であった。「不満」を身分毎で見ると、学部学生・大学院生・教官ともに10%前後となっている。学生は閲覧席数の増加、教官は席を広くという意見が多かった。また、閲覧席に照明設置の希望もあった。

《不満の主な意見》

- ・閲覧席を増やして欲しい(36) ・席を1人用に仕切ってほしい、1人用の机を増やして欲しい(4)
- ・照明がほしい(4) ・閲覧席を広くしてほしい(3) ・机が汚い、キズが多い(1)
- ・ノートパソコンが使えるように配線を希望(1)
- ・椅子 硬い、リクライニング式にして欲しい、フィットしない(1)

(15-7) 部屋の配置

	合計	満足	ふつう	不満	不明
合計	712	173	488	27	24
学部学生	571	138	401	14	18
大学院生	27	9	15	2	1
教官	104	21	68	11	4
その他	10	5	4		1



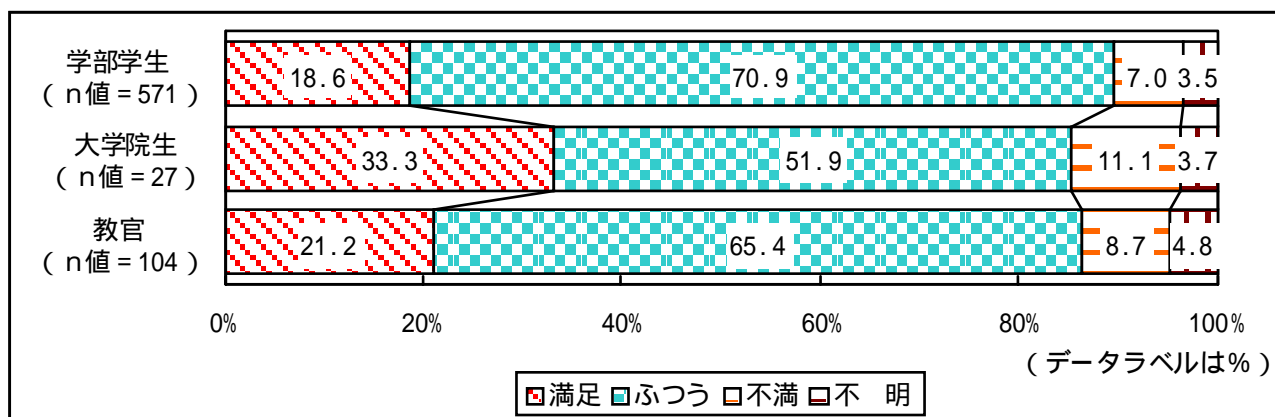
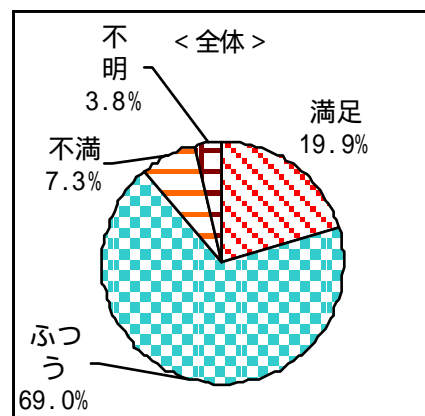
部屋の配置については全体の9割を超える利用者が「満足」あるいは「ふつう」と回答している。「不満」は3.8%であった。「不満」を身分毎で見ると、学部学生・大学院生よりも教官に多かった。学生は開架図書利用とパソコン利用上のつながり、教官は書庫利用に対する意見が多かった。

《不満の主な意見》

- ・2階閲覧室からマルチメディア室への移動など各室利用のためのつながりが悪い(11)
- ・書庫がわかりにくい(3)
- ・学生用コピー機をレファレンスの近くに、コピー機を隔離して欲しい(2)
- ・経済学の本が1Fと2Fに分かれていて利用しにくい(1)
- ・雑誌コーナーと視聴覚コーナーを別々に(1)
- ・わかりにくい、部屋の配置図がもう少し多く欲しい(1)
- ・通路が狭い(1)

(15 - 8) 案内板等

	合計	満足	ふつう	不満	不明
合計	712	142	491	52	27
学部学生	571	106	405	40	20
大学院生	27	9	14	3	1
教官	104	22	68	9	5
その他	10	5	4		1



案内板等については全体の約9割が「満足」あるいは「ふつう」と回答している。「不満」は7.3%であった。「不満」を身分毎で見ると、大学院生の比率がやや高かった。

《不満の主な意見》

- ・わかりにくい、見づらい、目立つように、字が小さい(26)
- ・もっと詳細に、具体的に(3)
- ・電光掲示板にして欲しい(1)
- ・数を増やして欲しい(4)
- ・本の番号を明示した案内板、書庫案内地図が欲しい(1)
- ・内容が古い(1)

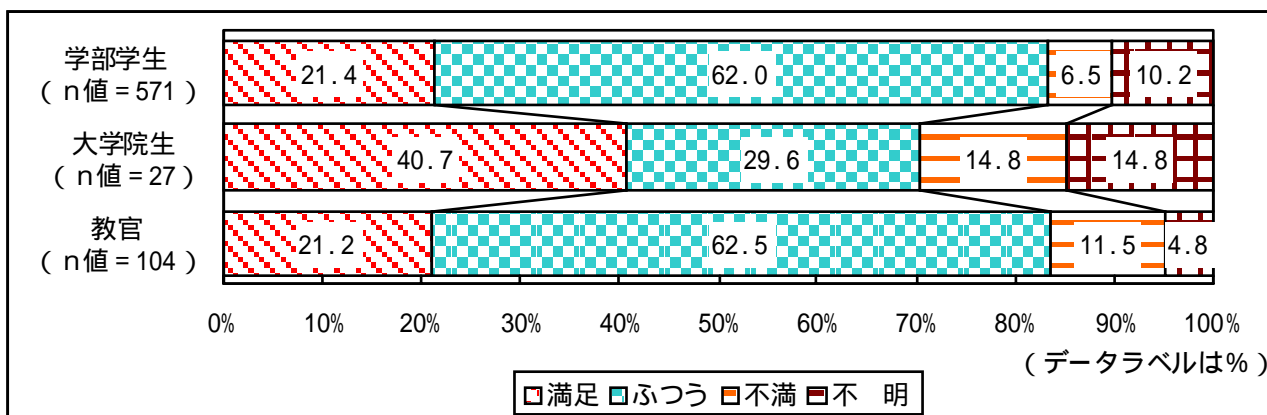
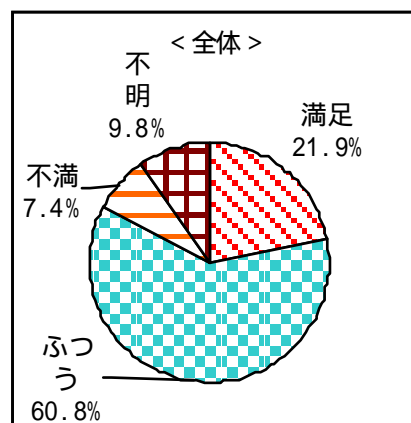
(15-9) 施設・設備についてどのような希望, 要望をお持ちですか。

施設・設備への希望, 要望	人数
パソコン 速いもの・新しいものを希望、台数増、故障が多いなど	13
閲覧席 座席数増、席とりへの不満、仕切りが欲しい、席に照明設置など	12
入館ゲート 不要、エラー音がうるさい、位置がわるいなど	10
資料 古い、増加、充実など	8
トイレ 防音対策、臭い対策、美化、扉の設置など	7
コピー機 台数増、カラー化など	7
自販機の設置、水のみ場の増設	7
建物 狭い、理工系図書の置き場所、全体の改築・雰囲気づくりなど	6
話し声、携帯電話がうるさい	6
冷暖房 快適に、自分で調整、いらぬ等	5
暗い ロビー、入口、全体など	4
音楽 閉館時の音楽が嫌、心を落ち着かせるような音楽をなど	3
喫煙所 不要、増設、別に部屋を設けるなど	3
2階の移動	3
配架の乱れ	3
新聞コーナー くさい、うるさい、広くしてほしい、椅子がほしい	2
書庫内をわかりやすく	2
全館開架	2
視聴覚資料の利用・充実	2
学生のモラル向上、利用者側の意識	2
ブラインドの扱い方がわからない	1
カーテンの工夫(明るい感じに)	1
傘立てを何とかしてほしい	1
新聞、週刊誌コーナーを入口近くに	1
電子図書	1
本棚を立派に	1
2階の開放	1
明るく快適な空間に	1
電光掲示板は見えにくい	1

(16) あなたは、図書館の情報機器・視聴覚機器についてどう思いますか。

(16-1) 蔵書検索(OPAC)用パソコン

	合計	満足	ふつう	不満	不明
合計	712	156	433	53	70
学部学生	571	122	354	37	58
大学院生	27	11	8	4	4
教官	104	22	65	12	5
その他	10	1	6		3



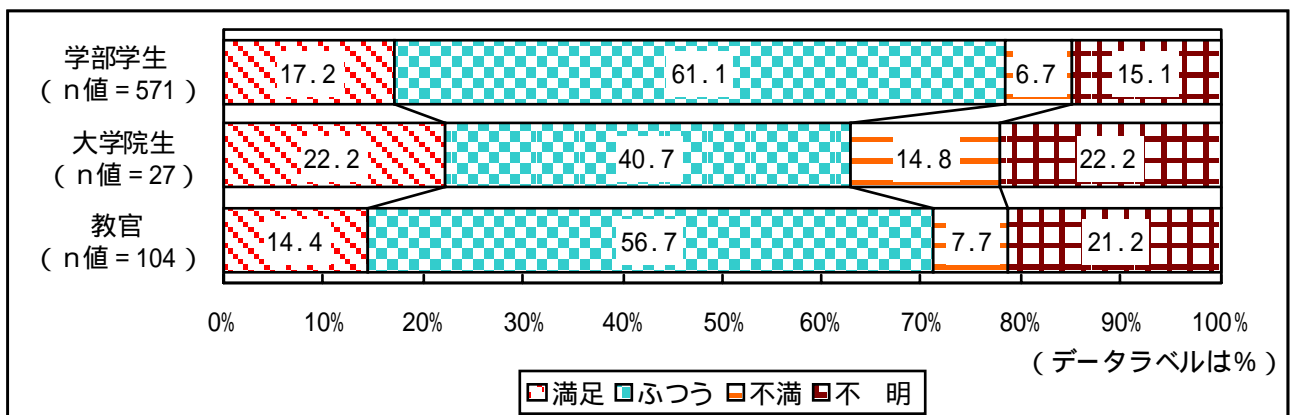
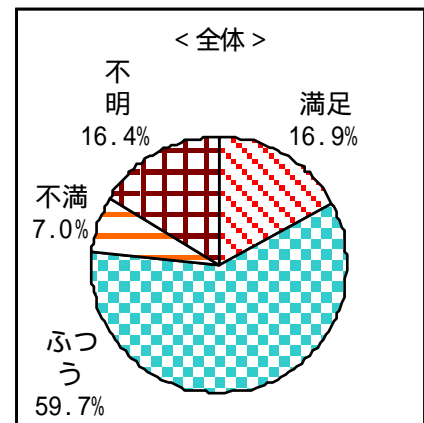
蔵書検索用パソコンについては、全体の82.7%の利用者が「満足」あるいは「ふつう」と回答している。「不満」は7.4%であった。「不満」を身分毎で見ると、大学院生の40.7%が「満足」と答えている反面、「不満」も14.8%と高くなっており、教官の「不満」11.5%とあわせみると、学生より高度の検索を必要とする層での不満が高い傾向がうかがえる。

《不満の主な理由》

- ・ヒットしない(10) ・検索の仕方がわかりにくい(8) ・配架場所の表示がわかりにくい(8)
- ・キーワードを充実させてほしい(4) ・印刷ができない(3) ・端末が少ない(3)
- ・本の目次や内容も知りたい(2) ・画面表示がわかりにくい(2) ・処理が遅い(2)
- ・OPACで所在地がわかるようにしてほしい(1)

(16-2) 情報検索 (CD-ROM, インターネット) 用パソコン

	合計	満足	ふつう	不満	不明
合計	712	120	425	50	117
学部学生	571	98	349	38	86
大学院生	27	6	11	4	6
教官	104	15	59	8	22
その他	10	1	6		3



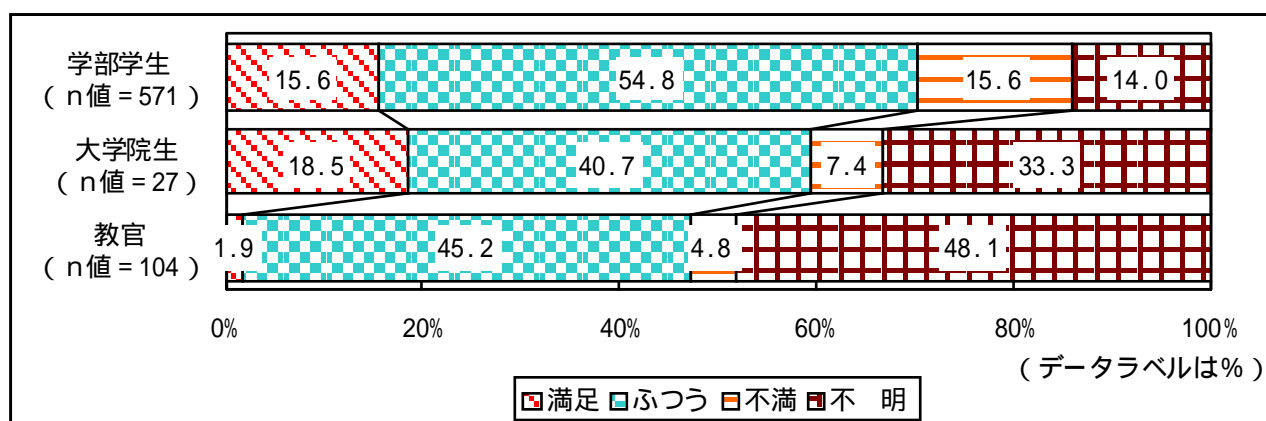
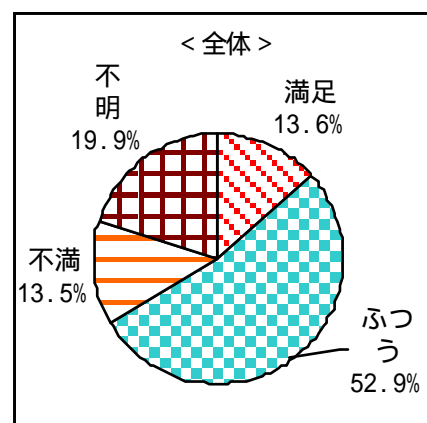
情報検索用パソコンについては、全体の76.6%の利用者が「満足」あるいは「ふつう」と回答している。「不満」は7.0%であった。身分毎で見ると、大学院生の22.2%が「満足」と答え、学生・教官に比べて高い反面、「不満」の値も14.8%と高くなっている。

《不満の主な理由》

- ・パソコンを増設してほしい(17)
- ・処理が遅い(7)
- ・新しいパソコンにしてほしい(5)
- ・使い方が分からない(4)
- ・マウスが古い(2)
- ・中国語入力システムを入れてほしい(1)
- ・1Fの情報検索用パソコンでインターネットの利用を禁止してほしい(1)
- ・独立した部屋にしてほしい(1)

(16 - 3) 学習 (レポート作成等) 用パソコン

	合計	満足	ふつう	不満	不明
合計	712	97	377	96	142
学部学生	571	89	313	89	80
大学院生	27	5	11	2	9
教官	104	2	47	5	50
その他	10	1	6		1



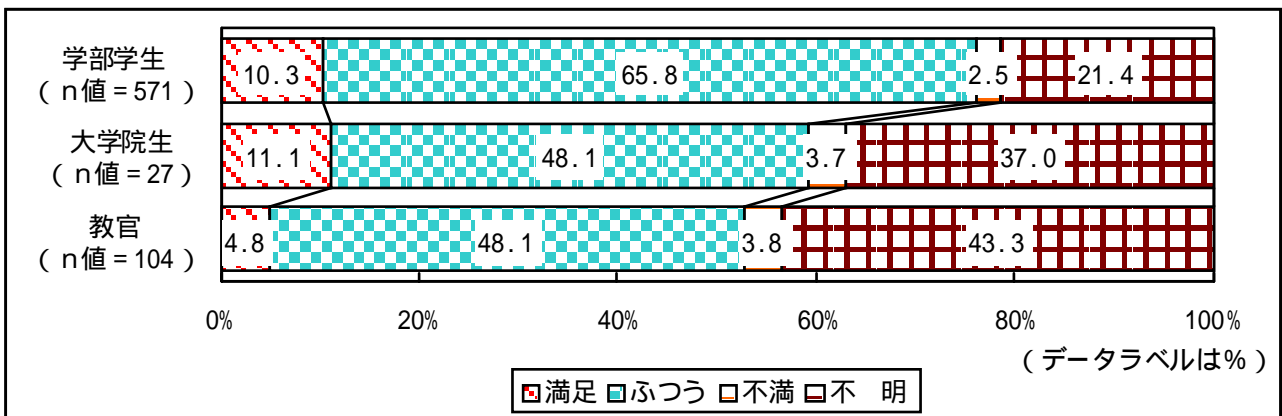
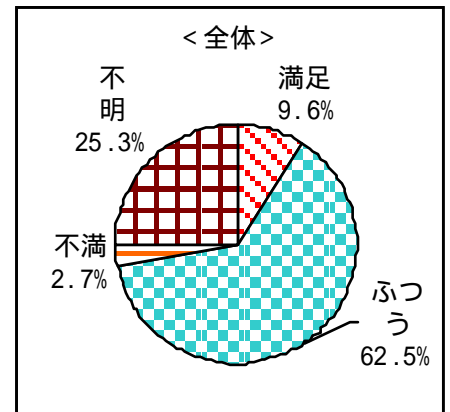
学習用パソコンについては、全体の66.5%の利用者が「満足」もしくは「ふつう」と回答している。「不満」は13.5%であった。身分毎で見ると、学部学生の「不満」の値が15.6%と最も高かった。大学院生と教官の「不明」の値が高いのは、学習用パソコンということで、あまり利用されていないためと考えられる。

《不満の主な理由》

- ・ パソコンを増設してほしい(28) ・ 頻繁にフリーズする(19) ・ 故障が多い(12)
- ・ 新しいパソコンにしてほしい(11) ・ 処理が遅い(8) ・ プリンタが少ない(7)
- ・ 印刷機の不調が多い(4) ・ 起動が遅い(4) ・ 部屋(間隔)が狭い(3) ・ 接続が遅い(2)
- ・ マウスを新しくしてほしい(2) ・ パソコン機を大きなものにしてほしい(1)

(16-4) 視聴覚機器類 (ビデオデッキ, DVD プレーヤー, CD プレーヤー)

	合計	満足	ふつう	不満	不明
合計	712	68	445	19	180
学部学生	571	59	376	14	122
大学院生	27	3	13	1	10
教官	104	5	50	4	45
その他	10	1	6		3



視聴覚機器類については、全体の72.1%の利用者が「満足」あるいは「ふつう」と回答している。「不満」は2.7%であった。身分毎で見ると、主に学生中心の利用となっている傾向がうかがえる。教官の「不明」の比率が高いのは、教官にはあまり利用されていないためと思われる。この設問については、視聴覚機器が「AVコーナー」と「視聴覚室」に分かれているため、回答が混在している。

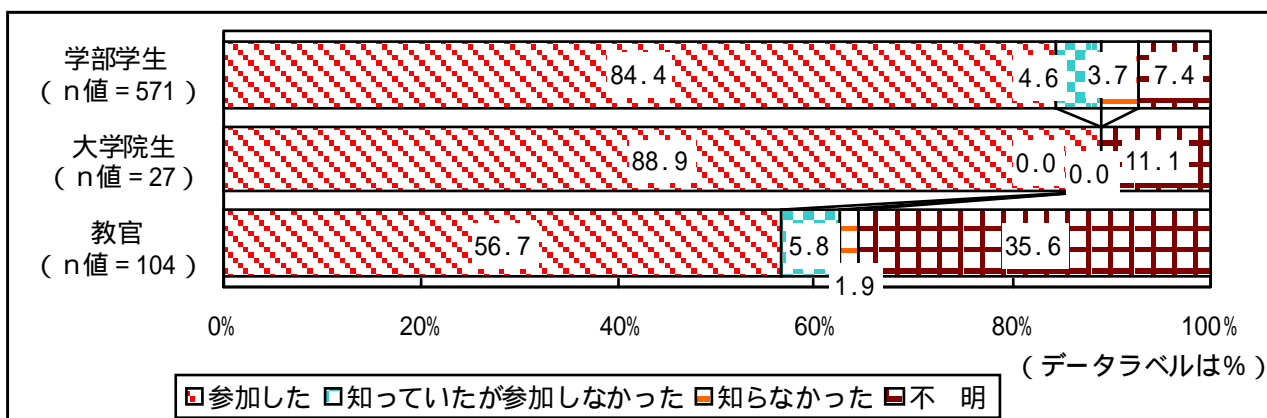
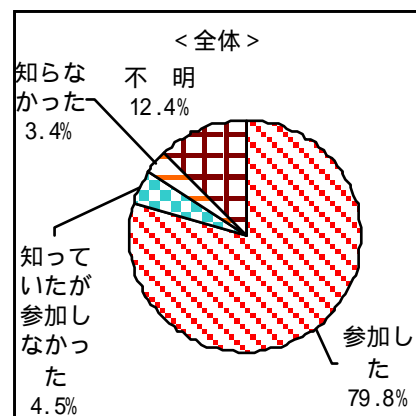
《不満の主な理由》

- ・ 増設してほしい(4)
- ・ 機器が使いにくい(3)
- ・ 専用室または個室にしてほしい(3)
- ・ 利用の簡便化(2)
- ・ 外国語自習用のコンピュータがほしい(1)
- ・ 部屋が使いにくい(1)
- ・ 新しい機器にしてほしい(1)
- ・ マニュアルを充実させてほしい(1)

(17) あなたは、図書館利用ガイダンスについてどう思いますか。

(17-1-1) 新入生図書館ガイダンス

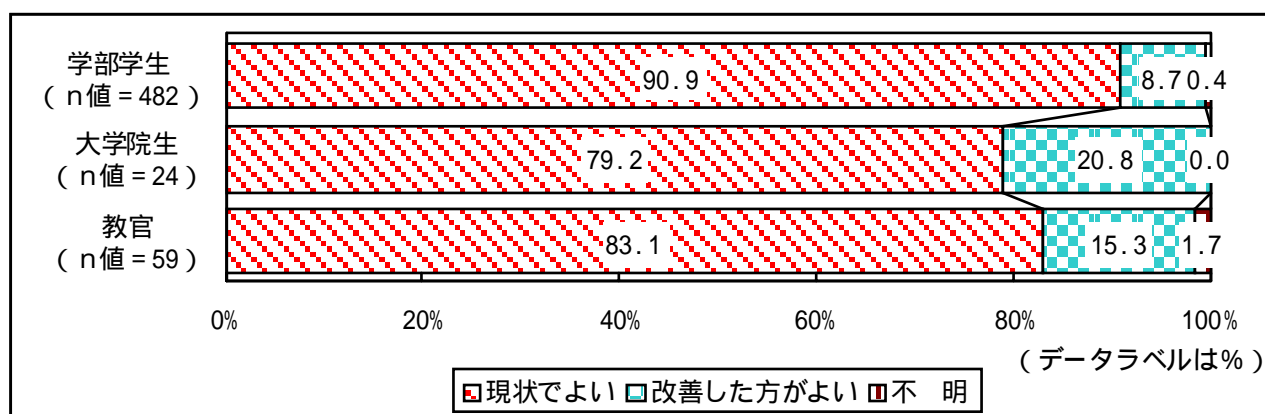
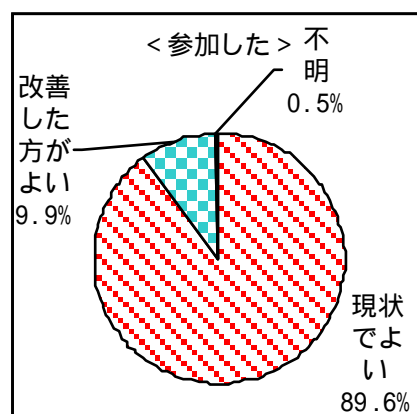
	合計	参加した	知っていたが参加しなかった	知らなかった	不明
合計	712	568	32	24	88
学部学生	571	482	26	21	42
大学院生	27	24			3
教官	104	59	6	2	37
その他	10	3		1	6



図書館利用ガイダンスについては、全体の 79.8%の利用者から「参加した」との回答があった。学部学生の 84.4%、大学院生の 88.9%が参加している。

(17-1-2) 新入生図書館ガイダンスに参加した結果

	合計	現状でよい	改善した方がよい	不明
合計	568	509	56	3
学部学生	482	438	42	2
大学院生	24	19	5	
教官	59	49	9	1
その他	3	3		



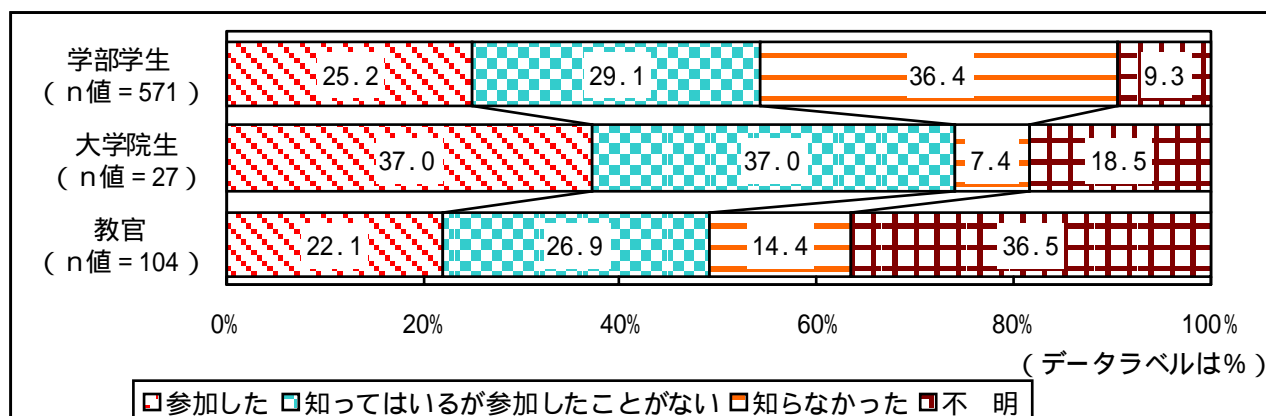
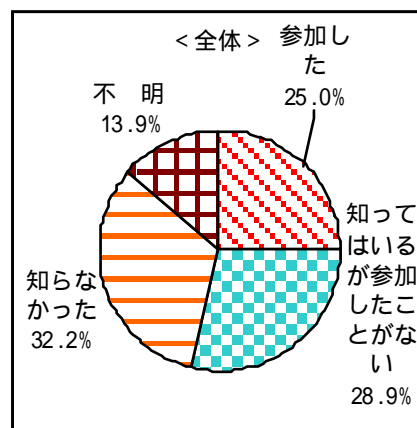
参加した利用者からは、89.6%が「現状でよい」と回答しており、「改善したほうがよい」は9.9%であったが、身分毎で見ると、「改善したほうがよい」との意見は学部学生よりも大学院生(20.8%)及び教官(15.3%)から高い比率で出されている。

《主な改善点》

- ・一度に説明されてもわからない(9) ・時期が遅い、もっと早い時期に(5)
- ・声が聞こえない(3) ・人数が多すぎる(3)
- ・パソコンなど変更があった時や卒論のためにも、2年生以上も必要(3)
- ・時間を短く(2) ・態度が悪い(2) ・書庫案内は3,4年次にやってほしい(2)
- ・ガイダンスの大切さの認識が低い(2) ・CD-ROMの説明を充実してほしい(1)

(17-2-1) 情報探索基礎講座

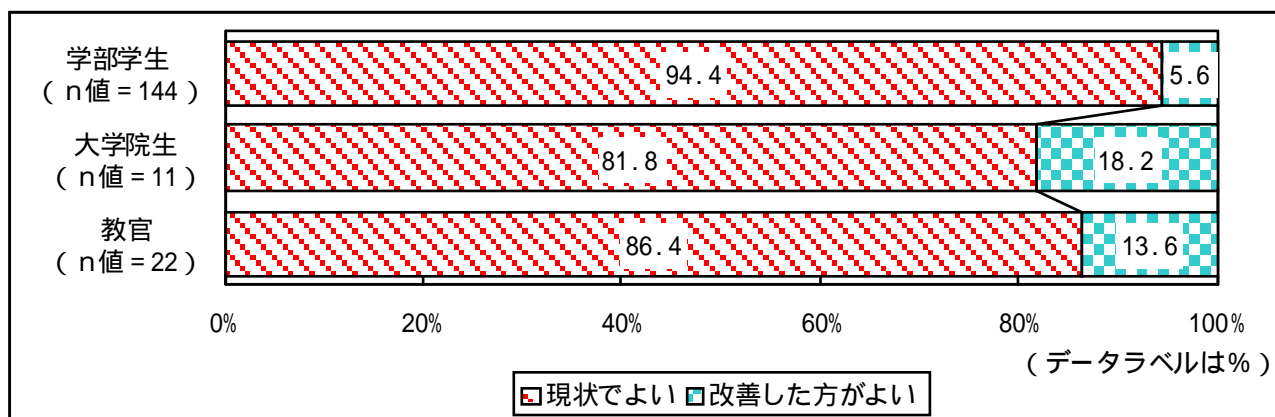
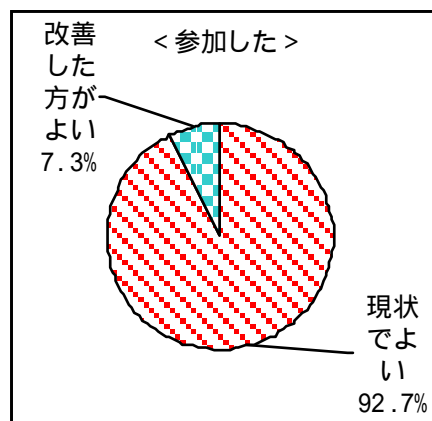
	合計	参加した	知っているが参加したことがない	知らなかった	不明
合計	712	178	206	229	99
学部学生	571	144	166	208	53
大学院生	27	10	10	2	5
教官	104	23	28	15	38
その他	10	1	2	4	3



情報探索基礎講座については、全体の 25%しか「参加した」との回答が得られなかったことから、参加の割合が大変低いことが判明した。今後開催する際には参加者の増加を図るために、参加しやすい工夫が必要であり、また、32.2%が「知らなかった」と答えていることに対しては、効果的な PR を行うことも重要な課題となっている。身分毎でみると、学部学生では「知らなかった」割合が 36.4%と大学院生、教官と比べて認知度はかなり低い。大学院生では参加した割合が 37%と最も高かった。

(17-2-2) 情報探索基礎講座に参加した結果

	合計	現状でよい	改善した方がよい
合計	178	165	13
学部学生	144	136	8
大学院生	11	9	2
教官	22	19	3
その他	1	1	



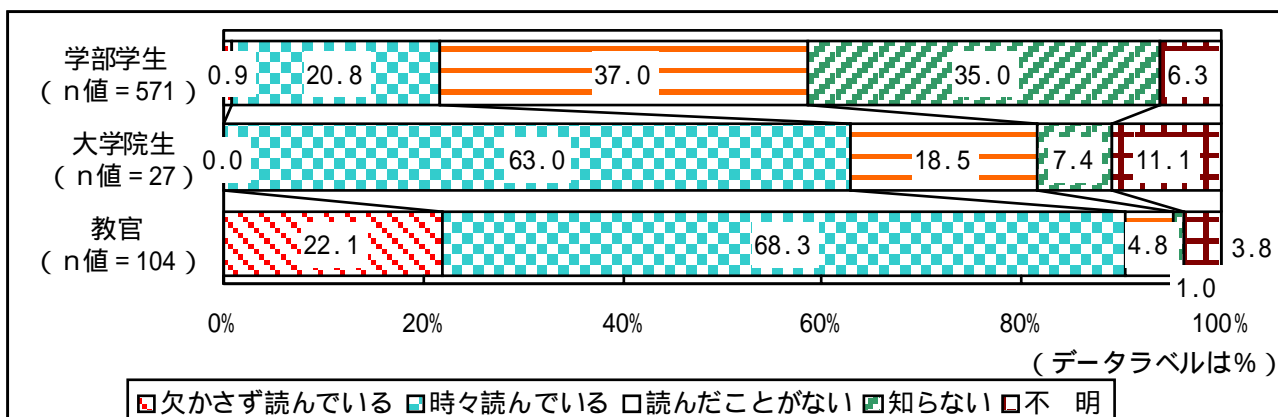
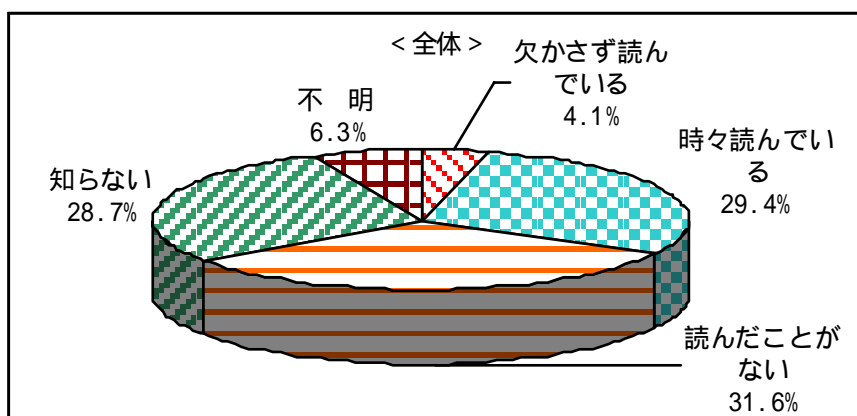
参加した利用者からは、全体の92.7%が「現状でよい」と回答している。「改善したほうがよい」と答えたのは7.3%であった。身分毎で見ると、「改善したほうがよい」と答えたのは学生より大学院生や教官の割合が高い。これは講座の内容が主に学生対象となっているためと思われる。

《主な改善点》

- ・回数も多く、週に何日も開催してほしい(3) ・もっとPRする(1)
- ・土曜日も開催してほしい(1) ・資料をパンフレットにしてほしい(1)

(18) あなたは、図書館報「書燈」を知っていますか。

	合計	欠かさず読んでいる	時々読んでいる	読んだことがない	知らない	不明
合計	712	29	209	225	204	45
学部学生	571	5	119	211	200	36
大学院生	27		17	5	2	3
教官	104	23	71	5	1	4
その他	10	1	2	4	1	2



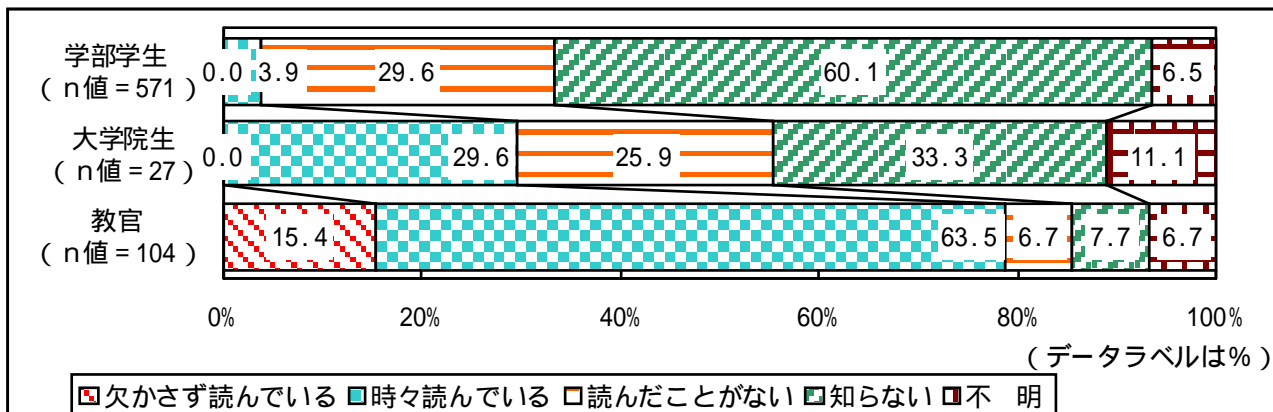
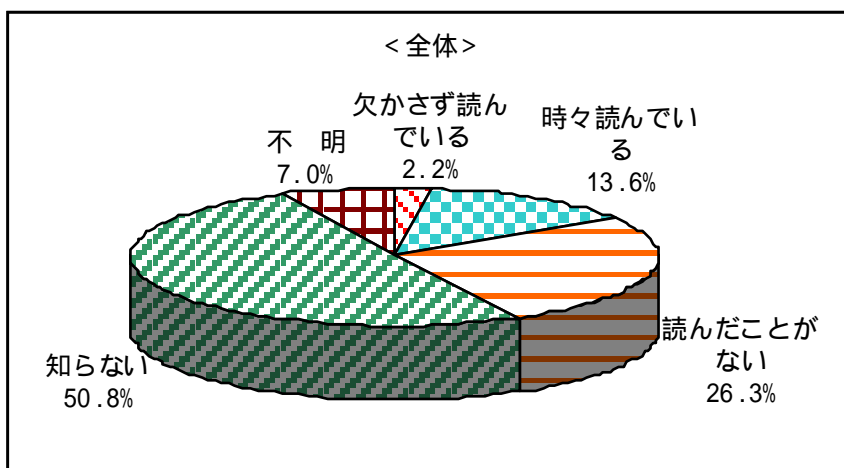
図書館報「書燈」については、全体の33.5%が「欠かさず読んでいる」あるいは「時々読んでいる」との回答があった。一方、「読んだことがない」「知らない」と答えたのは60.3%となり、図書館報の認知度はかなり低い。身分毎で見ると、学生では「読んでいる」と答えたのは21.7%ともっとも低く、特に学生への認知度が低い。大学院生では63%、教官では90.4%が「読んでいる」と答えていることから、学生も関心を持つ内容の工夫が必要である。

《主な要望》

- ・生協にもおいてほしい(1)
- ・本を嫌いな人もいるので、興味のもてる内容にしてほしい(1)

(19) あなたは、「レファレンス・サービス・ニュース」を知っていますか。

	合計	欠かさず読んでいる	時々読んでいる	読んだことがない	知らない	不明
合計	712	16	97	187	362	50
学部学生	571		22	169	343	37
大学院生	27		8	7	9	3
教官	104	16	66	7	8	7
その他	10		1	4	2	3



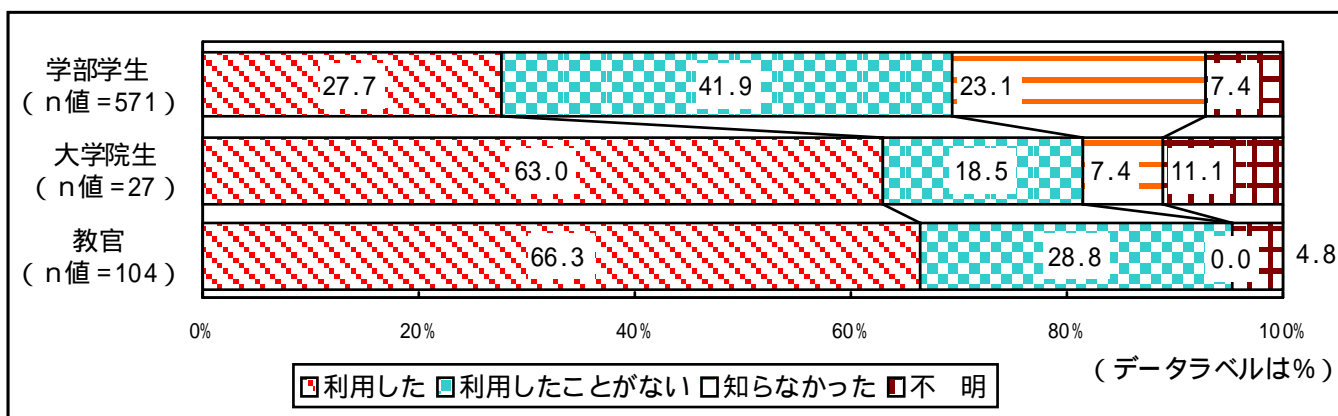
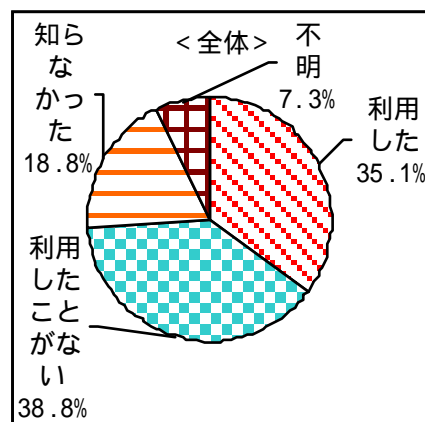
「レファレンス・サービス・ニュース」については、「欠かさず読んでいる」「時々読んでいる」と回答したのは全体の15.8%であった。一方、「読んだことがない」「知らない」と答えたのは77.1%となっており、利用者への認知度はかなり低かった。身分毎で見ると、読んだことのある学生は3.9%ともっとも低く、大学院生は29.6%が「時々読んでいる」となっている。教官は78.9%が「欠かさず読んでいる」「時々読んでいる」と答えており、教官への認知度がもっとも高い。これはニュースが比較的高度な内容となっているためと思われる。

《要望等》
特になし

(20) あなたは、図書館がホームページで提供している以下のサービスを利用したことがありますか。

(20-1-1) 利用案内

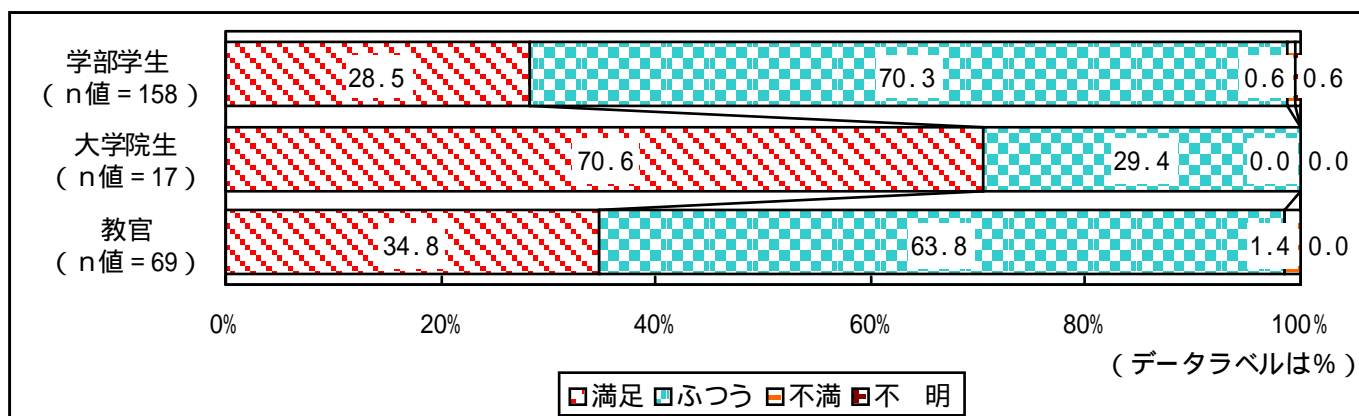
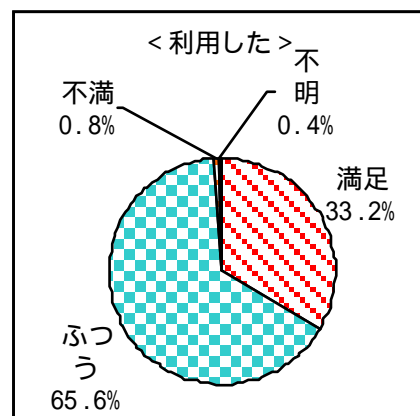
	合計	利用した	利用したことがない	知らなかった	不明
合計	712	250	276	134	52
学部学生	571	158	239	132	42
大学院生	27	17	5	2	3
教官	104	69	30		5
その他	10	6	2		2



利用案内については、全体の35.1%の利用者が「利用した」と回答している。一方、「利用したことがない」「知らなかった」と答えたのは57.6%であった。身分毎で見ると、学部学生では「利用した」のが27.7%に対し、「知らなかった」と答えた比率が23.1%もあり、学生への認知度が低い。大学院生の63.0%、教官の66.3%が「利用した」と回答している。

(20-1-2) 利用案内を利用した結果

	合計	満足	ふつう	不満	不明
合計	250	83	164	2	1
学部学生	158	45	111	1	1
大学院生	17	12	5		
教官	69	24	44	1	
その他	6	2	4		



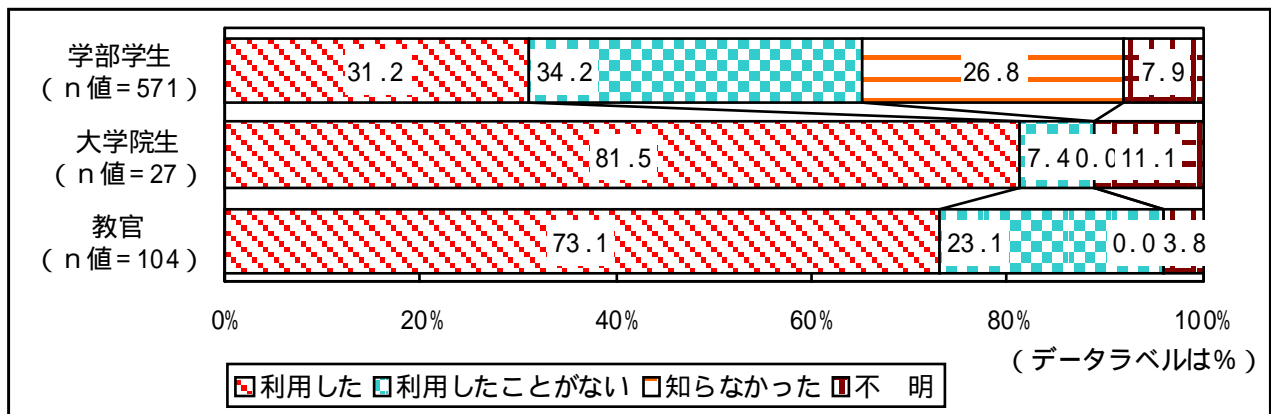
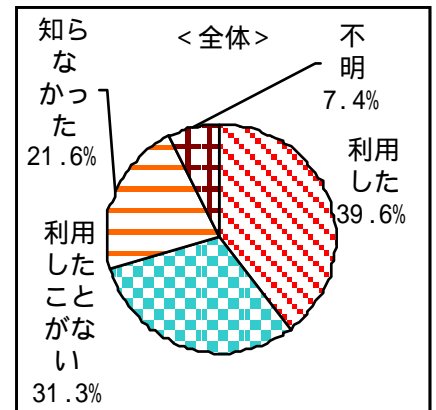
「利用した」と答えた利用者の98.8%が「満足」あるいは「ふつう」と回答している。「不満」はわずか0.4%であった。身分毎で見ると、大学院生の70.6%が「満足」と回答しており、よく利用されていることがうかがえる。

《不満の主な理由》

- ・家のパソコンで利用できない(1)

(20 - 2 - 1) OPAC (オンライン蔵書目録)

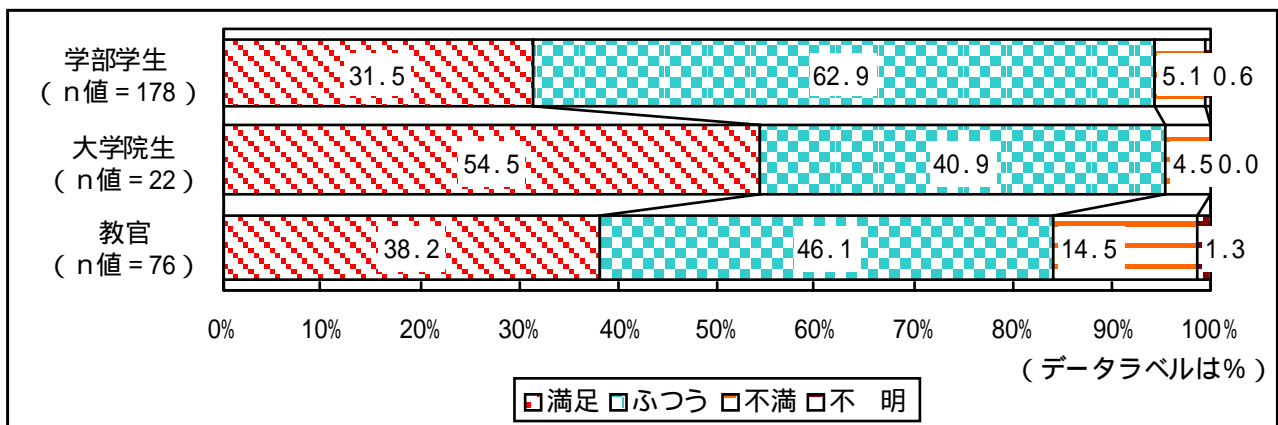
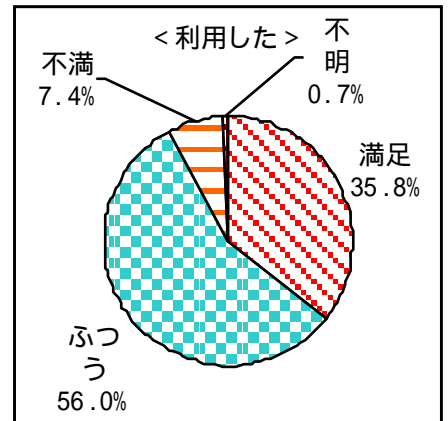
	合計	利用した	利用したことがない	知らなかった	不明
合計	712	282	223	154	53
学部学生	571	178	195	153	45
大学院生	27	22	2		3
教官	104	76	24		4
その他	10	6	2	1	1



OPAC については、全体の 39.6% の利用者が「利用した」と回答している。学部学生では「利用した」ことがあるのは 31.2% しかなく、「知らなかった」と答えたものも 26.8% もあった。一方、大学院生の 81.5%、教官の 73.1% が「利用した」と回答しており、よく利用されている状況がうかがえる。OPAC による蔵書検索は学外にも公開されており、自宅からでも利用できるため、もっとも活用してほしい利用者サービスのひとつであるので、今後学生に対する PR を充実させる必要がある。

(20 - 2 - 2) OPAC (オンライン蔵書目録) を利用した結果

	合計	満足	ふつう	不満	不明
合計	282	101	158	21	2
学部学生	178	56	112	9	1
大学院生	22	12	9	1	
教官	76	29	35	11	1
その他	6	4	2		



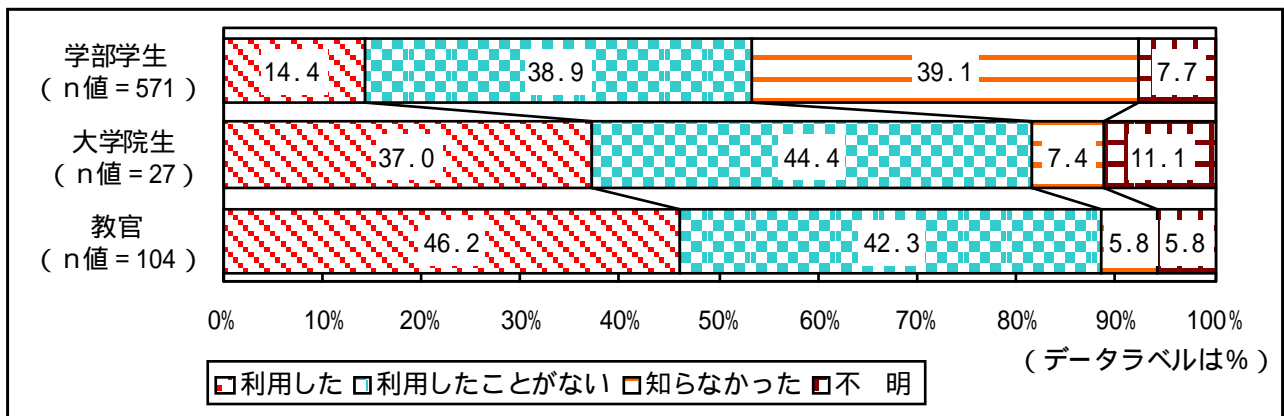
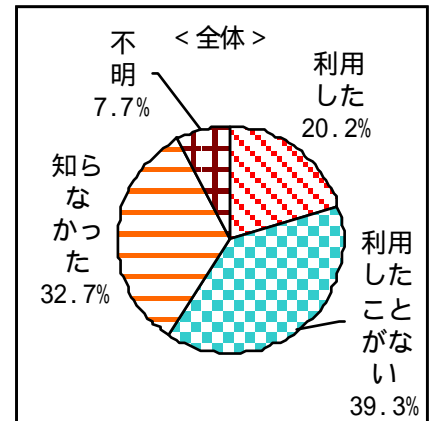
「利用した」と答えた利用者の 91.8%が「満足」あるいは「ふつう」と回答している。「不満」は 7.4%であった。身分毎でみると、大学院生の 54.5%が「満足」と答えているが、教官では 14.5%が「不満」と回答した。

《不満の主な理由》

- ・つながらない、つながりにくい(4)
- ・ヒットしない(3)
- ・調べ方がわからない(2)
- ・文字化けする(2)
- ・キーワードを充実させてほしい(2)
- ・使いにくい(2)

(20 - 3 - 1) NACSIS-WEBCAT

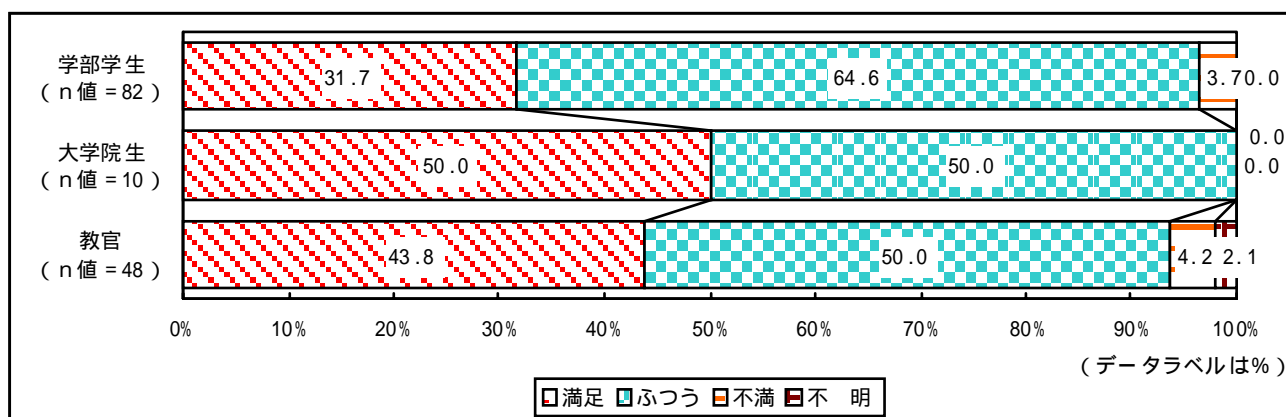
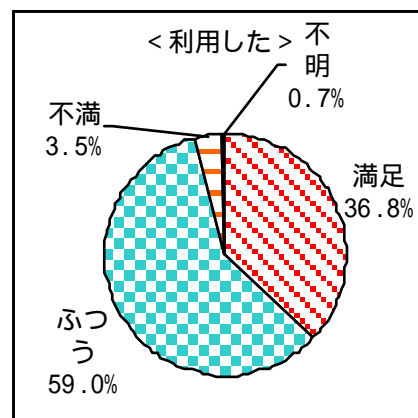
	合計	利用した	利用したことがない	知らなかった	不明
合計	712	144	280	233	55
学部学生	571	82	222	223	44
大学院生	27	10	12	2	3
教官	104	48	44	6	6
その他	10	4	2	2	2



NACSIS-WEBCAT については、全体の 20.2%の利用者からしか「利用した」との回答が得られなかった。学部学生では 14.4%しか「利用した」ことがなく、「知らなかった」と答えたものが 39.1%もあった。一方、大学院生の 37.0%、教官の 46.2%が「利用した」と回答しており、研究者の利用が高くなる傾向がうかがえるが、これは研究にあたって本館未所蔵の資料を文献複写や相互貸借で入手する活動が活発に行われているためと思われる。

(20 - 3 - 2) NACSI S-WEBCAT を利用した結果

	合計	満足	ふつう	不満	不明
合計	144	53	85	5	1
学部学生	82	26	53	3	
大学院生	10	5	5		
教官	48	21	24	2	1
その他	4	1	3		



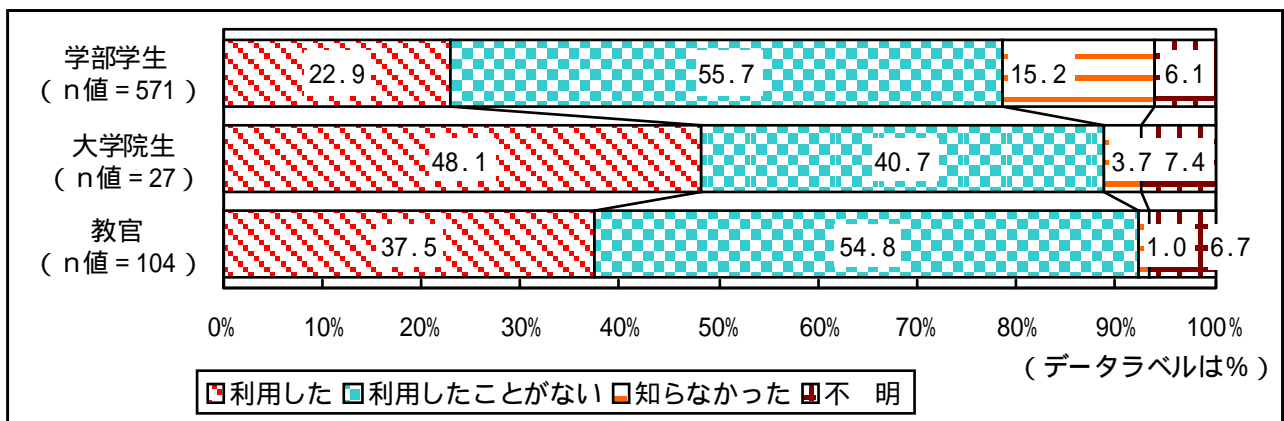
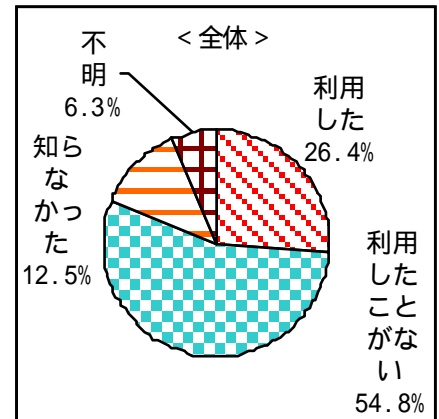
「利用した」と答えた利用者の 95.8%が「満足」あるいは「ふつう」と回答している。「不満」は 3.5%であった。身分毎で見ると、大学院生の 50.0%、教官の 43.8%が「満足」と答えており、比較的満足度は高い。

《不満の主な理由》

- ・検索精度が低い(2)
- ・使いにくい(1)
- ・使い方がわからない(1)
- ・つながらない(1)

(20 - 4 - 1) CD-ROM

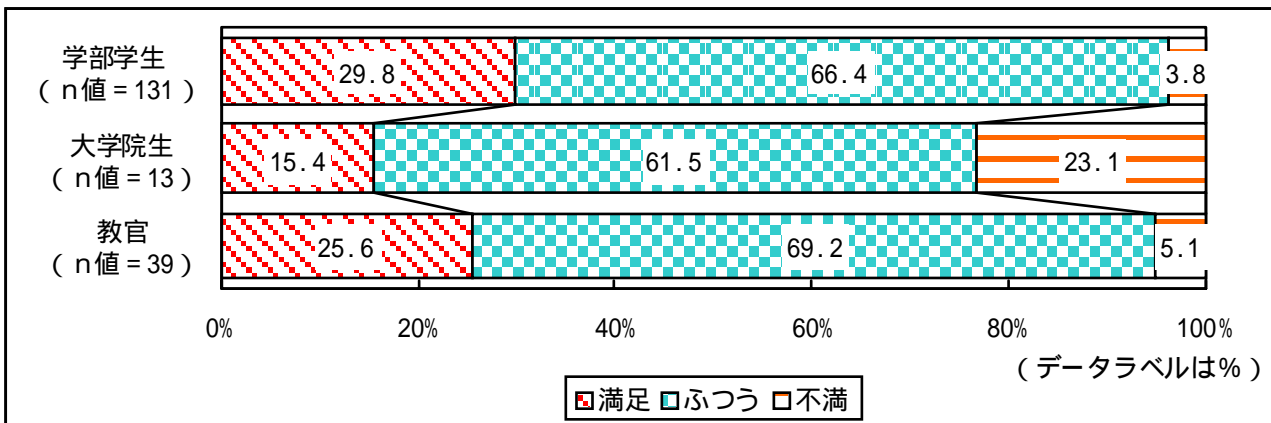
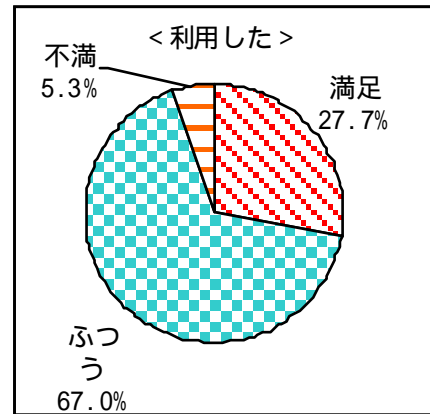
	合計	利用した	利用したことがない	知らなかった	不明
合計	712	188	390	89	45
学部学生	571	131	318	87	35
大学院生	27	13	11	1	2
教官	104	39	57	1	7
その他	10	5	4		1



CD-ROM については、全体の 26.4%の利用者からしか「利用した」との回答が得られなかった。学部学生は 22.9%しか「利用した」ことがなく、「知らなかった」と答えたものも 15.2%であった。一方、大学院生の 48.1%、教官の 37.5%が「利用した」と回答しており、「知らなかった」と答えたのは極わずかであった。

(20 - 4 - 2) CD-ROM を利用した結果

	合計	満足	ふつう	不満
合計	188	52	126	10
学部学生	131	39	87	5
大学院生	13	2	8	3
教官	39	10	27	2
その他	5	1	4	



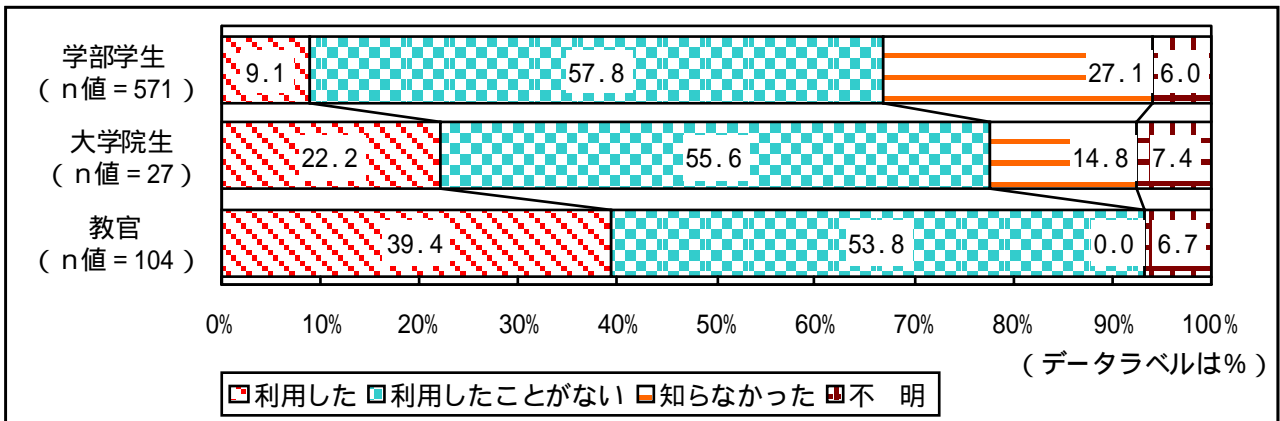
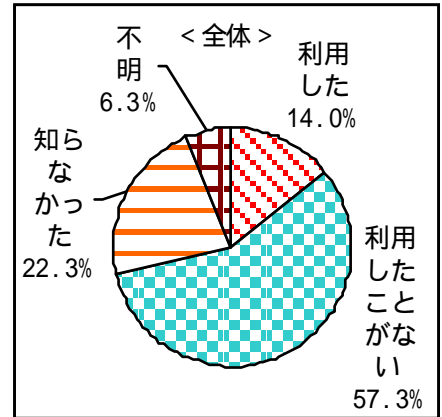
「利用した」と答えた利用者の 94.7%が「満足」あるいは「ふつう」と回答している。「不満」は 5.3%であった。身分毎で見ると、大学院生の「不満」が 23.1%と高い比率を示した。

《不満の主な理由》

- ・種類が少ない(3)
- ・MAC など使えないパソコンがある(2)
- ・新しい新聞記事が検索できない(1)
- ・使い方がわからない(1)

(20-5-1) 電子ジャーナル

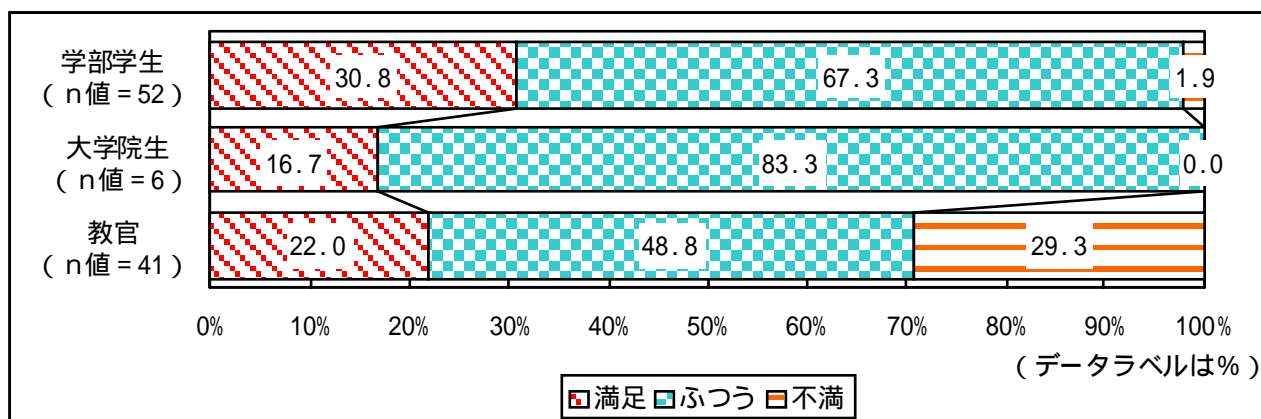
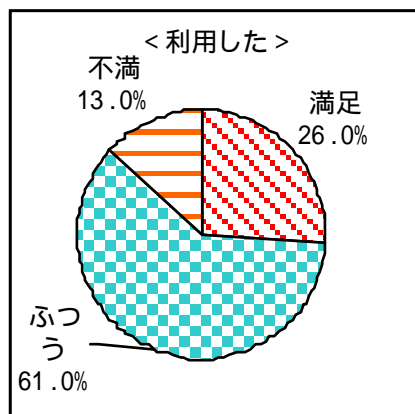
	合計	利用した	利用したことがない	知らなかった	不明
合計	712	100	408	159	45
学部学生	571	52	330	155	34
大学院生	27	6	15	4	2
教官	104	41	56		7
その他	10	1	7		2



電子ジャーナルについては、全体の利用者の14.0%が「利用した」と回答しているが、利用の度合いはかなり低いと思われる。身分毎で見ると、学部学生では9.1%しか「利用した」ことがなく、「知らなかった」と答えたものも27.1%あった。これは電子ジャーナルが外国雑誌であるため、やむをえないのではないかとと思われる。また、大学院生の22.2%、教官の39.4%が「利用した」と回答しており、「知らなかった」と答えたのは大学院生14.8%、教官0%であった。

(20 - 5 - 2) 電子ジャーナルを利用した結果

	合計	満足	ふつう	不満
合計	100	26	61	13
学部学生	52	16	35	1
大学院生	6	1	5	
教官	41	9	20	12
その他	1		1	



「利用した」と答えた利用者の 87.0%が「満足」あるいは「ふつう」と回答している。「不満」は 13.0%であった。身分毎で見ると、教官の 29.3%が「不満」と答え、高い比率となった。

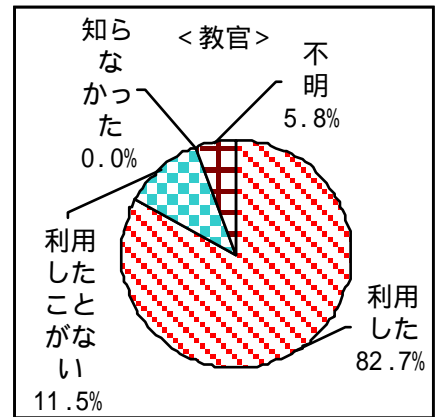
《不満の主な理由》

- ・分野や冊数を充実してほしい(11)
- ・MAC のパソコンで使いにくい(1)
- ・日本語の電子ジャーナルも充実させてほしい(1)

(20 - 6 - 1) 資料購入・文献複写依頼 (対象は教官)

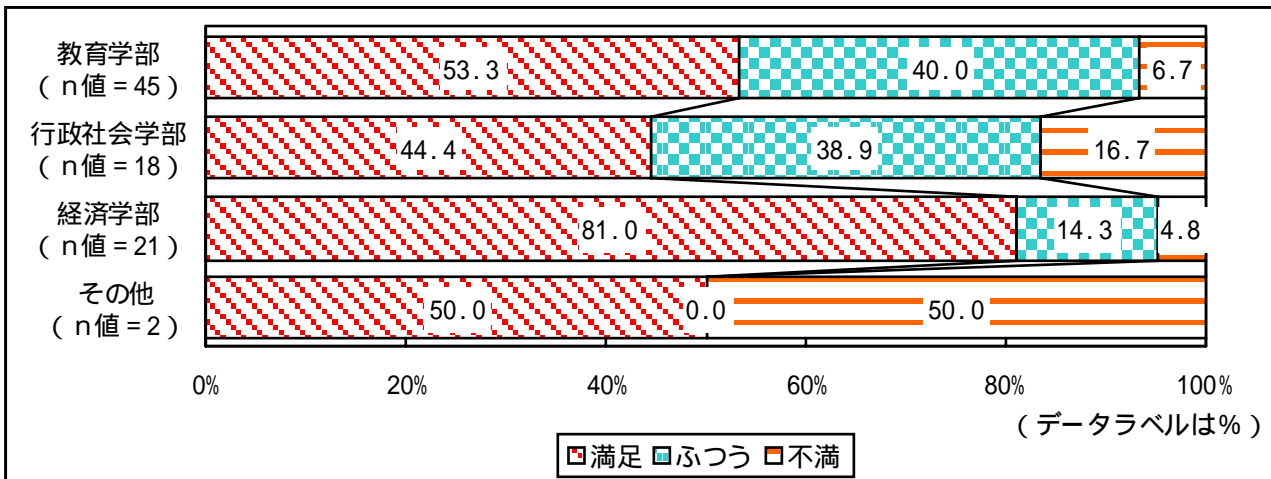
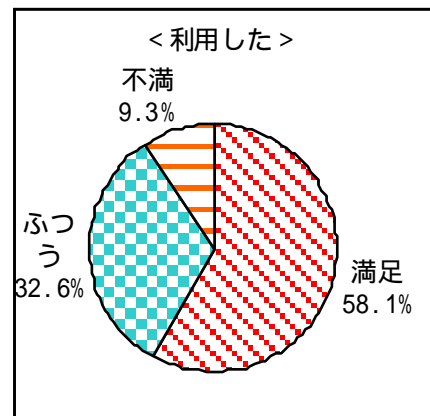
	合計	利用した	利用したことがない	知らなかった	不明
教官	104	86	12		6

資料購入・文献複写依頼については、教官の82.7%が「利用した」と回答しており、ネットワークを経由した資料購入依頼や文献複写の申込みが利用されている状況がうかがえる。



(20 - 6 - 2) 資料購入・文献複写依頼 (対象は教官) を利用した結果

	合計	満足	ふつう	不満
合計	86	50	28	8
教育学部	45	24	18	3
行政社会学部	18	8	7	3
経済学部	21	17	3	1
その他	2	1		1



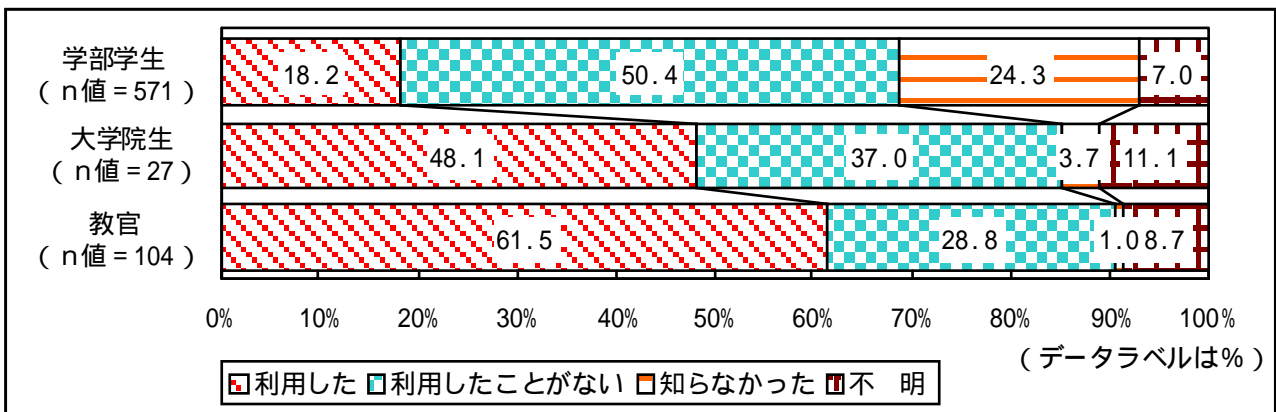
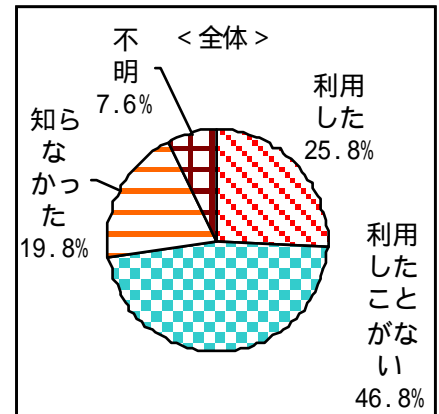
「利用した」教官の90.7%が「満足」あるいは「ふつう」と答えており、「不満」は9.3%であった。

《不満の主な理由》

- ・資料購入で依頼して実際に手元に届くのが遅い(3) ・時間がかかる(1)
- ・購入通知がこない(1) ・購入した本が書架になかった(1)
- ・学生にもサービスを拡充してほしい(1)

(20-7-1) レファレンス

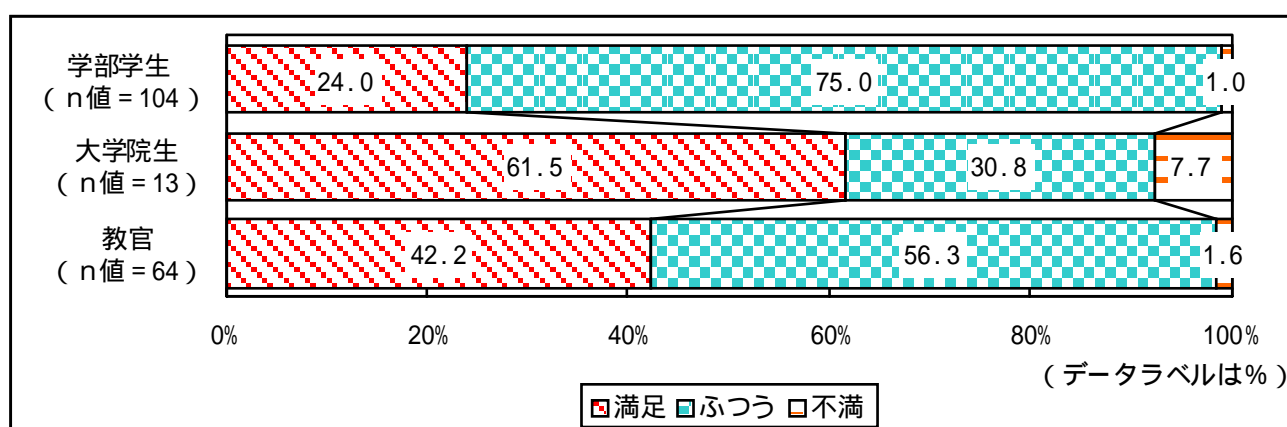
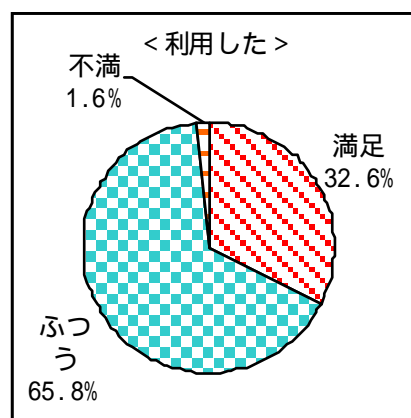
	合計	利用した	利用したことがない	知らなかった	不明
合計	712	184	333	141	54
学部学生	571	104	288	139	40
大学院生	27	13	10	1	3
教官	104	64	30	1	9
その他	10	3	5		2



レファレンスについては、全体の25.8%の利用者が「利用した」と回答している。学部学生では「利用した」のは18.2%で、「知らなかった」と答えたものが24.3%もあり、学生の認知度がかなり低い。一方、大学院生の48.1%、教官の61.5%が「利用した」と回答しており、「知らなかった」と答えたのは大学院生3.7%、教官1%であった。

(20-7-2) レファレンスを利用した結果

	合計	満足	ふつう	不満
合計	184	60	121	3
学部学生	104	25	78	1
大学院生	13	8	4	1
教官	64	27	36	1
その他	3		3	



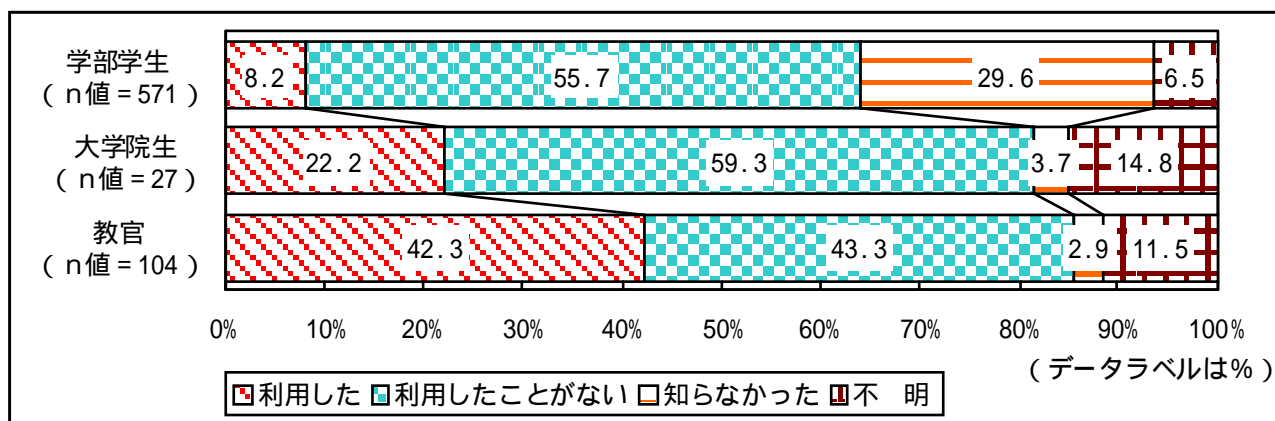
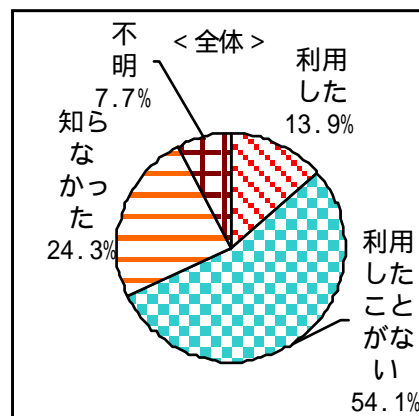
「利用した」と答えた利用者の98.4%が「満足」あるいは「ふつう」と回答している。「不満」は1.6%であった。身分毎で見ると、教官42.2%、大学院生61.5%が「満足」と回答しているが、大学院生の7.7%から「不満」との回答があった。

《不満の主な理由》

- ・わかりにくい(1)

(20-8-1) 本学関係雑誌目次 DB

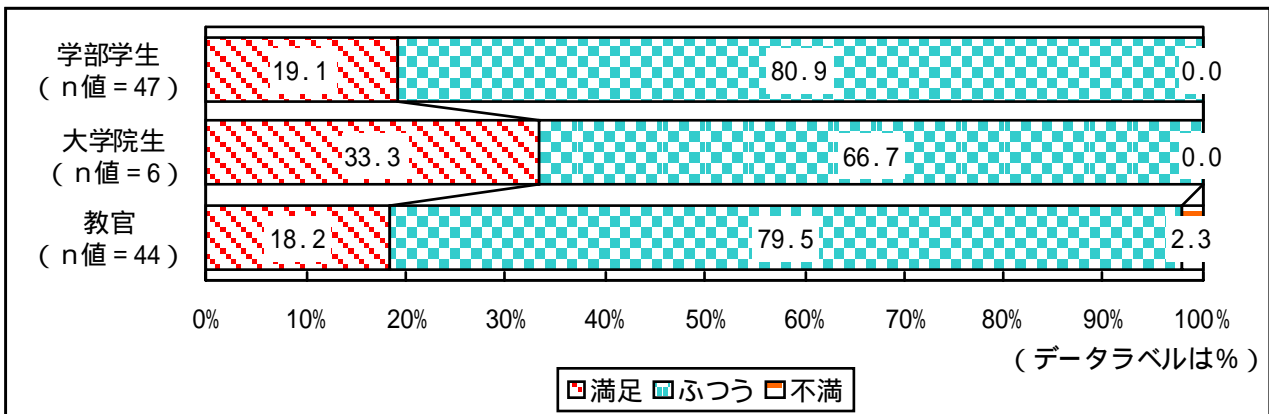
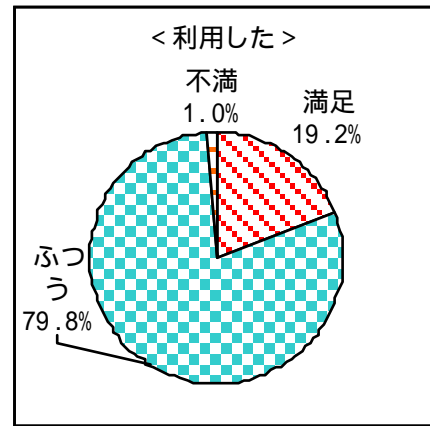
	合計	利用した	利用したことがない	知らなかった	不明
合計	712	99	385	173	55
学部学生	571	47	318	169	37
大学院生	27	6	16	1	4
教官	104	44	45	3	12
その他	10	2	6		2



本学関係雑誌目次 DB については、全体の 13.9%の利用者から「利用した」と回答があった。学部学生では「利用した」が 8.2%にとどまり、29.6%が「知らなかった」と答えている。一方、大学院生 22.2%、教官 42.3%が「利用した」と回答しており、「知らなかった」と答えたのは大学院生 3.7%、教官 2.9%となっている。

(20 - 8 - 2) 本学関係雑誌目次 DB を利用した結果

	合計	満足	ふつう	不満
合計	99	19	79	1
学部学生	47	9	38	
大学院生	6	2	4	
教官	44	8	35	1
その他	2		2	



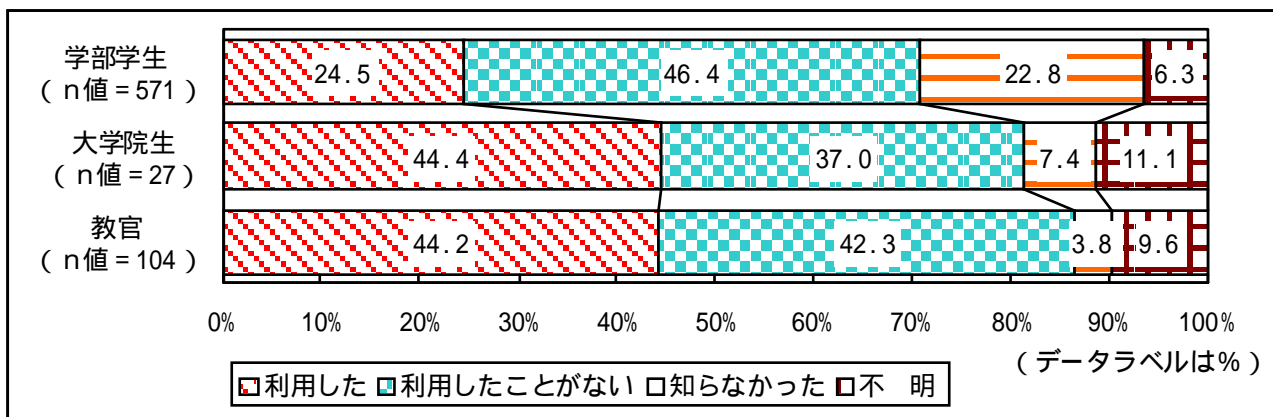
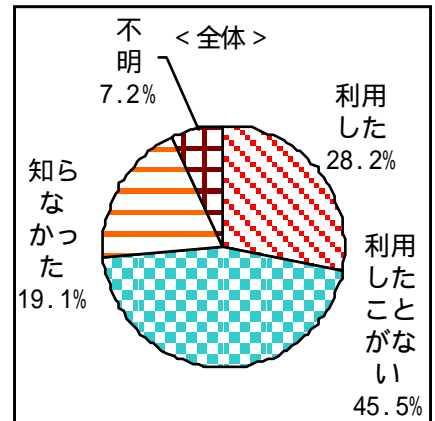
「利用した」と答えた利用者の99.0%から「満足」あるいは「ふつう」との回答があり、「不満」は1.0%であった。身分毎で見ると、大学院生の33.3%が「満足」と満足度が高く、「不満」は教官の2.3%のみであった。

《不満の主な理由》

特になし

(20-9-1) リンク集 (新聞/報道, 図書館関係, 機関/団体等)

	合計	利用した	利用したことがない	知らなかった	不明
合計	712	201	324	136	51
学部学生	571	140	265	130	36
大学院生	27	12	10	2	3
教官	104	46	44	4	10
その他	10	3	5		2

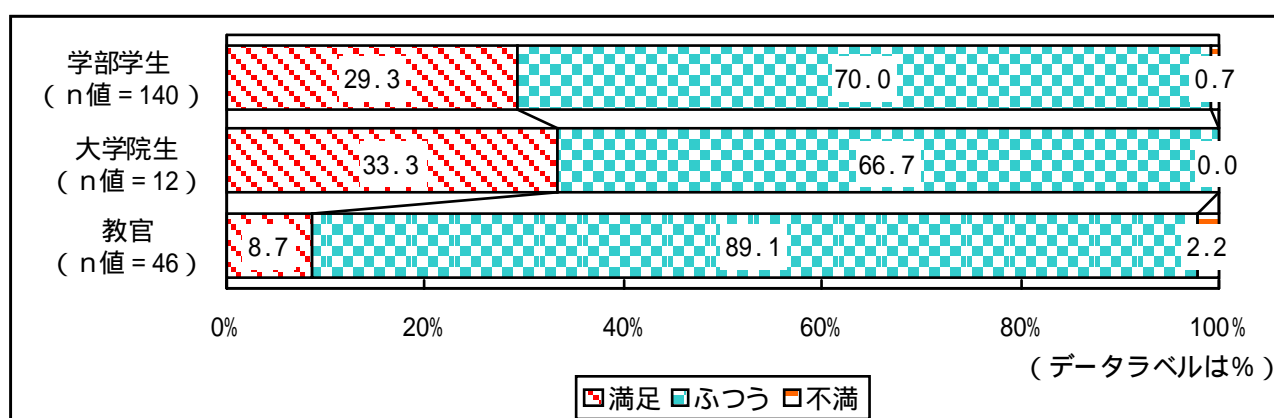
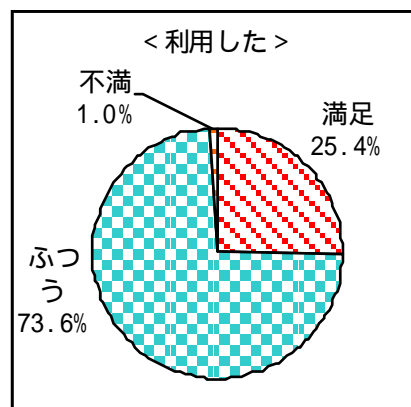


リンク集については、全体の28.2%の利用者から「利用した」と回答があった。学部学生では「利用した」のは24.5%しかなく、「知らなかった」と答えたのは22.8%であり、利用の度合いはかなり低い。

一方、大学院生の44.4%、教官の44.2%が「利用した」と回答しており、「知らなかった」のは大学院生7.4%、教官3.8%であった。

(20-9-2) リンク集(新聞/報道, 図書館関係, 機関/団体等)を利用した結果

	合計	満足	ふつう	不満
合計	201	51	148	2
学部学生	140	41	98	1
大学院生	12	4	8	
教官	46	4	41	1
その他	3	2	1	



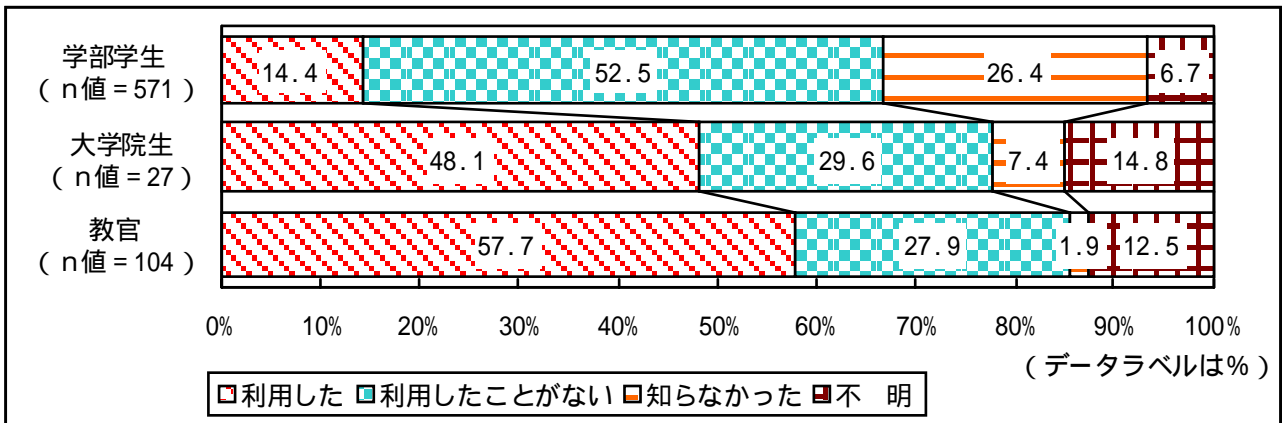
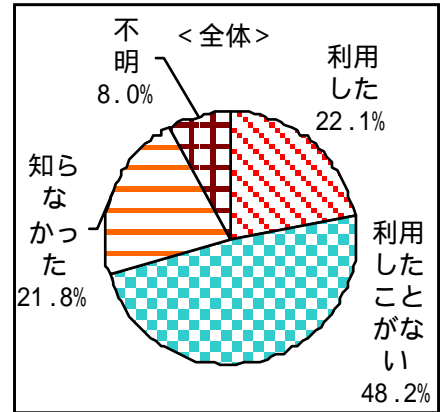
「利用した」と答えた利用者の99.0%から「満足」あるいは「ふつう」と回答があり、「不満」は1.0%であった。身分毎で見ると、学部学生や大学院生と比べ、教官の「満足」が8.7%しか得られなかった。

《不満の主な理由》

特になし

(20-10-1) 広報誌等 (書燈, レファレンス・サービス・ニュース)

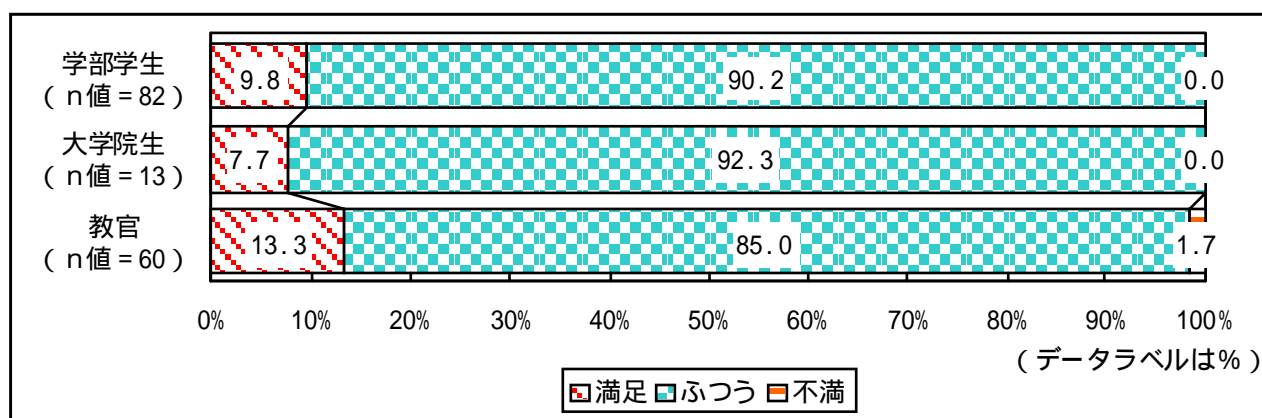
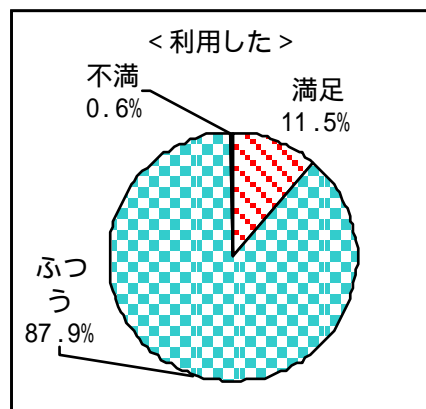
	合計	利用した	利用したことがない	知らなかった	不明
合計	712	157	343	155	57
学部学生	571	82	300	151	38
大学院生	27	13	8	2	4
教官	104	60	29	2	13
その他	10	2	6		2



広報誌等では、全体の 22.1%の利用者から「利用した」と回答があった。学部学生で「利用した」のは 14.4%しかなく、「知らなかった」と答えたのは 26.4%であり、利用の度合いはかなり低い。一方、大学院生の 48.1%、教官の 57.7%が「利用した」と回答しており、「知らなかった」は大学院生 7.4%、教官 1.9%であった。

(20-10-2) 広報誌等(書燈, レファレンス・サービス・ニュース)を利用した結果

	合計	満足	ふつう	不満
合計	157	18	138	1
学部学生	82	8	74	
大学院生	13	1	12	
教官	60	8	51	1
その他	2	1	1	



「利用した」と答えた利用者の99.4%から「満足」あるいは「ふつう」と回答があり、「不満」は0.6%であった。

《不満の主な理由》

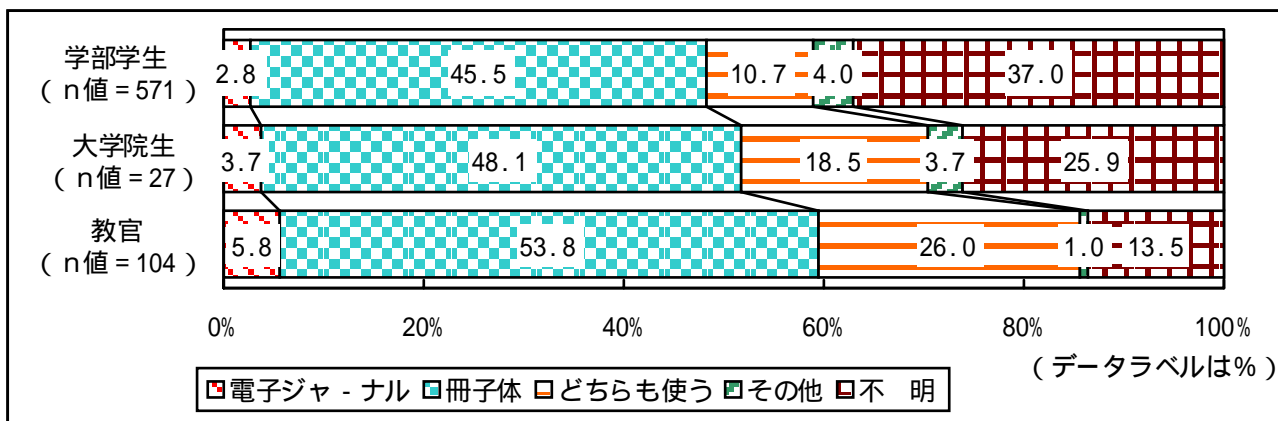
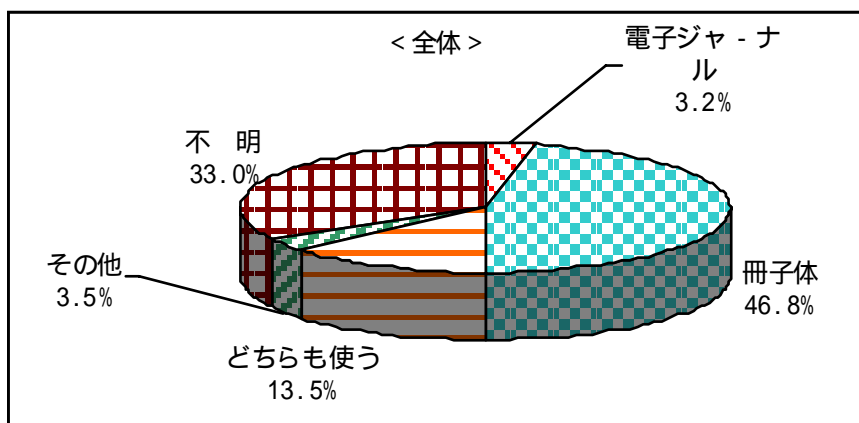
特になし

(20 - 11) あなたは、図書館のホームページについてどのような希望・要望をお持ちですか。

図書館のホームページについての主な希望・要望	人数
現状のままで良い、満足している	11
項目を見やすく、わかりやすくしてほしい	2
本の紹介ページもほしい	2
興味の引かれる内容をのせてほしい	2
掲示板などでもっとPR すべき	2
書架などの図書館内の地図がほしい	2
MAC など使えないパソコンがある	2
教育学部用の項目も増やしてほしい	1
学生もパスワードでレファレンス、相互貸借、文献複写も使えるようにしてほしい	1
リンクや「戻る」を使いやすくしてほしい	1
器機の予約ができるようにしてほしい	1
各学部向の図書館活用法なども載せてほしい	1
検索サポートの充実やメールを使って職員からアドバイスが受けられるようにしてほしい	1
図書研究費の残高がみたい	1
自分の貸出状況の確認ができるようにしてほしい	1
研究室や家庭からもデータベースが使えるようにしてほしい	1

(21)雑誌の利用に関して、あなたは電子ジャーナルと冊子体のどちらを利用していますか。

	合計	電子ジャーナル	冊子体	どちらも使う	その他	不明
合計	712	23	333	96	25	235
学部学生	571	16	260	61	23	211
大学院生	27	1	13	5	1	7
教官	104	6	56	27	1	14
その他	10		4	3		3



雑誌の利用については、「冊子体」を利用すると回答したのは46.8%と最も多く、「どちらも使う」13.5%、「電子ジャーナル」の利用3.2%となった。身分毎では、学部学生、大学院生、教官ともに半数は「冊子体」を利用としているが、電子ジャーナルについての利用は「電子ジャーナル」と「どちらも使う」を含め大学院生22.2%、教官の31.8%が利用すると答えている。今後電子ジャーナルのタイトル数の増加を図ることによって利用が拡大するものと思われる。

(22) あなたは、図書館に対してどのような希望・要望をお持ちですか。

(人数)

図書館に対する希望・要望		学 生	院 生	教 官
利用時間	開館時間の延長	11	1	1
	休日開館希望	6		
	閉館時間の案内を大きく出してほしい	1		
利用環境	研究室貸出は不満	4		
	1・2年生の書庫の利用	1		2
	書庫に何度も入りにくい	1		
	図書の出借期間の延長	2		
	共同学習室を試験期間以外でも手続きなしで使えるようにしてほしい	1		
	数日前の新聞も自由に見られるようにしてほしい	1		
	インターネットを中国語に対応させてほしい	1		
	全体的に受付を通さず自由に使えるようにしてほしい	1		
施設設備	検索システムへの不満	1		
	コピー機を増やしてほしい、買い換えてほしい	6		
	パソコン・プリンタを増やしてほしい、新しくしてほしい	5		1
	パソコンの修理は早目に	1		
	冷暖房・空調の管理	4		
	席を増やしてほしい	2		2
	自販機を設置してほしい	3		
	飲食・談話する場がほしい、持ち込み可にしてほしい	3		
	図書館でコピーカードを販売してほしい	2		
	理想の図書館を目指してほしい	1		
	喫煙室を作してほしい	1		1
	視聴覚室、共同学習室をもっと自由に使えるようにしてほしい	1		
	入退館システムのエラー音がうるさい、面倒など	3		
	トイレを綺麗にしてほしい、鏡をつけてほしい	2		
	留学生コーナー入口扉の開閉の音がうるさい	1		
	掃除機をかけるときに窓を開けてほしい	1		
	閉館時間の音楽は、いきなり大きな音で流さないでほしい	1		
	もっと雰囲気をよくしてほしい、よい環境づくり	14		1
	留学生コーナー充実	1		
	照明の工夫、明るくしてほしい	7		
開架を増やしてほしい	1			
マナー	静かにしてほしい(利用者、機械)	4		
	マナーの徹底、マナーの悪い人には注意してほしい	6		

(人数)

図書館に対する希望・要望		学 生	院 生	教 官
収 書 系 算	資料の充実(最新版、一般書、専門書、雑誌、新聞)、特色ある蔵書づくり	43	2	2
	必要な文献の確保	2		2
	視聴覚資料は教材として使用している			1
	洋書のペーパーバックを置いてほしい	1		
	本の紹介をしてほしい	1		
	内容がおもしろい本がほしい	1		
	購入依頼を簡便に		1	
	電子化を推進してほしい			1
	予算システムを改良すべき			1
受 入 整 理	受入・整理期間を短縮してほしい	2		4
	図書を正しく配架してほしい(特に開架)	1		2
	本のカバーをとらないでほしい、カバーの情報を残してほしい	2		1
	図書の分類・配架基準の統一			1
	職員は親切、好印象	4	1	3
	職員の態度・愛想が悪い、個人差がある	4	2	2
	職員に話し掛けやすくしてほしい	4		
	職員はカウンターに常にいてほしい	1		
	司書を増やしてほしい、プロの職員養成、資質向上	1		2
	職員の数を増やしてほしい			1
そ の 他	利用者支援の充実、利用者向けサービス情報の提供	4		4
	上手な利用方法がわからない	2		1
	またアンケートを実施してほしい	2		
	NACSIS の雑誌記事サーチを図書館から利用したい			1
	学校の現場へ図書館をアピールしてほしい		1	
	現状でよい	10		

利用者アンケートに出された利用者の「声」

【開館時間】

夏休み中はもう少し遅くまで開いていてほしかった。
朝1コマの授業の前にあいていてほしい！！
24時間開放、本の貸し出しではなく、勉強するために。
長期休業中の開館時間を九時まで延長してほしい。特に二月三月。集中して勉強したい。
3年生になったら公務員試験のために夜遅くまで図書館を利用したいと思うので閉館時間を9時30分か10時まで延ばしてほしい。
春休みは公務員試験の勉強のため21時までやってほしい。

【開館日】

テスト期間の2週間くらい前から、日・祝日も開けてほしい。
日曜日に勉強しようとしても一般の図書館ではできないので、ここを使わせてもらいたいです。
一般市民のためには日曜日も開いた方がよい。
月曜日が祝日である場合は開館してほしい。
やはり開館日、時間を増やしてほしいです。日曜日に勉強に使わせてくれる図書館がこの辺りにないので不便です。時間も延長してほしいです。

【利用目的】

公務員試験に向けての学習。
静かだから勉強に集中できる。

【資料利用・開架図書】

法改正に早く対応してほしい。
話題作などの小説もよみたい。
自然系の専門書が少ない。
図書が整列されていない、見つけるのが困難。

【資料利用・書庫内図書】

いちいち申込みが面倒。
卒論目的じゃないと入れない。
配置が複雑で分かりにくい。

【資料利用・参考図書】

判例等の新刊が不足していると思う。
少し古い。種類が少ない。X日、日X辞典をもっと豊富に。
内容のわかりやすい古語辞典を入れてほしい。
調べたい年の資料がなかった。
ヨーロッパ関係の年鑑の不足。

【資料利用・雑誌】

2週遅れぐらいで来る雑誌がある。
開架に置く雑誌が少ない。

必要なものが少ない。改題後入ってない場合がときにみられる。
雑誌で号がぬけているところがたまにある。

【資料利用・新聞】

日刊スポーツもおいてほしい。
新聞についてくる広告紙がほしい。
1週間分ぐらいは挟んでおいてほしい。

【資料利用・電子資料】

必要な CD-ROM が少ない。

【資料利用・特に充実してほしい分野】

社会科学系のレポートでファンタジーについて書く時もあるので、その系統を増やしてほしい。
専門雑誌を講座の校費でまかなえない。
最近増えている新書シリーズはできるだけ全て入れるべき。
雑誌に女性月刊誌など入れて欲しい。
新刊本を入れてほしい。(いろんなジャンルの)ハリーポッターとか。そういうコーナーを作ってほしい。
資料、参考書以外にも、小説や物語、絵本がほしい。
図書館の対応が親切でいいと思います。快適です。購入希望として、イミダス、知恵蔵、200?年の論点などの本を充実してほしい。
英和辞典はしっかりしたものをしっかり入れてほしい。数日前の新聞も自由に見られるように制度を改善してほしい。
自分の必要としている本をすぐに手にできるようにあってほしい。
本に対するニーズにはすばやく対応してほしい。
蔵書(特に専門書)の数さえ増えれば、何も文句はありません。予算の都合もあるでしょうが、卒論に必要な資料すら満足に集められず、困っています。
学生の質を高めるように雑誌等を勤勉なものだけに限定しないでほしい。
多くの点で現状に満足している。ただ再度書くが、新聞の充実をお願いしたい。
法律の勉強をしたいので、市販されている図書の充実を図ってほしい。
レポート作成のための資料を探してもないことがあるので、専門書を充実させてほしい。
小説が圧倒的に少ない。本にかかるお金にはいつも苦勞するのでもう少し置いてほしい。開架に洋書のペーパーバックを置いてほしい。今のところ全く置いていないようだし、これも読みたいのに高く買えない。
文庫を目立つところへ。文庫をもう少し充実して欲しい。
専門書(新しめのもの)をもっと増やして欲しい、ということと、パソコン関連の本を増やして欲しい。
研究者の退職、転出で雑誌の購入が中止になったり研究者の継続的な収書努力の欠如で基本的文献、重要文献の購入が偏ったり、行われなかったりすることは遺憾であり、図書委員が大所高所からこういう問題の検討とミニマムの要件を確保する努力が必要に思われる。
とにかく雑誌の充実。
何の分野もまんべんなく揃っているように感じますが、必要な本がないという経験を何度もしました。学生のために広く浅くという面とともに、「 なら福島大の図書館が充実している」といわれるような特色ある蔵書にすることも必要なのではないかと思います。
予算のシステムを変えないと、独法化を受けて収書が更にながたにならなると思う。
雑誌で手に入らないものが多い(特に政府関係のもの)。県や市の図書館のほうを整っているような印象をうける。

もっと本を増やしてほしい。一般的なもの。買ってほしい本の依頼法が簡単になるといいのに、と思います。より時代に合った形にして欲しい。「福大」の特色を出して欲しい。

専門書が他大学（関東）に比べて圧倒的に少ないと思います。探したい内容があるのに、それに関連する図書がないことがほとんどです。また、古い昔の本ばかりで、近年までの経済の流れが知りたいと思ってもそれができません。10～20年前の本ばかりではなく、新刊を置いてほしいです。

【授業に関連した図書の利用】

紹介された図書を検索してもない。

値段が高かったり、図書館に置いてなかったり。

【図書館サ - ビス・レファレンスサ - ビス】

地図などで場所を示してもらえるとわかりやすい。

【図書館サ - ビス・現物貸借】

近隣の大学図書館とのやり取りに郵送費がかかり、本を購入した方が安かった。自分で取りにいけます。

どんなものか内容を知ってから借りたいので、いきなり借りる気にならない。

【図書館サ - ビス・紹介状】

一週間つづけて利用する際に相手の大学は、1日1枚ずつ紹介状が必要だったのに、1枚しか渡されなかった。

【利用のための諸手続き】

整理して簡略化。もしくはその流れをわかりやすくチャートにしたものをどこかに掲示。

手続きの仕方がわからないものがあるので、簡単に書いてあるものが掲示されているとありがたい。

全部の本にバーコードを貼ってほしい。

閉架の本を図書館内で閲覧する時にカードに記入するのはめんどろ。

できれば閉架も自動で借りられるようにしてほしい。

自動貸出返却機を2階にも設置してほしい。

コピー機利用は学部教官等で1・2枚のカードを回して使うのではなく、もっと簡略化してほしい。

【職員の対応】

職員をカウンターに常に置いてほしい。少なくとも呼び鈴くらいは置いてください。

もっと気軽に職員の方に聞けるようにしてほしい。カウンターで待たされることが多い。

職員の方と気軽に話せるようになると利用しやすくなる。

職員の方も親切だし、図書館もきれいなのでよいと思います。

少ない人数でよく頑張っているとおもいます。ご苦労様です。

IT化は重要であるが、書のプロフェッショナルとしての係員の養成も必要であると思う。知や教養を支える観点からの一層の充実をお願いしたい。

厳しい時代ではありますが、人を増やすべきだと思います。特に、閉架の現状を1日でも早く改善すべきでしょう。あのままでは、とても利用できません。私自身、本が見つからず、何度も本をあきらめたり、自分で購入したり、県立図書館に行くことで対応せざるをえませんでした。図書館だけで解決できなければ、全学有志やボランティアなどを募ってみんなで解決しましょう。動きをおこさなければいけない局面だと思っています。

<p>収書専門の人を雇い、その人が国内外の新しい図書を見渡し、ある一定の予算で、経済、教育、社会科学、言語学などの本を購入する仕組みがあれば、素晴らしいと思う。そのような政策のあとには、教官の興味ある題目のものばかりでなくほとんどの題目においても学生が基本的な図書を見つけることができるようになり、より実際的で、魅力ある図書館になることと思う。</p>
<p>県内の私立大学の図書館にも共通利用券で利用したりしますが、非常に対応は丁寧で親切です。本大学にきていろいろなことをわからないので尋ねたりしますが「こんなこともわからないの」というような態度で接しられることが多くていやな気分になります。学生全てが電子機器に精通しているわけでもないですから少しサービスのあり方を考えてほしいと思っていました。</p>

【図書館の環境・建物】

ロビーをもっと明るく TV を普通の音量で見られるようにしてほしい。
階段が急で危険。車椅子、障害者のためのエレベーターがほしい。
トイレの作りが変。ドアがないところがあるから、音が聞こえるのを嫌がって入らない人はよくいる。
2階からもマルチメディア室に行けるようにしてほしい。
コピー機をあと1台。
しきりのある机を増やしてほしい。
椅子が硬い。
狭い。色々なタイプの部屋があってもよい。
閉架が複雑 わかりやすくしてほしい。
ゲート・センサーの位置、あれでは無意味。閉架が倉庫のようだ。
大学の中心部に配置してほしかった。
書庫の下の方の湿気はみていてこわい。
迷宮状態を解消してほしい。

【図書館の環境・照明】

スタンドを貸し出しすることはできませんか？
机上に影ができないように工夫してほしい。
2階の階段の近くの1人用の席の照明が暗い。
夜の照明をもっと明るくしてほしい。
陽が入りやすく、本を読みづらいときがある。
日が沈むと室内の照明がやや暗く、手元に明かりが欲しくなる。
もっと明るくしてほしい。前のついたで暗くなる。
新聞コーナーの照明が暗い。
書庫内照明スイッチの場所がわからない。表示をわかりやすく。
スイッチをいつも「ON」にしてほしい。
1階の専門書スペース奥が照明の暗さを感じる。

【図書館の環境・空調・冷暖房】

冬場午後定期的に空気の入替えをしてほしい。
玄関入り口付近の冷暖房。
冬季書庫内が寒い。
マイクロフィルムの部屋は空調の性能が良くないと思います。

とても利用しやすいのでこのままで良いが、朝一番に来る事が多いので、冷暖房をできるだけ早めに入れてほしい。
乾燥しすぎることがないように、空調に気をつけて欲しい。

【図書館の環境・話し声・雑音】

2階のパソコン室なら話をしてもいいと思っている人がいる。
留学生コーナーから大声でしゃべっている声がきこえる。
特にテスト前などは静かにするよう注意してほしい。
喫煙所の声が入る。ロビーがうるさいときがある。
携帯やウォークマン等の音が気になる。
トイレでの携帯電話、2階のパソコン。
コンピュータ室の人との距離が近い。
マルチメディア室の話し声がうるさい。
各椅子一つ一つにつき、両サイドのついたて。
グループで資料を調べる時に話をしてもいいような場所を図書館に作ってほしい。
留学生コーナーの扉の開閉の音が非常にうるさいので、建付けを直すか、利用者に注意をうながしてほしい。
静粛。お互いに気をつけたいと思います。
閉館時間の15分前に流れる音楽がいきなり大きい音だと心臓に悪いので、徐々に大きくなるようにしてほしい。
図書館はリラックスできる場所であると同時に静かな場所であるはず。マナーを知らない人には厳しく注意してほしい。聞かない人には利用制限などのペナルティーを与えてもいいと思う。「静かな」環境を整えてほしい。
閲覧室でのノートパソコンの使用を禁じてほしい。カタカタと気になります。職員がちょっとうるさい時もある。
機械音がやけに多い気がします。(入口ゲートや自動貸出・返却機)もう少し静かな環境にして欲しいです。携帯に関してはもう少し厳しくしてほしい。

【図書館の環境・図書配置・配列】

本の分類があいまいで、同じ様な本があちこちにちらばっている。
関連分野は近くにおいてほしい。また乱雑になっていると本が傷んでしまうので、たまに見回ってほしい。
検索した本がそこにないのもっとわかりやすくしてほしい。
下の棚が見にくい。
配置場所を細かく明示してほしい。
もっと利用者の意識を高めて、アルファベット順(ラベル)にするべきだと思う。
図書が別の棚にあることが多いし、辞書系の棚はどこに何があるが分からない。
辞書の類は、2階のほうがよかった。
もっとわかりやすく種類別に区切りや見出しのようなものをつけて欲しい。
わかりやすく、上にプレートをつるす。
雑誌特に紀要類がきちんと整理されていない。
学生には書架に戻させない。これは他の図書館では当たり前だと思います。
旧教育図書の整理が行き届いていないように思います。
入り口のスイッチと地図をキチンとすべきでは。
配架整理をしてほしい。学生ボランティアで行ってもよいと思う。

【図書館の環境・閲覧席】

窓側にむかってひとりで座れる席をずらっと作る。
荷物が置きっぱなしで席がつかえないときがある
各席に照明がほしい。
間仕切りを深く個室に近くしてほしい。
3人がけだと一人では来づらい。一人用の机にするか、区切りがほしい。
ボックス席をつくってほしい。パーソナルスペース等。
1階の窓がまぶしすぎる。
書架と空間を分離、個々の席の空間分離、通路との分離をしてほしい。
普通、図書館は一人で利用するものだからもっと一人用の机を増やしてほしい。二人用の机に一人が座ってしまうと、もう一つの椅子は座れない(座りづらい)。
開架図書に小さい踏み台と机があってもよいのではないか。
教官用雑誌室のキャレルをあと1台増やす。
もう少しプライベートな空間にできないか。
本棚のすぐそばで見たいときもあるので、特に閉架が不便。
研究用雑誌室に書架ごとに座席と机を設置してほしい。書庫内にイスと机(調べ物をするとき)を用意してほしい。
テスト期間中等の座席の確保。

【図書館の環境・部屋の配置】

コンピュータ・ルームを本と同じ側に。遠い。夜、そこまで暗い。
マルチメディア側から二階の勉強する部屋までいちいち下へ降りなければならない。
閉架 開架のアクセスのわるさ、閉架内の複雑さ。
時々どこに何があるのか、自分のいる場所がどこなのかわからなくなってしまうことがあるので、部屋の配置図がもう少し多くあるとうれしい。

【図書館の環境・案内板等】

本の番号を明記した案内板がほしい。探すのに苦労することもある。
希望していた図書が入ったらメールでも連絡してほしい。
もっと具体的にどのような図書が配置されているかを示した案内板が欲しい。
書庫内の案内パンフが欲しい。
入り口のスイッチと地図をキチンとすべきでは。
案内板では求める書籍がどこにあるかわかりづらい、1Fと2Fの分けかたもよくわからない。
レファレンスのあたりをもっときれいに見やすくわかりやすくしてほしい。
どこにどんな分野があるのか、絵などでわかりやすい場所に案内がほしい。

【図書館の環境への希望・要望】

新聞をおいているスペースを広くとって座って読めるようにしてほしい。トイレの前なので臭いし、うるさい。玄関前にするのもやめてほしい。
トイレをなんとかしてほしい。男女のあいだに扉をつけるくらいでもよいので、音が外までに聞こえないようにしてほしい。
パソコンの蔵書検索で、絵で場所を教えてください。

入り口のカードキーは問題がなくても音が鳴るので困る。片方の機械はカードが入りにくい。パソコンの印刷機の故障が多すぎると思う。
入場するときのエラーした時の音をかえてほしい。入口の左のカードが入れにくい。
コンピュータ・ルームがもう一室あればいいと思う。
コピー機の増設（卒論には欠かせない）
コピー機（学部生用）をせめて2台にして欲しい。
書庫の中に複写機を！
入館しやすく、過ごしやすい図書館にして欲しい。
検索システムに印刷機能をつけてほしい。
オール開架化（知らない本を発見するのも大切）
タバコをホールで吸うのを許可しているのは、非喫煙者にとって大変嫌なものにうつる。F1 や F2 の学習机や閲覧室に居るときにも、タバコのおいがる時があり、不可抗力である。喫煙者用に別に部屋をもうけるなどして対処してほしい。
タバコをどうにかして欲しい。吸っている人は良いかもしれないが、非喫煙者が多いことを考えると入口でのタバコは害にもなり得る。喫煙者と非喫煙者の共存をはかる手段を考えて、実施して欲しい。
喫煙コーナーを廃止して全面禁煙にすべし。
使いやすい環境を提供してください。
とにかく静かでおちつける図書館になってほしい。マナーの悪い人を注意し合える環境になってほしい。
最低限のルールも守れない人がいるのできまりは守るようにしてもらいたい。
図書館内でのマナーの悪い人に対する「ブラックリスト」を作り摘発して下さい。職員のいない2F ではお菓子 or ジュースを食べている・飲んでいる人もたまに見かけます。
マナーの違反者（私語、飲食、携帯・・・）が目立つので、マナーの徹底をしてほしい。
雨の日に傘を間違っって持っていかれることがあるので、傘立てを何とかして欲しい。（鍵をつけるとか、ビニール袋を用意して持ち込み可にするとか）
ビデオでもある手続きすれば利用できたらありがたいなあと思います。入学時、図書館ビデオテープもあることが分かったのですが、利用できないと聞いています。私は留学生ですが、歴史的なビデオ、特に、日本が撮影した中国関係のビデオが借りたいです。
1階の喫煙所のそばに紙コップ&コーヒーの自販機を置いて欲しい。
クラシックなど心を落ち着かせるものを閉館時以外で流してほしい。
先生から図書館に本を寄贈しようとしても受け入れてもらえないという話を聞きました。約80万冊くらいの蔵書は決して多いと思いません。予算面と、空間に余裕がないとは思いますが、ぜひ数を増やしてください。
2F に携帯で話せる談話用の部屋を設置してほしい。大半の人はトイレで話しているが、よけいに声がひびいてうるさい。
ブラインドの扱い方が、分からない。そのため、うまく陽の光の調整ができない。
洗面所が暗くて古くて使いづらい。
2階の女子トイレの入り口のトビラを直したほうがいいと思います。
今後理工系図書が増加が見込まれるが、入る場所は確保できるのか。
今の図書館を、出来れば改築解体してコアの部分はどこかを明確にし、そこから各部屋に放射状にでも連絡できたらどうか、外国の図書館建築を例にしてはどうか。フィンランド、イギリス等がよかった。
閉架図書はすべて開架にすべき。学術的に貴重な図書のみを閉架とすべきと思う。学生（学部1～3年）が、本当に利用したい図書が気軽に利用できない。
IT時代への対応は十分に行いながら、かつ書籍をゆっくりと閲覧する環境をもっと整備する必要がある。トータルとして「書」に触れる雰囲気づくりが重要な時代ではないだろうか。

いまだに書庫の中で迷子になるときがある。このようなややこしい構造を何とかしてほしい。
入館ゲートがカウンターの手前にあるのは不自然な気がします。学内の者にとっては問題ないかもしれませんが、一般の人が図書館を利用するにはこの配置は不便。
研究用の複写機をカラー用にできないか、脳の内部に関する研究など微妙な部分では白黒コピーでは意味がわからなくなる。
学生等をひきつけるため、新聞、週刊誌コーナーを入り口近くに。出入チェックはもっと玄関近くに。
経済教官・院生にも各自コピーカードを渡し、コピー機の「不正利用」(もしあれば)を防ぐべきではないか。現在のコピーカードの枚数は少なすぎるとも思われる。
施設・設備については整っていると思う。問題は使い手側の問題(自分も含め)だと思う。その都度職員の方に聞いて迷惑をかけているので、案内板・活用の仕方の表示があるといいと思う。また、私たち学生は手引きやガイダンスの重要性をもっと認識しなくてはいけないしそのための手立ては・・・?ガイダンスを受けないと図書館を利用できなくするとか、規制の強化になってしまうのでしょうか・・・。やはり使い手側の意識の問題?
閉架、開架をきちんと配架して欲しい。何とか雑誌の勝手持出を防止できないか。開架本も番号順に並べて欲しい。
友人が当日の新聞を読むとき立ちながらなので痛いと話していました。簡易の折りたたみの椅子などがあつたら喜ぶ人はいるのかなと思います。(回転率は悪くなりそうですが)

【蔵書検索用パソコン】

作者名や入っている本の題名を入れてもヒットしないことがある。
なかなか検索が出てこない。もっと広く意味をもたせてほしい。
開架も閉架もいっしょに表示されるのを所在別にしてほしい。
全然ヒットしない、もう少し詳しく。
書名を正確に入力しても検索できない
選択したものを印刷できるようにしてほしい。
「除外するキーワード」の機能も欲しい(いらぬのまでよくひっかかる)。
使用法を書いた張り紙とかあるとよいかも。
配架場所(ある程度でよいので)が整備されるとわりやすくなってありがたい。
著者をキーワードに検索するシステムを充実して欲しい。
検索ではあるのに実際に探すとない本がたくさん。
情報が正しくない場合があるので修正してほしい。
前のシステムではヒットしたものが、ヒットしなくなっている。
以前より検索性能が悪くなったのでは?
読み検索もできるようにしてほしい。
本が図書館にあるのに検索して0件となってしまうことがよくある。検索システムをよくしてほしい。
蔵書検索用パソコンを増やしてほしい。CD-ROM、インターネット用パソコンの台数が少ない。

【情報検索用パソコン】

故障中で使えないものが多い。早くなおしてほしい。
CD-ROM の使い方がわからない。
プリンタにデータを残したまま帰る人がいる。
インターネットの接続スピードをもっと上げてほしい。
使用法の説明と機能の説明が不十分。

申込む手続きが面倒。
医学関係の充実。
電源 on の待機時間長い。マウス操作不便。

【学習用パソコン】

コードがたくさんあるので邪魔です。
フリーズする事が多いので、データを頻繁に保存する手間が多い。
椅子の高さが調節できるようにしてほしい。
台数減らしてゆったりと。
新しいソフトがほしい。
故障したパソコンも多く、印刷機（プリンタ）の紙詰まりも多い。
立ち上がりが遅いし、マウスにスライド機能がついていなくて不便。
ネスケのバージョン古い。エクスプローラーを使えるようにしてほしい。
数が少なすぎると思う。情報処理センターよりも図書館のパソコンを充実すべき。パソコン机は本や資料を広げられるよう大きいものにすべき。
学生がレポート・論文作成するにはコンピュータと何冊もの本を一度に利用できる広い机が必要だと思うが、図書館にはその場所が少なすぎると思う。情報処理センターとの連携を考えられないか？

【視聴覚機器類】

利用の仕方がよくわからない。もっと簡単にすべき。
周囲に見られる環境を仕切か個室の空間に。
ビデオデッキ、CD プレーヤーはちと視線が気になるかも。

【新入生図書館ガイダンス】

レファレンスや文献複写などのような図書館サービスについて説明があった方がよい。
CD-ROM の使用の仕方は回数多く。
閉架の本の借り方が具体的にわからない。
実際に本を借りる一連の人の動きをしないとわからない。
書庫を見せられても実際には利用できないため、卒論までには忘れている。3～4年次にもう一度やるべき。
2年以上も必要。変わった部分（パソコン）の利用がわからない。
入学直後に全て説明されても実感がなく忘れてしまう。卒論の作成時期にもしたらいい。
本格的に利用する2年後半にしてほしい。
1年生に書庫内の案内は不用。パソコン検索、開架室利用を丁寧にすべき。
学生はガイダンスの重要性をもっと認識しなくてはいけない。そのための手立てとして、もっと利用者がきちんと参加しなくてはという方法があるといい。*すごく大切なガイダンスであるという認識が低いと思う。
図書館を使わないと損、図書館を使うにあたり守るべきルールをきっちり話す。

【情報探索基礎講座】

実際に本を借りる一連の人の動きをしないとわからない。
講座がある日に授業等で出席できない時があるので、同じ内容を週に何回かやってほしい。

【ホ - ムベ - ジサ - ビス・CD - ROM】

MAC のパソコンではうまく CD-ROM の情報があらわれないのが大不満。
--

もっと増やして。
SUPPORT SYSTEM 不完全。

【ホ - ムペ - ジサ - ビス・電子ジャーナル】

可能ならば種類増加を希望。Elsevier など。
領域が偏っていて自分の使いたい分野がない。
教官として研究室でリアルタイムに文献を検索したい。スピードが要求されるので、電子ジャーナルや CD-ROM をもっと充実してもらいたいし、各種のパソコン等に対応ができるような方法を教えてもらいたい。
日本語選挙文献検索のため「選挙中央雑誌」が使えるようにして欲しい。(法人会員の一番安いのは年額 25 万円) 姉妹校の電子ジャーナルが使えると、とても便利。(希望者のみでも ID、パスワードもらえないか)

【ホ - ムペ - ジサ - ビス・資料購入・文献複写依頼】

本が手元に届くのに最低 2 , 3 ヶ月かかるのは非常に不便。学会などの書籍販売所で買えないのがつらい。
うまくつながることが出来ない。
Amazon 経由で外書が購入できれば 5 分の 1 の価格で入手できるのに、その手順がないのがおかしい。

【ホ - ムペ - ジへの希望・要望】

ひと目で目的の項目を見つけられないので、視覚的にも区別できる画像を用いたほうがよいのではないかな。
2 階のパソコンは空いている時しか利用できないので、予約制を入れてはどうか。
もう少し文字を大きく。特に、よく使う OPAC や Web-cat が小さくわかりにくい。
よくできているが、OPAC SYSTEM から戻れないのが不便かも。
ホームページの利用は、対象が未知である場合は膨大である時、さらに、急いでいる時であると考えている。このような利用を考えたキーワードの独自設定などで効率的な検索はできないだろうか。しかし、このようなサービスは人の知識が重要となり、職員などによる対応が適切であり、このサービスにも力を入れてほしい。(メール等の対応も含め)
Web から研究費による資料購入の依頼を行うとき、コメントをつけてお願いすることがありますが、そのコメントの全文がそちらに届かないことが何回かありました。例えば、ある古本販売の web サイトで購入してほしいことなどを書いて送りましたが、それが反映せず、新刊として発注されたこともありました。(もともと品切れの本なんです。)今は改善しているのなら良いのですが、いつも不安に思います。
ホームページからレファレンスを利用できますか? もし、出来なければ、教官だけでもできるようにして下さい。
お勧めの本を紹介しあったりする読者のページを。
ホームページがある事を知らなかった。もう少し掲示板とかで存在を知らせるべき。
検索の仕方の説明が足りないと思います。もっと手順にそって詳しく説明があった方が誰の目にもわかりやすく使いやすくなるのではないのでしょうか。
すべて英語版もほしい。

【その他】

検索した図書が「研究室」となっていると、申し出をしてまで . . . と思ってしまう。(一度申し出たことはある)できるだけ、図書は図書館においてほしい。
--

留学生用資料室に各国の新聞は置いてあるが、なぜ、パソコン(インターネット)でニュースを見る施設はないのですか?その部屋にパソコンを置いてほしいです。(従来、留学生係にあったパソコンはどこへ?)
飲食を認めて欲しい。本を汚す恐れもあるが、実際私の周囲では飲食を時々見かける。守れていないなら認めて、汚さないよう厳しく注意を促す方がいいのでは。
私の学生時代に、図書館は大変有難い存在で文献複写等で多くの資料を集めることができました。しかし、今の学生は図書離れが進んで、手軽に利用できる自分のパソコンで検索しても無い資料はそれ以上探そうとはしないようです。特に院生などが活発に利用できるような環境づくりが必要だと思いました。(出身大学(院)は、相変わらず文献複写した資料が山積みになって、通路に「文献複写届きました」の掲示がたくさん貼り付けてあるのを見ると、利用しようかなという意欲が湧いてきました。)
雑誌の配架は日をおかずにしてもらいたい。(情報収集が遅れるため)
なぜ、本の表紙をとってしまうのか、その目的が分かりません。表紙がついていたほうが、選ぶときも楽しく分かりやすいし、本自体汚れないので、つけたままのほうが良いのではないですか?
研究費で購入する図書が手元に届くまでの時間の短縮を。あと、正確に届くようにして下さい。(実際には入荷しているのに案内が来ず、その間に他の方に持ち出されてしまったケースがありました。困りました。)
本のカバーに書かれている情報(著者や内容に関するもの)を切り取って、本の表紙裏にでも貼ってください。特に洋書について。他大学図書館(たとえば東京外国語大学)では、上記のように行っています。是非お願いします。
よくわからないことが多い。自分は使いこなせてない。
なんとなく、あるということがわかっているサービスでも、実際利用したいと思ったとき、どうすればいいかとまどってしまう。いつでも安心して利用できるように明示してほしい。情報も積極的に知らせてほしい。
普通の本の借りかたしかが分からなくて、レファレンスなどは簡単な手続きでできるのか知りたい。
詳しい所まで図書館が行っていることがわからないのでやってほしい。特に私は編入生なので知らないことが多い。
このようなアンケートをしてほしい。アンケートの結果をぜひ生かしてください。
図書館利用のための諸手続きをもっと宣伝してほしい。
パソコン等を知らない人にも配慮してほしい。
図書館がすごく便利な施設であることが分かった。一般の方々も普通の県立・市立図書館のように手軽に使えたらと思う。他の図書館に比べ、例えば教師等には必要な書籍がたくさんある。もっと、学校の現場へアピールするなどしてほしい。ただ、私自身卒業してからこの図書館を利用するためにはどういう手続きがあるのか、まったく知らないのですが……。その点から見当はずれの回答でしたらお許しください。
貸出記録がないのに、開架、閉架どちらにもなく、直接職員の方に探して頂いても見つからなかった事があったのですが、掲示板で、もし持ち帰った人がいるなら返却するよう呼びかけ等を行ってほしい。蔵書検索の備考欄に「現在所在不明」とでも入れてくださると、無駄にさがすこともなくて更に良いのですが。
10代レベルの英語で書かれた本コーナーを設けてほしい。ナウカ、丸善、紀伊国屋の洋書の値段はあまりに高く、研究費を浪費している気がします。
消耗品的な図書(パソコンソフトのマニュアル、教材用図書など)は図書館を通さず個人研究費で買えるようにしてほしい。